

數人ト云フ問題ガ疑問ヲ含ムト思フノデアリマスガ、例ヘバ公ノ講演會ト云フヤウナ講演、此ノ公ノ講演ヲ持出シマス場合ニ於テハ、其處ニ集ツテ居ル場合ハ大體ニ於テ特定シテ居ル場合ガ多ク、併シナガラソレハ多數居ル、斯ウ云フ譯テス、ソコデ多ク問題ニナリマスノハソレデヤ多數トハ何ダ、一人ハ多數デナイダラウガ、二人ハモウ多數デヤナイカ三四人モ多數デヤナイカ、斯ウ云フ風ニモナリマシテ、私モ大審院ニ勤メテ居リマシテ、大審院ニ於テ應ミ其ノ問題ガ、特定多數人ハ一體何人位ガ多數ト言ヘルノカト云フ譯論ヲ廣シ合議ニ於テ取交ハシタコトガアルノデアリマス、此ノ多數トハ何ゾヤト云フコトハ、矢張り常識ヲ決メル外ハナイノデアリマシテ、二人ダカラ多數ト三人迄ハ多數デナイケレドモ、四人カラ多數ニナル、斯ウモ言ヒ切レナイ所ガゴザイマス、何レニ致シマシテモ、重ニ角一方ニ不特定トアリ、不特定トハ匹敵スベキ特定多數人、私共ハ斯ウ云フ意味ニ解釋シテ居ツタ譯デアリマス、然ラバ何人ヲ以テ多數人トスルヤト言ヒマシテモ、四人ガ宜イトカ、六人ガ宜イトカ云フヤウナコトハ、今茲申上ゲル譯ニハ行キマセス、其ノ場合ニ應ジ、又常識上考ヘテ、ソレガ多數ト見ラレル場合ヲ申ス、斯ウ云フノデアリマス、然ラバソレレハ二人ハ一體多數デナイコト、斯ウ言ハレマス、大體常識上果シテ其ノ場合ニ於テ、其ノ二人ダケ居ル場合ニ、之ヲ特定多數人ト言ヒ得ルカ否カハ、其ノ場合ニ於テ決メルベキデ、常識上ノ判斷ヲ以テ決メルベキ事柄デアラウ、斯ウ思フノデアリマス、デアリマスカラ結局例ヲ擧ゲロト仰セラレマスレバ、不特定人ト云フ

ノハ、新聞雜誌ニ公表スルノガ不特定人ノ場合、特定多數ニ話ヲスルト云フノハ、一定ノ集會、講演會等ニ於テ、其處ガ演說ヲシ、講演ヲスルト云フ場合ヲ考ヘテ居ル、斯ウ御覽下サツテ結構ダト思ヒマス

○松村義一君 只今御話ノヤウニ、新聞ニ發表スルカ云フヤウナコトハ、是ハ至ツテ明瞭デアツテ、問題ニナリマセヌ、ソレカラ今ノ集會ノ場合デアリマスガ、是ハ集會ノ場合ニ於キマシテハ、今次官カラ御話ガゴザイマシタガ、不特定ノ場合モアリ、特定多數ノ場合モ、集會ノ性質ニ依ツテハ兩方ガアリ得ルト思ヒマス、サウシテサウ云フヤウナ集會ノ時ニハ、是モ問題ニナリマセヌ、唯見方ニ依ツテ、常識上考ヘテ、之ガ多數デアルカドワカト云フコトニ付テハ、ナカノムヅカシイ問題ダト私ハ思ヒマス、ソレレ今御話ノヤウニ、一人ナラ多數デナイコトハ明瞭デアアル、二人以上ノ時ニハドウモ矢張り多數ト思ハレルコトガ實際アリ得ルト思フノデスガ、大體ニ於テ二人以上ノ場合ハ、普通個人ノ私宅テ話ヲ致シマシテモ、多數ト認メラルル譯デアゴザイマセヌデセウカ、實際ノ取扱ト云フコトモソレニ加味シテ、一ツ御答ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(三宅正太郎君) 非常ニ機械的ニ申上ゲマスト、色々解釋上ノ疑問ガ生ジマス關係ガゴザイマス、今多數ト一般ノ人ガ常識上認メラレル數ト云フコトデ、御覽解願ヘル譯ニハ行カナイカト思フノデアリマス、ダカラ二人ト云フコトハ、二人ノ所デ以テ、恰モ一人デ話ヲスルノニ偶ニ其處ニモウ一人居テ、二人デ、殆ド一人デ話ヲスルト同ジヤウナ對談ノ狀況ニ於

テ話ヲシタト云フ場合モアリマス、併シナガラ又一面ニ、先ニ申シマス流布ト云フヤウナ關係モアリマシテ、流布ト云フノハ、或ハ其ノ人ガ又更ニ盛ニドシノ、喋ルダラウト思ハレルヤウナ關係ニ於テ話ヲスルト云フヤウナ場合ニ於テ流布ト云フコトモ起ル譯デアリマス、デアリマスカラナカノ人ノ數バカリデハイケナイト思ヒマス、デ私達ノ考ト致シマシテハ、唯二人ダケ居ル所デ話ヲシタカラ直ダソレレハ公ダト云フ風ニ判斷スルコトハ判斷ヲ誤ツテ居ルコトダト私ハ思ツテ居リマス

○政府委員(三宅正太郎君) 起案者ト致シマシテハ、今申上ゲマシタヤウニ流布ト公ニスルト云フコトハ違フノデアリマス、又公然ニスルト云フコトト公ニスルト云フコトトハ同一ニ考ヘテ居ルノデアリマス、唯今後ニ御言葉モゴザイマシタガ、今日一人ニ話シ明日二人ニ話シ、明後日三人ニ話シテ、初メカラ數人ニ話ス積リデ一人ツツドシノ、話シテ行クト云フコトデアレバ、ソレハ矢張り初メカラ公ニスル趣旨デ……、全體ヲ綜合シテ一ツノ公ニスル行爲デアリマス、デスカラソレハ矢張り一人デアナイ、數人ニ公ニスラトニナルト私ハ思フノデアリマス、デアリマスルカラ、此ノ公ニスルト云フコトハ、矢張り公然ト云フコトト同一ノ解釋ニ從ツテ宜シイト、斯ウ考ヘテ規定シタ次第デゴザイマス

テ話ヲシタト云フ場合モアリマス、併シナガラ又一面ニ、先ニ申シマス流布ト云フヤウナ關係モアリマシテ、流布ト云フノハ、或ハ其ノ人ガ又更ニ盛ニドシノ、喋ルダラウト思ハレルヤウナ關係ニ於テ話ヲスルト云フヤウナ場合ニ於テ流布ト云フコトモ起ル譯デアリマス、デアリマスカラナカノ人ノ數バカリデハイケナイト思ヒマス、デ私達ノ考ト致シマシテハ、唯二人ダケ居ル所デ話ヲシタカラ直ダソレレハ公ダト云フ風ニ判斷スルコトハ判斷ヲ誤ツテ居ルコトダト私ハ思ツテ居リマス

○松村義一君 今私ノ申シタノハ、初メ二人ノ人ニ話シタ、其ノ次ハ二人ノ人ニ話ス、其ノ次ハ三人ニ話スト云フ意味デアゴザイマセヌ、ハツキリ申シテ置キマス、初メ一人ノ人ニ話シタ、又一人ノ人ニ話シタ、又一人ノ人ニ話シタ、斯ウ云フ場合デアツテ、而モ御話ノヤウニ豫メ是等ノ者ニ話サウト云フ意思ヲ初メカラ持ツテ居ル、詰リ連續的ノ意思ヲ持ツテ居ル、斯ウ云フ場合デアツテモ、サウデナクテモ不意ニ、初メ一人ノ人ニ話シタ、又考ヘ付テ又一人ノ人ニ話シタ、又一人ノ人ニ話シタ、斯ウ云フコトモ矢張り公ニナルノデアリマスカラ、矢張り公ニシタルモノト云フ意味ニナルノデアアル、斯ウ思フノデアリマス、ソレハ公然ト云フノハマア明瞭デアリマスガ、少シ觀念ガ違フト思フノデアリマスガ、尙モウ一度……

○政府委員(三宅正太郎君) ソレハ詰り私ガ何時モ第六條ト比較シテ申上ゲテ居ル譯デアリマス、今申上ゲマスヤウナコトハ、連續的ニ一人ニ御話ニナル、今日一人ニ御話ニナル、又其ノ翌日ニ丁度偶々思ヒ付テ又一人ニ御話ニナルト云フノハ、第六條ニ於テ一之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ、詰り三人ニ漏泄シタル時デモ、第六條ノ罪ガ三遍行ハレルト云フコトニナル譯デアリマス、併シナガラ第三條ノ方ノ「公」ト云フノハ、飽ク迄モ不特定多數人ニ知得領有セラレル状態ニ置タト云フコトデアリマシテ、六條ノ唯一人ニ漏泄スルコトトハ違フト云フコトヲ、ココノ所ヲハツキリト區別シテ申上ゲタイト存ジタカラデゴザイマス。

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ第三條ノ漏泄又ハ公ニスルト云フ行爲モ一ツノ刑罰法令デアリマスガ、刑罰法令ニ付テハ總テ刑法ノ總則ノ適用ガゴザイマシテ、刑法ノ第二十五條、即チ正當ノ業務ニ依ツテ爲シタル行爲ニ付テハ罰シナイト云フコトニナツテ居リマス、デアリマスルカラ例ヘバ總理大臣ガ閣議ニ付セラレタ事項ヲ、又其ノ下級ニ當然ノ職務ノ執行上話サレルコトハ何等差支ナイノデアリマス、又官僚ガ例ヘバ官廳ノ仕事ヲ代行シテ居ル會社、組合ニ對シテ、當然ニ國家機密ヲ知ラセラルベキ業務上ノ必要ガアル、又職務上ノ必要ガアル場合ニ於テ、職務ヲ執行スル上ニ於テ國家機密ヲ述べルコトハ、少シモ第三條ニ當嵌ラナイと思フノデアリマス、唯ソレダカラ業務ノ執行ダカラ何テモ宜イト云フコトデハゴザイマセズ、サウ云フ國家機密ヲ漏泄シ公ニスルコトガ業務ノ執行デアル場合ニハ刑

罰ニ問ハレナイ、故ニ條文ニ觸レナイト云フコトデアリマスカラ、サウ總テ何モ言ヘナクナルト云フコトニハナラナイと思フノデアリマス、即チ刑法第三十五條ガ適當ニ動クコトニ依リマシテ、仕事ガ出来ナクナルト云フ風ナ嫌ヒハ恐ラクナイノデハナイカト思フノデアリマス。

○伍堂重雄君 是ハ第三條ハ第五條アタリト不可分ノ關係ガアリマスノデ實情ヲ申シマス、委員會デ色々審議ヲ致シマスガ、其ノ委員會ニ出席シテ居ル者ハ大抵業者ノ代表者デアリマスガ、サウスルト矢張り業者トシテハ、代表トシテハ、自分テ即座ニ自分ダケノ意見ヲ行カナイ、矢張り歸ッテ自分ノ會社ニ就テ調ベテ見ルトカ、斯ウ云フ意見ガ出タガ實際ニ對シテドウデアルカト云フヤウナコトニ付テ調ベル要ガアツテ、ソコニ詰リ此ノ業務ニ關係ノナイモノニ公ニサレル機會ガ起ツテ來ルノデス、サウ云フ場合ニ午前十モ申シマシタガ、ソレヲ是ハ此ノ委員會限リ一切外ニ漏ラシテハ困ルト言ツタラ、其ノ委員會ノ運營ト云フモノハ出来ナクナツテ來ルコトモ日常ニハ多イノデス、デスカラ是ガ非常ニムツカシイノデヤナイカト思フノデスガ、實行スル場合ニ公ニスルト云フ問題ガソレニ對シテ餘程的確ナ處理法ガ豫メ決ツテ居ナイト、實行ハナカノ、容易ナコトチヤナカラウト思フノデアリマスガ……

○政府委員(三宅正太郎君) 御尤モト思ヒマス、唯國家機密ハ出來ルダケ漏ラシタクナイト云フ建前カラ出來テ居リマスノデ、必要ノ最小限度ニ止メテ載キタイノデアリマス、從ツテ今御言葉ニアリマシタ中デ、國家ノ事務ヲ代行シテ居ル會社ガ國

家ノ官吏カラ國家機密ヲ示サレル、サウシテ會社ヘ歸ツテ來タ、併シ唯其ノ人ガ示サレタダケデ、其ノ人ガ其ノコトヲ固ク胸ニ秘メテ居ルダケデ、ソレデ仕事ガ出來ルナラバソレハサウ願ヒタイノデアリマスケレドモ、ソレデハ仕事ガ出來ナイ、例ヘバソレハ其ノ係リノ者トモ相談シナケレバナラナイシ、ドウシテモ必要上國家機密ヲ其ノ者ニ告ゲナケレバナラヌコトガ起ル、斯ウナリマスレバ、ソレハ其ノ人ノ直ダ其ノ仕事ヲスル上ニ、當然シナケレバナラヌ國家ノ事務ヲ代行スル上ニ於テ當然シナケレバナラヌ行爲デアリマスカラ、其ノ當然シナケレバナラヌ行爲ノ範圍ニ於テハ三十五條ガ適用サレマシテ、其ノ點ニ付テハ、違法性ガナイ、斯ウ考ヘラレルノデゴザイマス。

○廣瀬久忠君 ハツキリサセテ載キタイ點ガアリマスノデ、ソレハ當然ノコトノヤウデアリマスガ、非常ニ重大ナノデアリマスカラ、ハツキリサシテ置キタイと思ヒマスノハ、憲法ノ第五十二條ノ議員ノ言論ト云フモノト國家機密ノ關係ニ付テ當局ノ御考ヲ伺ツテ置キタイノデアリマス。

○政府委員(三宅正太郎君) 憲法第五十二條ニ於キマシテ貴衆兩院議員ガ持ツテオイデニナリマスル保障ハ、此ノ國家機密ヲ擁護致シマスル國防保安法ト、ソレト何等影響、制限ヲ受ケルモノデナイト御承知ヲ願ヒマス。

○廣瀬久忠君 能ク解リマシタ、ソレカラ役人ノ方ノ立場カラ一ツ御伺ヒシタイ、只今伍堂委員カラノ御話、私モ誠ニ御尤モト思フノデアリマスガ、役人ノ行爲ガ正當業務ノ中ニ入ツテ居

ルカドウカト云フコトニ付テハ、刑法ノ適用ガアルカドウカト云フコトニ付テハ役人自ラ判斷シテ考ヘナケレバナラナイ、役人トシテ大變心配ナ問題ト思ヒマス、役人ガ非常ニ臆病ニナルデアラウト思ヒマス、從ツテ其ノ結果ガ矢張り國ノ仕事ノ上ニ色々影響ヲ與ヘル憂ガアリマス、國民ニ知ラシテモ宜イ場合モアリマセウ、サウ云フヤウナ場合ニモ役人ガ臆病ニナリハセウカト云フコトヲ私ハ心配スル、此ノ點ハ兎程來質疑應答ガアリマシテ大體諒承致シマシタ、尙御伺ヒ致シマスガ、能クアルコトニ各關係ヲ歴訪致シマシテ、サウ云フ場合ニ新聞記者ハ從來ノ大體ノ形勢カラ閣議ノ内容ニ付テ、第六感デ或程度ノ知識ヲ持ツテ居ル、サウ云フ場合ニ非常ニ答辯ニ困ルヤウナ質疑ガ澤山新聞記者カラ發セラレルノデアリマス、其ノ場合ニ無論黙シテ語ラズ、非常ニ宜イト思ヒマスガ、サウ云フ際ニ何處迄モ無論何モ言ハナイ、言ハナケレバ新聞記者ノ方ハ第六感デ色々ナコトヲ書クコトガアリマス、サウ云フ場合ニ一種ノ不作爲ダト思フノデアリマスガ、何モ言ハナイ、何モ返事ヲセヌケレドモ、結局新聞記者ノ方カラ云フト返事ヲセヌナラモウ此ノ問題ハ決ツテ居ルノダト云フ考ヲスル場合ガ非常ニ多イ、其ノ結果ガ新聞ニ出ルト云フヤウナ場合ガアリマス、サウ云フヤウナ場合ニハマア私ハ新聞記者ノ方ノ立場ト、役人ノ方ノ立場ト兩方アルト思ヒマスガ、其ノ場合ニ役人ノ立場ハ法律ノ上カラドウナルノデアリマスガ

○政府委員(三宅正太郎君) 役人ノ方カラ申シマス、國家機

密ヲ漏泄又ハ公ニスル考ガ全然ナインデアリマスカラ、犯意ヲ
 缺イテ居リマスノテ犯罪ハ何等成立シナイト思ヒマス、唯新聞
 記者ノ方ハ是ハ何等國家機密ヲ知ラタ譯デナイデアリマス、
 若シ假ニソレヲ知リモシナイノヲ知ツタトシテ書キマスレバ、
 新聞紙法ナリ其ノ他ノ法文ニ依ツテ適用ガアルト思ヒマス、此
 ノ法案ハ「ドイツ」ノ法案ト違ヒマシテ、唯國家機密ト云フ
 モノヲ罰シテ居リマセヌデスカラ、國家機密デナイモノヲ國家
 機密ト言ツテ出シタモノニ付テハ自ラ此ノ法案ノ適用ハナイト
 解シマス

○廣瀬久忠君 私ノ言ツテ居ルノハ、内容自體ハ國家機密ナシ
 デスケレドモ、無關係ノ役人ハ何モ言ハナイ、言ハヌケレド
 モ社會情勢カラ見テ新聞記者ハソレヲ推定シテ書クト云フ場
 合ガアル、サウ云フ場合ニ役人ノ方ハ今ノ御話デ違ク分リマシ
 タ、役人ノ方ハ無論公ニスル考ハアリマセヌカラ是ハモウ宜イ
 ト思ヒマス、唯新聞記者ハ果シテソレデ何事モナクテ宜イモ
 ノデセワカ、第五條ノ方ニ引ツ懸ルト云フコトニナリマスマイ
 カ

○政府委員(三宅正太郎君) 其ノ新聞記者ハ目的ニ依リマシテ
 ハ第四條ニ當ルコトモアルト思ヒマス、要スルニ國家機密ヲ漏
 泄シ又ハ公ニスル目的ヲ以テ國家機密ヲ探知シ、又ハ收集シタ
 ル者ト云フ場合ニ當リ得ルカトモ思ヒマスガ、實際ノ場合ニナ
 ラナケレバ分リマセヌガ……

○廣瀬久忠君 又第五條ノ方ハ如何テスカ、當ルコトハアリマ
 スマイカ

○政府委員(三宅正太郎君) 是ハ態ト斯ク書イタ次第デアリマ
 ス、ト申シマスノハ國防保安法案ハ先程申シマシタヤウニ、外
 國ニ國家機密ノ漏レルコトヲ防グノガ目的デアリマス、實ハ國
 内ニ國家機密ガ漏レテモ外國ニサヘ漏レナケレバ宜シイ理窟ナ
 ンデアリマスガ、マアサウ云フ譯ニモ行キマセヌカラ國內モ取
 締ルノデアリマシテ、主トシテ日當トスル所ハ國外ニ漏レルト
 云フコトデアリマス、其ノ關係上總テ公ニスルト云フコトヲ後
 ニシ、寧ろ外國ニ漏泄スルト云フコトヲ主眼トシ、サウシテ公
 ニスルト云フコトヲ後ニシタノハ其ノ趣旨デアリマス、又此ノ
 外國ノ爲ニ行動スル、軍機保護法ニ依リマスト外國又ハ外國ノ
 爲ニ行動スル者トアリマス、是モ此ノ本法デハ外國ノ爲ニ行動
 スル外國人、更ニ外國人ハ外國ノ爲ニ行動セザル外國人ヲモ恰
 モ含メルコトニシテ、要スルニ外國人ト云フ者ヲ一丸トシテ、
 外國人ト決メタノモ、一ツハ所謂外國人ト云フ者ハ果シテ其ノ
 外國ノ爲ニ行動スルカシナイカ、ハツキリ立證モ出來ナイ關係
 モアリマスノデ、一網打盡ニ外國人ト云フ者ハ總テ警戒ヲ要ス
 ルト云フ立場ニ致シタデアリマス、總テ皆外國ニ漏レルト云
 フコトヲ恐レルト云フ觀點カラ致シタコトデアリマシテ、其ノ

○政府委員(三宅正太郎君) 是ハ「國家機密ヲ知得シ又ハ領有
 シタル者」ト、是ハ相當其ノ場合ノ具體的ナ事例ニ徴シナケレ
 バ分リマセヌガ、唯人ノ顔色ヲ見タダケデ一體國家機密ノ探知
 ガ出來ルモノカドウカ、又ソレヲソナコトヲ探知シタコトガ
 直ダ國家機密ト云フコトニ其ノ新聞記者ガ確信ヲ持テ得ルカド
 ウカ、甚ダ其ノ語ニ付テ色々ナ疑ガ生ジマスガ、苟モ國家機密
 デアルモノヲ知得シマシテ、之ヲ公ニシタ場合ニハ矢張り第五
 條ニモ當ルト思ヒマス

○内田重成君 私ノ御尋ネスルコトハ餘リ内容ノ問題デモナイ
 ト思ヒマスガ、此ノ三條以下ノ書キ方ガ軍機保護法ノ書キ方ト
 大分違ツテ居リマス、何レ軍機保護法等ハ御參酌ニ相成ツタノ
 デアラウガ、如何ニシテ斯クノ如ク變ヘテレタカ、其ノ理由ガ
 アリマスレバ承リタイト思ヒマスノハ、第一ニ此ノ軍機保護法
 デハ公ニシタルトキト云フノガ上ニ書イテアル、是ハ國內ノ外
 ノ間ハ公ニスル場合ヲ申スノデアリマスガ、斯クノ如ク三條
 以下ノヤウニ書キマスルト、何カ斯ウ外國ニ漏泄シ、又ハ公ニ
 シタト、外國ト云フ文字ヲ冠ルヤウニテヨツト見エマス、漏泄
 ノ關係カラ言ヘバ無論冠ラナイ、公ト云フノハ國內ノ外ノ間ハ
 ズ公ニスルコトヲ云フデアリマシテ、軍機保護法ハ總テ公ニ
 スル場合ノ方ガ上ニ書イテアル、ダカラ能ク分ル、ソレカラモ
 ウ一ツ之ヲ外國ト云フ文字ノ括弧ノ中ニ「外國ノ爲ニ行動スル
 者及外國人ヲ含ム以下之ニ同ジ」ト云フ規定ガアリマスガ、
 是モ外國トシテ廣イ方ノ外國人ヲ先ニ書キ、外國ノ爲ニ行動ス
 ル者ト云フ或特定ノ者、外國人ノ中ノ或特定ノ者、ソレ等ノ方

趣旨デ軍機保護法ト國防保安法トハ規定ノ態様ヲ變ヘタ次第デ
 アリマス

○澤田牛齋君 ソレニ關係シテ今ノ御説明ヲ聞キマス、此ノ
 法文ノ外國ノ爲ニ行動スル者ト云フ字ハ要ラヌノデヤナイカ、
 行動シテモシナクテモ外國人ヲ總テ含ムト言ヘバ……

○政府委員(三宅正太郎君) 處ガ外國ノ爲ニ行動スル日本人ガ
 アリマス

○澤田牛齋君 日本人ガ……

○政府委員(三宅正太郎君) ハア

○澤田牛齋君 サツキノ第三條ノ括弧ノコトデスカ、ドウモ私
 ニハヨク分ラヌノデスカ、外國ノ爲ニ行動スル者及外國人ヲ含
 ム、サウスルト外國人ハ「スバイ」デアツテモ「スバイ」デ
 ナクテモ、全部人ル、ソレカラ外國ノ爲ニ行動スル者ト云フノ
 ハ、日本人デ「スバイ」デアルノデスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 外國ノ爲ニ行動スル者ハ即チ外國
 ノ利益ノ爲ニ色々行動スル者デ、此ノ間モゴザイマシタヤウ
 ニ、外國ノ會社ニ勤メテ居ル者ナドデ、隨分外國ノ會社ノ爲ニ
 謀報ナドヲ集メタリナンカシテ居ル者モアツタヤウデゴザイマ
 ス、サウ云フヤウナ者モゴザイマスカラ、ソレ等ノ外國ノ爲ニ
 行動スル者ヲ斯ウ入レタ譯デアリマス

○澤田牛齋君 サウスルト外國ノ爲ニ行動スル者デナイ日本人
 ニ漏ラシタ場合ハ如何テスカ

○政府委員(三宅正太郎君) ソレハ此處ニ入りマセヌ、外國ノ
 中ニモ入りマセヌ

○澤田牛齋君 外國ノ爲ニスル者、即チ「スパイ」デアアルカ何カト云フコトヲ漏ラス人、例ヘバ大臣ナラ大臣ガ識別シテテナイト、此ノ三條ノ發動ガナイ譯デスカ、其ノ場合ハ區別ガアルノデスカ、外國ノ「スパイ」ダトハ知ラズニ話シタコトト、外國ノ「スパイ」ダト知ツテ話シタト云フコトト、區別ガアルノデスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ場合ハ外國ノ爲ニ行動スル者ナルコトヲ知ツテ漏ラシルコトガ必要デアリマス

○澤田牛齋君 「スパイ」テナイ者ニ話シタ場合ハ何條ニナリマスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 其ノ場合、漏泄又ハ公ト云フ場合ニ於テデアリマスレバ、若シソレガ知ラナイデ、何デモナイト思ツテヤリマシタ者ハ第七條ニアルノデアリマス、過失ニ因ル

○澤田牛齋君 チヨツトマダヨク分リマセヌガ、サウスルト七條ハ過失ニ因ツテ他人ニ漏泄シタルトキデ、第六條ニハ公ニシタト云フコトガナイノデスカ、ドウモハツキリ分リマセヌガ...第七條ニハ「又ハ公ニシタルトキ」ト云フノガアツテ、第六條ニハ「公ニシタルトキ」ト云フノハナイ、ソレカラ第三條ノ「スパイ」ト云フコトヲ知ツテ漏ラシタ者...「又ハ」カラハ之ニ係ラナイ、「スパイ」云々ニ係ラズ、唯公ニシタト云フコトダケニナルノデスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 七條デゴザイマスカ
○澤田牛齋君 三條デアリマス

カラ御尋ネニナツタコトニ對スル説明ハ分ツタノデアリマスガ、業務ニ因リテ知得シタ以上ハ、其ノ業務カラ離レテカラ後ト雖モ同ジコトト思ヒマスガ、其ノ點ハ如何デスカ
○政府委員(三宅正太郎君) 御説ノ通りデゴザイマス(同第四號)

(4) 第四條關係

○大竹政府委員 刑法總則ノ第十二條第一項ノ規定ヲ見マスト「懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一年以上十五年以下トス」ト云フ規定ガアリマス、而シテ同法ノ第八條ヲ見マスト「本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス」ト云フコトニナツテ居リマス、隨テ刑法總則ノ規定ニ全部國防保安法案ニ適用サレテ居リマス、隨テ只今讀上ゲマシタ第十二條第一項ノ規定モ適用ニナルノデアリマシテ、一年以上ノ有期懲役ト書イテ置ケバ、一年以上十五年以下ノ懲役ニ處ス、斯ウ云フコトニナル次第デアリマス(衆議院國防保安法案委員會議録(速記)第四回)

○小原直君 第四條ノ「國家機密ヲ探知シ」トアリマスガ、是ハ既ニ軍機保護法其ノ他ニモアリマスガ「探知シ」ト云フコトハドウ云フ意味ノコトデアリマスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ國家機密ノ中ノ事項デス、之ヲ標示スル圖書物件、斯ウアリマスノデ、結局探知ト收集トヲ區別シタ譯デアリマス、即チ國家機密ニ係ル事項ニ付テ之ヲ探知シ、ソレカラ之ヲ標示スル圖書物件ハ之ヲ收集スル、マア斯ウ云フ風ニ考ヘルノデアリマス、要スルニ國家機密ヲ他人ニ諷

○政府委員(三宅正太郎君) 三條ハ、公ハ何モ外國ニ公ニスルノデナク、國內ニ公ニシテモ宜シイ、例ヘバ國內テ發行スル新聞雜誌ニ出シテモ、國內ニスル演說會テ致シテモ、ソレハ皆公ニハレルノデアリマス

○澤田牛齋君 サウスルト六條トノ關係ハドウナルノデスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 六條ハ「他人ニ漏泄」デアリマス、今此處ニ書カレマシタ外國ノ爲ニ行動スル者又ハ外國人以

外ノ他人ト云フコトニナリマス
○子爵松友光君 時期ノ問題ニ付テ御伺ヒ致シタイノデゴザイマスガ、第三條ニ於テ業務ニ依リ國家機密ヲ知得シタ者ガ直チニ之ヲ外國ニ漏泄シ、又ハ公ニシタ時ニハ是ハ問題ハナイト思フノデゴザイマスガ、數年後ニ之ヲ公ニスルトカ、又一定ノ時期ノ後ニ之ヲシタト云フヤウナ場合ニハドウナルノデアリマスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 其ノ國家機密ガ、國家機密デアアル限リハ、矢張り其ノ時期ハ遅レマシテモ之ヲ漏泄又ハ公ニシタ場合ハ、其ノ時期ニ依ツテ處罰ヲ致シマスカラ、出來マシタコトガ數年前デアリマシテモ、此ノ漏泄又ハ公ニシタト云フ行爲デ以テ抑ヘテ處罰ヲ致シマス

○子爵松友光君 其ノ數年後ノ時期ガ國家機密テナクナツタヤウナ場合ニ付テハ問題ハナイノデスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 國家機密テナクナリマシタ場合ハ差支ゴザイマセヌ

小原直君 チヨツト簡單ニ御尋ネシタイノデスカ、今裏松委員

ネテ之ヲ知得スル、斯ウ云フ趣旨デゴザイマス

○小原直君 知得スル行爲ヲ爲セバ探知ニナルト思フノデアリマスガ、其ノ知得スル行爲ヲ爲セト云フ中ニハ結果ヲ見ナケレバナラスノデスカ...探知行爲ヲ爲セバ探知ニナルト思ヒ、知得迄ニハ行カナイト思ヒマスガ、是ハドウデスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 第四條ハ未遂罪ヲ處罰シテ居リマスノデ、探知シテモ未ダ國家機密ヲ得ナイ内ハ未遂罪ニ依ツテ處罰セザレル、斯ウ考ヘテ居リマス

○小原直君 未遂罪ノコトハ承知シテ居リマスガ、其ノ探知行爲ヲ爲セバ探知ト云フコトデ、未遂罪テナク總テ探知ノ既遂罪ニナルノテハナカラウカ、ソコニ多少疑ガアリマスガ...

○政府委員(三宅正太郎君) 私ノ考ト致シマシテハサウ存ジテ居リマスガ、尙研究ヲ致シテ御答ヘ致シマス

○委員長(伯耆林博太郎君) 第四條ハゴザイマセヌカ

○伍堂卓雄君 簡單ニ御尋ネシマスガ、外國ニ漏泄スルト云フコトハ、公ニスル、此ノ二ツヲ同ジヤウニ取扱ワテアル意味ヲモウ一遍ハツキリ伺イタイノデスカ、片方ハ外國ニ漏泄スルモノ、片方ハサウ云フ目的テナイ場合モ結果ニ於テハアルト思ヒマス

○政府委員(三宅正太郎君) 御尤ニ存ジマスガ、一般ニ公ニサレマスレバ、モウソレハ何時如何ナル場合デモ外國人ノ眼ニ觸レルカモ知レマセヌノデアリマス、一旦公ニサレマシタ以上ハ取返シガ付キマセヌノデ、矢張り外國ニ漏泄シタト同ジク取扱フノガ適當ダト斯ウ考ヘタ次第デアリマス

○内田重成君 四條デハ目的罪ニナツテ居リマスガ、此ノ目的ナシニ軍機保護法ノ第二條ノ如キ軍事上ノ秘密ヲ探知シ、又ハ收集シタルモノハ六月以上十年以下ノ懲役ニ處ス、斯ウ云フ規定ガナイノデアリマスガ、是ハ宜シイノデアリマスガ

○政府委員(三宅正太郎君) 是ハ繰返シ申上ゲテ恐縮デハゴザイマスガ、其ノ法案ハ外國ニ漏レルコトヲ慮レル關係上、此ノ程度ノ行爲ヲ處罰スルト云フコトニ致シタ次第デアリマス

○黒崎定三君 只今ノ御質問ニ關聯シテ居ルノデアリマスガ、凡ソ國家機密ハ外國ニ知得セラルベキ、サウシテ又外國ニ知ラレ得ル状態ニ此ノ機密ガ置カレルト云フコトヲ嚴重ニ取締ラテ行カネバナラヌト云フコトガ趣旨デアラウカト思フノデアリマス、ソレデアリマスルカラ四條ノ二項デ以テ、前項ノ目的ヲ以テ探知收集シタル者デナトモ、即チ言換ヘレバ此ノ目的ナクシテ探知收集シタル者デモ、外國ニ漏泄シ又ハ公ニシタ時ハ是デ罰シテ宜シイノデゴザイマセウカ、若シ原案ノ儘デアリマスルト、今私ガ設例シマシタヤウナ事案ハ恐ラク第五條ノ場合デアラウカト思ハレマス、處ガ軍機保護法ノ是亦引合ニ出シマスルト四條ノ二項カト思ヒマス、アレハ矢張り三年以上ノ懲役ニナツテ居ルノデアリマス、斯ウ云ウ目的ナクシテ軍事上ノ秘密ヲ探知收集シタル者ガ、即チ外國ノ爲ニ行動スル奴モ漏泄シ、公ニシタ奴ハ死刑、無期、又ハ三年以上ノ懲役ニナツテ居ルカト思ヒマス、四條ノ二項ハ矢張り其ノ流儀ニ從フ方ガ目的達成ニヨリ良タ近付タノデハナイデセウカ、何カ別ニ意味ガアリマスレバ……

○政府委員(三宅正太郎君) 國家機密ト云フコトヲ知ラナイデ探知シタ場合ハ此ノ探知罪ニナラナイノデス

○佐堂卓雄君 ドウモサウ云フ場合ガ……外國ヘ何カノ利益ノ爲ニ漏泄スルト云フコトデ、ソレデ國家機密ト知リナガラ探知シ、又ハ漏泄スルト云フコトハアリ得ルコトダト思フノデスガ、國家機密ト知リ、殊ニ斯ウ云フ法律ガアルト云フコトヲ知リナガラ、唯其ノ雜誌ヤ其ノ他ノモノニ公表スル目的ヲ以テ行フト云フ場合ガ、チヨツト常識デ考ヘラレヌト思ヒマス

○政府委員(三宅正太郎君) 常識ヲ持ツテ居ル人ナラバサウ云フコトハシナイト存ジマスガ、併シ外國ニ直接漏泄スルト云フコトガハツキリ致シマセヌデモ、之ヲ國內テ公ニ致シマスナラバ、ソレハ外國ニ當然參ルノデアリマスカラ、參ル危險ガアルノデアリマスカラ、結局此ノ程度ニ於テ矢張り目的罪トシテ之ヲ處罰致シマセヌト、其ノ方ノ取締ガ疎ニナルト思フノデアリマス(貴族院國防保安法特別委員會議事速記録第四號)

○鈴木(文)委員 ソレデ能ク分リマシタ、次ニ第五條ノ「前二條ニ規定スル原由以外ノ原由ニ因リ」ト書イテゴザイマスルガ、(原由以外ノ原由)トハ、例ヘバドウ云フ事柄ヲ申スノデゴザイマセウカ

○大竹政府委員 第三條ハ業務ニ因リ知得領有シタルモノガ之ヲ洩ラスト云フコトデアリマス、第四條ハ外國ニ漏泄シ又ハ公ニスル目的ヲ探知收集シタル者ガ云々ト云フ規定ニナツテ居リマス、而シテ此ノ二ツノ原由以外ノ原由ヲ考ヘテ見マスと、例ヘ

○政府委員(三宅正太郎君) 誠ニ御尤モニ存ジマス、御話シノ通りデアリマシテ、今ノヤウナ目的ナシニ國家機密ヲ探知收集シタル者、又ハ外國ニ漏泄、或ハ公ニシタル者ハ第五條ニ當ルノデアリマス、サウシテ第四條ハ即チ何處迄モ外國ニ漏泄シ、公ニスル目的ヲ以テト云フ、其ノ目的ヲ掲ゲテ居リマス、軍機保護法ノ方ハ元來其ノ目的ト云フモノハ、外國ニ漏泄トカ云フヤウナ目的ヲ掲ゲテ居リマセヌノデアリマスカラ、自然ニ斯ウナツテ居ルト思フノデアリマスガ、本法ハ出來ルダケ矢張り處罰ノ範圍ヲ餘リ擴大シナイト云フ考ヘカラ「外國ニ漏泄シ又ハ公ニスル目的ヲ以テ」ト、他迄モ目的罪トシテ無闇ニ處罰シナイダケノ用意ヲシタモノト御承知願ヒタイノデアリマス

○佐堂卓雄君 モウ一ツ伺ヒタイノデスガ、具體的ニ御説明ヲ願フト「外國ニ漏泄シ」ト云フ目的ハハツキリスルノデアリマスガ、「公ニスル」ト云フ目的ハ一體ドウ云フヤウナ場合ノコトニナリマスガ、外國ニ漏泄シナイデ、國家機密ト分ツテ居ツテ、ソレヲ公ニスル目的ヲ以テヤルト云フコトガドウ云フ考ヘ方カラサウ云フコトガ起ルノデアリマスカ

○政府委員(三宅正太郎君) マア新聞紙ニ載セルコトハ恐ラク記事差止ナドガアリマシテ出來ナイデアリマセウガ或ハ「パンフレット」ニスルトカ、或ハ其ノ他ノ印刷物ニシテ、サウシテ公ニスルト云フヤウナコトヲ指シタモノト、斯ウ見テ宜シカラウト思ヒマス

○佐堂卓雄君 スルト「國家機密ヲ探知シ」ト云フコトハ、國家機密ト云フコトヲ知ツテ居ツテ探知スル意味デスカ

バ偶然ノ機會ニ人カラ聴イタト云フヤウナ場合ニ當ルノデアリマス

○鈴木(文)委員 ドウモ御説明ガ簡單デアリマシテ、其ノ事柄ハ過日朝日新聞ニ載ツテ居ツタノデ、其ノコトナラバ分ルノデゴザイマス、偶然ノ機會ニ知得シタダケガ原由以外ノ原由ニナツテ居ルナラバ「原由以外ノ原由」ト云フ譯ノ分ラヌ言葉ヲ使ハレズニ、偶然ノ機會ニ知得シタルコトニ因リ國家機密云々ト御書キニナレバ宜シイノデハナイカト思ヒマス、例ヘバト云フ御話デゴザイマスカラ、他ニアルカモ知レマセヌケレドモ、原由以外ノ原由ト云フモノハ偶然ノ機會ニ知得シタダケヲ言フノデアリマセウカ、其ノ點ヲ御伺ヒ致シマス

○大竹政府委員 偶然ノ機會ニ知ツタト云フヤウナ場合ガ一番多イト思ヒマスガ、然ラバソレダケニ限ツテ、斷然差支ナイカト云フ念ヲ押サレマスト少シ心配ニナツテ來ルノデアリマスガ、斯ウ云フ規定ハ茲デ初メテ規定スルノデアリマセヌデ、實ハ最近ノ立法例タル軍用資源機密保護法ニ於キマシテモ同ジヤウナ形式ヲ執ツテ居ルノデアリマシテ、斯ウ云フヤウニ規定シテ置イタ方ガ、法文ノ用語トシテハ正確デアル、斯ウ云フ考ヘデアリマス

○西田委員 第五條ノ「前二條ニ規定スル原由以外ノ原由ニ因リ」國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者ト云フ問題デアリマスガ、例ヲ中シマスと、大政黨議會ノ議會局ナラ議會局ト云フモノガ盛ソニ日本各地ニ視察班ヲ出シテ、其ノ視察班ガ得テ來タモノヲ議會局ニ集メ、ソコデ結論ヲ得マシテ、ソレヲ政府ニ進

○西田委員 第五條ノ「前二條ニ規定スル原由以外ノ原由ニ因リ」國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者ト云フ問題デアリマスガ、例ヲ中シマスと、大政黨議會ノ議會局ナラ議會局ト云フモノガ盛ソニ日本各地ニ視察班ヲ出シテ、其ノ視察班ガ得テ來タモノヲ議會局ニ集メ、ソコデ結論ヲ得マシテ、ソレヲ政府ニ進

○西田委員 第五條ノ「前二條ニ規定スル原由以外ノ原由ニ因リ」國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者ト云フ問題デアリマスガ、例ヲ中シマスと、大政黨議會ノ議會局ナラ議會局ト云フモノガ盛ソニ日本各地ニ視察班ヲ出シテ、其ノ視察班ガ得テ來タモノヲ議會局ニ集メ、ソコデ結論ヲ得マシテ、ソレヲ政府ニ進

言シ、或ハ國民ニ知ラセヨウトスル、其ノ内ニ於テ吾々ニ生産力擴充ニ關スルコトヲ見テ來イトカ、米ノ増産ノ狀況ヲ見テ來イトカ、或ハ七・七禁令ガドウ云フヤウニ轉業ノ問題ニ關係シテ居ルカ見テ來イ、斯ウ云フコトヲ觀察ヲ命ゼラレ、ソレヲ此處テ綜合シテソレヲ公ニスルト云フヤウナ機會ガアツテ、ソレガ偶々客觀的ニ存在シテ居ル國家機密ト一致スル場合ニハ、ヤハリ本條ノ犯罪ニ觸レルト云フヤウナコトニナリマス、吾々ノ職責ハ一體行ハレテ行ケルノカドウカト云フコトガ心配サレマス、ソコテ第五條ハ吾々ニ違法性ノ意識ガナケレバ全然罪ニナラナイ——唯國家機密ト云フコトニ對スル認識ガアレバ犯罪ガ成立スルノカ、ソレ以上ニ吾々ガ斯ウ云フコトヲ公ニスルトカ、若シタハソレガ違法性デアルトカ云フコトノ認識ガナケレバ犯罪ニナラナイノカ、此ノ點ハツキリト伺ツテ置キタイト思ヒマス

○大竹政府委員 只今例ニ御擧ゲニナリマシタヤウナモノハ、モウ少シ具體的ニ承ラナイトハツキリシタコトハ申上ゲ兼ネマスガ、ソレハドウモ一條ノ「國家機密」デハナイヤウニ思ヒマス、若シソレガ當ル場合ガアリトスレバ、八條ノ「情報」程度ダト思ヒマス、而シテソレハ別トシテ理論ノ問題ト致シマシテハ、國家ガ機密トシテ保護シテ居ルモノダト云フ認識ヲ要シマス

○菊地委員 第五條ニ付テ御伺ヒシマス、此ノ五條ハ過失ニ依ツテ犯サレルコトノ出來ル犯罪デアアルカドウカ、其ノ點ヲ伺ヒマス

ダト思ヒマス、第五條ハハ一口ニ言ヒマスト偶然ノ原由ニ依ツテ知ツタト云フ場合デアリマシテ、成程御説ノ通り國家ノ被害ト云フモノハ大ナモノガアリマスケレドモ、ドウモ其處マデ罰則ヲ設ケテ行クノハ酷ニ失スルノデハナカラウカト云フコトヲ考ヘマシタ爲ニ、過失罪ハ業務上ノ場合ニ限ツタ次第デゴザイマス

○菊地委員 只今ノ御説明テ略ミテ承シタノデアリマスガ、是ハ極メテ重大問題ダト思フ、個人ニ對シマシテハ洵ニ氣ノ毒デアリマスケレドモ、國家機密ガ此ノ過失犯罪ヲ罰セザルコトニ依ツテ、外國ニ漏泄シタリ或ハ又國內ニ公ニサレルコトガアリマシタナラバ、折角此ノ法案ヲ作ツタコトガ意味ヲ成サナクナルヤウナ事態ガ發生シナイトモ限ラヌト思フデアリマス、此ノ點ニ對シマシテハ十分私ハ慎重ニ御研究ヲ願ヒタイト思フデアリマス（衆議院國防保安法委員會議録（速記第四回））

○廣瀬久忠君 大體今ノ問題ハ分リマシタガ、尙議論ノ餘地ハアルカト思ヒマスガ、次ノ問題ヲ伺フテ見タイト思ヒマス、今ノハ人ノ問題、今度ハ事自體ノ問題ヲ伺ヒタイ、我が國デハ國家機密トシテ居ル、處ガ甲ト云フコトニナル場合ガ多イヤウニ思ヒマス、當該甲ト云フ國カラ我が國ニ對シテ、恐ラク通信ガ來ルト思ヒマスガ、其ノ種ノ國家機密ガ通信デ參ルダラウガ、之ニ對シテハドウ云フ方針デアルト、國家機密ガ日本内部ニ入ツテ來ルコトヲ防ダカドウカ、防ゲバ防ゲナイコトモナイダラウガ、ソレニ對スル取扱上ノ御考ヲ伺ヒタイ

○大竹政府委員 過失罪ヲ罰シテ居リマスルノハ第七條ダケデゴザイマス、而シテ其處ニ於キマシテハ業務ニ依リ知得領有ト云フコトヲ要件トシテ居リマスカラ、ソレ以外ノ原因ニ依ツテ知得領有シタルモノヲ過失ニ依ツテ漏泄シタト云フ場合ニハ罰條ガゴザイマセヌ

○菊地委員 私ノ聽イテ居ルノハ、第五條ハ過失ニ依リテ犯サルル犯罪ナリヤ否ヤ、過失デハ全然ナイ犯罪デアアルカ、此ノ點ヲ聽イテ居ル、罪ガ成立スルヤ否ヤヲ聽イテ居ルノデアアリマセヌ

○大竹政府委員 犯サレルコトハアリ得ルト思ヒマス

○菊地委員 御意見ノヤウニ過失ニ依ツテ犯サレル犯罪ナラバ、若シ第二條ニ依リ過失犯罪ガ犯サレタ場合、何故一體之ヲ罰シナイノデアアルカ、第七條ニ於テハ罰シテ居ル、而モ業務ニ依ル場合ハ罰シテ居ルガ、業務以外ノ者、或ハ「スパイ」以外ノ者カラ偶然國家機密ヲ探知シタ者ガ他ニ之ヲ公ニシ、又ハ外國ニ漏泄シテモ、何等ノ罪トモナラヌト云フコトハアリ得ナイト思フ、若シアツタトシタナラバ是ハ極メテ危険ナモノダト思フガ、當局ノ御意見ハドウデスカ

○大竹政府委員 其ノ點ハ實ハ立案當時モ色々考ヘタノデアリマスガ、此ノ國家機密ト云フモノハ、一口ニ言ヒマス、官吏ノ最高ノ人ガ持ツテ居ル、其處ガ根源デアリマシテ、其處カラ洩レテ來ルト云フコトガ一番危険ナコトデアリマス、之ニ關スル限りハ苟モ過失デモ之ヲ漏泄シ、又ハ公ニシタト云フ時ハ罰シナケレバナラヌト云フコトハ、法ノ違前上已ムヲ得ナイコト

○政府委員（三宅正太郎君） 日本ニ於テ國家機密トサレテ居ルコトガ外國ノ政府カラ發表セラレマシテ、其ノ爲ニソレガ日本ニ入ツテ來ルト云フ場合ニハ、勿論言論ノ……報道機關等ニ付テノ取締ヲ致シマシテ、極力國民ニ知ラセナイヤウニ致シマスガ、併シナガラソレ以上ニ其ノ機密ヲ流入ヲ止メル方法ト云フモノハナイヤウニ考ヘテ居リマス

○廣瀬久忠君 ソコデ御伺フ致シタイノハ、私ハ全然日本ニ來ルノヲ止メル方法ガナイト云フコトハナイヤウニ思ヒマスガ、例ヘテ申シマスレバ、通信テ來ルモノハ、是ハ新聞紙ニ對スル掲載禁止ト云フヤウナモノトモ一ツノ方法ト思ヒマスガ、是ハ尙御考ヲ願ツタラ宜イト思ヒマス、尙其ノ外ニ御伺ヒシタイノデアリマスガ、通信ガマア假ニ入ツテ來タコトハ今ノヤウニ仕方ガナイト云フノデ拙ツテ置カレル、或ハ外國ニ於ケル外字新聞デ發表ニナツタ、其ノ外字新聞ガ日本ニ輸送セラレタ、其ノ場合日本人ガ、内地人ガ之ヲ知ル譯デアリマス、此ノ場合ニ日本入ガ再ビ之ヲ外國ニ漏ラヌト云フヤウナコトガアル、モウ何ノ效用モナイヤウナコトデアリマスガ、サウ云フ場合ニハ是ハ第五條ニ關係ガアル、サウ云フ場合ニハドウ云フ工合ニ處罰上御考ニナリマスカ

○政府委員（三宅正太郎君） 外國カラ通信デ以テ日本ノ國家機密ヲ日本ニ知ラセラレマシテ、ソレヲ知得シタ人間ガ又更ニソレヲ公ニシタトカ、或ハ公ニスルトカイフヤウナ場合ニハ、サウ云フ場合ニ其ノ國家機密ガ既ニ外國ガ公表シタコトニ依ツテ周知ノ事實ニナツテ、天下公知デアリマスレバ、第一條ニアリ

マス所ノ一國防上外國ニ對シ秘密スルコトヲ要スルニ云フ要件ガ缺ケテシマヒマスガ、結局誰モ知ツテ居ルコトデアリマシテ、今更ソレハドウニモ秘密ダト云フコトハ言ハレナイコトデアリマス、サウ云フ場合ニ罰シタ所デ、所謂自然祕アルモノガ自然祕デナクナツタモノデアルノデ、是ハ罪ニナラヌト思ヒマス、併シ唯外國カラ漏ラレタ通信ガアツタナラバ、今御話シノヤウニ或ハ一面ニ於テハ其ノ新聞記事掲載ノ差止トカ其ノ他ニ依ツテ、兎ニ角全般的ニデナクテモ、兎ニ角相當ノ範圍ニ於テ秘密トマダサレテ居ル場合ニ於テ、其ノサレテ居リマス場合ニ於テハマダ是ハ周知トカ、公知トカ、公然ニ知レタ事項トハナツテ居リマセヌカラ、矢張り是ハ國家機密トシテ殘ツテ居ルト思ヒマスカラ、サウ云フ關係ニ於テ其ノ國家機密ダト云フコトヲ漏ラスト云フコトニナレバ、矢張り五條ノ規定ノ適用ヲ受ケルコトニナツテ居ルト思ツテ居リマス。

○廣瀬久忠君 要スルニ只今ノ御答ハ、自然祕タル性質ヲ失ツテシマヘバ、最早ソレハ犯罪ニナラヌ、斯ウ云フ御考ノヤウデス、唯ソコニ非常ニムヅカシイ問題ガ又伏在スルヤウニ思フノデアリマスガ、ドノ程度迄御置キニナレバ、ソレハ最早國家機密デアル性質ヲ失フコト云フコトハ、非常ニ問題ニナルト思フノデアリマスガ、サウ云フ場合ニハ矢張り第一條ノ問題ト關聯スル譯デアリマスガ、少クモ現在ノ御考デハ解除ノ如キ手續ヲ御執リニナリマスカ。

○政府委員(三宅正太郎君) 解除ト云フ手續ハ、勿論國家機密トシテ指示スルト云フ手續ガ認メラレ、作ラレルト云フ以上

○子爵松友光君 他人ノ漏泄シタコトガ間接ニ外國ニ漏泄スルヤウナ場合ハ、ドウ云フ風ニナルノデアリマスカ。

○政府委員(三宅正太郎君) 他人ニ漏泄シマス、又其ノ他人ガ第五條ニ依ツテ其ノ國家機密ヲ知得シタモノデアリマスカラ、外國ニ漏泄シマス、其ノ他人ガ第五條ニ據ツテ處罰サレルコトニナリマス。

○子爵松友光君 一番初メニ他人ニ漏泄シタ者ハ其ノ場合トウニモナリナイノデスカ。

○政府委員(三宅正太郎君) 少クモ此ノ法案ニ關スル限りハドウニモナリマセヌ(貴族院國防保安法案特別委員會議事速記録第四號)

(6) 第六條關係

○三田村委員 ソレカラ六條、七條ニ言ツテ居リマス漏泄シタル行爲、此ノ行爲ノ體裁ヲ伺ヒタイト思ヒマス。

○秋山政府委員 漏泄ト云フコトハ自分以外ノ特定ノ少數人ニ之ヲ開示スル、或ハ又交付スルト云フコトデアリマス。

○三田村委員 大體公ニスルノモ漏泄スルノモ行爲ノ概念ハ同じコトニナルト思ヒマスガ、是ハ勿論言葉デヤル場合モ文書デヤル場合モアリマス、對話ノ場合モ、ソレカラ對話デナイ場合、文書ノ場合モアル譯デス、新聞ニ發表スルトカ本ニ書タカ、假ニ本ニ書ク場合ナド、サウ云フ問題ニ付テ餘リ深イ注意ヲ拂ハナイデ簡單ニ引用スル、例ヘバ議會ノ秘密會ノ内容ニ國家機密タルコトヲ約束サレテ居ツタトシテモ、從來應々ソレガ外ニ出タ、數字デアルガ故ニ、簡單ニ不用意ニ之ヲ使フト云フ

ハ、解除ト云フ手續モ當然ニ作ラナケレバナラヌト思ヒマスノデ、勿論指示スル以上ハ、其ノ解除ト云フコトモアリ得ルト思ヒマス、併シナガラ只今申上ゲマシタヤウナ、モウ自然祕ガ全然公然トナツテ、自然祕デナクナルト云フヤウナ場合ニハ、恐ラク其ノ後ニ於テ、更ニ又天下周知ノ事實ヲ解除スルト云フコトニモ及バナイ場合モアラウカトハ思ヒマス。

○子爵松友光君 第五條ニ於キマシテハ前二條ニ規定スル原因以外ノ原因ニ因ツテ國家機密ヲ知得シタル者、是ハ詰リ外國ニ漏泄シ又ハ公ニシタル、其ノ場合ダケヲ指定シテアツテ、サウ云フモノガ只他人ニ漏泄スルト云フヤウナ時ニハ何ニモ罰シナイ、斯ウ云フコトニナツテ居ルノデスカ。

○政府委員(三宅正太郎君) 第五條ハ偶然ノ機會ニ依ツテ國家機密ヲ知得シ又ハ漏泄シタ場合ヲ指スノデアリマス、即チ第三條ハ業務ニ因テ國家機密ヲ知得シ、第四條ハ國家機密ヲ探知シ又ハ收集スル、ソレカラ努メテ探知收集シタル者、サウ云フ以上ノ方法ニ因ラズシテ、其ノ人ノ耳ニ這入ツタ國家機密ヲ外國ニ漏泄シ又ハ公ニシタ、斯ウ云フ風ナ場合、是ハ今御言葉ノ通りデ、外國ニ漏泄シ公ニシタバカリデハナイデヤナイカ、モット處罰シナケレバ、實際國家機密ハウマタイカヌデヤナイカ、例ヘバ他人ニ漏泄スル、或前ニハ話ヲスルト云フテ漏泄スルノチヤイカヌデヤナイカト、斯ウ云フ御考ヘハ極メテ御尤モト存ジマスガ、矢張り其ノ程度マデ處罰スルト云フコトハ餘リ此ノ處分ガ苛酷ニ働タト云フヤウナコトニナルノデハナイカト云フ心配カラ此ノ程度ニ止メタ次第ナノデゴザイマス。

コトガアリ得ルト思フ、其ノ場合ニハ目的ノ認識ハナイガ、之ニ掛ツテ來ル譯デスカ。

○秋山政府委員 其ノ通りデアリマス(衆議院國防保安法案委員會議事速記録第三回)

○廣瀬久忠君 第六條ノ場合ニモ此ノ問題ガ出ルノデスカ、第三條、第四條ダケガ第六條デハ處罰サレル、併シ第四條ノヤウナ外國ニ漏泄シヨウトカ、或ハ公ニスル目的ヲ以テ探知シテ、サウシテソレヲ他ニ漏泄シタ奴モ處分シテ宜イト云フヤウナ感じガスルノデアリマスガ……

○政府委員(三宅正太郎君) 御尤モデゴザイマス、處罰サレル點カラ言ヒマスレバ、探知收集シタ者ガ他人ニ漏泄スルダケデモ宜クナイト存ジマス、併シ此ノ程度ニ止メタコトヲ御了承ヲ願ヒタイト存ジマス。

○小原直君 私ハ廣瀬委員ノ御答ネニナツタト寧ロ反對ノ意味ニ於テ御考ネシタイノデスカ、第四條ニ於テ外國ニ漏泄シ、又ハ公ニスル目的ヲ以テ國家機密ヲ探知シ、又ハ收集シタル場合ハ犯罪ニナルノデスカ、若シ外國ニ漏泄シ、又ハ公ニスル意思ヲ有セズシテ、國家機密ヲ探知シテ收集シタ者ハ犯罪ニナラヌト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、更ニ第五條ニ至ツテハ前二條ニ規定スル原由以外ノ原由ニ因リ國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者ハ、之ヲ外國ニ漏泄シ、又ハ公ニシタ時ニ同條ニ該當スル犯罪ニナルノデアリマシテ、單ニ其ノ者ガ他人ニ之ヲ漏泄シテモ同條ニ該當セヌト云フ規定ヲ設ケタノデアリマシテ、サウシテ當局ノ御説明ニ依レバ、此ノ二ツノ行爲ハ成ルベク廣

タ罪ヲ規定セザルガ宜シト想ツテ左様ニ規定シタノデアアルト云フ御話デアリマスカラ、ソレ位デアラナラバ、寧ろ業務ニ因リ國家機密ヲ知得シ、又ハ領有シタル者之ヲ他人ニ漏洩シテモ、之ヲ罪トセザルコトニシテモ差支ヘナイノデハナカラウカ、サウ云フ立場カラ御尋ネ致シマス。

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ國家機密ニ基クテ所ノ源泉ハ業務ニ因リ國家機密ヲ知得シ、又ハ領有シタル者ニアルノデアリマシテ、此ノ者ガシツカリ國家機密ヲ守ツテ呉レサヘスレバ、如何ニ探知收集セムトシテモ、探知收集ガ出來ナイ譯デアリマス、ソコデ源泉アル所ノ業務ニ因ツテ國家機密ヲ知得シ若クハ領有シタル者ト云フ所十分ニ取締リヲ致シマシテ、其ノ人ナラバ、其ノ者達ガ假令他人デアツテモ漏洩シテハナラス、過失デアツモイカヌゾト云フコトニ致シテ置キマスレバ、先ヅ漏レナカラウ、其ノ漏レナイト云フコトヲ前提ト致シマス、サウシテ其ノ上デ更ニ之ヲ探知若クハ收集者ガアツタ場合ニ於テノ第四條、又第五條ノ規定ニナル譯デアリマス、大體ニ於テ所謂國家機密ノ源ヲ嚴重ニ押ヘルト云フコトガ本法ノ目指ス所デアツタノデアリマスカラ、從ツテ斯ウ云フ規定ニナツタト、斯ウ御了承ヲ願ヒタイノデアリマス。

○小原直君 御説明ハ分リマシタガ、ソレナラバ選ツテ第四條ニ於テ外國ニ漏洩シ又ハ公ニスル目的ヲ有セズシテ國家機密ヲ探知シ、又ハ收集シタコトモ、サウ云フコトモ外國ニ漏レルコトノ處アルコトヲ遮斷スル必要ガアルノデアリマスカラ、寧ろ同條ニ於テモサウ云フ行爲ヲ罰スルコトガ必要ニナツテ來ルノ

若クハ收集スルト云フコトヲシマスレバ、恐ラク國家的ニ、政治的ニ重要ナ事項ト云フモノヲ何人モ聽カウトシナイ、又聽イタナラバ却ツテ處罰サレルト云フコトノ爲ニ、殆ド其ノ點ニ付テノ耳モ眼モ閉ザサレテシマフト云フコトヲ恐レル譯デアリマス、サウ云フ點ガ第四條ノ眼ノ著ケドコロデアリマス、然ラバ第五條ニ何故他人迄入レナイカ、第五條ハ軍機保護法ニハ偶然ニト書イテアルノデアリマス、是ハ前二條ニ規定スル原由以外ニトアリマスガ、偶然ノ結果機密ヲ知得シ、若クハ領有シタル者、斯ウ云フモノデアリマスカラ、之ガ偶々人ニ話シタカラト云ツテ、マダ外國ニ漏レタトカ、公ニサレナイ中ニ直クソレヲ處罰スルト云フコトハママ難デハナイカト云フコトカラデアリマス、多少ソコニ徹底セザル點モアルコトハ認メマスケレドモ、成ルベク怪我人ヲ少クシタイト云フ形カラ斯ウ云フ風ニ致シタイト御了承願ヒタイノデアリマス。

○小原直君 サウ致シマスト、第六條デ業務上國家機密ヲ知得シタモノノ之ヲ他人ニ漏洩シタコトニ依ツテ直チニ罪ニスルト云フコトモ非常ニ酷ナコトデハナイカ、サウシテ一面ニハ第一條デ御尋ネシヤウニ、第一條ノ第一號乃至第二號ニ掲ゲルヤウナ人達ハ日本ノ最高ノ上級ノ文武ノ官吏、或ハ帝國議會ノ議員、サウ云フ者ガ國家機密ヲ他人ニ話ス場合ニハ、ソレガ外國ニ漏レルトカ、公ニスルデアラウト云フヤウナコトヲ考ヘル場合ニハ、恐ラクハヤラナイデアラウ、寧ろ他人ニ漏ラス場合ニ於テハ、或ハ其ノ人達ノ關係等ニ於テ漏ラシテモ差支ヘナイ場合デナケレバ漏ラスコトハナイト云フ位ノ信念ヲ以テ是等ノ人

デハナイカ、寧ろ私ハ四條ニ掲ゲタヤウナ目的ヲ有セズシテ國家機密ヲ探知、若クハ收集スル者ヲ罪トセザルヤウニ御規定ニナツタノハ、是ハ實ハ見方ニ依ツテ是デ宜イト思フノデアリマス、ソレハ寧ろ國家ノ政治ヲ扱フ者ガソコニ掲ゲテアルヤウナ方法ヲ以テスルノデナクシテ、國家機密ノ探知、收集、言葉ハ惡イノデアリマスケレドモ、國家機密ヲ知得スルヤウナコトハ、實際上ニ於テ相當必要ナコトガアルノデアリマスカラ、寧ろサウ云フモノハ法律デ之ヲ取締ラナイヤウニスルト云フコトガ當ヲ得タモノト思ヒマス、併シ反對ニ今御話ニナツタヤウニ第六條デ業務上國家機密ヲ知得シ、又ハ領有シタル者ガ他ニ漏洩スルノハ、サウ云フ漏洩ガ外國ニ爲サレルコトノ源泉ヲ絶ツ爲デアルト云フ御話デアレバ、寧ろ第五條ニ先程廣瀬委員ガ御尋ネニナリマシタヤウニ、他ニ漏洩シタ場合ヲモ罪トシテ、此ノ源泉ヲ絶ツ方ガ宜イデハナイカ、其ノ二ツノ條項ニ於テ互ニ矛盾シタ觀念ガアル規定ガアルノデアリマス、寧ろソレハ一途ニ出ル方ガ宜イデハナイカ、ソレデ私ガ御尋ネシタノハ五條ニ於テ之ガ正シイトスルナラバ、六條ニ於テモ業務上扱フ者ノ漏洩スル行爲ヲ罪トシテ罰セズト云フコトニスルノガ宜イノデハナイカト思ヒマス、私ハソレガ宜イト云フノデアリマセヌガサウ云フ矛盾シタ思想ノ規定ガ出テ來テ居ルカラサウ云フコトヲ言ツタノデアリマス。

○政府委員(三宅正太郎君) 御尤モニ考ヘラレマスガ、實ハ第四條デ探知、收集ヲ目的ニ致シマシタノモ、只今御話ノ通りデアリマシテ、無理ニ之ヲドシナ目的デモ國家機密ヲ探知シ、

人ニ與ヘテ差支ヘナイ、寧ろ與フベキモノデアルト云フ風ニ思フノデアリマスカラ、六條ハ寧ろコソナモノヲ書ク必要ハナイト云フコトニモナルカト思フノデアリマス。

○政府委員(三宅正太郎君) 第六條ノ業務ニ因リ國家機密ヲ知得シ、又ハ領有シタル者ト云フノハ、恐ラク今小原委員カラ御話ノヤウニ御前會議ヤ、樞密院會議、或ハ帝國議會ノ委員ノ方々ト云フヨリモ、寧ろ其ノ以下ニ色々之ヲ取扱ツテ居ル者ガアリマス、最モ下ノ方ヲ申セバ、「タイビスト」ト云フモノモ考ヘラレルノデアリマシテ、隨分國家機密ト云フモノヲ見テ居ル者ガ多ク諱デアリマス、デアリマスカラソレ等ノ源泉ヲ十分ニ戒防スルコトガ、即チ此ノ先日來松村委員ガ御心配ノ社會不安ト云フコトヲ防グ所以デアリマス、此ノ國家機密ヲ取扱フ官廳若クハ之ニ準ズベキ人達ノ間ニ於テ之ガ十分ニ外ニ漏レナイコトニ用意シテ戴ケバ、決シテ國民ハ心配スルコトガナイ結果ニナルノデアリマス、出來ルダケ國民ノ方ヲ安心サセル意味ニ於テ、寧ろ取扱者ノ方ニ嚴重ナ、詰リ戒防ヲ加ヘルト云フコトガ適當デハナイカト斯ウ云フ積リテ致シタ次第デアリマス。貴族院國防保安法案特別委員會議事速記第四號。

(7) 第七條關係

○菊地委員 次ニ第七條ニ付テ御伺ヒ致シマスガ、第七條ハ如何ナル場合デアアルカ、二、三ノ例ヲ舉ゲテ御答ヘラ願ヒタイト思フノデアリマス、吾々ガ故意ヲ以テ國家機密ヲ外國ニ曝露シタリ、或ハ國內ニ公ニスルト云フヤウナコトハ、普通ノ日本人ナラバアリ得ナイコトデアアル、知ラズ識ラズノ間ニ過失ニ陥ツ

テ、サウシテ第七條ノ罰則ヲ受ケネバナラヌ立場ニナル人多
イト思フノデアリマスカラ、ドウカ成ルベク多クノ例ヲ擧ゲ
テ、一般國民ニ分ルヤウニ御説明ヲ願ヒタイト思フノデアリマ
ス

○大竹政府委員 例へバ外國人カラ色々ナ口實ヲ設ケテ、色々
ナ方面カラ勸カレテ、ツイ釣込マレテ、ウツカリ話シテシマツ
タト云フヤウナ場合、又ハ國家機密事項ヲ記載シテ其ノ標記ガ
明瞭ニアルヤウナ文書ヲ遺失シタリシタヤウナ場合ガ、其ノ適
例デアラウト思ヒマス

○菊地委員 國家機密ノ文書圖書ヲ保存シテ居ル、ソレヲ盜マ
レタト云フヤウナ場合ニハ本條ニ適合スルデセウカ

○大竹政府委員 保存ノ方法ガ極メテ杜撰デアツテ、何人デモ
見得ル、又盜マレテ危險ガ十分アルト云フヤウナ所ニ放置シテ
置イタト云フヤウナ場合ナラバ、過失ニ該當スルト思ヒマス、
併シナガラ其ノ人トシテ當然——例へバ本箱ノ中ニ入レテ鍵ヲ
掛ケテ置イタ、其ノ人ノ保管方法トシテハ最善ヲ盡シテ居ルト
云フヤウナ場合ニ、之ヲ泥棒ノ爲ニ盜マレタト云フヤウナ場合
ハ、過失トハ考ヘラレマセ

○菊地委員 特ニ帝國議會ノ秘密會ニ出席シ得ル者々ハ此ノ第
七條ニ對シマシテ、十分研究ヲ要スルト思フノデアリマスカラ、
帝國議會ノ議員ガ本條ニ該當スル場合ハ如何ナル場合デア
ルカ、サウ云フ點ヲ一ツ御説明ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、
例ヲ以テ御示シヨ願ヒタイノデアリマス

○大竹政府委員 ソレハ章程中上ゲマシタヤウニ、此ノ人ナラ

デスガ、ソレハ國家機密ハ自然秘デアリマシテ、客觀的ニ存在
シテ居ルト云フコトデアリマスカラ、或指定トカ云フ處分ガア
ツテモナクテモ、客觀的ニ存在シテ居ルヤウニ御考ヘニナツテ
居ルヤウニ思フノデアリマス、サウシマスト或ハ内閣ノ國家機
密トシテ取扱フコトヲ、過ツテシナカツタカト云フ事項ニ付テ、
次ノ内閣ニ於テソレヲ取上ゲテ處置スルコトガ出來ルカドウ
カト云フコトヲ御尋ネシマシタガ、ソレハ出來ルノダ、矢張り
此ノ第七條ニ依ツテ過失秘トシテ處罰サレルノデアルト云フ御
言葉デアリマシタ、サウ致シマスト是ハ非常ニ危險ナモノデ
ナイカト思ヒマス、昨日第六條ニ付イテサウ云フヤウナ御質問
ガアツタヤウデアリマスカラ、兎ニ角善意デ以テ國家機密トシ
カツタト云フヤウナモノ迄モ一々取上ゲテ、後カラ過失デア
ルト云ツテ此ノ七條デ處罰スルヤウニナリマスト云フト、是ハ恐
ルベキ結果ヲ産ムノチヤナイカト云フコトヲ大變懸念スル、無
論政黨内閣時代ハ、反對黨ガ出テ來レバ色々ノコトヲ言ヒマス
ガ、サウ云フ政黨内閣デナクモ、前内閣ト次ノ内閣トノ間ニ
ハ感情モ違ツテ居リマス、或ハ各種ノ事項ニ互ツテ判断ガ違フ
場合モ多イト思ヒマス、一々前内閣ノ事項ヲ取上ゲテ、後カラ
國家機密ノ漏泄デアルト云フヤウナコトデ處置致シマスト云フ
ト、マア日本デハ今迄ナカツタヤウデアリマス、屢々外國デ見
ヤウナ恐ルベキ事例ヲ見ルノデハナイカト云フコトヲ懸念ス
ノデアリマス、此ノ原因トシテ大體サウ云フ風ナ事例ヲ、此ノ
七條ヲ御作リニナル時ニ御考ニナツタカドウカ、無論軍機保護
法ニ丁度七條ニ同様ナ規定ガアルノデアリマス、ソレヲ其ノ儘

バト云フ譯デ、例へバ外國人カ何かガ、根掘リ葉掘リ手ヲ廻シ
テ色々ナ口實ヲ設ケテ聽ク、ソレニ釣込マレテツイウツカリ話
シテシマツタト云フヤウナ場合、又ハドウモアナタヲ前ニ置イ
テ申上ゲルト甚ダ悪イノデスガ、御尋ネダカラ申上ゲルノデ
ス、國家機密ニ屬スル書類ノ配布デモ受ケタトシマシテ、ソレ
ヲ持ツテ御歸リニナル途中ニ何處カへ落シタトカ、電車ノ中ニ
置忘レテシマツタト云フヤウナ場合ニハ之ニ該當スルノデア
リマス

○菊地委員 吾々ニ特ニ重大ナ關係ガアルノハ、議會終了後選
舉區ニ歸ツテ報告演説ヲヤリマスガ、其ノ場合ニ演説會ノ熱ガ
ドンドン上ツテ來ル、其ノ中ニ普通會議テ聞イタコトヤラ、或
ハ秘密會テ聞イタコトヤラ、ヨク分ラナクナリマシテ、ウツカ
リ國家機密ヲ漏ラスヤウナコトガアリマシタナラバ、是ハ過失
ヲ以テ罰スルモノデアリマセウカ、又第三條ニ依ツテ罰セラレ
ルノデアリマセウカ、極メテ是ハアリ得ルコトデアリマスカラ
聽イテ置キタイト思フノデアリマス

○大竹政府委員 ソレハ過失罪ト考ヘマス

○田中政府委員 秘密會ノコトヲ漏スコトハ是ハ德義デアリマ
ス、議員トシテノ德義上デアリマス、德義ニ懸ヘテヤル、又國家
ノ機密ニ關スルコトヲドウセ私共會ノ席ニハ中々秘密會デモ申
シマセヌ、サウ云フコトハ餘リ御心配ニナリマセヌヤウニ……
〔笑聲〕(衆議院國防保安法案委員會議錄(速記)第四回)

○下條廉賢君 此ノ第七條ノ過失ノ關係ニ付テ御尋ネ致シタ
イト思ヒマス、實ハ先日或例ヲ擧ゲマシテ御尋ネシテ置イタノ

コチラニ御用ヒニナツタノデアツテ、サウ云フ點ニ付テハ深く
御考ニナツタノデハナイノチヤナイカト云フヤウナ疑ヲ持ツテ
居ルノデアリマス、チヨツトモウツハ、今速記ヲ止メテ伺ワ
タノデアリマスガ、國家機密ヲ客觀秘トスルト云フ所ニ、斯ウ
云フヤウナ疑問ヲ懷カセル處ガナイカ、若シ之ガ指定サレテ居
ルナラバサウ云フ問題ハナイチヤナイカ、何かソレ等ニ付テ今
私ガ懸念スルヤウナ問題ガナイヤウニ決メテ戴タコトハ出來
ナイカ、斯ウ云フ質問デアリマス

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ第七條ニ「過失ニ因リ」ト簡
單ニ書イテゴザイマスノデ、サウ云フ御懸念ヲ御懷キニナルコ
トハ御尤モト存ジマス、併シ此ノ「過失ニ因リ」ト申シマスル
コトハ、元來ガ注意義務、其ノ人ノ注意義務ヲ前提ト致シテ居
ルノデアリマス、通常ノ注意ヲ以ツテシテハ當然サウ云フコト
ヲ處置ヲ爲サザルベキニ拘ラズ、其ノ處置ヲ爲シタ、又サウシ
テ其ノ人ハサウ云フ注意ヲ爲スベキ義務ヲ持ツテ居ル其ノ人間
ガ、其ノ義務ニ反シテソレダケノ通常ノ注意ヲ用ヒナカツタ、
或ハ用ヒテモ違フソレヲ知ラナカツタ、知ルコトヲ得ルニ至ラ
ナカツタト云フ、其ノ點ニ依ツテ過失ノ責任ヲ問ハレルノデア
リマシテ、只今御設例ニナリマシタヤウニドウモソレハ客觀的
ノ國家機密デアツテ、而モソレハ指定モサレズニアツテ、普通
ソレハ國家機密ダト云フコトハ知り得ナイト云フ所ナ、サウ云
フ風ナ國家機密ニ付キマシテハ、此ノ場合ニ通常ノ注意ヲ以テ
シテモ其ノ人ハ、其ノ國家機密デアルコトヲ知り得ナイカモ知
レマセヌ、サウ云フ場合ニハ假ニソレヲ漏ラシタカラト云ツ

テ、責任ハナイ譯デアリマスノデ、矢張り主ニ其ノ人ノ注意義務、又所謂通常ノ注意ト云フコトガ在致シマスコトニ依ツテ、サウ云フ危険ハ除去セラレルノチヤナイカト、斯ウ思フノデアリマスガ、簡單ニソレダケ……

○下條廉警君 業務上當然用フベキ注意ノ問題ニ付キマシテハ、ソレハ各人ノ判断ニナリマス、結局ハ裁判所デ決ルノダラウト思ヒマス、サウ云フコトデアリマスト云フト、前内閣デ業務上注意ハ十分ニ盡シタノダ、併シナガラ次ノ内閣デハ盡サスト云フコトニナル、而シテ檢事モ亦同様ニ考ヘル問題ニナルト思フノデアリマス、サウ云フ懸念ガアルマイカト云フコトデアリマス、御尤デアリマスガ、此ノ過失ト云フコト、團子注意義務初ノ内容ト申スモノヲ成ルベク客観化シヨウトスルコトガ、現在ノ裁判ノ傾向デアリマス、ト云フノハ今申スヤウニ、裁判ガ其ノ時ノノマア時代ニ影響サレナイト云フ爲ニハ矢張り出来ルダケ客観的ニ置イテ裁クコトガ適當ダト斯ウ思フノデアリマス、唯サウ云フコトニ裁判テ無罪ニナツテモ、檢事ガ起訴シテシマヘバ、ソレダケ其ノ人ノ損害ハ大キナモノダ、斯ウ仰セラレマシタ、是ハ誠ニ御説ノ通りデアリマシテ、是ハ檢事ガ無罪デアルベキモノヲ誤ツテ有罪ナリトシテ起訴シタト云フコトモソコニ存在スル譯デアリマスガ、是非サウ云フコトノナイコトヲ出来ルダケ努メタイト思ヒマシテ、其ノコトニ依ツテソレヲ防グ、サウ云フ外ハナイカト存ズル次第デアリマス

○政府委員(三宅正太郎君) 刑法ニ於キマシテノ注意義務ハ客観的ナモノデゴザイマス、只今申シマスルヤウニ、通常ノ注意ト、業務ニ付キマシテモ、矢張り其ノ業務ヲ持ツテ居ル者ノ通常持ツベキ注意義務ト申シテ居リマス、是ハ其ノ時ノノ、今ノ御話ノヤウナ内閣トカ、時代トカニ依ツテ直ダニサウ注義務ノ内容ガ變リ得ルトハ思ヒマセヌノデゴザイマス、是ハ裁判所ハ客観的ナ基準ニ依ツテ注意義務ヲ決マスノデアリマスカラ、半年前ニハ、ソレガ注意義務ノ内容デアツタモノガ、今度ハモウ注意義務ノ内容デアハナクナツタト、サウ云フ風ナ注意義務ト云フモノヲ主觀的ニ色々動カスト云フ懸念ハ理論上ハナイヤウニ出来テ居ル譯ナンデゴザイマス、サウ御承知ヒタイト思ヒマス

○下條廉警君 客観的ノ存在ヲ誰ガ判定スルカト云フト、結局

スルト、過失罪ノ所デ業務過失ニ付キマシテハ、業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ト云フ風ニ現行法モ改正案モ出来テ居リマス、此ノ業務上ノ過失ニ付キマシテ、之ヲ書キ別ケテ居リマス所ハ、私ハ意味ガアルト考ヘテ居ル、ソレデ業務上必要ナル注意ト云フ文字ノ中ニハ、唯單純ナル一般ニ稱スル過失ト云フダケナイ、デ自ラ輕重ガアルモノト考ヘテ居ル、此ノ第七條ニ付キマシテモ、唯チヨットシタ極メテ輕微ナル過失ノ如キモノハ此ノ中ニ入ルベキデナイ、ソレハ人間ニハ如何ニ注意深イ者デモ、ソレハ普通ニ謂フ過失ト云フモノハアリ得ル、此處ハ若シ過失ト云フ文字デ、之ヲ現ハサムトスルナラバ、重大ナル過失、即チ故意ニ等シキ過失ト云フ位迄ノ重キ過失ヲ處罰スルニアラズンバ、從來軍機保護法ニ於キマシテハ矢張り過失ニ依ツテ他ニ漏泄シタル軍事秘密ノ處分ニ付キマシテハ罰金ダケデ、チヨット輕イ罰金デアツタノヲ、今回此ノ法案トノ比較ノ上カラシテ、矢張り其ノ罰ヲ三年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ト云フコトニ改正サル、コトニナツタノデアリマス、ケレドモ是非常ニ重大ナル過失デナケレバ、元來職務執行者ガ單純極メテ輕イ過失迄モ此ノ法條ノ中ニ入レテ來ルト云フコトハ如何カト思フテ居ル、ソレデ、是ハ此ノ刑法等ニ書キ別ケテアリマスヤウニ、業務上ノモノニ付キマシテハ必要ナル注意ヲ怠ルトカ、左様ナ文句ニ書キ替ヘル、又ハ過失ノ上ニ重大ナル過失ト云フヤウニ形容詞ヲ附ケルト云フヤウナコトニスル譯ニ參ラスモノデアリマスカ、此ノ點ニ付キマシテ御意見ヲ承リタイト思ヒマス

裁判所ダト思フノデアリマス、サウシマスト今ノ問題ノ場合ニ於テ判定ガ裁判所ニ行ク中ニ、或ハ檢事ガサウ云フ風ニ考ヘル、サウスルト相當ナ手續ヲ執リマスカラ、ソレデモウ十分ナ效果ガ發生スル場合モアルノデアリマス、サウ云フ懸念ガアル所ハ之ヲ斷切ツテ置イタ方ガ安全デハナイカト思フノデアリマス、私共ハ此ノ法案ノ必要性ヲ認メテ居ルノデアリマスケレドモ、唯無用ノ不安ヲ持ツテ居ルヤウナ程度ノ所ハ之ヲ切り取ツテ、サウシテ少シモ不安ノナイヤウニシタイト云フ考ヘカラ何ツテ居ルノデアリマス

○政府委員(三宅正太郎君) 御尤デアリマスガ、此ノ過失ト云フコト、團子注意義務初ノ内容ト申スモノヲ成ルベク客観化シヨウトスルコトガ、現在ノ裁判ノ傾向デアリマス、ト云フノハ今申スヤウニ、裁判ガ其ノ時ノノマア時代ニ影響サレナイト云フ爲ニハ矢張り出来ルダケ客観的ニ置イテ裁クコトガ適當ダト斯ウ思フノデアリマス、唯サウ云フコトニ裁判テ無罪ニナツテモ、檢事ガ起訴シテシマヘバ、ソレダケ其ノ人ノ損害ハ大キナモノダ、斯ウ仰セラレマシタ、是ハ誠ニ御説ノ通りデアリマシテ、是ハ檢事ガ無罪デアルベキモノヲ誤ツテ有罪ナリトシテ起訴シタト云フコトモソコニ存在スル譯デアリマスガ、是非サウ云フコトノナイコトヲ出来ルダケ努メタイト思ヒマシテ、其ノコトニ依ツテソレヲ防グ、サウ云フ外ハナイカト存ズル次第デアリマス

○内田重成君 私ハ第七條ノ「過失ニ因リ」ト云フ文字ニ付キマシテ御伺ヲ致シマス、此ノ現行刑法及刑法ノ改正案ニ依リマ

○政府委員(三宅正太郎君) 茲ニ「過失ニ因リ」ト書キマシタノハ、今御言葉ニアリマシタ業務上必要ナル注意ヲ怠リト云フコトト同意意味デアリマス、併シ此ノ重大ナル過失ト云フ意味トハ全然違フノデアリマシテ、業務ヲ執ツテ居リマス者ノ注意義務ハ一般人ノ注意義務ヨリ高度ノ注意義務ヲ要求サレテ居ル譯デアリマス、例ヘハ、電車ノ運轉手が電車ノ運轉ニ從事スルニ付テハ、普通人ヨリモヨリ多クノ注意ヲ拂ハナケレバナイヤウニ業務上ノ注意ヲ課セラレテ居ル譯デアリマス、從ツテ業務ヲ持ツテ居ル者ハソレダケ餘計ノ注意ヲ必要トスルノデアリマスカラ、ソレダカラ七條ノ「業務ニ因リ國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者」、是ハ當然ニ國家機密ヲ知得シタル者ハ秘密ヲ保持スベキ業務上ノ注意義務ヲ課セラレテ居ルコトハ言フヲ俟タナイ次第デアリマス、從ツテ其ノ注意義務ニ反シテ漏ラシタト云フコトニ因ツテ過失ガ成立スル、斯ウ云フ譯デアリマス、デアリマスカラ、之ヲ重大ナル過失ニ因リト致シマスルト、折角業務ニ因ツテ國家ノ機密ヲ知得シタル者ニ對シテ課スベキ注意義務ト云フモノヲ、ズット今度甘ク致スト云フ嫌ヒガアル譯デアリマシテ、何處迄モ是ハ業務上ノ注意義務トシテハ少クモ此ノ程度ニ致サナケレバイケナイモノデアナイカト斯ウ思フ次第デアリマス(貴族院國防保安法案特別委員會議事速記第五號)

(8) 第八條關係
○江原委員 第八條、第九條ノ治安ヲ害スベキ事項デアルトカ、經濟攪亂ノ關係ノ事項、是等ニ付イテハ是ハ治安ヲ害スベキ事項デアアル、是ハ治安ヲ害スベキ事項デアナイト云フコトニ付

テハ、是ハ終局ニ於テ其ノ判斷ヲ裁判所ニ御任セニナルノデア
リマスカ、ソレトモ特ニ治安ヲ害スベキ事項ト云フコトニ付テ、
何カ裁判所ノ最終ノ判斷ヲ許サナイ特殊ノ解釋ヲナサル御用意
ガアルノデアリマスカ

○秋山政府委員 治安ヲ害スベキコトガドウ云フコトデア
ルカト云フコトハ、是ハ既ニ裁判所ニ於テ自ラ判斷ガ決マツテ居
ル管デスカラ、本條ノ場合ニ於キマシテモ、其ノ尺度ニ依ツテ之
ヲ判斷スルコトニナルノデアリマス

○江原委員 ソレカラ外國ニ利益ヲ與ヘル目的ヲ以テ、勿論
外國ト通謀シタト云フヤウナ場合ニハ誰デモ分ルノデアリマス
ガ、外國ト通謀シタト云フハナイ、但シ外國ニ利益ヲ與フル目的
デアツテ利益ヲ與ヘタト云フ時ニ處罰スル、利益ヲ與フル目的
ニ付テ、結果ニ於テハ是ハ利益ヲ與フルコトニナルノダ、結
果ニ於テハ利益ヲ與フルコトヲ知ツテ居ツタ、併シ殊更何モ
外國ニ利益ヲ與ヘヨウトハ思ハナカツタ、併シ思ハズヤツテシ
マフト云フヤウナ場合ニハ、是ハ利益ヲ與フル目的ニナル
ノデアリマスカ、ソレトモ利益ヲ與フル目的ニハナラヌノデア
リマスカ、解釋ハヤハリ裁判所ニ御委セニナルト云フ趣旨デア
リマスカ

○秋山政府委員 御意見ノ通りデアリマス(衆議院國防保安法
案委員會議録(速記)第二回)

○三田村委員 ソレカラ第八條、九條、十條デスガ、八條ノ讀
ミ方ハ、「國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的ヲ以テ、
外交、財政、經濟其ノ他ニ關スル情報ヲ探知シ又ハ收集シタル

者」又ハ其ノ用途ニ供セラルル處アルコトヲ知リテ外國ニ通
報スル目的ヲ以テ外交、財政、經濟其ノ他ニ關スル情報ヲ探知
シ又ハ收集シタル者」斯ウナリマスカ

○秋山政府委員 其ノ通りデアリマス

○三田村委員 此ノ八條ノ罪ハ、情報ヲ探知シ又ハ收集シタル
者ノ處罰規定デ、ソレ以上ノ行爲ハ罰シナイノデスカ、例ヘバ
七條マデノ規定、三條、四條、五條、六條マデノ規定ノ内容ニ
盛ラレテ居ルガ如キ、國防上ノ利益ヲ害スベキ外交、財政、經
濟其ノ他ニ關スル事項ヲ外國ニ通報シタ、斯ウ云フコトガアリ
得マスネ、其ノ行爲ハ處罰シナイノデスカ、單ナル情報ヲ探知
シ收集シタル者ハ處罰スルガ、ソレ等ノ者ヲ外國ニ通報シタル者乃
至ハ之ヲ公ニシタル者ハ之ヲ處罰シナイノデスカ

○秋山政府委員 八條ハ情報ヲ探知收集スルダケノ規定デア
リマス

○三田村委員 八條ハ情報ヲ探知シ又ハ收集スルダケノ規定ダ
ト云フ御説明デアリマスガ、九條デソレヲ補ツテ居ルヤウナ氣
モスルノデス、併シ九條ノ犯罪態様トハ條ノ犯罪態様トハ違フ
ヤウニ思ヒマスガ、如何デセウカ、九條ヲ讀ンデ見マスト「外
國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ治安ヲ害スベキ
事項ヲ流布シタル者」無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス」斯ウア
ル、寧ロ八條ニ所謂立法ノ形式カラ言ツテモサウデセウ、國防
上ノ利益ヲ害スベキ目的ヲ以テ外交、財政、經濟其ノ他ニ關ス
ル事項ヲ外國ニ通報シタル者、或ハ公ニシタル者ハ九條ノ罪ヨ
リ重ク罰セラレナケレバナラヌト思フ、九條ノ罪デハ八條ノ外

國ニ通報シタル行爲ガ「カバ」サレテ居ナイ、十條ヲ讀ンデ見
テモアリマス、唯八條ハ豫防ノ規定ダケデアリマス、本來
最モ必要デアル是等ノ事項ヲ外國ニ通報スル者、是ハ深山アル
ト思ヒマス、寧ロ是ガ此ノ立法ノ中デハ一番重要ナ規定ニナリ
ハシナイカト思ヒマスガ、サウ云フモノハココデハ抑ヘテ居
ナイ、情報ヲ集メタル者ハ罰スルガ、ソレヲ外ニ出シタル者ハ此ノ規
定ニ當嵌マラス、勿論十年以下ノ懲役ニハナリマス、外國ニ出
シテモソレハ行爲ノ内容ノ一部分、犯罪ノ構成要件ノ行爲ノ中
デスカラ、十年以下ノ懲役ニハナルガ、第九條ニ所謂罪ハ無期
又ハ一年以上ノ懲役ニナルナラ、八條ノ國防上ノ利益ヲ害スベ
キ財政、經濟、外交ノ内容ヲ外國ニ通報シタル者、即チ利敵行爲
デアル、此ノ利敵行爲ハ或ハ軍機保護法其ノ他ニアルカモ知レ
マセスガ、軍機保護法ニハ斯ウ云フ書キ方ヲシテ居ナイ、陸軍
刑法ニモ斯ウ云フ書キ方ハシテ居ナイ、何處デ之ヲ抑ヘルカ、
九條ヲ罰スルナラ、八條ハヨリ重ク罰スルヤウニシナケレバナ
ラヌト思ヒマスガ、如何デセウカ

○秋山政府委員 八條ノ規定ハ情報ヲ探知シ收集シタル者ト云
フコトニナツテ居リマスガ、ソレヲ更ニ外國ニ通報スルト云フ
コトハ其ノ程度ヲ超エタコトニナリマスノデ、是ハ八條ノ中ニ
包含シテ居ルモノト解釋シテ宜シト思ヒマス

○三田村委員 ソレハ能ク分リマス、勿論包含シテ居ルニ違ヒ
ナイ、外國ニ通報スル爲ニハ情報ヲ探知シ、又ハ收集シナケレバ
ナラヌノデスカラ、包含シテ居ルニ違ヒナイガ、私ノ申上ゲル
ノハ、九條ノ犯罪態様トハ條ノ犯罪態様ト比較スルト、八條ノ

國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的ヲ以テ外交、財政、
經濟其ノ他ノ情報ヲ外國ニ送ツタル者ハ十年以下ノ懲役デハ、
此ノ立法全體ノ形式カラ言ツテモ罪ガ輕イノデハナイカ、サウ
シテ八條ノ抑ヘテ居ルモノハ、サウ云フコトヲ外國ニ行ツタ事
前ニ防止シヨウ、是ニハ條ノ狙ヒ所ガアル、八條ノ立法ノ趣旨ハ
正ニソレデアル、八條ノ書キ方ヲ見ルト、今刑事局長ノ御話
ノヤウニ、外ニ既ニ出テ行ツテシマツタモノモ是デ抑ヘルト云
フ立法意思ハナイ、八條ノ立法意思ハ、外ニ出ル前ノモノ、出
ス爲ニ情報ヲ收集乃至ハ探知スルトカ、サウ云フ行爲ヲ處罰ス
ル、ソレガ八條ノ立法目的デ、今刑事局長ノ仰シヤツタ其ノ收
集シタル情報又ハ探知シタル資料、ソレヲ國防上ノ利益ヲ害スルコ
トヲ知リナガラ第三國ニ送り出ス、正ニ是ハ利敵行爲デスガ、
サウ云フモノガ此ノ八條ノ立法目的ニ入ツテ居ナイ、事實其ノ
罰則ハ此ノ八條ノ中ニハ含マレテ居ナイト思フガ如何デスカ
○秋山政府委員 ソレハ當然八條ノ中ニ含マレテ居ルモノト考
ヘマス、此ノ八條ノ情報ハ、是ハ必ズシモ秘密スベキモノデハ
ナイノデアツテ、詰リ重要機密事項以外ノ事項ニ係ル情報デス
カラ、本來之ヲ集メテ初メテ是ガ外國ノ利益スルコトニナルト
カ、或ハ日本ノ國防上ノ利益ヲ害スルコトニナルトカ云フコト
ニナルノデアリマスカラ、比較的ハ情報ノ輕イ場合ト見テ十年
以下ノ懲役ト云フコトニナツテ居ルノデアリマス

○三田村委員 ソレハ能ク分リマス、次官モオイデニナリマス
カラ伺ヒマスガ、今刑事局長ノ仰シヤルノハ能ク分リマス、私
ノ申上ゲルノハ其ノ程度テナクテ、寧ロ三條四條五條六條ニア

リマス如ク、外國ニ國防上不利益ナコトヲ出シタ場合デス、我が國ノ國防上不利益ナ外交、財政經濟其ノ他ノ事項ヲ外國ニ通報シタ場合、所謂「スパイ」行爲デス、之ヲヤツタ場合ガ此ノ八條ノ規定デハナイカ、斯ウ云フノデス、是ハ斯ウ云フ風ニ書ケバ分リマス、國防上利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的ヲ以テ又ハ其ノ用途ニ供セラレル處アルコトヲ知リテ「言ヒ方ハ中々難カシイガ」外國ニ通報スル目的ヲ以テ外交、財政、經濟其ノ他ニ關スル情報ヲ通知シ、之ヲ外國ニ漏洩シ又ハ公ニシタル者ハ云々デ、其ノ第二項ニ持ツテ行ツテ、收集シタ又ハ探知シタガ之ヲ公ニセザル者又ハ通報セザル者ハ十年以下ノ懲役ニスル、斯ウナルノデハアリマセムカ私ハ今他ノ關係法律ノ條文ヲ持ツテ居リマセムカラ詳シク知ラナイノデ申上ゲラレマセヌガ、是ノ立法當時ノ御考ヘハ、多分八條ノ今私ノ申上ゲタ前段ノ規定ハ軍機保護法カ刑法カ其ノ中ニアルノデ、ソレデ宜イノダト云フ御考ヘデヤアリマセムカ、是ハ非常ニ重要ナ點デスヨ

○秋山政府委員 其ノ情報ハ只今申シマシヤウナ、比較的輕イ場合ヲ規定シタモノデアリマス、洩ラス場合モ此ノ中ニ當然含ンデ居ル、斯ウ解釋シテ居リマス

○北浦委員 司法省ハ左様ナコトヲ頭倒ラズニ、第四條第二項ノヤウニ、此ノ第八條ニ第二項ヲ附加セラレタラ問題ハナイト思ヒマス、此處テ含マレテ居ルト仰シヤイマスガ、八條ノ文句デハ左様ナコトハドウシテモ受取ルコトハ出來ナイ、第四條ノ二項ノヤウニ、前項ノ目的ヲ以テ何々ヲ探知シ又ハ收集シタル

者、其ノ次ニ之ヲ外國ニ漏洩シ又ハ公ニシタルトキハ死刑云々、斯ウ云フ規定ヲ補ヒナサレバソレデ宜イノデス、此ノ八條ノ文書カラ當然含マレテ居ルト云フコトハ、ドウシテモ解釋スルコトガ出來ナイ、一寸御考ヘテ願ヒマス

○三田村委員 モウ一言附加ヘテ置キマスガ、關聯シタ行爲デスカラ含マレテ居リマスヨ、是モ一部ニ含マレテ居リマスガ、立法ノ形式トシテ、又立法ノ目的トシテ八條ノ狙ツテ居ル所ハ、前段ニ申上ゲル狙ヒト違フト今刑事局長ノ仰シヤツタ通り輕イ程度ノモノヲ罰スル規定デ、ヨリ重キ處罰ヲ必要トスル外國ニ洩ラシタ者ノ處罰規定ハ之ニ入ツテ居ナイノデス、入ツテ居ルト云フ解釋ハ勿論行爲ノ一部デスカラ出來マス、出來マスガ、其ノ行爲ハ此ノ國防法案全體ノ立法形式カラ言ヘバ、又罪ノ輕重ノ點カラ言ヘバ、其ノ行爲ハ正二十年以下ノ懲役デハアリマセム、モツト此ノ中デ一番重イ罪乃至其ノ次位ノ無期又ハ一年以上ノ微役ニ處スト云フ位ノ罪デ、十年以下ノ微役ハ一番程度ノ輕イ罰デス、而モ此ノ中デハ八條ガ一番危險デス、今ノ防諜政策上一番必要ナノハ此ノ八條デス、私ガ申上ゲルノハ今ノ八條ノ前段デス、此ノ點今關聯シテ御發言ガアリマシタノデ、モウ一遍練ツテ戴キタイト思ヒマス、是ハ明カニ拔ケテ居リマス

○三宅政府委員 北浦サンカラ御話ノヤウニ、第四條ノ第二項ノ如キモノヲ、第八條ノ第二項ニ附ケルト云フコトモ考ヘラレヌノデハナイノデス、併シ私ハ此ノ探知收集ノ程度ニ於テ處罰スル、ソレデ十分ダト云フ考ヘテ拵ヘタノデス、ト云フノハ外

交、財政、經濟其ノ他ニ關スル情報テ、本人ハ非常ニ國防上ノ利益ヲ害スル用途ニ供スル目的ト云フヤウニヒドク思ツテ居ツタ事デモ、實際中實ハ大シタモノデアリマス云フコトガ能クアル、斯ウ云フ飛行機ヲ拵ヘタ、俺ハ斯ウ云フ發明品ヲ拵ヘタガ、日本デハ特許ガ取レナイ、是非オ前ノ方デト云フテ、「ロシア」ノ大使館ノ方ヘ持ツテ行ツタト云フヤウナコトナドモアツタ例ガアリマス、割合ニ是等ノ中ニハ輕イモノモアリマスカラ、先ヅ大體此ノ八條ノ程度ニシテ居リマス、然ラ言ヘバ更ニ又一外國ニ漏洩シ公ニシタルトキハ「云々」ト作ツテモ宜シウゴザイマスガ、サウスルト段々強クナリマスカラ、餘リ強クナルコトヲ比較的強ク云フ意味デ、探知收集ノ程度テ處罰スルト云フコトニシタ譯デアリマス

ソレカラモウ一ツ三田村サンハ、九條、十條トノ比較上、八條ガ輕イカラドウダト云フ御議論ガアリマシタ、併シ九條ト十條ハ、是ハチヨツト此ノ八條トハ違フ點ガアルノデス、即チ治安ヲ害スベキ事項ヲ流布シタ、是ハ既ニ治安ヲ害スベキト云フ形容ガアリマスノデ、實際治安ヲ害スル處ノアルコトヲヤルト云フ譯デアル、ソレヲ流布スルト云フコトデ、其ノ結果ハ治安ヲ害スル處ガ多分ニアル譯デアリマスカラ、サウ云フコトヲシタ者ニ對シテハ無期ノ刑ヲ言渡ス、更ニ又第十條ハ、國民經濟ノ運行ヲ著シク阻害スル、取返シノ付カナイヤウナ經濟上ノ破綻ヲ生ゼシムルト云フヤウナコトヲシタ場合ニハ、ソレハ實際社會上ノ實害ガ大キウゴザイマスカラ、無期又ハ一年以上ノ刑罰ニ處スル、八條ノ方ハソレ程大キナ事ノ起ラナイ場合モ考ヘテ居

リマスノデ、斯ウ云フ風ニ規定シタ譯デアリマス

○三田村委員 今ノ次官ノ御説明ハ分リマスガ、私ハ斯ウ云フコトヲ申上ゲタイノデス、立法ノ際ハサウ云フ御氣持デアツテモ、是ガ法律ニナツテ出テ來ルトキニ役ニ立タヌノデス、私カラ申上ゲルコトハ少シ變ニナリマスケレドモ、立法ノ際ニハ、此ノ法ノ狙ツテ居ル法域ハドウカ、此ノ法ニ依ツテ保護シナケレバナラス又行爲ハ何カ、ソレヲハツキリサレテ、其ノ狙ヒニ對シテ罰ヲ科シテ行クノデス、此ノ程度ダカラアノ程度ダカラト仰シヤツタガ、非常ニ程度ノ輕イモノハ、何モ必ズシモ死刑ニスルコトモ出來ル、恐ラク此ノ法律ヲ書カレル時ニハ、今御話シノ御氣持ガアツタダラウト思ヒマスガ、是ハ明カニ法律ノ態様ヲ見マスト拔ケテ居リマスヨ、是ハアトカラ事實犯罪行爲ガ起ツテ法ヲ適用スルコトニナルト、必ズ其ノ點ガ問題ニナツテ來マス、モウ一ツハ九條、十條ノ御説明ガアリマシタガ、九條、十條ノ犯罪ノ態様ハ八條ヨリ重イト云フ御話デスガ、必ズシモサウデハナイノデス、ソレハ又主觀的ナ御認識デアツテ、八條ノ所謂國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的ヲ以テ外交、財政、經濟上ノ機密事項、重要事項ヲ外國ニ通報スル、是ハ作戦上或ハ經濟謀略上、思想謀略上更ニ戰爭遂行上重大ナ支障ヲ來タスモノデ、寧ロ國內テ治安ヲ害スベキ事項ヲ流布シタ位ノモノデハナイ、其ノ點九條ト十條トノ比較ノ只今ノ御説明ハ當ラヌト思フ、是ハ私何モ固執スル譯デアリマセヌケレドモ、立法スル以上其ノ法ノ狙ツテ居ル法域ガ何處ニアル

カト云フコトハ十分検討シナケレバナラヌト思フ、一應是ハ御
考慮ヲ願ヒタト思ヒマス

○北浦委員 次官ノ仰シヤツタコトニ付テ「ドイツ」法ニハヤ
ハリ第二項ノ規定ガアルヤウニ思フ、次官ノ仰シヤルヤウニ利
益ヲ害シナイ場合、實害ノナイ場合ハ輕イノダカラ書ク必要ハ
ナイト仰シヤイマスガ「ドイツ」ノ類似法ニハ、サウ云フ場合
ニハヤハリ第二項ヲ設ケマシテ、一年以下ノ刑ニ處スコトニハ
ツテ居リマス、強イテ「ドイツ」ノ類似法ニ倣ヘト言フノデハ
アリマセヌガ、ドウ考ヘマシテモ、此ノ第二項ト云フモノハ必
要ニナル、此ノ點更ニ御考ヘテ願ヒマス

○田村委員 次ハ第八條デアリマス、一外交、財政、經濟其ノ
他一トナツテ居リマスガ、其ノ他ノ中ニ政治上ノコトハ無論含
マレテ居ルト思ヒマスガ、サウ解釋シテ宜シウゴザイマスカ
○秋山政府委員 其ノ通りデゴザイマス(同第三回)

○秋山政府委員 第八條ハ國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供ス
ル目的ヲ以テ、若クハ其ノ用途ニ供セラルル處アルコトヲ知リ
テト云フ條件ニナツテ居リマスノデ、假令結果ガドレ程重大デ
アリマセウトモ、此ノ條件ニ當テマラナイ限リハ責任ガナイノ
デアリマス

○長谷委員 ソコヲ此ノ特ニハツキリトモウ一御説明願ヒタ
イノデアリマス、私ノ方カラ假定ヲ致シマス、如何ナル場合
デアリマシテモ、積極的ナル惡意、所謂外國ト通謀シ、或ハ又
外國ニ供シ、斯ウ云フ風ナ特定ナル意思發動ガ本人ノ主觀ニ於
テナカッタナラバ、絕對ニ罪ニナラヌ、是ハハツキリト私達言

ヘルコトデハナカラウカト思ヒマスガ、如何デセウカ

○秋山政府委員 ソレハ其ノ通りデアリマスガ、唯第八條ニハ
「用途ニ供セラルル處アルコトヲ知リテ」ト云フコトニナツテ
居リマスカラ、本人ガ間違ヒナク是ハ外國ノ用途ニ供セラルル
モノデアルト云フ確信ヲ持タナイデモ、サウ云フ處ガアルノデ
ハナイカト云フコトヲ考ヘテ居レバヤハリ違反ニナルト思ヒマ
ス

○長谷委員 又然リガ戻ツタノデアリマスガ、サウデハナイノ
デアリマス、此ノ第八條ノ解釋ヲ、積極的ナル賣國奴ニ對シテ
徹底的ニ利用スル、所ガ國家ヲ思ヒ、國事ヲ案ズル所ノ人達
ガ、セメテ自分ハ宣イ、又一部分ノ人モ宣イ、財政、經濟、外
交ノ角度カラ見テ、一方カラ見タナラバ宣イ、斯ウ云フ風手主
觀的ナ事實ガアリ得マシタ場合デモ、客觀的ニ條件ガ揃ツテ居
ツタラ、ソレダケデ私達ハ自分ヲ防禦スル方法ガナイノデアリ
マス、ソレハ今此處テ申上ゲルマデモナイコトデスガ、其ノ上
ニ更ニ積極的ナル惡意ヲ持ツテ居ル賣國奴、外國ト通謀關係ノ
作爲ヲ持ツテ居ルトカ、賣込ミノ計畫ヲ持ツテ居ルト云フ風ナ
積極的ニ意思ヲ、完全ニ犯人ノ主觀カラ了知シ感知得ル、所謂
主觀條件ノ積極性ガハツキリシナカッタナラバ、此ノ法條ニハ
絕對ニ觸レナイト云フ風ニハ取レナイノデスカ

○大竹政府委員 「其ノ用途ニ供セラルル處アルコトヲ知リ
テ」ト云フ條件ノ外ニ「外國ニ通報スル目的ヲ以テ」ト云フコ
トガ特ニ條件トシテ掲ゲデアリマス、隨テ其ノ目的ヲ以テツナ
イ限リ第八條ニハ觸レマセヌ

○長谷委員 非常ニハツキリ致シマシタ、其ノ外國ニ通報スル
目的、所謂條件デス、其ノ絕對條件ガ犯人ノ主觀ニ於テハツキ
リトシテ居ル場合ノミヲ處罰スル、所謂犯罪論デアリマス、勿
論目的デアリマスカラ、此ノ目的ニ對スル外觀ニ現ハレタ犯罪
ガアレバ、是ハ證據ハ明瞭デアリマスガ、本人ノ主觀ニ於テ、
客觀情勢ニ於テ積極的ニ斯ル目的ノ下ニ收集シテ居ツタモノデ
アルカナイカニ依ツテ、此ノ犯罪ガ決マル、所謂國ヲ賣ラウト
スル氣持ガアルカナイカト云フ風ナコトハ、ドウシテモ何カノ
角度ヲ此處テ決メテ置カナイト、調べル立場ニ立ツ場合ト、調
べラレル立場ニ立ツ場合トデハ、ココニ非常ナ危懼ノ念ヲ持ツ
ノデアリマス、何處デハツキリシタ境界ヲ決メテ宜イカト云フ
コトヲ實ハ苦慮シテ居ルノデス

○大竹政府委員 目的ヲ以テト書イテアリマスカラ、其ノ人ニ
主觀的ニ目的ガアツタカドウカト云フコトガ要件ニナリマス、
而シテ其ノ目的ガアツタト云フコトヲ自白スル場合、之ニ依ツ
テ認定シ得ルコトハ勿論デアリマスガ、假リニ否認シテ居ツテ
モ、例ヘバ相手方カラ金ヲ貰ツテ居ル、絶エズサウ云フコトヲ
繰返シテ居ル人間デアルト云フヤウナ、他ノ客觀的ニ事情ガ存在
スルナラバ、之ヲ證據トシテ目的アリシモノト認定シ得ル場合
モアルト思ヒマス(同第四回)

○男爵奥田剛郎君 第八條ニ依リマス、國防上ノ利益ヲ害ス
ベキ用途ニ供スベキ目的、外交、財政、經濟其ノ他ニ關スル
情報ヲ探知シ又ハ收集シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ストアル
ノデスガ、衆議院ノ委員會デ、其ノ問答ハアリマシタケレド

モ、ドウモハツキリシナイノデ承リマスガ、此ノ情報ヲ探知シ
又ハ收集シタル者ガ之ヲ外國ニ通報シタヤウナ場合ニハ、一體
ドウナルノデアリマセウカ、委員會ノ答辯ニ依ルト、探知、收
集シタル者デモイケナイノダカラ、況ヤソレ以上ノ行爲ハ其中ニ
含まレルノダト云フヤウナ風ニ説明ガアルノデスガ、サウ云フ
解釋ヲ斯ウ云フ刑法條文ニ嚴格ニ解釋スルト云フ風ニ之ヲ取ツ
テ居ルノデアリマセウカ、ドウデセウカチヨツト……

○政府委員(三宅正太郎君) 第八條ニハ第四條ノ第二項ノ如ク
探知シ又ハ收集シタル者、之ヲ漏ラシタ場合ニ付テノ刑罰規定
ノゴザイマセヌコトハ、誠ニ御言葉ノ通りデアリマス、何故ソレ
デハソレヲ書カナイカ、斯ウ云フ御質問ト心得マス、是ハ第八條
ノ規定ノ性質ヲ申上ゲマス、元來國防上ノ利益ヲ害スルトカ、
國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ト書イテアリマス、此ノ國防上ト
云フコトハ勿論第一條ノ國防ト云フ意味ト少シモ程度ハアリマ
セヌガ、併シナガラ此ノ内容ニアリマス外交、財政、經濟其ノ
他ニ關スル情報ト云フモノハ、是ハ必ズシモソレ自體國防上ノ
利益ヲ害スル價值アルモノニモ限ラナイノデアリマス、是ハ要
スルニ此處ニ書イテゴザイマス通り、外交、財政、經濟其ノ他ニ
關スル色々ナ情報ヲ探知シ又ハ收集スル、是ハマア普通通信、
新聞ノ關係者モ常ニ國內ニ付テハ斯ウ云フコトヲ探知收集シテ
居ル譯デアリマス、デアリマスルカラ探知收集スル行爲ノミヲ
捉ヘマシレバ、是ハ普通當リ前ナ行爲デアアルノデアリマス、唯
ソレガ一轉シテ國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的、又
ハ外國ニ對シテ……外國ト限リマセヌガ、國防上ノ利益ヲ害ス

ベキ用途ニ供セラレル或ハ又用途ニ供セラレル處アルヲ知ツテ外部ニ通報スルトカ、少クモソレガ國防上ノ不利益ニ利用セラレル處ノアルヤウナ目的デヤラレマス場合ニ於テハ、普通ハ許サレル行爲デアツテモ、ソレハ許サナイノデアリマス、斯ウ云フ譯デアリマス、從ツテ第八條ノ罪、第四條ノ第一項ノ罪ト比ベマスレバ、餘程其ノ値打ニ於テハズツト輕イ譯デアリマス、從ツテ刑モ比較的ニ輕クナツテ居ル譯デアリマス、ソレデアリマスノデ、既ニ是ダケノ目的ヲ以テ探知、收集シタ者ヲ十年以下ノ懲役ヲ以テ處罰スレバ、ソレデ此ノ刑罰ノ目的ハ十分デアル、更ニソレヲ漏ラシタト云フコトニ依ツテ、勿論實害ハ起リ得ルコトデアリマスケレドモ、併シナガラ其ノ實害ヲ含メテ既ニ懲役十年以下ノ懲役ノ刑ガアル譯デアリマスカラ、ソレデ十分デ、更ニソコ迄取テ追及シテ、ワザワザ規定ヲ設ケル程ノ必要ハナイ、斯ウ考ヘタ次第デアリマス、マア要スルニ屢々皆サシカラ御言葉ノゴザイマスカラ、此ノ法案ガ無暗ニ人ヲ處罰シ、人ヲ脅カスト云フ風ナ感ジヲ與ヘナイ意味ニ於テモ、必要ナ最小限度ニ懲罰規定ヲ止メタイト云フコトカラ、此ノ程度ニ致シタ次第デアリマシテ、ドウカサウ御了承願ヒマス

○男爵奥田剛郎君 今ノ御説明ノヤウニ、成ル程唯外交、財政、經濟等ノ情報ヲ探知シ收集スルダケデハ罪ニナラナイノデアリマセウガ、ソレヲ國防上ノ利益ヲ害スル用途ニ供スル目的デ收集スルノデアツテハイケナイ、其ノ最長期ガ十年ナラドト云フコトニナリマスルト、勿論裁判官ハ此ノ範圍内テ刑ノ量定ガ自由ニ出來マスカラ差支ナイヤウナモノデアリマスケレド

モ、兎ニ角法文上ハ唯探知收集シタモノダケデモ最長期ガ十年ト云フコトニナツテ居リマスノニ、今度ソレヲ他ノ用途ニ供スル目的デ探知收集シタ以上ニ外國ニ漏ラシテモ矢張り最長期ガ十年ト云フノハ、何カ工合ガ惡イヤウニ思フノデスガ

○政府委員(三宅正太郎君) 大分物足りナク思召シニナルカト存ジマスガ、要スルニ是ハ十年以下ノ懲役ヲ處罰スルト云フコトデ、是等ノ行爲ヲ觸感スルニ十分ダト思ツタ譯デアリマス、ト申シマスノハ、ツハ第四條ノ國家機密ト云フモノガ外ニ出ルト云フコトハ由々シキ大事デアリマス、外國ニ知レ、外國人ニ知レルト云フコトハ由々シキ大事デアリマス、第八條ノ此ノ情報ガ外國ニ出ルコトモ勿論國家トシテ愉快ナコトデアリマセマケレドモ、由々シキ大事ダト云フ程ノモノヲ押ヘテ居ル譯デアリマスカラ、先ヅ此ノ程度デ、此ノ程度ノモノガ外國ニ出マシタ場合、勿論國家トシテ不利益デアルコトハ疑ヒアリマセウガ、ソレヲ又更ニ重ク罰スルト云フ程ノ必要迄考ヘナクテモ宜イチヤナイカ、斯ウ云フヤウナ考デ致シタ次第ナノデゴザイマス

○男爵奥田剛郎君 私ハ別ニ刑ガ足りナイカラ物足りナイト云フヤウナ氣デ何フノチヤナイノデスケレドモ、唯探知收集シタモノヲ外國ニ通報シタノデナクテ、唯探知收集シタダケデモ十年、ソレヲ外國ニ通報シテモ矢張り十年ト云フコトニナルト、ドウモ刑ノ均衡ガ取レナイノデハナイカト云フコトヲ唯疑フノデアリマス

○政府委員(三宅正太郎君) 大體ニ於キマシテ探知收集ト云フコトヲ致シマス、是等ノモノノ探知收集ヲ致シマス者ハ、恐ラク外國ニ通報スル場合モ多カラウト思ヒマス、ソレ等ノコトモ含メテ考ニ入レテ十年、十年ト申シマス、第四條ノ國家機密ヲ探知收集シタ者ガ既ニ長期十五年、第八條ノ十年、相當是ハ、第八條ノ第一項ハ相當重イ刑ヲ此處ニ盛ツテアル、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス

○男爵奥田剛郎君 ソレデハ重ネテ伺ヒマスガ、此ノ「探知シ又ハ收集シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス」、此ノ中ニハ既ニ探知又ハ收集シタルモノヲ外國ニ通報シタ分モ含マレテ居ルト云フ風ニ解スル譯デアリマスカ、伺ヒマス

○政府委員(三宅正太郎君) 探知、收集シタル行爲ヲ處罰スル譯デアリマス、勿論精狀トシテハ、之ヲ外國ニ通報シタト云フコトニ付テハ此ノ精狀ハ重クナルト思ヒマスガ、此ノ犯罪ノ態樣ト致シマシテハ探知、收集ト云フコトデ以テ處罰スル譯デアリマス

○男爵奥田剛郎君 サウシマスト衆議院ノ委員曾テ刑事局長ガ答辯ヲナサツテ居ル所ニ依ルト、探知シ又ハ收集シタル行爲ハ勿論八條ニ依ツテ犯罪ナラドガ、ソレ以上ノ行爲ハ無罰之ニ含マレテ居ルト言ハレタノハソレハ少シ違フノデ、サウ云フ場合ニハ精狀ガ重クナルンダ、刑ヲ量定スル上ニ於テ精狀ガ重クナルンダト、斯ウ云フ譯ニナルヤウニナリマスガ、ソレデ宜シウゴザイマスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 犯罪構成要件ト致シマシテハモウ

探知、收集ニ止マル譯デアリマシテ、其ノ以後ノ行爲ハ犯罪構成要件トシテハ探上ゲナイ譯デアリマス

○澤田牛警君 今ノ御説明ハドウモ少シ分ラヌコトガアリマスノデ御伺ヒ致シマス、今奥田委員ノ言ハレタヤウニ、八條ト云フノハ私ハ是ハ見ヤウニ依ツテハ未遂罪ノ性質ヲ持ツテ居ルモノチヤナイカト思フ、外國ニ通報スルコトガ既遂デアツテ、通報前ノ準備行爲ノモノデアアルカラ未遂罪ノモノデナイカ、サウナルト未遂罪ハ罰スルケレドモ、既遂罪ハ罰シナイト云フヤウナコトハ刑事法ノ原則ノ上カラドシナモノデアラウカ、何かサウ云フ學說ガ新タニ發生シタノデアリマスカ、私共ノ知識デハ分ラヌデスガ、大體刑事法ノ原則ト云フモノハ既遂者ヲ罰スル、未遂者ハ特別ノ事情ノアル者ハ罰スルケレドモ、サモナクバ罰シナイト云フノガ大原則ノヤウニ思フノデスガ、何かソレト違ツタ原理ガ出來タヤウニ思ハレルヤウナ御説明ニ思フノデスガ、其ノ點ハドウナノデスガ

○政府委員(三宅正太郎君) 第八條ハ成ル程御言葉ニ依リマシテ未遂のナモノデナイカ、成ル程外國ニ通報スルト云フコトハ犯罪ノ構成要件ト致シマスレバ、成ル程此ノ程度ニ於テハ未遂デアルト云フコトハ疑ハゴザイマセウガ、是ハ法律ノ立法方ト致シマシテ、第八條ハ探知、收集シタルコトヲ以テ既ニ犯罪ノ實行ガ終了シタト斯ウ見テ居リマス、從ツテ此ノ第八條ノ未遂ト致シマシテハ探知セムトシテ探知シ得ナカツタト云フ風ナコトガ即チ未遂罪トシテ起ル譯デアリマス、デアリマスカラ是ハ第八條ハ決シ未遂罪ヲ處罰シテ居ルト云フ意味デゴザイマセ

ヌデ、此ノ程度ニ於テ處罰スルコトハ必要デアリスウ思フノデアリマス、大體少シ理窟メキマスケレドモ、段々犯罪ハ巧妙ニナツテ來、又複雑ニナツテ參リマス、自然ニ未遂、更ニ其ノ未遂ノ前ノ豫備陰謀ト云フコトナドヲ處罰スルコトガ必要ナコトニナツテ參リマス、又共犯ト云フ關係カラ致シマシテモ、例ヘバ教唆ト云フコトノ以外ニ、煽動ト云フコトヤ、誘惑ト云フコトヤ、此處ニモゴザイマスガ、サウ云フ風ナ、詰リ其ノ事ノ起ラヌ前ノ有ラユル策動ト云フモノニ付テ、其ノ根源ヲ其處テ押ヘルト云フコトガ段々必要ニナツテ來ル現在ノ傾向デゴザイマスノデ、斯ウ云フ風ニ本ヲ段々押ヘテ行クト云フ此ノ刑罰法規ノ形モ段々出テ來ル次第ト思フデアリマス。

○澤田牛齋君 今是ハ未遂罪デハナイ、別ノ行爲ダト云フヤウナ御說明ノヤウニ思ハレマスシタガ、一體此ノ法ノ保護シヨウトスル、所謂法ノ目的トシテ居ル所ハ、外國ニ通報スルコトヲ妨害シヨウトスルノガ目的デアリスレバ、外國ニ通報シテ始メテ罪ニナルノデ、外國ニ通報モ何モシナイデ、唯自分ダケガ持つテ居ツタト云フダケハソレハ一ツノ未遂デ、マダ是カラソレヲ外國ニ通報シテ初メテ本當ノ罪ニナルト云フ性質ノモノダカラ、ドウモ性質上カラ云フト外國ニ通報シタ場合ガ既遂罪デアツテ、外國ニ通報スル前ノ探知、收集ハ其ノ前階段デアリスレバ未遂罪ノ性質ヲ持つテ居ルモノデヤナイデセウカ、ドウモ法ノ目的ガ、外國ニ知ラセルト云フコトヲ罰スルト云フノガ、法ノ趣意デアアルノデスカラ、何ト云ヒマスカ、罪トナルベキ態様ト云フモノガ、外國ニ知ラセルト云フコトヲ一ツノ條件ニシタ行

爲デハナイカト思フノデス、サウスト探知シタダケノモノデハ、貯ヘテ居ツタダケノモノデハ、マダ本當ノ犯罪ノ段階ニ入ツテ居ラヌノデ、マア未遂ト云フカ、半遂ト云フカ、未遂ノモノデアルヤウニ思フノデスガ……

○政府委員(三宅正太郎君) 其ノ點ノ御言葉ハ御尤モニ存ズルノデアリマス、唯是ハ午前ニモ陸軍當局カラ御話ニナリマシタヤウニ、一體此ノ機密トカ情報トカ云フモノハ、漏ラスト云フ方面ト、所謂毒ヒ取ルト云フ方面トガゴザイマスノデ、漏ラサウトシナクモ探知サレテシマフト云フ關係、ソレカラ漏ラスト云フコトノ外ニ、探知收集ト云フコトヲ取締ル必要ガアル、兩面カラ取締ル必要ガアル、是ハ私ガ申上ゲル迄モナイコト思フノデアリマス、即チ其ノ意味カラ三條ガアリ四條ガアル譯デアリマス、サウシテ八條モ亦其ノ探知收集ト云フコトヲ禁ズルコトニ依ツテ、是等ノ情報ガソレ等ノ者ノ手ニ入ルコトモ禁ジ、又ウツカリスレバ斯ウ云フコトヲスル關係上、國家機密ト云フモノガ是等ノ者ノ手ニ入ルコトガ、結局第四條ニ入ツテ來ルト云フコトニナル、是等ハ所謂探知收集ト云フ行爲ヲ遠慮キニ取締ルト云フコトニ主眼ヲ置イテアルノデアリマス、併シ御言葉ノ通り結論トシテハ、此ノ法案ハ勿論外國ニ出ルモノガ一番恐ロシイコトデアリマスカラ、其ノ點ヲ注意致スノデアリマスガ、先ヅ準備的ニ斯ウ云フ風ナ處置ヲシテ置クコトガ必要ダト云フ譯デアリマス、或ハ御質問ニ對スル十分ナ御答デナイカモ知レマセヌガ、ドウカ御了承願ヒマス。

○松村義一君 八條ノ前段ニ一國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ

供スル目的ヲ以テトアルノデアリマスガ、後ノ方ハ一外國ニ通報スル目的ヲ以テトナツテ居ルノデアリマス、ソレデ前ノ方ハ、外國ニ通報スル目的デヤナクテモ宜イ、國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的ト考ヘラレルナラバ、外國ニ通報シヨウガ通報シマイガ、此ノ罪ノ成立ニ關係ハナイ、斯ウ思ヒマス、ソレデ何ヒタイノハ、外國ニ通報セズシテ國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的ト云フ場合ハ、一體ドウ云フヤウナ場合ヲ御考ニナリマシタノデゴザイマセウカ、其ノ豫定のニ御考ニナリマシタ場合ヲ、一ツ御說明ヲ願ヒタイト思ヒマス。

○政府委員(三宅正太郎君) 是ハ第八條ハ、例ヘバ茲ニ豫想致シマシタコトハ、外國人ガ日本ニ於テ此ノ國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的ヲ以テ、是等ノ情報ヲ探知收集スルト云フコトガアリ得ルト、斯ウ考ヘルノデアリマス。

○松村義一君 日本人ノ場合ハ殆ド御考ニナツテ居リマセヌデセウカ

○政府委員(三宅正太郎君) イヤ日本人ノ場合デモ、之モ例ガナイ譯デハナイノデスガ、例ヘバ外國ノ商社商會等ニ居リマスル従業員ガ、斯ウ云フ行爲ヲ致スト云フコトハ屢々アルコトノヤウニ聞イテ居リマス。

○松村義一君 是ハマア國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スルト云フ目的ガアリマスカラ、極メテ此ノ犯罪ハ明瞭ノヤウデゴザイマスガ、色々外人ガ外交、財政、經濟其ノ他ニ關スル情報ヲ集メルト云フコトハ、是ハ能クアルコトト思ヒマス、サウ云フ場合ニ於キマシテ、或ハ警察官ガ捜査ヲスルト云フ場合

ニ、此ノ人ハエライ經濟其ノ他ノ情報ヲ收集シテ居ルガ、或ハ國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的デハナイカト云フヤウナコトヲ變ニ邪推ヲ致シマシテ、ソレヲ内偵、取調ベルト云フヤウナ處ガナイトハ限ラヌノデハナイカト、私ス様ニ思フノデアリマス、サウ云フコトナラバ何デゴザイマスケレドモ、マア大體警察官ハ罪ノ調査ヲスルト云フコトガ其ノ職務デゴザイマスガ、人ヲ見タラ泥棒ト思フコト云フ程デゴザイマセヌケレドモ、兎ニ角犯罪ハアリハセヌカト云フコトヲ、鶴ノ目鷹ノ目デ見テ居ルト云フヤウナ關係デ、國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的デナイ場合ニ於キマシテ情報ノ收集ヲシテ居ルト云フ場合ヲ、非常ニ壓迫スル……ト言フト語弊ガゴザイマスケレドモ、マアサウ云フコトニ付テ非常ニ注意ヲスル爲ニ、其ノ人、情報ヲ收集スル人ガ迷惑ヲ蒙ルト云フヤウナコトガ、私ハアリ得ルノデヤナカラウカ、斯ウ思フノデゴザイマス、一方ニ於テ犯罪ノ檢察ヲ十分ナラシムル爲ニハ、サウ云フ方面ニ付テ十分ナル注意ヲシナケレバナラヌノデアリマスガ、善良ナル人達ガサウ云フ行爲ヲシテ居ルト云フ場合ニ於キマシテ、餘リヤリ過ギルト云フコトハ、極メテ注意シナケレバナラヌコトデアルト思フノデゴザイマスガ、サウ云フコトニ關シテドウ云フ御考ヲ持つテオイデニナリマスカ、サウ云フコトニ關シテドウ云フ御考ヲ用意ヲ爲シテオイデニナリマスカ、ソレヲ先ヅ承ツテ見タイ

○政府委員(入江誠一郎君) 八條ニ關シマスル内務省ノ現在ノ考ヘヲ申上ゲマス、八條ノ一國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供

スル目的ヲ以テト云フノハ、先程司法省カラモ御説明ガゴザイ
マシタ通り、スパイノ行為自身ヲ取締ル積リデゴザイマス、次ニ
外國ニ通報スル目的ヲ以テ、國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供
セラルル處アルコト知テ探知收集スルト云フ問題ハ、一スパ
イノ補助者、或ハ日本人ノ外國ニ對スル情報ノ賣込行為ヲ取
締ル考デアリマス、只今御話ノ通りノ通信員ガ、例ヘバ單ニサ
ウ云フ意圖ヲ持タズシテ一種ノ情報收集ヲスルト云フ場合ハ、
内務省トシテハ取締ル積リデハゴザイマセヌ

○内田重成君 問謀ト云フ言葉ノ範圍ヲ、國際法上ノ問謀バカ
リデナシニ、國內事情ヲ外國ノ爲ニ密偵スル者等モ包含スルノ
デアルト云フ廣イ文句ヲ茲ニ書キ現ハスコトハ出來ナカッタノ
デアリマスカ、ソレヲ一ツ伺ヒタイ

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ八條ニ於キマシテ國防ト申シ
マスモノハ、現在ノ斯ウ云フ緊迫シタ國際情勢ニ於テハ、或ハ
敵性國家ヲ初メトシ、敵性ト云フコトガ感ゼラレナイ國家デモ
油斷ノナラナイ國家ヲ相手ニシテ居ル譯デアリマス、デアリマ
スカラ、刑法ニアリマスヤウナ敵國ノ爲ニ問謀スルト云フヤウ
ナ狭イコトデハイケナイと思フデアリマス、ソレナラ問謀ト
云フ言葉ヲ其處ニ使ツタラ宜イデヤナイカト云フ御意見デゴザ
イマスガ、刑法ニ謂フ問謀ト云フノハ陸戰法規ニ所謂問謀ト
云フコトガ刑法上ノ通説ニナツテ居リマシテ、問謀ト云フ意味
ハ非常ニ狭ク使ツテ居リマス、此處ニゴザイマスヤウニ、或ハ
情報ヲ收集スルノヲ總テ問謀ト云フ風ニハ少ナクモ刑法ノ八
十五條ハ考ヘテ居リマセヌ次第デゴザイマスノデ、其ノ意味ニ

ヘテ置イタ方宜イト思フノデスネ、一ツ御考ヘ下サツテ、サ
ウシテソレガ必ズシモ正シイカドウカ分リマセヌガ、兎ニ角
斯ウ云フコトヲ謂フノダト云フコトダケハ明カニシテ載キタ
イ、ソレカラ尙續イテ御尋ネ致シマス、此ノ情報ハ、今申上
ゲルヤウニ、私共ガモウ日夕使ツテ居ル言葉デアリ、而シテ帝
國議會ノ議員ハ勿論荷モ政治ニ關心ヲ持チマシタ者ハ、既往ト
雖モサウデアリ、今日ニ於テハ尙一層サウデアリマスガ、外
交、財政、經濟其ノ他ニ關スル情報ヲ、探知ト云フコトハドウカ
知リマセヌガ、收集スルコトハ日々ニ致シテ居ルノデアリマシ
テ、私共モ色々ナ機會ニ我ガ國ノ外交、財政、經濟其ノ他ニ關
スル色々ナ事情ヲ收集シ、之ヲ基礎ニシテ我々ノ政治上其ノ他
ニ關スル意見ヲ定メル材料トシテ居リマス、斯ウ云フ情報ガ集
レバ、必ズソコニ或ハ外交、財政、經濟等ニ關スル其ノ人ノ意見
ガ自ラ決ツテ來ル譯ダト思フデアリマス、其ノ意見ガ時ニハ
其ノ時ノ政府ニ都合ノ惡イコトガアル、或ハ政府バカリヂヤア
リマセヌ、軍ナリ其ノ他ノ各廳ナリ各局ノ考ト違フコトガアツ
テ、ソレガ爲ニ政府ナリ或ハ其ノ他ノ局部ニ於テハ、ソレヲ不
利益ト考ヘルト云フヤウナコトハ、隨分アル例デアラウト思フ
デアリマス、サウスルト、今日ノヤウニ所謂高度國防國家ト
云フモノヲ組織シタ國家ニナツテ來ルト、其ノ政府ナリ政府ノ
局部ノ爲ニ都合ノ惡イ事ハ、所謂高度國防國家カラ見レバ、國
防上ノ利益ヲ害スベキモノデアアル、斯ウ云フコトニナルノデア
リマス、其ノ意見ヲ作ル爲ノ材料ヲ集メタノデアルカラ、第八
條ノ、國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的ヲ以テ情報ヲ

於テ此ノ第八條ト刑法ノ問謀ト云フモノトハ違ツタ部門ニ屬ス
ル、斯ウ云フ風ニ御承知ヲ願ヒタイと思フデアリマス

○小原直君 第八條ニアル「情報」ト云フ言葉ハ、ホカノ法律
デ使ツテアリマセウカ

○政府委員(三宅正太郎君) 別ニ他ノ法律ニハ使ツテゴザマセ
ヌ、要スルニ此處ニ於キマシテハ普通ノ意味ニ於ケル情報ト云
フ意味ヲ其ノ儘使ツタ譯デアリマス

○小原直君 世ノ中ハ日々變化シテ參リマスカラ、社會情勢ノ
異ルニ從ツテ新シイ現象ガ出、其ノ新シイ現象ニ新シイ言葉ヲ
用ヒルト云フコトハ當然ノコトデアリマス、此處ニ謂フ「情
報」モ其ノ意味ニ於テ私共ガ日常既ニ使ツテ居リマスルノミナ
ラズ、既ニ官制ノ上ニ於テモ内閣情報局ガアリ、モト外務省或
ハ陸海軍省等ニモ情報部ト云フ言葉ガアツテ、情報ト云フ言葉
ハ大凡ノ概念ハ我々ニ分ルノデアリマスガ、既ニ新シイ法律上
ノ言葉トスルト、此ノ言葉ニ一定ノ意義ヲ附ケナケレバ適用上
困ルコトガ澤山出テ來ル、ソコデ今日新ニ情報ト云フ言葉ヲ御
使ヒニナツタ時デアリマスカラ、此ノ情報トハ如何ナル意味デ
アルカト云フコトヲ法律的ニ定義ヲ與ヘテ載キタイと思フ

○政府委員(三宅正太郎君) ドウモ普通情報ト云フコトデ通ツ
テ來マシタノデ、別ニ定義ヲ申上ゲルノハ……何ナラバ考ヘテ
參リマシテ、又改メテ申上ゲマス

○小原直君 漠然ト考ヘタト言ハレルンヂヤ困ルノデアリマシ
テ、矢張り是ハ法律語トシテ、而モ是ハ刑罰ノ本ニナルノデ
アリマスカラ、情報ト云フ言葉ノ定義ハ矢張りシツカリト與

收集シタル者トシテ、此ノ條文ニ當ルト云フコトニナル處ガア
ル、サウ云フコトハ考ヘテ居ラヌト言ハレルデアリマセウガ、
アナタ方ハ御考ニナラヌカモ知レナイケレドモ、法ヲ作ツテシ
マツト、サウ云フコトヲ考ヘ得ル餘地ガ出來テ來ル、サウシテ
之ヲ應々問題ニ出ル政治謀略ニ使ハレル處ガ必ズシモナイトハ
言ヘナイト思フ、サウ云フ今申上ゲタヤウナ場合ニ於ケル情報
ノ收集ガ本條ニ謂フ犯罪ニナルノデアアルカドウカ、其ノ點ヲ御
説明願ヒタイと思ヒマス

○政府委員(三宅正太郎君) 此處ニゴザイマス情報ハ、御言葉
ノ通り客觀的事實デアリマシテ、意見其ノ他ノコトハ含ミマ
セヌ、ソレデ今御言葉ノヤウニ、其ノ客觀的事實ヲ集メテ一ツ
ノ意見ヲ持ツ、其ノ意見ガ國家ノ爲ニ不利益ダト云フコトノ爲
ニ、恰モ國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的デ其ノ各種
ノ客觀的ナ資料ヲ集メタト、斯ウ云フ風ニ見ラレル危險ガアル
ノデハナイカ、斯ウ云フ仰セト存ジマスガ、サウ云フ場合ニ、
ソレヲ國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的ダト、斯ウ直
グニ判斷スルコトハ正シイ解釋デナイト存ジマス、サウ云フ風
ニ法律ヲ曲解スルコトハ勿論嚴重ニ避ケナケレバナラヌコトデ
ゴザイマスノデ、十分ニ其ノ點ハ注意致シタイと思ヒマス

○小原直君 御意見ハ分リマシタガ、併シ私ガ今申上ゲタヤウ
ナコトハ、矢張り國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的デ
情報ヲ收集シタコトニ解釋セラル、ンヂヤナイカト思ヒマス、
其處ヲモウ一度念ヲ押シテ確カメテ置キタイ、詰リサウ云フコ
トニハ利用セヌノデアルト云フコトヲ……

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ第八條ノ解釋ト致シマシテハ、其ノ情報ヲ國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スルノデアリマシテ、其ノ意見ヲ集メル、其ノ意見ヲ編メル爲ノ情報、サウシテ其ノ意見ガ國防上ノ利益ヲ害スルト云フコトニナリマスト、其ノ間ニ一ツノ又差ガアルヤウニ思フテ居リマス、即チ此ノ第八條ノ規定ハ、他ク迄モ外交、財政、經濟其ノ他ニ關スル情報デ、其ノ情報ヲ其ノ儘國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スルト云フコトデ、意見ヲ供スルノチヤナクテ、事實ヲ供スルト云フ意味、其ノ資料ガ即チ直チニ國防上ノ利益ヲ害スベキ要素ヲ持ツト云フ風ニ考ヘタイト思フノデアリマス

○小原直君 情報ガ集マレバ自然ニ意見ガ決ルノデアリ、從ツテ情報ト意見トノ間ニハ格段ノ逕庭ナシニ此處ニ謂フ用途ニ供セラルルト云フコトニ解セラルル場合ガアルト思ヒマス、ソレガサウデナイト云フ御答デアレバ、ソレデ承ツテ置キマスケレドモ、サウ云フ場合ガアリ得ルノデアラウト思フ、サウシテ所謂政治謀略等ニ使フ場合ニハ、サウ云フコトヲ加ヘテ政治謀略ニ使フ處ガアルノデアリマスカラ、是ハサウ云フモノニハ使ハナイノデアアル、又サウ云フ場合ニハ犯罪ニナラヌノデアアルト云フコトヲシツカリ決メテ載ケバソレデ宜シウゴザイマス

○政府委員(三宅正太郎君) 能ク分リマシタ、外交、財政、經濟其ノ他ニ關スル情報ヲ澤山集メマシテ、其ノ集ツタ資料カラ何人ガ判斷シテモ、國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供セラルベキ性質ヲ持ツ、サウ云フモノデアリマスレバ、意見ヲ俟タナイデ、既ニソレハ材料ガ其ノ意見ヲ作ラセルヤウニ出來上ツテ居

ルノデアリマスカラ、サウナリマスレバ、第八條ニ當ルコトハ當然デアリマス、併シナガラ唯外交、財政、經濟ニ關スル情報ヲ集メテ、其ノ情報ダケ直ダニハ其ノ結論ヲ生ジナイデ、ソレハ其ノ人ノ主觀的ナ色々ナ檢討ナリ、主觀的ナ色々ナ立場カラ考ヘテ、初メテソレガ國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供セラレベキ性質ヲ有スルト云フ場合ナラバ、マダ第八條ニハ當ラナイダラウト、斯ウマア其處ニ差異ガアルノデハナイカド考ヘラレルノデアリマス

○小原直君 利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的ヲ以テスル時ニ犯罪ガ成立スルノデアリマスルカラ、事實上利益ヲ害シナイ、即チ害スベキ用途ニ供スル目的ヲ以テ情報ヲ收集シタケレドモ、事實利益ヲ害シナイト云フ場合ニハ、是ハ刑法ノ原則上罪ニナラナイト云フコトデ、本條カラハ除外セラレルノダラウト思ヒマスガ、ソレハドウナリマセウカ

○政府委員(三宅正太郎君) 御話ノ通りデアリマス
○小原直君 此ノ情報ハ、或ハ單一ニシテ國防上ノ利益ヲ害スル用途ニ供セラレルコトモアラウト思ヒマス、又或ハ集合シタ場合ニ初メテソレガ成立ツ場合モアラウト思ヒマスガ、本法ニ謂フ外國ニ秘匿スルコトヲ要スルト云フ場合ト、此處ニ謂フ情報ノ害ノアル場合ト、ドウ云フ關聯ヲ持ツデセウカ、言ヒ換ヘレバ、結局外國ニ秘匿スルコトヲ要スル情報ト云フコトニナルノデアアルカドウカ、ソレヲ伺ヒタイ

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ第八條ノ建前ト致シマシテハ、勿論外國ニ秘匿スルコトヲ要スルカラ第八條ノ規定ガアル

譯トハ存ジマスガ、表向ニハ別ニ外國ニ秘匿スルコトヲ要スル情報トハ、特ニサウ制限ハシテ居リマセヌ、只今御話ニアリマスヤウニ、別ニ個々一ツノニ付テハサウ外國ニ秘匿スルコトノ必要ノナイコトデアツテモ、ソレヲ集メテソレガ一ツノ國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スルヤウナモノニナリ得ル場合モアリマスノデアリマスカラ、サウ云フ關係上、此ノ情報ニ付テハ、外國ニ秘匿スルヲ要スルト云フ制限ハ附ケテ居リマセヌ、併シナガラ實際ノ結果ニ於テハ、矢張り御言葉ノヤウナ結果ニナル場合ガ多カラウト思フノデアリマス

○小原直君 聽ク所ニ依ルト外國、殊ニ某々國等ニ於テハ、日本ノ社會ニ於ケル日常ノ色々ノ出來事、殊ニ細カイ雜誌新聞ノ記事等ヲ集メテ、之ヲ外國ニ通報シテ居ルト云フコトデアアルノデアリマスガ、サウ云フ日常新聞紙ニ出ルヤウナ記事ノ切抜キヲ集メルト云フコトハ、ソレ自體、國防上ノ利益ヲ害スルト云フコトニハ言ヘナイ場合ガアルデアリマセウカ、或ハ集積スレバ其ノ中カラ何等カノ事實ヲ抜キ出シテ來テ、其ノ事實ガ、即チ國防上ノ利益ヲ害スルコトニナツテ來ル場合モアルノデアリマセウカ、サウ云フ場合ニ於テ、ソレ自體ハ本條ニハ當ラナイガ、ソレガ收集スレバ、結局本條ニ當ルト云フヤウナ時ニ、其ノ一或ハ二ヲ集メタ場合ニ於テ、ソレガ矢張り本條ニ謂フ收集ノ行爲ニナルノデアリマセウカ

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ問題ハ外交、財政、經濟、其ノ他ニ關スル情報ト云フ所ニハ何等制限ガゴザイマセヌ、デアリマスカラ、例ヘハ婦人ノ衣裳、著物ニ關スル情報デモ、矢

張り此ノ情報ニ入ラナイトハ限リマセヌ、併シナガラソレガ國防上ノ利益ヲ害スル用途ニ供スル目的デ、之ヲ收集シタカドウカト云フコトハ、是ハ成ル程婦人ノ著物ニ付テモ、或ハサウ云フ國防上ノ利益ヲ害スル目的デ收集シタト云フ理窟ガ立タナイトモ限リマセヌケレドモ、恐ラクソレト是トノ間ニ關聯ナコト得ナイダラウト思ヒマス、恐ラクサウ云フ風ハ荒唐無稽ナコトヲ此ノ目的デアルトハ思ハレマセヌノデ、ドウシテモ國防上ノ利益ヲ害スル用途ニ供スル目的ヲ以テ收集スル以上ハ、偶々收集シタモノハ、成ル程ソレハ豫期シタモノガ得ラレナカツタニシテモ、少クモソレヲ得ムトシタ者ハ、少クトモ國防上ノ利益ヲ害スル用途ニ供セラレ得ルモノヲ目掛ケテヤツタ場合デナイト、此ノ條文ノ實際ノ運用上、其ノ人間ヲ罰スルト云フコトニハ甚ダ行キニクカラウト思フノデアリマス、從ツテ其ノ目的カラシテ制限サレマシテ、自然ニ此處ニ書イテアリマス無制限ナ情報モ、矢張りソコニ制限ヲ受ケルト斯ウ考ヘルノデアリマス(貴族院國防保安法特別委員會議事速記第五號)

○伍堂雄雄君 之ヲ通觀致シマスルノニ第三條カラ第七條迄ハ業務ニ因ルト因ラザルトニ拘ラズ國家機密デアルト云フコトヲ認識シナイデ犯シタ者ハ違反者トナラナイ、斯ウ云フ風ニ認メテ宜シイノデアリマスガ、又第八條ニ「國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的ヲ以テ又ハ其ノ用途ニ供セラルル處ナルコトヲ知リテ外國ニ通報スル目的」トアリマスガ、其ノ目的ト云フノハ主觀的ニ之ヲ否認シテモ客觀的ニ認定スル場合ガアルト思ヒマスガ、ソコラ境ガ非常ニムヅカシイト思フノデゴザイマ

ス、主観的ニハサウ云フ目的ヲ持ツテ居ナイ、例ヘバ具體的ノ例ヲ以テ申シマス、私共ガ經濟講演ヲスル、サウシテ今日最モ重要ナ國防資源ニナツテ居リマス鐵、石炭、石油等ノ東亞共榮圈内ニ於ケル埋藏量デアルトカ、或ハ生産推定額ノ如キモノヲ自分ノ知識ニ依ツテ綜合シテ、之ヲ國民ノ經濟知識ヲ深メル爲ニ講演等ニ利用スル、ソレガ偶々國家機密ニ當ツテ居ツテ、昨日モ兵務局長カラ御話ガアリマシタガ「アルミ」ノ個個ノ生産高等ヲ綜合シテヤルト、ソレガ全體トシテ「アルミ」ノ生産額ト云フモノニナツテ、ソレハマア經濟上ノ國家ノ機密トシテ一例トシテ述べラレタコトデアリマスガ、同ジヤウナコトガ、鐵ノ場合モ石炭ノ場合モ石油ノ場合モ言ヘルト思フデアリマス、詰リ主観的ニハ國家ノ利益ノ爲ニ蒐集シテ、サウシテ之ヲ發表スル、併シ結果トシテ客観的ニ見方ニ依ツテハソレガ國家ノ利益ヲ害スルヤウニナル處ガアルノデアリマス、斯様ナ場合ニ其ノ見方違フ爲ニ、認定スル結果ニ依ツテ非常ナ差ガ起ルノデアリマスガ、又前ニ述リマシテ國家機密ト云フコトヲ認識スルト云フ——是ハ勿論業務ニ關係シテ居ル者ハ當然認識シナケレバナライノデアリマスガ、業務ニ關係シナイ者デ、サウシテ五條等ニ依ツテ是ガ外國へ漏泄シ公ニスルト云フコトニナルト、主観的ニハ認識シテ居ナカッタトカ、認識シテ居ッタト云フコトヲ反省スルノハ非常ニムツカシイ場合ガアリハシナイカト思ヒマス、是ハ此ノ法案全體ヲ通ジテ非常ニ重要ナ點デアルト思ハレマスノデ、明確ニ一ツ御説明ヲ願ヒタイ

○政府委員(三宅正太郎君) 國家機密ニ付テノ認識ガナクシテ

第五條ヲ犯シマシタ場合、勿論犯罪ヲ以テ問ハレルコトガナイノハ御意見ノ通りデアリマス、又第八條ニ付キマシテモ、國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的トカ、其ノ用途ニ供セラルル處アルコトヲ知りテ外國ニ通報スル目的、其ノ目的ガナクシテ、此ノ第八條ノ此ノ行爲ヲ爲シタ場合ニ、ソレガ處罰サレルコトノナイコトモ亦御言葉ノ通りデアリマス、唯御心配ノ點ハ、主観的ニハ正ニ認識モナイ、又目的モ有シテ居ラナカッタニ拘ラズ、ソレヲ認定セラレル危險ガアルノデハナイカト、斯ウ云フ御心配デアリマスガ、其ノ點ニ付キマシテハ、誠ニ御テノ認識ガアツタカドウカ、又ハ第八條ノ目的ガ、本人ガ有シテ居ッタカドウカト云フコトハ證據ニ依ツテ認定スベキ事項デアリマシテ、之ヲ檢査スルモノハ其ノ證據ヲ擧ゲナクテハナラヌ譯デアリマス、唯徒ニ推測等デ以テ決メル譯ニハ行キマセヌノデ、其ノ認定スルニ付テモ、各種ノ材料ヲ具シテサウシテ決メナケレバナラヌコトデアリマス、勿論是ニ付テハ十分慎重ニ考ヘマシテ、苟クモサウ云フ譯ツテ認定サレルヤウナコトノナイヤウニ努メナケレバナリマセヌコトハ勿論デアリスガ、飽ク迄モ是ハ主観的ニ、其ノ認識アリシヤ、目的アリシヤト云フコトヲ明確ニ致シマシテ決メマセヌト、是ハ御言葉ノ通り、非常ニ社會ノ不安ヲ生ズル結果トナリマスノデ、此ノ點ニ付テハ飽ク迄モ此ノ點ニ關スル證據ヲハツキリトサセ、苟クモ曖昧ナ認定ヲ以テ直チニ其ノ人ヲ疑フヤウナコトノナイヤウニ是ハ致サナケレバナラヌト云フコトハ、他ノ犯罪ヨリモ此ノ種ノ犯罪

ニ付テ特ニ痛切ニ感ジテ居ルコトデアリマスノデ、其ノ點ニ付テハ十分注意ヲ致ス積リテ居リマス(同第六號)

○政府委員(三宅正太郎君) 私共ノ考ヘマシタ情報ノ定義ト申シマス、情報トハ事實的性質ヲ有スル事項ノ報道ノ總テヲ謂フト、斯ウ申上ゲタイノデアリマス(同第九號)

(9) 第九條關係

○三田村委員 ソレカラ本法ノ構成ヲ見マス、第一條カラ第七條マデノ罪ト、第八條、第九條、第十條ノ罪トハ罪ノ態様ガ違フヤウデアリマスガ、第一條カラ第七條マデノ罪ハ別ニ目的ガ入ラヌ、八條、九條、十條ニ於テハ、是ハ目的罪ニナツテ居ル、八條、九條、十條ノ目的罪ノ點デアリマスガ、此ノ目的罪ニハ二ツノ場合ガ想像サレルノデアリマシテ、之ヲ檢舉スル場合ニ檢察當局ノ認定ニ依ル場合ガアリマス、ソレデ先刻來刑事局長ノ御説明ニナリマシタ通り檢事ガ之ヲ認定スル、最終ノ決定ハ裁判所ガナス、是ハ法ノ運用上當然デアリマス、刑罰法令ノ上一ツノ目的ヲ書キマス、犯罪構成ノ要件ニナルコトハ云フマデモアリマセヌ、此ノ場合ニ私ハ國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的トカ、用ニ供セラルル處アルコトヲ知ツテ外國ニ通報スルト云フ目的ヲ持タナイデ、即チ言葉ヲ換ヘテ申シマス、國防上ノ利益ヲ害スルトカ乃至ハ外國ノ利益ヲ云フ目的ヲ持タナイデナス行爲ガ非常ニ多イノデヤナイカ、寧ろ逆ニ日本ノ立場ヲ有利ニ導カウトカ、乃至ハ第三國トノ關係ヲ好クシヨウトカ云フヤウナ目的ヲ以テヤル行爲ガ、往々ニシテ敵ノ思想謀略ニ引掛リ、經濟謀略ニ引掛ルト云フコ

トガアリ得ルト思フ、即チ主観的ニ言フト此ノ法案ノ書キ方ト全ク違フ目的ヲ以テ日本ノ爲ニ利益ヲ圖ラウト云フ積リデヤル、殊ニ經濟上ノ取引ヲ持ツテ居ル連中トカ、乃至ハ所謂上層部ノ人々ト云フ連中ハサウ云フ場合ガ多イヤウニ今マデ聞イテ居ル、サウスルトサウ云フ場合モ主観目的ト云フモノ、茲ニ所謂行爲者、被疑者ノ目的ノ主観ト云フモノト、此ノ法ニ謂フ目的ノ客観ト相反シタモノガアルノデスガ、此ノ法ノ書キ方、解釋カラ言フト、サウ云フノハ此ノ法ニ觸レヌヤウニ思ヒマスガ如何デセウカ

○秋山政府委員 八條、九條、十條ハ是ハ御話ノ通り前ノ分ト少シク違フテ居リマス、目的罪ニナツテ居リマス、ソレハ情報ト云フモノハ必ズシモ知得スベキ限リデナイノデアリマス、併シナガラ之ヲ多數ニ探知收集致シマシテ集メマスレバ、是ハ重要ナル機密ヲ察知シ得ルコトガ出來ルヤウナ資料ニモナリマスノデ、特ニサウ云フモノモ取締ル必要ガアルト思ヒマス、サウ云フコトデアレバ、是ハヤハリサウ云フ目的ヲ持ツタモノデナケレバ之ヲ罰スルコトハ宜シクナイノデハナイカト云フコトカラ、斯ウ云フ風ニ目的罪ニシテアルノデアリマス

○三田村委員 私モ其ノ通り解釋シテ居リマス、條文ノ上デハサウナツテ居リマスガ、實際問題トシテハ、ソレチヤ困ル場合ガアルノデヤナイカト思フノデ私ハ申上ゲルノデス、茲デ目的罪ニシテ居リマスガ、目的罪デ其ノ行爲者ノ主観ニ依ツテ抑ヘラレル場合ハ宜イガ、行爲ノ客観性カラ言ヘバ當然此ノ規定ニ依ツテ抑ヘナケレバナラナイモノヲ、犯罪ハ其ノ行爲者ノ犯

意、即ち行爲ニ對スル認識ヲ成立ノ條件トシマス故ニ、法律ヲ抑ヘラレヌモノガ澤山アル、抑ヘラレヌモノノ中ニ困ツタモノガ非常ニ多イト云フコトニナルト思フノデスガ此ノ點ドウ御考ヘニナツテ居ルカ、一ツ伺ツテ置キタイノデス

○秋山政府委員 御意見ハ洵ニ御尤モト思ヒマス、御話ノヤウナモノモ取締ルコトガ必要ト思ヒマスルガ、何分此ノ法案ハ世間カラ多少危険視サレテ居ル法案デアリマスルノデ、餘リニ範圍ヲ廣メルコトハ如何カト思ヒマスシ、先ヅ此ノ程度ヲ取締ガ付タモノト考ヘマシテ此ノ案ノ通りニ致シタラウデアリマス

○三田村委員 私人其ノ御考ヘハ根本ニ間違ヒデアラウト思ヒマス、世間カラ危険視サレテ居ルカラ先ヅ此ノ程度ニスルトカ、サウ云フ便宜主義的ナ建議カラ立法セラレル性質ノモノデハナイ、必要ナモノナラバ、徹底的ニオヤリニナルガ宜シ、世間カラ何等カノ疑惑ヲ持タレルカラ此ノ程度ニシナクチャナラスト云フヤウナモノナラ御出シニナラス方ガ宜イト思フ、國家ノ爲ニ必要デアルナラバ、徹底的ニオヤリニナルガ宜シ、折角ヤツテ形ガ出来タガ、大キナ抜ケ穴ガアツテ、ズンム、抜ケテ行クト云フノガ今マデノ例ナシ、是ハ陸軍省ノ政府委員モオイデニナツテ居リマスカラ、軍ノ方ノ御意見モ一應伺ヒタイト思ヒマス、斯ウ云フ立法ヲサレル場合ハ、國家非常重大ナ危局ニ臨ンデ其ノ發動ヲ見、所謂國家防衛ノ爲ノ非常立法デアリマスルカラ、其ノ爲ニ疑惑ヲ持タレルトカ、非常ニ國民ニ強イ印象ヲ與ヘルトカ云フコトハ私ハモウ考慮外トト思フ、ソレヨリモ必要ナモノハ斷乎トシテヤル、必要ナラザルモノハ一切ヤ

ラナイ、中途半端ナ變ナモノハ作ラナイ方ガ宜イ、陸軍ノ方ノ政府委員ガ居ラレマスカラ一ツ伺ヒタイト思ヒマス

○田中政府委員 只今ノ御質問ノ點ハ御言葉ノ通りデアリマス、是ハサウ云フ懸念ガアツテヤラスモノデアリマスカラ、威ベク指導ニ依リマシテ能クシタイト思ツテ居リマス、是ガ爲ニ陸軍ト致シマシテハ防諜觀念ノ強化ト云フコトニ非常ニ全力ヲ上ゲテヤツテ居ル次第デアリマス、併シソレヲ色々調査致シマシテ、其ノ根ガドコニアルカト云フコトガ分リマスナラバ、其ノ根本ガドコニアルカト云フコトガ分リマスナラバ、其ノ根本ガ外國ト通謀シテ居ルト云フモノノ手先ヤツテ居ルト云フコトガ分リマスナラバ、其ノ根本ハ徹底的ニヤルノデアリマス――是デ御分リニナツタト思ヒマス

○三田村委員 ソレカラ是ハ解釋論ニナリマスガ、大分此ノ法案ニハ新シイ用語ガ出テ來テ居ル、殊ニ刑罰法令ノ用語トシテ治安ヲ害スベキ事項ヲ流布スル、一體其ノ行爲ハドウ云フコトヲ豫想サレテ居リマスカ、成ベク具體的ナ例ヲ取ツテ御説明ヲ願ヒマス

○秋山政府委員 治安ヲ害スベキ事項ト云ヒマスノハ政局ノ不安定トカ、經濟界ノ混亂ト云ツタヤウナ國家的ノ秩序ニ影響スル重大ナル國家秩序ヲ害スル一切ノ事項ヲ言フデアリマス、流布ト云フコトハ不定多數ノ人ニ傳播セシムルノ謂デアリマス、或ハ公ニスルト云フ言葉トドシナ遠ヒガアルト云フコトガ疑問ニナルカト思ヒマスガ、公ニスルト云フコトハ、本來秘密デアル事項ヲ不定多數ノ人ノ認識ニ置クト云フコトデアリマシ

テ、流布ト云フノハ必ズシモ秘密デアル事項ニ限ラナイト云フ點ニ、二ツノ區別ヲ置イテ居ル譯デアリマス

○三田村委員 今ノ刑事局長ノ御説明ニ依リマスト政局ノ不安ヲ惹起スルトカ、財界ノ混亂ヲ招來スルトカ、サウ云フ事項ガ治安ヲ害スベキ事項デ、是モヤハリ大審院ノ判例ガアル、其ノ通りデスガ、此ノ九條ノ項ニ「外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ」トアリマス、是ハ二ツニ讀メル、外國ト通謀シテ治安ヲ害スベキ事項ヲ流布シ、是ハ明カニ行爲ノ對象ガ示サレテ居リマスカラ、外國ト通謀シナケレバ、此ノ九條ハ當該ラヌ、所ガ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ」ト云フヤツハ是ハ先刻來屢應刑事局長ノ御説明通り、此ノ目的ノ認定ハ檢事ガヤル、檢事ノ認定デ彼奴アア云フコトヲ言ツテ居ル、ドウモ財界ノ攪亂ニナルシ治安ヲ害スベキ事項デヤナイカ、ソイツヲ方々喋ツテ居ル、ドウモ政府ノ政策ヲ批判スル、政界ヲ不安ニ陥レルモノデヤナイカ、是ハ明カニ外國ニ利益ヲ與ヘル、ソレハ本人ガハツキリ意識シテ居ルカ居ナイカ分ラナイケレドモ、ソレニ依ツテ重慶政府ガ大イニ利益ヲ得ルダラウ、敵性第三國デアル「イギリス」モ「アメリカ」モ大イニ利益ヲ得ルダラウ、是ハ怪シカラント云フコトニナルト、此ノ九條ノ適用デ無期又ハ一年以上ノ懲役ト云フコトニナル、ソレカラ十條デモサウデス、是モ新ラシイ言葉デス「國民經濟ノ運行ヲ著シク阻害スル處アル行爲ヲ爲シタル者」斯ウ云フ法律用語ト云フモノハ、殊ニ刑罰法令ノ用語ト云フ言葉ノ解釋ハ難カシイ、是ハヤリ方ニ依ツテハ何デモ引掛ツテ來ル、國民經濟ノ運行ヲ著シク阻害スル」ト

言ツテシマヘバソレマデデス、米ガ足リナイト云フコトモ是モ處アルコトニナル、肥料ガ足リナイト云フコトモ處アル行爲ニナツテシマフ、ドウモ經濟新體制ガウマク行カヌ、財界人ガブツツ「言ツテ居ル、官僚ノ經濟新體制案ハ社會主義ダ、人民職線ダ、官僚方式トハ財界人ノ方式トハマダ對立シテ居ツテ、其ノ對立ガ解消サレナイ、コンナコトデハ日本ノ經濟ハ駄目ダ、斯ウ云フコトナドモ著シク運行ヲ阻害スル處アル行爲ニナルノデス、是ハ色々ナモノガ入ツテ來ル、ソコデ此ノ十條、九條ハ解釋ノ如何ニ依ツテドウニデモナルト思フ、是ハ中々困難デス、其ノ次ニ被サツテ來ル單獨ノ目的ニナリマスガ、外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ」ト云フノハ司法省ノ見解ノ通り、最終ノ決定ハ裁判所デヤツテモ、司法權發動ノ當初ニ於テハ其ノ目的ノ認定ハ一應檢察官ガヤル、ココデ言ヘバ檢事ガヤル、檢事ノ指揮ヲ受ケタ司法警察官ガヤルノデス、此ノ目的ヲクツ附ケルト相當ナコトガヤレマス、ヤツテ非常ニ良イコトモアリマスガ、ヤツテ非常ニ惡イコトモアル、先般猪野毛委員ノ言ハレタヤウニ非常ニ惡イコトモアル、此ノ點ノ解釋ハ吾々立法ニ參畫スル以上非常ニ嚴肅ニヤラナケレバイヤカヌ、影響ハ非常ニ大キイト思ヒマスガ、當局ハ如何ニ御考ヘデアリマスカ、餘リ抽象的ナ大審院ノ判例ナドデ御答辯ニナラナイデ、成ベク此ノ立法ノ狙ツテ居ル法域ト行爲、客體ト云フモノヲ茲ニ具體的ニ御説明ヒタイト思ヒマス

○三宅政府委員 例ハ九條デサウ云フ具體的ノ例ト申セバ、例ヘバ米騒動ガ起ツテ軍隊ガ出動シテ居ルト云フヤウナコトヲ

外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ言フ、或ハ又流布ト云ヒマス
カ、或ル一人ニ言フテソイツガ多勢ニ話スドラウ、段々傳播シ
テ行クコトヲ知ツテ居テヤルト云フコトニ當リマス、十條ノ方
ハ是ハ先程御話ノヤウナモツト高度ノ行爲デアリマシテ、例
ハ大キナ範圍ニ於テ、大阪トカ東京トカ云フ所デ、預金ノ取付
ト云フヤウナモノヲ廣範圍ニ行ハセルト云フヤウナ——財界不
安ノ——恰モ預金ヲ今取付ケナイト駄目ダゾト云フヤウナ、宣
傳ヲスルト云フ風ナコトデアリマス、ソレデ實ハ金融界ノ擾亂
トカ、重要物資ノ生産、又ハ配給ノ阻害トカ云フ其ノ初メノ方
例トシテ書キマシタコトハ、相當大キナコトヲ書イタノデアリ
マス、デスカラ簡單ニ唯統制ガ旨ク行カナイトカ、或ハ一部米ノ
配給ガ旨ク行ツテ居ナイトカ云フヤウナコトヲ言ツタカラト云
ツテ、直ダニ之ニ依ツテ十條ニ該當スルトハ言ヘナイと思ヒマ
ス、ダカラ先程御話ノ目的ノ罪ノ目的ノ認定ト云フコトガ、非常
ニ不安心ダト三田村サンハ御話ニナリマシタガ、實ハ此ノ目的
ノ認定ト云フモノハ、其ノ人ニサウ云フ目的ガアツカカナカ
タカト云フコトヲ決メルコトハ、相當困難ナコトデアルト思ヒ
マスノデ、是ハ餘程慎重ニシマセスト、ツイ外界ノ行爲ダケヲ以
テ、直ダニ目的ヲ推認スルト云フヤウナ危險ガアリマス、併シ
ナガラ只今委員長カラモ御話ガアリマシタヤウニ、此ノ法律ノ
運用ト云フコトハ、法律ノ文句ヤ何カガ甚ダ新シイト云ヒマス
カ、或ハ多少廣範圍ニ互ルヤウナ處ノアル文句モ使ツテアリマ
スカラ、不安ヲ抱カセナイヤウニ、是ハ此ノ刑事手續ノ章ニ於
テモ、申上ゲヨウト思ヒマスガ、檢事ガ起訴スルコトナドニ付

テモ、通常ノ犯罪ノ起訴トハ違ヒマシテ、出來ルダケ慎重ニ、
サウシテ上部ト十分意思ガ合體シタ所デ檢事ヲスルコトニ致シ
マシテ、勝手ニ下級ノ檢事ガ自分ノ考ヘダケヲ以テ、ドンドン
檢舉ニ着手スルト云フヤウナ弊ノナイヤウニ致シタイと思ツテ
居リマス（衆議院國防保安法案委員會議錄（速記）第三回）

第十條關係

○菊地委員 第十條ニ付テ御伺ヒシタイノデアリマス、十條ノ
中ニ「重要物資ノ生産又ハ配給ノ阻害」ト云フコトガアリマス
ガ、此處ニ所謂重要物資トハ如何ナルモノヲ指スノデアリマス
カ、其ノ種類、範圍等ヲ御示シテ願ヒタイと思フノデアリマス
○大竹政府委員 是ハ軍需タルト民需タルトヲ問ハナイ、重要
ナモノト云フ廣イ規定テゴザイマス

○菊地委員 物動計畫ナドデハ重要物資ナドニ對シマシテ何々
ト云フコトヲ言ウテ居ラレルノデアリマスガ、ハツキリ斯ウ云
フモノハ重要物資デアルト云フヤウニ決マツテ居ル譯デハナイ
ノデスカ、其ノ時ノノ情勢ニ依ツテ變ツテ來ルデセウカ

○大竹政府委員 何ト何ダケト云フヤウナ限定シタモノトハ考
ヘテ居リマセス（同第四回）

○下條廣警署 十條ノ文字ニ付テ何ヒタイ、國民經濟ノ運行ヲ
著シク阻害スル處アル行爲ヲ爲シタル者トアリマスガ、例
ハ一府縣デ銀行ノ取付ケヲヤメタト云フノハ、國民經濟ノ運行
ノ全部ニ及バナイ、此ノ場合ニハソレハ入ラナイノデスカ

○政府委員（三宅正太郎君） 單ニ一府縣ノ或種ノ銀行ガ取付ケ
ヲ受ケテ、其ノ爲ニ其ノ地方ノ金融界ガ擾亂サレタト云フコト

ダケ、ソレダケノ事實デハ直ダ此ノ條文ニハ當ラナイと思フノ
デアリマス、唯一府縣デアリマシテモ、例ハ東京ニ於ケル主
要ナ銀行ガ取付ケニ遭ツタト云フコトハ、決シテ東京ダケニ止
リマセヌデ、其ノ影響ハ全國ニ及ビ、全國ノ人心ヲ不安ナラシ
ムルト云フ結果ヲ伴ヒマス場合、ソレハ勿論此ノ條文ニ入ルト
思ヒマス、唯一府縣ノミニ止ツテ其ノ影響ガ全國ニ波及シナイ
程度ノモノデアリマスレバ、此ノ條文ニハ入ラナイ、斯ウ考ヘ
テ居リマス

○下條廣警署 同ジヤウナ問題デアリマスガ、例ハ漁船ニ提
供スル油ヲ配給スル者ガ、其ノ配給ヲ阻害シタト云フノハ、水
産業ノ、國民全體ノ經濟カラ見テ一部分ト思ヒマスガ、サウ云
フノハ之ニ入ラナイノデスカ

○政府委員（三宅正太郎君） 勿論實際問題デゴザイマスカラ、
其ノ程度ニ依リマセウガ、一概ニ申シマスレバ其ノ程度ノコト
ハ入ラナイ、斯ウ考ヘテ居リマス

○下條廣警署 國民經濟ト云フモノハ、國家國民全體トシテノ
經濟運行ニ支障ヲ來ス、斯ウ云フ風ナ一般ノ問題デ考ヘテ見ル
ト、サウスルト之ニ嵌ル場合ガ少クナイカト思フノデスカ、全
體ニ影響ニ及ボスヤウナ大キナ問題ヲ起スト云フヤウナ、勿論
サウ云フコトモアルト思フノデスカ、ソレハ極メテ少イノデ、
一地方デモ相當程度ガ高ケレバ他縣ニ波及シナイデモ、此ノ規
定デ嵌ルヤウニスルノガ宜イチヤナイカト云フ感ジガスルノデ
スカ……

○政府委員（三宅正太郎君） 是ハ大體國民經濟ノ運行ヲ著シク

阻害スル、其ノ影響ガ全國ニ波及スルト云フコトデナク、其ノ
地方ダケノ問題ニ終リマスト云フ場合ニハ、國民經濟ノ運行ヲ
著シク阻害スル處アル行爲ト迄ニ考ヘナイ、斯ウ考ヘテ居ル次
第デアリマス

○下條廣警署 二項ニ罰金ノ併科ガアリマスガ、是ハ何かサウ
云フ關係テ儲ケルト云フヤウナコトデモ考ムテ居ルンデスカ

○政府委員（三宅正太郎君） 是ハママサウ云フコトニ依ツテ或
場合ニ於テハ儲ケル者モアリマセウカラ、サウ云フヤウナ儲ケ
タ者ニ對シテハ罰金ヲ併科シヨウ、斯ウ云ウ譯デス（貴族院國
防保安法案特別委員會議事速記第六號）

第十一條關係

○鈴木委員 宜シウゴザイマス——ソレカラ第十一條デア
リマス、第十一條ニ「未遂罪ハ之ヲ罰ス」トアリマスガ、罰ス
ダケデ實刑何年ヲ科スルト云フ罰ノ内容ハ少シモ書イテナイノ
デゴザイマス、罰スト云フノハドウ運用解釋シタラ宜シウゴザ
イマスカ

○大竹政府委員 是モ刑法總則ニ規定ガアルノデアリマシテ、
第四十三條ヲ見マスト、犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ
其刑ヲ減輕スルコトヲ得トアリマス、是ハ各條文デ法定刑ト
シテ規定シテアルモノヲ、其ノ範圍内テ輕クスルコトガ出來ル
ト云フ規定デアリマス、而シテ如何ナル範圍ニ於テ輕クスルカ
ト云フコトハ、ヤハリ同法ノ第六十八條ニ詳細ニ規定シテアル
次第デアリマス、而シテ是ハヤハリ刑法總則ノ規定デアリマス

カラ、此ノ國防保安法案ニモ適用ニナル譯デアリマス
 ○鈴木(文)委員 ソレハ能ク分ツタノデアリマスガ、其ノ第十
 一條以下ノ所ニ、先刻モ長谷君カラ御話ガゴザイマシタガ、教
 唆、煽動、誘惑ヲシタト云フコトニナリマス、是ハ事實上ニ
 於テ罪トナルヤ否ヤヲ決定シ難イ場合ガ生ズルデアラウト思
 フ、サウ云フ場合ニ於テ、情狀酌量トカ或ハ刑ノ執行猶豫トカ
 云フヤウナコトハ、ヤハリ此ノ罪科ニ當ツテ適用サレナイノデ
 アリマスカ、如何デアリマスカ

○大竹政府委員 只今御尋ネノ點ハ證據ニ基ク認定ガ既遂犯罪
 ニ比較シテ、一層難カシイノデハナイカ、斯ウ云フコトニ歸着
 スルヤウニ考ヘラレマス、ソレハ要スル證據判斷デアリマシ
 テ、證據ガアレバ未遂トシテ認定スル、未遂罪ハ先程申上デマ
 シタヤウニ減輕スルコトガ出來ルト書イテアリマスノデ、情狀
 ニ依ツテ、裁判所ガ或ハ減輕シ或ハ減輕シナイト云フコトニナ
 ル次第デアリマス、其ノ他第六十六條ト云フ規定ガアリマシ
 テ、犯罪ノ情狀輕重ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコト
 ヲ得ト云フ規定モアルノデアリマシテ、情狀ガ氣ノ毒ノ場合
 ニハ、此ノ條文モ適用ニナルノデアリマス

○長谷委員 一寸今ノ點ニ關聯シテ——私ハ今氣ガ付イタノデ
 アリマスガ、煽動ノ場合ハ刑法ノ條文ニ依ツテ、情狀酌量ハ下
 ノ法條ニ依ツテ決定ニナリマセウカ

○大竹政府委員 刑法總則ノ規定デハ、煽動罪デアラウト、未
 遂、既遂、教唆デアラウト、何罪ニモ適用サレルノデアリマ

ス、而テ煽動罪ダカラト云フ問題ハ起ラナイヤウニ考ヘマス
 ○長谷委員 ソレハ未遂ノ時ニハ減輕スルコトヲ得ト云フ規定
 ガアルノデアリマシテ、煽動ガ未遂ヨリモ下デアルカドウカハ
 別ト致シマシテ、假リニ下ト致シマスト當然サウ云フ風ナ適用
 ガ包含セラレナケレバナラヌト思ヒマスガ、其ノ點ハヤハリ研
 究ヲ要スルコトデハナカラウカト思ヒマス

○大竹政府委員 第十二條ノ規定ニ依リマス、第一項テ教唆
 者ノ罰ヲ規定シテ居リマス、而シテ煽動罪ハ第二項テ、煽動シ
 タル者ノ罰亦前項ニ同ジト云フコトニナツテ居リマスカラ、
 第一項ト同ジ刑ノ範圍内デ、適用サレルコトニナリマス(衆議
 院國防保安法案委員會議録(速記)第四回)

○黒崎定三君 十一條ニ付テ簡單ナコトヲ御尋ネ致シタイト思
 フノデアリマス、ソレハ六條ト關係スルノデゴザイマスガ、十
 一條ニ依リマス、五條ノ罪ノ未遂罪ハ罰セラレテ居リマス、
 私ノ御尋ネシタイノハ、即チ五條ノ後段デアリマスルガ、五條
 ノ犯罪ノ公ニスル犯罪ノ未遂罪ハ罰セラレテ居リマス、申ス迄
 モナク五條ノ規定ハ、偶然ノ事由ニ因ツテ國家機密ヲ知り得
 者ガ、ソレヲ國內ニ於テ公ニスル場合ガ罰セラレテ居ルノデア
 リマス、其ノ未遂罪ガ罰セラレテ居ルノデアリマス、處ガ六條ノ
 犯罪ハ業務ニ因ツテ知り得者ガ、之ヲ他人ニ漏洩シタ場合ノ
 罰則デアリマスガ、之ニハ未遂罪ガ罰セラレテ居ナイノデアリ
 マス、偶然ノ事由ニ因ツテ國家機密ヲ領得シタモノヲ國內ニ於
 テ公ニシ、更ニ十三條ノ規定ヲ拜見シマス、其ノ豫備、陰謀

迄モ罰セラレテ居ルノデアリマス、然ルニ業務上國家機密ヲ
 知り得ル地位ニ在ル者ハ過失迄モ罰セラレテ居リ、高度ノ過失
 ガ要求セラレテ居リ、秘密ノ漏洩防衛ト云フ上カラ言ヘバ最モ
 注意ガ要求サレナケレバナラヌ筋合ノモノデアリマス、ソレナ
 ノニ、此ノ未遂罪ノ所(參リマシテ、六條ガ規定サレテ居リマセ
 スノハ、何カ外ニ之ヲ罰スルノ規定ガアルノデアリマスカ、或
 ハソレ以外ニ何等ノ理由ガアルノデアリマスカ、五條ノ私
 ノ今指摘シマシタ、公ニシタル犯罪ノ未遂罪ヲ罰シテ居リ、且
 其ノ豫備、陰謀迄モ罰シテ居ル、權衡カラ申シマシテ、十一條
 ノ中(六條ノ未遂罪ヲ罰スルコトガ權衡上カラ適當デナイカト
 思ヒマスガ、何カ外ニ理由ガアリマスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ十一條テ未遂罪ヲ罰シマシタ
 ノハ、是ハ斯ノ種ノ犯罪ノ國家機密ナリ、或ハ情報ナリガ一旦
 外國ノ手ニ入りマシテハ、モウ取返シガ付キマセヌカラ、出來
 ルダケ未然ニ之ヲ防ギタイ、斯ウ云フ趣旨デアアルコトハ御承知
 ノ通りデアリマス、其ノ爲ニ未然ニ之ヲ防グ爲ニ設ケテ譯デア
 リマス、ソレデ第六條ノ他人ニ漏洩スルト云フ場合ノ未遂罪ハ
 處罰致シマセヌ譯デアリマス、詰リ未遂罪トシテ罰シマセ
 ヌ、是ハ他ニ於テモ罰シナイ積リデアリマス、ドウ云フ譯デ、
 今御言葉ニアリマシタヤウニ、第五條ニ於テ既ニ豫備、陰謀迄
 罰シテ居ルチヤナイカ、然ルニ六條ニ付テサウ云フノハドウカ
 ト云フコトノ御疑念ガ起リマスノハ御尤ト思ヒマス、ソレニ付
 キマシテハ、私共ノ考ト致シマシテハ、公ニシタト云フコト
 ハ、是ハモウ外國ニ知り得ル狀態ニ置イタト、斯ウ先ツ思フノ

デアリマス、公ニシタト云フコトハ既ニ外國ニ聞エ得ル狀態ニ
 置イタノデアリマスカラ、是ハモウ外國ニ漏洩シタト同時ニ取
 扱フ、斯ウ云フ意味デ、既ニ公ニシタ瞬間ニ外國ニ漏洩スルト云
 フコトノ危険性ヲ茲ニ認メテ居リマス、處ガ第六條ノ他人ニ漏
 洩、是ハ他人ハ御承知ノ通り、又外國ノ爲ニ行動スル者ニ非ラ
 ズ、又外國人ニモ非ズ、斯ウ云フ譯デアリマス、即チズブノ日
 本人、斯ウ云譯デアリマス、其ノ日本人ノ、而モ大勢デナイ、
 詰リ決ツタ人ニ話ス、斯ウ云フ譯デアリマス、サウ云フノハ元
 來言ウト、此ノ法ノ此ノ取扱トシテハ、先ツ外國ニ到達スルニ
 付テハマダ極メテ程遠キモノガアルト、斯ウ思ツテ居ルノデア
 リマス、サウ云フ關係上、御承知ノ通り第六條ニ於テハ、業務ニ
 因リ國家機密ヲ領得シ領有シタ者ニハ此ノ處罰ヲ致シマスガ、
 其ノ他ノ者ガ他人ニ漏洩シテモ、是ハ處罰シナイコトニナツ
 テ居リマスノデ、サウ云フ關係モゴザイマシテ、第六條ハマダ
 外國ニ漏洩スルト云フコトニハマダ程遠キコトデアリマスシ、
 又其ノ處罰ハ業務ニ因ツテ知得シタ者ノミニ限ラレル位ニ、ド
 ウチカト云フト、其ノ程度ガ輕イモノニナツテ居リマスノデ、
 サウ云フ關係上未遂罪ヲ以テ問ハナイテモ危險ハナイダラウ、
 斯ウ云フ老デワザト第六條ダケノ未遂罪ハ除イタ次第デアリマ
 ス(貴族院國防保安法案特別委員會議事速記第六號)

○政府委員(三宅正太郎君) 第四條ノ第一項ニ、外國ニ漏洩シ
 又ハ公ニスル目的ヲ以テ國家機密ヲ探知シタル者ハ、ト云フ條
 文ガゴザイマスガ、此ノ場合ニ於テ國家機密ヲ探知スル行爲ヲ
 スレバ、國家機密ヲ得ナクテモソレハ第四條ニ當ルノデハナイ

カ、斯ウ云フ御意見ニ對シマシテ、私ト致シマシテハ、ソレハ探知セムトシテ未ダ國家機密ヲ得ナカッタ場合ハ、ソレハ第四條第一項ノ未遂罪トシテ第一條ニ於テ處罰セラレルモノダト斯ウ申シテ置キマシタガ、此ノ點ハマダ十分ニ考慮ガ致シテナイ點モゴザイマシタノデ、尙取調ノ上御返事ヲ申上ゲルト云フコトニ御返事ヲ致シマシタ、就キマシテハ此ノ點ニ付キマシテ慎重ニ色々相談、調査致シマシタガ、其ノ結果ト致シマシテハ、國家機密ヲ探知セムトシテ國家機密ヲ得ザリシ場合ニ於テハ、矢張り第四條ノ第一項ノ未遂罪トシテ第一條ニ依ツテ處罰セラレル、斯ウ解釋スルコトガ正シイト云フ風ニ意見ノ一致ヲ見マシタ (同第九號)

(12) 第十二條關係

○菊地委員 第十二條ニ誘惑ト云フ言葉ガアルノデアリマスガ、之ヲ一例ヲ以テ御説明ヲ願ヒタイノデアリマス
○大竹政府委員 其ノ御疑問ハ教唆ト誘惑ト並ベタ點カラ出テ來ル御疑問ト考ヘマス、教唆ト云フコトハ未ダ犯罪ヲ犯ス意思ノナイ人ニ、他人ガ或ル特定ノ犯罪ヲ犯スベキコトヲ示唆シテ、サウシテ其ノ人ヲシテ其ノ行爲ヲ實行セシムルト云フコトガ教唆デアリマス。スパイガ探知收集ヲスルト云フ場合ニ、手先トシテ他人ヲ使フト云フコトガアリ得ルト思ヒマス、而シテ其ノ場合ハ多クノ場合ニ教唆ト罰シ得ルトカトモ考ヘルノデアリマスガ、教唆ダケデハ足ラナイ場合ガアルノデアリマス、ト申シマスノハ斯ウ云フ重要ナル國家機密ヲ探知收集サセヨウト云フヤウナ場合ニ、イキナリ他人ニ向ツテ、君アレヨ一寸探シ

テ持ツテ來テ與レト云フコトヲ言フ人ハナイト思フノデアリマス、初メハ普通ノ社交ノヤウナ恰好近付キニナル、會食ヲスル、小遣錢ヲ補給スル、段々段々色々手ヲ用ヒテ行ツテ、義理ニ盡マシテ最後ニハ何時ノ間ニカ特定ノ方向ニ方向付ケテ、之ヲヤレト言ツテ居ルノダナト云フコトヲ暗黙裡ニ承知セシメルト云フヤウナ場合、是ハ「スパイ」トシテハ當然行フコトデアルト思フノデアリマス、ソコデサウ云フヤウナ場合ニ、ドウモ教唆ト云フ規定ダケデハ賄ヒ切レナイ場合ガアル、而モソレハ「スパイ」ガ得テ用ヒルノデハナイカト思ハレルヤウナ手段デアリマスカラ、特ニ誘惑ト云フ規定ヲ設ケタ次第デゴザイマス (衆議院國防保安法案委員會議錄(速記)第四四)

(13) 第十三條關係

○黑崎定三君 モウ一點十三條デ御向ヒ致シタイト思フノデアリマス、十三條ハ茲ニ列記シテアリマスル犯罪ノ豫備陰謀ヲ罰シテ居ル規定デゴザイマスガ、此ノ豫備陰謀罪ノ目的罪ニシテ居ルノハ初メテノ立法例デアリマセヌデセウカ、御承知ノ通り現行刑法ナラバ七十八條、假案ナラバ百三十三條内亂罪、ソレカラ現行法ナラバ八十八條、假案ナラバ百四十三條ナリマスガ、外患罪デアリマス、是ガ總テ内亂外患罪ノ豫備陰謀ヲ罰シテ居ル規定ガアリマスガ、何レモ目的罪ニハ致シテ居リマセヌ、本法ノ罪ニ付テノ此ノ豫備陰謀ノ目的罪ニシテ居ルノハ何カ別ニ理由ガアルノデアリマスカ
○政府委員(三宅正太郎君) 軍機保護法ノ第十六條ハ矢張り其ノ目的罪ノ豫備陰謀ヲ罰シテ居ルノデアリマス、尙治安維持法

ノ改正ニモ矢張り同ジヤウニ……
○黑崎定三君 私人言フノハ治安維持法デナクテ十三條デス
○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ十三條ハ例ガ他ニアルカト云フ所ヲ云フ御質問デゴザイマスカラ御答ヘ致シマスガ、軍機保護法ノ第十六條ニ矢張り目的罪ニ付テノ豫備陰謀ヲ罰スル規定ガアルノデアリマス

○黑崎定三君 然レバ私ノ疑問ハ、寧ロ進ンデ直接ニ申上ゲタ方ガ宜イカト思ヒマス、之ヲ目的罪ニセズシテ現行刑法七十八條、八十八條ノ如クデスネ、茲ニ列記シテアル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタ者ハ云々ト云フ風ニ書イタ方ガ秘密漏洩防衛ノ爲ニスル罰則規定トシテハ完璧デハナイデスカ、目的ヲヨリ能ク達シ得ルノデヤナイカ、サウ云フ疑問ヲ持ツテ居ルノデアリマス
○政府委員(三宅正太郎君) 大體軍機保護法ノ條文ニ依リマシテ推ヘタ譯デアリマス、八十八條ノヤウニ書キマスコトト、十三條ノヤウニ書キマスコトニ依リマシテ、其ノ趣旨ハ同一ニナルンデヤナイデスカ、同一ニナルンダト思フノデアリマス、結局同一ノ趣旨ダト思フノデアリマス (貴族院國防保安法案特別委員會議事速記第六號)

(14) 第十五條關係

○北浦委員 第十五條ニ參リマシテ、没取ト云フコトデアリマスガ、是ハ檢事ノナシ得ルコトトナツテ居リマス、如何ナル場合ニ檢事ノ没取ヲ御許シニナルカ、此ノ點ヲ詳細ニ伺ヒタイ
○秋山政府委員 是ハ檢事ニ於テ起訴猶豫處分ナドヲ致シマシタ場合ニ、ドウシテモ没取ノ處置ヲ執ラナケレバナラヌモノノ

處置ヲ規定シタ次第デアリマス、裁判手續ニ於テ起訴猶豫ニナツタ場合ノ押收物ノ處置ハ出來ナイノデアリマスカラ、其ノ場合ヲ規定シテ居ル積リデアリマス、
○北浦委員 没取ハ御承知ノ通り刑法ノ第九條ニ依リマシテ兩加刑デアリマス、此ノ附加刑ノ判決處分ニ記載シテ申渡スベキモノト常ニナツテ居リマス、ソコデハ一種ノ裁判ニ俟タナケレバナラヌ、没取スベキモノデアアルカ否カ、是ガ犯罪ニ依ツテ得タルモノデアアルカ否カ、犯罪ヨリ生ジタルモノデアアルカ否ヤ、サウ云フコトヲ判定シナケレバ没取スルコトハ出來ナイ、是ハ一種ノ裁判ト思フガ、如何デゴザイマセウカ

○秋山政府委員 此ノ條文ニモゴザイマス通り、檢事ノ場合ノ没取ハ特ニ没取ト云フ字ヲ用ヒテ居リマス、裁判ノ場合ト區別致シマシテ、是ハ行政處分ダト考ヘテ居リマス
○北浦委員 没取ト没取ト區別サレテ居ルノハ、私モ考ヘタノデス、ケレドモ實際ニ於テナサルコトハ同一ナノデアリマス、ドウシテ没取ナサルカ、犯罪カラ出タモノデアアルカラ没取ナノデアリマス、據ルベキ標準ノ根據ガ同一デアツテ、文字ダケニ寸變ヘテ、ソレデ行政處分ダ、裁判ニアラズト云フコトハ、是ハ國家ノ規則トシテ如何デゴザイマセウカ、準用スベキ條文ガ他ニアツテ、斯ウ云フ條文ガ他ニアルカラ没取ト没取トハ違フ、是ナラ承知モ出來マセウガ、據ルベキ條文ハ一緒ナノデアリマス、文字ダケ變ヘル、監獄ヲ刑務所ト變ヘテ、サウシテ入ル所ガ今ヨリ良クナツタノダト云フノデハ、聽ク人ハ承知シナイ、此ノ點ハ小手先ノコトダケデナク——私ハ是ハ憲法ノ二十

四條ヲ旨ク避ケヨウトシテナサツタノデハナイカト疑フノデア
リマスガ、如何デゴザイマセウカ

○秋山政府委員 斯ウ云フ規定ニ付キマシテハ、既ニ軍機保護
法ニ其ノ先例ゴザイマス其ノ先例ニ倣フタモノデアリマス

○北浦委員 軍機保護法ト是ト同一類デゴザイマスルガ、併シ
其ノ當時ハ論議サレタカ、サレナカク知リマセヌガ、兎ニ
角先例ガアツテモナクテモ、憲法第二十四條ノ違反ノ疑ヒガ濃
厚ニアリマス、文字ヲ變ヘルダケデ、裁判デナクテ、處分ナ
シ、此ノ點ハ私ハタドク申上ゲマセヌガ、國家ノ堂々タル法律
規定トシテ御考ヘ願ヒタイ(衆議院國防保安法案委員會議録速
記)第三回

○男爵奥田剛郎君 十五條ニアル此ノ物件沒收ノ規定ハ刑法總
則ニアツテ茲ニ御議ニスル必要モアリマセヌガ、後段ノ方ハ第
二項ヲ規定スル爲ニ置カレタモノト考ヘマスガ、檢事ガ調ベタ
ル上不起訴ノ場合ニ其ノ物件ヲ沒收スル必要ガアル時ニハソレ
ガ假ニ他人ノモノデアリマシテモ其ノ第一項ノ後段ノ方デ沒取
スルコトガ出來ルヤウニ思ヒマスガ、如何デゴザイマスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 御言葉ノ通りデアリマシテ、國家
機密ニ屬スルモノデアリマスノデ不起訴ニシタカラト言ツテ、
又其ノ者ニ遲スト云フコトハ面白クナイコトデアリマスノデ、
茲ニ斯ウ云フ規定ニ致シタ次第デゴザイマス

○男爵奥田剛郎君 ソコデハ唯感ジデアリマスガ、裁判ノ方
ハ犯人以外ノ者ニ屬シナイ時ニ限ツテ之ヲ沒收ス、處ガ檢事ノ
方ハソレガ犯人以外ノ者ニ屬シテ居ツテモ何デアツテモ沒取ス

ルコトガ出來ル、言葉ハ沒收ト沒取トニ區別シテアリマスルケ
レドモ、行爲、ソレカラ結果ハ結局取上ゲルト云フコトニナル
ノデ、何か斯ウ裁判所ヨリモ檢事ノ方ガ偉イ、強力ダト云フヤ
ウナ風ニ感ゼラレルヤウナ點ガアルヤウニ思ハレマスガ、ド
ンナモノデアリマセウカ

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ前段ノ方ハ從來ノ裁判ノ例ト
シテヤツテ居リマスコトヲ書キマシタガ、普通國家機密ニ屬シ
マス物件ト云フモノハ、多クノ場合ニ於テ何人ノ所有ヲモ許サ
レザル物件デアル場合ガ多クラウト思ヒマス、サウ致シマスレ
バ即チ犯人以外ノ者ニ屬セザルコトニナル、サウ云フ關係上從
來ノ例ニ則リマシテ「犯人以外ノ者ニ屬セザルトキニ限り之ヲ
沒收ス」ト致シタ次第デアリマス

○男爵奥田剛郎君 私モ斯ウ云フ物件ハ假令犯人以外ノモノデ
アツテモ持タシメナイ方宜イ、持ツテハナラナイモノト思ヒ
マスガ、サウ云フコトナラバ此ノ第一項デ裁判所ハ其ノ物件ヲ
沒收スルコトヲ得トシテ置イテハイケナイノデアリマセウカ

規定シテ居リマス、刑法ノ方デハ沒收スルコトヲ得トナツテ居
リマスケレドモ、此ノ方ハ必ズ沒收スルコトニ致シテアリマス
點ニ於テ此ノ點ガ違フ、併シ檢事ノ方ハ是ハ沒取スルコトヲ得
トアリマシテ、決シテ不當ニ沒取スルト云フ積リデハナイノデ
アリマスガ、ドウシテモ持タセテハナラヌモノデアリマス場合
ニ、何人ノ所有デアリマシテモ行政處分デ取上ゲル途ヲ講ジテ
居ル次第、斯ウ云フ譯デアリマス(貴族院國防保安法案特別委
員會議事速記第九號)

(15) 第二章關係

○秋山政府委員 此ノ國防保安法ニ依ツテ處罰ヲ受ケル對象
ハ、實ハ官吏ノ中デモ相當ノ地位ノアル者ガ之ニ觸レル處ガア
ルノデアリマス、ソレカラ尙ホ外國人等モ之ニ觸レル處ガ勿論
アリマスノデ、此ノ搜查手續ニ付キマシテハ極メテ慎重ナ態度
ヲ執ラナケレバナラヌコトハ申スマデモナイコトデアリマス、
尙ホ例ヘバ政府ノ大官ナドガ此ノ法律ニ觸レルト云フヤウナ場
合ニ、之ヲ政治的ニ利用スルヤウナコトニナリマスレバ、非常
ナ恐ロシイ結果ニナルト思フノデアリマス、ソレガ爲ニ搜查ヲ
一元的ニ檢事ヲ中心ニシテ、ソコヘ統轄ヲシテ、サウシテ統一
アル指揮命令ニ依ツテ、此ノ搜查ヲ行フコトガ極メテ必要デア
ルト思フノデアリマス、從來ノヤウニドウモアレガ怪シイカラ
ント云フコトデ、引張ツテ來テ行政檢事ヤルト云フヤウナコ
トニナリマス、忽チ政治問題若シクハ外交問題ヲ惹キ起シマ
シテ、甚ダ面白カラス結果ヲ招來スルコトニナラウト思ヒマス、
ソレガ爲ニ檢事ヲ搜查ノ中心ト致サセマシテ、一般刑事訴訟

法ト違ツタ特別ノ斯ウ云フ手續ヲ規定スルコトニナツタノデア
リマス、檢事ニ獨自ノ強制權ヲ認メマシタノハ、只今申シマシ
タヤウナ其ノ犯罪ノ特殊性ニ鑑ミテノコトデアリマス、成ベク
此ノ事件ヲ秘密ニ取扱ハウ、尙ホ迅速ニ處理シヨウト云フ趣旨
デアリマス、一々判事ノ承認ヲ求メ、判事ノ令狀ヲ求メテ搜查
ヲスルト云フコトデハ此ノ犯罪ニ對シマシテ十分ナル效果ヲ舉
ゲルコトガ出來ナイ、斯ウ云フ風ニ信ジマシテ檢事ニ獨自ノ強
制權ヲ認メタ次第デアリマス

○三宅政府委員 私カラ其ノ點御答ヘ致シマス、只今御言葉ノ
通り若シ判事ニ斯ウ云フコトガ處理出來ルヤウニ仕組ニナツテ
居リマスレバ、勿論ソレガ一番安心ノ置ケルモノデアリマス、
併シナガラ此ノ國家ノ機密ハ漏レテシマヘバ取返シガ付キマセ
ヌシ、國家ノ損害ト云フモノハ重大ナコトデアリマス、只今政
府委員カラ申述ベマシタヤウニ、其ノ客體トナリ對象トナルモ
ノハ政府ノ高官デアリ、或ハ外國ノ相當ナ人間デアルト云フ場
合ニ之ニ對シテドウ云フヤウナ搜查ノ方法ヲ施シタラ宜イカト
云フ問題ニナリマスルト、先ヅ是マデノ仕方ニ致シマスレバ、
行政檢事ヲシテ、其ノ行政檢事ノ間ニ搜查スルコト云フコトニ
ナリマス、所ガ行政檢事ト云フコトハ非合法ナコトデ、サウ云
フ取扱ヲスルト甚ダ不正デアリ、且又非常ナ弊害ヲ生ムノデ
アリマス、現ニ最近ノスバイ問題デモ、檢事ト云フコトガ屢々
非常ニ工合ガ惡イト云フコトヲ痛感致シタノデアリマス、ソレ
デ檢事ハモウ止メルト云フコトニシマス、結局強制處分ヲ判
事ニ求メテ、サウシテ判事ノ勾留狀ヲ貰ツテ、其ノ勾留狀ニ依

ツテ十日間拘束シテ調べルト云フコトニナリマスガ、其ノ判事ニソレダケノ勾留狀ヲ出サセルニハ、判事ガ納得スルダケノ材料ヲ捕ヘナケレバナリマセヌ、其ノ材料ガ直グソコニ轉ガツテ居ルナラバ宜シウゴザイマスケレドモ、其ノ材料ヲ出スノニ又相當ノ期間ヲ要スルノデアリマス、ソレナラバコソ其ノ前ニ檢束ト云フヤウナ非合法ナ手段ガ現在行ハレテ居ルノハソレガ爲メデアリマス、デアリマスノデドウシテモ先ヅ一應ノ捜査——マアドウチカト申シマスモマダ形ノ十分ニ定ラナイ其ノ間ニ於ケル捜査ト云フコトニ相當ノ時日ヲ藉シテ職カナケレバ、捜査ガ出来ナイト云フコトニナル、ソレハ即チ檢事ニヤツテ貰フト云フコトガ此ノ仕組デアリマス、何シロ敏速ニ且ツ慎重ニヤラナケレバナラヌト云フコトニナリマスノデ、結局斯ウ云フ風ナ仕組ニスルヨリ外ニハナイト考ヘマシテ、サウ致シタノデアリマシテ、其ノ結果ニ於テ御心配ニナルヤウナ弊害ハ、極力ナイヤウニ努メル積リデゴザイマス（衆議院國防保安法案委員會議錄（速記）第二回）

尙ホ一昨日モ色々御尋ネガアリマシタ檢事ニ強制權ヲ附與スル理由デゴザイマスガ、此ノ種ノ犯罪ハ其ノ特殊性ニ鑑ミマシテ、檢事ニ強制權ヲ附與スルコトガ相當デアルト想フノデアリマス、即チ此ノ種ノ犯罪ハ或ハ一國家ガ厄大ナル組織體ヲ持ツテ、或ハ謀叛或ハ宣傳等ヲ張リ繞ラシマシテ行フモノデアリマスカラ、之ニ對處致シマシテ、是ガ捜査ニ付キマシテモ、一元化ヲ圖ルコトガ極メテ必要デアリマス、ソレガ爲ニハ捜査ノ中樞タル檢事ガ中心トナリマシテ、司法警察權ト密接ナ

ル連絡ヲ取りマシテ、統一的活動ニ依ツテ、一學ニ組織ヲ破壊シナケレバナラヌデアリマス、若シ其ノ連絡ヲ缺キマシテ、散發的ノ檢事ヲ行フヤウナコトガアリマスレバ、ソレハ鯨魚ノミヲ得テ香舟ノ魚ヲ逸スル處レガアルノデアリマス、過般檢事ヲ致シマシタ英國「スパイ」事件ニ於テ、檢事總長指揮ノ下ニ一齊檢事ヲ行ツタノハ是ガ爲メデアリマス、檢事ガ捜査ノ中心デアリマスルコトハ現行刑事訴訟法ノ原則デアリマシテ、本法ニ依ツテ新シク設ケラレタ原則デハゴザイマセヌ、捜査ノ一元化ヲ圖リ、統一捜査ヲ行ヒマスルニハ、檢事ニ或ル程度ノ強制權ヲ附與致シマシテ、強力ニ捜査機能ヲ發揮セシメルコトガ絕對ニ必要デアルト存ジマス、尙ホ本法ノ違反事件ニ付キマシテ、一昨日モ申上ゲマシタヤウニ、外交官或ハ上層階級ノ人モ被疑者トナル場合ガ想像セラレルノデゴザイマス、隨テ其ノ捜査手續ハ飽タマデモ合法的デナケレバナラナイデアリマス、若シ非合法ノ捜査手段ニ出ヅルガ如キコトガアリマスカラ、直チニ外交問題、政治問題等ヲ惹起スル處レガアリマスルバカリデナク、或ハ政治的ニ檢事ガ利用セラレルヤウナ處レモナイトモ限ラスノデアリマスカラ、手續ノ合法化ト云フコトハ極メテ必要デアルト存ジマス、然ルニ現在ノ刑事訴訟法ニ於テキマシテハ、檢事ニ對シテ被疑者ニ對スル訊問權サヘモ認めラレテ居ナイノデアリマス、左様ナコトドドウシテ此ノ種ノ犯罪ガ捜査出来ルデゴザイマセウカ、國際機密戰ニ於テキマシテハ、例ヘバ

一寸速記ヲ止メテ載キマス

現行法上檢事ガ捜査機關ノ中樞トナツテ居ルノデアリマスカラ、檢事ヲ樞軸トシテ強力ニ捜査機能ヲ發揮セシムルコトガ、只今申シマシタ通り必要デアルト想フノデアリマス、是ガ本法ニ於テ檢事ニ強制權ヲ與ヘナケレバナラヌ理由デアリマス、唯斯ウ云フコトヲ申シマスルト、ソレハ判事ニ對シテ勾引、勾留等ノ處分ヲ求ムル權能ヲ認めルダケテ十分ニ目的ヲ達シ得ルデハナイカト云フ議論モアルカト存スルノデアリマスガ、併シ此ノ種ノ犯罪ハ極メテ迅速果敢ニ行動シナケレバナラヌノデアリマスカラ、一々判事ノ令狀ヲ求ムルガ如キコトハ其ノ目的ニ合致致サヌノデアリマス、且ツ若シ判事ガ令狀發付ノ當否ニ付テ判斷スル權能ヲ持ツト云フコトニナリマスレバ、益々急場ノ間ニ合ハナイコトニナリマス、若シ又判事ニ其ノ判斷權ガナイト云フ疑前ヲ取ルト致シマスルナラバ、徒ラニ手續ヲ煩瑣ニスルダケデアリマシテ、有名無實ノ議リヲ免レナイコトニナリマスカラ、寧ろ直截簡明ニ檢事ニ強制權ヲ與ウルコトガ適當デアルト考フルノデアリマス、併シ茲デ斯ウ云フコトヲ懸念スルコトガアルカモ知レヌト思ヒマスルノハ檢事ニ強制權ヲ與ヘタナラバ、ヤリ過ギテ人權蹂躪ノ問題ヲ惹起スル處レハナイカト云フコトデアリマス、實ハサウ云フ問題ヲ惹起スルコトヲ惧レルガ爲ニ捜査手續ヲ合法化シヨウト云フノデアリマス、本法成立ノ上ハ檢事ノ責任ト云フモノモ益々重キヲ加ヘルコトニ相成ル次第デアリマスカラ、一面ニ於テ檢事ニ對シ自重ヲ求ムルト共ニ、各監督官ヲシテ一段ノ監督ヲナサシムルヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス、尙ホ捜査機關ニ對スル監督ノ實ヲ舉グル一方

法ト致シマシテ、監察制度ニ付テ考慮致シテ居リマス、即チ本省ニ監察官ヲ設ケマシテ、尙ホ司法部内高官ヲ以テ組織スル諮問機關ヲ設ケテ兩々相俟ツテ非違ヲ糾スト云フヤウナ制度ヲ急進ニ樹立致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、以上ヲ以テマシテ一昨日ノ御質問ニ對スル答辯ヲ補ツテ置キマス

○秋山政府委員 身柄ヲ拘束スル必要ガアリマスレバ、直チニ檢事ノ令狀ナリ、或ハ檢事ノ命令ニ依リ司法警察官ノ令狀ナリニ依ツテ之ヲ處置スル考ヘデアリマス、行政執行法ニ依リ檢束處分ハ、是ハ行政執行法ノ目的ニ依ツテ檢束處分ヲスルコトハ從來通り已ムヲ得ナイト思ヒマスケレドモ、此ノ犯罪ヲ捜査スル爲ニ行政執行法ノ檢束處分ヲスルコト云フコトハ、本法ノ成立シタ上ハ絕對ニナイコトヲ申上ゲテ置キマス、併シ從來ト雖モ行政執行法ノ檢束處分ヲ外ノ犯罪ニ利用スルト云フコトハ、色々意味ニ於テ言ハレテ居リマスケレドモ、行政執行法ニ依ツテ檢束處分ヲスルノハ、又ソレダケノ理由ガアツテヤルコトデアリマセウカラ、ソレガ直チニ不法ダト決メルコトハ出来ナイト思ヒマス、唯併シ若シ行政執行法ニ依リ檢束處分ヲ、他ノ犯罪捜査ノ爲ニヤルト云フコトデアレバ、是ハドウモ違法ノ處置デアルト思ヒマス、サウ云フコトハ此ノ法案ノ成立シタ曉ニハ絕對ニナイト云フコトヲ申上ゲマス

○北浦委員 モウ一點デス、第二十五條以下ニハ檢事ニ關シテ設人訊問、鑑定人ノ鑑定等ヲ命ジ得ルコトニナツテ居リマスガ、吾々辯護士ハ檢事ト云フモノニ強力ナ權力ヲ持タシタラ惡イト云フコトヲ日常經驗致シテ居リマスノデ、申スノデゴザイ

マス、之ニハ刑事訴訟法ノ規定準用トナツテ居リマスガ、例ハ
バ證人拒絕權トカ、或ハ證人ガ故ナクシテ出頭シナカッタ場合
ノ過料、勾引、宣誓、斯ウ云フモノハ全部準用ニナルノデゴザ
イマスカ、如何デゴザイマスカ

○三宅政府委員 宣誓ハサセルコトハ出來ナイノデゴザイマ
ス、ソレ以外ノコトハ準用ガアリマス

○北浦委員 サウ致シマス、現行法ニ依リマス、檢事ハ證
人ノ訊問トカ、鑑定人ノ鑑定、是ハ表面ハ出來ナイコトニナツ
テ居リマスガ、實際ハ證人ト云フ名ヲ使ハナイデ、參考人トカ
或ハ承諾同行ト云ウテ引張ツテ來テ、是ハドシドシヤツテ居ラ
レル、刑事記録ニハ證人ノ訊問調書トハ書イテアリマセヌガ、
聴取書トカ何トカ云ウテ、全部是ハ出テ居リマス、宣誓モサセ
ナイ、サウシテ餘リ大シテ證據力モナイ記録ヲ作ル爲ニ、吾々
ハ判事ノ職分ニ入ツテ居ルト思ヒマスガ、態々此處ニ證人ノ訊
問、鑑定人ノ鑑定、サウ云フコトヲ書カナクテモ用ハ足リルノ
チヤナイカ、斯様ニ思フノデゴザイマスガ如何デゴザイマスカ

○三宅政府委員 此ノ宣誓ハサセマセヌデモ、召喚ヲシ勾引ヲ
スル、其ノ證人ニ對シ出テ來ナイ者ハ勾引スルト云フ權利ハア
ルノデスカラ、從來ト違ヒマシテソレダケノ強制力ハ檢事ガ行
ヒマス、隨テソレニ依ツテ證據ノ蒐集ガ完全ニ出來ルト思ツテ
居リマス(同第三回)

○西田委員 證人訊問ノ場合ノ宣誓デアリマスガ、取調ヲ受ケ
ル際ニ檢事局デ宣誓ヲスルノデアリマスガ、其ノ法律上ノ根據
ハ何處ニアルノデアリマスカ、何カ法律上ノ根據ガアルノデア

種ノ連絡ヲ持ツテ居ルヤウナサウ云フモノデアツテ、而モ其ノ
活動ハ極メテ隱密ニ働クヤウニ出來テ居ルモノデアリマス、サ
ウ云フモノヲ目標トシテ、ソレ等ノモノガ日本ノ國家ノ中ニ或
ハ謀報ヲ探リ、或ハ謀略ヲ行フトカ云フ風ナコトヲ防遏スル爲
ニ、此ノ搜查ト云フコトガ發動セラレテ居リマス、從ツテ
是等ニ對スル關係ハ一元的ナ搜查ノ一ツノ中心ヲ以チマシテ、
其ノ中心カラ各般ノ指令ヲ出シテ、サウシテ統一シタル搜查ヲ
致スニ非ズンバ、十分ナ效果ヲ得ナイコトハ言フヲ俟タナ
イコトヲ思フノデアリマス、唯端ノ方カラ何等秩序ナシニ搜
査ニ掛リマスレバ、忽チ向フノ組織ト云フモノハイツノ間ニカ
消エテシマツテ、結局コソチノ目的ヲ達シナイヤウニナル、飽
ク迄モ組織的ニ、コチヲノ方ノ捜査陣ニ組織的ニ緊密ニ連絡ヲ
取ツテ致サナケレバナリマセヌ關係上、ドウシテモ其ノ捜査ニ
付テハ一ツノ中心ヲ作りマシテ、其ノ中心ノ活動ニ依ツテソレ
ゾレノ其ノ部下ガドン／＼働クト云フコトニナラナケレバナリ
マセヌ、サウ云フ犯罪ノ捜査ノ性質上、機械ニ働カナケレバナリ
マセヌ關係上此ノ刑事手續、マア捜査手續ガ必要ナンデアリマ
ス、尙、更ニ考ヘマスコトハ、此ノ手續ハ正當ニ行ハレバ結
構デアリマスガ、毎々御心配ニナリマスヤウニ、法律ノアルコ
トヲ尙貨トシテ之ヲ國內ノ政治ノ謀略ニ濫用スルト云フ風ナ事
ガ、萬々一アツテハナラナイノデアリマスガ、併シナガラ是ハ
アリ得ナイコトハナイ點ガゴザイマスノデ、ソレヲ嚴ニ戒メル
爲ニモ、統一シタ中心ニ依ツテ此ノ捜査陣ヲ張ルト云フコトガ
必要ナノデアリマス、其ノ關係上、此ノ捜査手續ニ於テハ、斯

リマスカ

○大竹政府委員 證人訊問ノ場合ニ宣誓ヲサセルノカト云フ御
尋ネヤウデアリマシタガ、是ハ刑事訴訟法ノ第二百五條ニ

「檢事又ハ司法警察官證人ヲ訊問スル場合ニ於テハ宣誓ヲ爲サ
シムルコトヲ得ス」ト云フ規定ガアリマス、此ノ規定ニ依リマ
シテ、本法ノ此ノ刑事手續ニ依ツテ證人ヲ訊問スル場合ニモ證
人ニ宣誓ハサセナイノデアリマス(同第四回)

○松村委員 十六條ノ規定ニ付キマシテ御尋ネヲ申上ゲルノ
デゴザイマスガ、十七條以下ニ特別ノ搜查裁判等ニ關係スル手
續ガゴザイマスガ、此ノ十六條ノ第一項ノ一號、即チ此ノ國防
保安法案ノ罪デゴザイマスガ、ソレニ對シテ特別ノ手續ヲ御決
ニナリマシタ理由、ソレカラ同ジク二號ニ掲ゲラレテアリマス
ル犯罪ニ又同ジ手續ヲ適用サレマス理由、更ニ第二項ノ罪ニ適
用サレマス理由、是等ヲ區別サレマシテ、其ノ理由ヲ明確ニ
而シテ詳シク御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(三宅正太郎君) 第三條乃至第十三條ノ罪ニ付テ、
先ヅ第一ニドウ云フ譯テ斯クノ如キ強制權ナリ、其ノ他ノ手續
ヲ必要トスルカト申シマスレバ、先ヅ第一ニ、本法ハ國家機密
ト云フコトヲ主眼トシテ規定シテアリマス、而シテ其ノ國家機
密ト云フモノハ其ノ漏泄ト云フヤウナコトハ、誰モ知ツテ居
ルト云フ譯テナイ、極メテ機械ニ屬スルコトデアリマスシ、尙
之ヲ犯ス者ハ、或場合ニ於テハ外國人デアリ、或ハ外國ノ爲ニ
働ク所ノ本邦人デアル、サウ云フ風ナモノデアリ、サウシテ
ソレニハ或場合ニハ大キナ組織ヲ持チ、又外國トノ間ニ於テ各

タノ如ク檢事ヲ中心トシテ、サウシテ強制力ヲ以テ、敏速ニ果
敢ニ此ノ搜查ヲ致スト云フコトノ必要上、第三條乃至第十三條
ノ罪ニ付テノ搜查ニ付テハ、此ノ刑事手續ガ必要ナル、斯ウ
云フ譯デアリマス、尙公判手續ニ付キマシテハ後ニ纏メテ申上
ゲマス、ソレカラ第二號ノ軍機保護法以下ノ規定ハ、是ハ性質
上、本法ノ第三條乃至第十三條ノ罪ト殆ド其ノ性質ヲ同ジウス
ルモノデアリマシテ、其ノ搜查ニ於キマシテモ相關聯スル場合
ガ多ウゴザイマスシ、又同一ナ搜查ヲ必要トスル點ニ於テ、矢
張り本法ノ罪ト其ノ性質ヲ同ジウ致シマス關係上、軍機保護法
ナリ、或ハ外患罪ナリ、或ハ利敵罪ナリ、此ノ種ノ犯罪ト云フ
モノモ矢張り同ジ搜查手續ニ依ラシムルコトヲ適當ト認メタ次
第デアリマス、尙附加ヘテ申シマスガ、先程申上ゲマシタヤウ
ニ、是等ノ犯罪ヲ犯シマス者ガ外國人デアリ、或ハ其ノ他相當
ノ身分アル者デアル關係上其ノ搜查ト云フコトニ付テハ、是ハ
十分ニ合法的ニ、何處迄モ法律ノ上ニ何等缺點ナキ手續ヲ以テ
搜查ヲ遂ゲルコトガ必要デアリマシテ、若シサウ云フコトヲ致
シマセヌト、屢々外交問題ヲ惹キ起シタリ、其ノ他忌ハシキ問
題ヲ起ス危險ガアルノデアリマスカラ、サウ云フ點ニ於キマシ
テモ、有ユル手續ヲ合法的ニシ、誰ガ見テモ差支ノナイ、公明
ナル搜查手續ニ依ツテ處置ヲ致シタイト云フコトモ、矢張り本
法ニ刑事手續ヲ設ケマシタ一ツノ原因デアリマス、次ニ第十六
條ノ第二項ニ掲ゲテアリマス犯罪ハ澤山ゴザイマスガ、此ノ罪
ハ別ニ特ニ本法ノ犯罪ト同種ノ犯罪ダト斯ウ申スモノデアアリ
マセヌ、併シナガラ此ノ犯罪ガ此處ニ書イテアリマスヤウニ、

外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ興フル目的ヲ以テ犯サレタル場合ニ於テハ、恰モ本法ニ於テ取締ラレル必要ト同ジ必要ガ其處ニ生ジテ來ルノデアリマス、例ヘバ外國ト通謀シテ日本ノ國內ニ對シテ破壞謀略ヲ行フ、例ヘバ政府ノ要人ヲ狙撃スル、或ハ其ノ他各種ノ、例ヘバ此處ニ書イテ……或ハ各種ノ不穩文書ヲ頒布スル、其ノ他有テユル交通ナリ其ノ他ノ方法ニ支障ヲ生ゼシメテ、サウシテ國內ヲ擾亂スル、斯ウ云フコトガ、ソレガソレダケデアリマスレバ、唯國內ノ一犯罪ニ過キナイノデアリマスガ、ソレガ外國ト通謀シ若シクハ外國ニ利益ヲ興フル目的ヲ以テナサレタト云フ場合ニ於キマシテハ、即チ外國ガ働キ掛ケタ、外國ノ魔手ガ日本ニ及ンデ居ル譯デアリマスカラ、斯クノ如キ外國ノ攻撃ニ對シテハ、即チ此ノ本法ニアル刑事手續ヲ以テ矢張り同様ニ臨ム必要ガアル、斯ウ云フ譯テ此ノ規定ヲ設ケタ次第デアリマシテ、其ノ結果ニ於テハ同ジ刑事手續ヲ用ヒルコトガ必要ダト思フノデアリマス、尙是等ノ犯罪ニ對シテ公判手續ニ付テ辯護人ノ制限ナリ、審級ノ制度ノ制限ヲ致シマスコトハ、先程來申上ゲマシタヤウニ、此ノ種ノ犯罪ハ、敏速ニ處置ヲスルコトヲ要スルト云フコト、ソレカラ又出來ルダケ國內ニ傳播シナイコトヲ必要トスルト云フ見地カラ致シタ次第デアリマス、大體ニ於テ左様ニ御承知願ヒマス（貴族院國防保安法案特別委員會議事速記第六號）

(16) 第十六條關係

○北浦委員 第一點ハ此ノ問題ノ十六條テゴザイマス、此ノ中外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ興フル目的ヲ以テ刑法第二編

第一章皇室ニ對スル罪ガ規定シテゴザイマス、此ノ點ニ付テ二ツノ理由ヲ質問致シタイ、此ノ種犯罪ハ刑事訴訟法ハ一審且ツ終審テゴザイマス、然ルニ偶々外國ニ利益ヲ興ヘル目的、左様ナ馬鹿者ハ日本ニ居ナイノデゴザイマスガ、假ニ外國ニ利益ヲ興フル目的ヲ以テ皇室ニ危害ヲ加ヘルト云フコトニナリマスルト、本法ニ依リマシテ二審制度ニヤラレル、サウ云フコトハ不都合デハナイカ、是ガ一點デアリマス

ソレカラ一體外ノ條文皆左様ニ私ハ考ヘルノデアリマスガ、特ニサウ云フ不都合ヲ來スノミナラズ、皇室ニ對スル罪ヲ斯様ナ目的ヲ規定スルト云フコトガドウカ、申スマデモナク萬邦無比ニ一億ノ帝國臣民ガ外國ヲ利スル爲メ皇室ニ對シテ危害ヲ加ヘルト云フヤウナコトハ想像スルコトカラ恐懼シテ居リマス、敵國ニハ一億ノ忠良ナル臣民ガ瞞ヲ作ツテ防衛シテ居リマス、敵國人ト雖モ其ノ尊嚴ノ冒瀆ヲ許サナイ、之ヲ特ニ茲ニ加ヘラレテ居ル、私ハ今日マデ斯様ナコトハナカウタト確信致シマスガ、假ニ左様ナ形跡テモ未達テモ、豫備テモアツタト致シマスルト、私ノ此ノ考ヘハ非常ニ間違ッテ居ル、直クニ養成致シマス、此ノ法律上ノ根據、ソレカラ我が國ノ國體——外國デハ是ハ必要ガゴザイマス、斯ウ云フ立法例ハアリモ致シマスルシ、スル必要モアル、日本デハ是ハ必要ナイト私ハ考ヘテ居ルノデゴザイマスルガ、或ハ必要アルノカモ分ラナイ、此ノ點戰爭以來斯様ナ形跡テモアツタノカト云フ點ヲ陸軍ノ方デモ結構テゴザイマスルシ、或ハ司法省ノ方デモ結構テゴザイマスルカラ、秘密會テモ宜シウゴザイマスカラ御答ヘ願ヒタイ

○三宅政府委員 第一點ニ付テ御答ヘ致シマス、皇室ニ對スル罪ニ付キマシテハ、御答ニ通り一審且ツ終審ノ訴訟手續デアリマシテ、ソレハ此ノ法案ニ付キマシテモ、此ノ法案違反、即チ第十六條ニ違反致シマシタ場合デモ、ヤハリ一審終審ニナルノデアリマス、ソレハ本法第三十八條ニ刑事手續ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一般ノ規定ノ適用アルモノトスルト書イテゴザイマスノデ、特ニ本法ニ此ノ規定ガゴザイマスケレドモ、此ノ分ニ付テハ原則ガ即チ一審且ツ終審デアリマスノデ、其ノ方ニ據ルト云フコトニナリマスノデ、即チ從來ノ刑事手續ニ據ル譯デアリマス、尙ホ第二點ニ付キマシテ私ノ御答ヘシ得ル範圍ダケ申上ゲマス、本法ハ日本人ノミ適用ガアル譯デハナイノデアリマシテ、外國人ニモ適用ハゴザイマス、又本法施行地ノ外ニ於テナサレタルモノニ付テモ、ヤハリ適用ガアル譯デアリマシテ、苟クモ我ガ日本ノ國民タル者ガ、御話ノヤウナ罪ヲ犯スト云フコトハ想像スルコトモ甚ダ心外ナコトデゴザイマスガ、併シ外國ノ手元ニナツテ外國人ガ萬々一サウ云フヤウナ所爲ニ出ヅルヤウナコトモ考ヘラレマスシ、又帝國ノ領域外ニ於テサウ云フコトノ陰謀ヲ行フト云フコトモ想像シ得ラレナイコトモナイノデアリマスカラ、サウ云フ場合ヲ考ヘ

タ次第デアリマス

○田中政府委員 サウ云フコトガ實際ニ表面化シタコトガアリマス、現在私ノ知ツテ居ル範圍デハ、朝鮮國籍ヲ脱シテ支那ニ歸化シタ朝鮮人ノ中ニ韓國獨立ヲ策シテ居ル一味ガアル、是ハ年ガラ年中日本ノ皇室ヲ目的トシテ居ル、ソレダケ申上ゲテ置

キマス

○北浦委員 第一點ハ能ク、分リマシタ第二點テゴザイマスガ、現行刑事訴訟法ニ依リマス、判事ノ裁判事務ト檢事ノ搜查處分トハ截然タル區別ヲ致シテ居ル、例ヘバ勾引、勾留、證人訊問、鑑定、但シ已ムヲ得ザル場合、例ヘバ現行犯人ヲ逮捕致シマシテ、而モ急速ヲ要スル時トカ、或ハ判事ノ勾引狀ヲ求メルコト能ハザル時ト云フヤウナ條件ヲ附シテ檢事ニ之ヲ許シテ居ル、是ハ申スマデモナク判事ノ職務ト檢事ノ職務トノ範圍ヲ限定シテ、互ニ相侵スコトナカラシムルヤウ規定サレテ居ル、是ハ疑ヒナイ、所デ十六條テハ無條件ニ原則トシテ檢事ガ判事ノ仕事ヲスル、ソコテ私ハ裁判所構成法ノ第八十一條ニ依ルト一檢事ハ如何ナル方法ヲ以テスルモ判事ノ裁判事務ニ干渉シ又ハ裁判事務ヲ取扱フコトヲ得スルト規定シテ居リマスノハ、是ハ刑事訴訟法ト精神ガビツタリ一致シテ居ル、是ガ判事側カラ見マシタ疑問テゴザイマス、無暗ニ判事ノ仕事ニ食ヒ込ム、是デ皆失敗スル、ソレカラ從來刑事訴訟法ノ判事ノ仕事ト云フモノハ、勿論是ハ裁判事務デアアル、裁判事務ハ裁判ノ一部分テゴザイマス、今度ハ臣民ノ側カラ御尋ネ致シマスガ、憲法第二十四條ニ「日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ享ハルコトナシ」此ノ規定ヲ能ク御考ヘ願ヒタイ、裁判所構成法ノ此ノ規定ト憲法ノ此ノ條文ト是モ一致スル、他ノ憲法中ニ於キマシテハ臣民ノ自由權ハ何レモ斯ウハ書イテ居ナイ、法律ニ定メタルノ外、或ハ別ニ法律ニ定ムルコトガ出來ルゾト云フコトヲ規定シテゴザイマス、例ヘバ住居ノ自由權、信教

ノ自由、言論ノ自由、皆左様ニ書イデゴザイマス、此ノ裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ト云フ點ダケハ、法律ヲ決メテハイカスト云フノデ、但書ハナイノデゴザイマス、其ノ代リニ憲法第三十一條ニハ「本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ、天皇大權ノ施行ヲ妨ケルコトナシ」ト規定シテ、臣民ノ自由權ヲ法律ノ有無ニ拘ラズ大權ノ發動ニ依ツテ制限スル旨規定ガゴザイマス、何デモ出來ル、斯ウ云フ規定ヲ置カクテモ出來ル、ソコデ私ハ構成法並ニ憲法ノ方カラ斯ウ云フ規定ヲスト云フコトハ、構成法ノ精神ニ反スル、無暗ヤタラニ判事ノ領分ニ入ツテ行クコトハ宜シクナイ、是ハ憲法違反デハナイカ、ソレカラ大權事項ヲ立法府ヲ議スルコトニ相成リハセスカ、此ノ理由カラ出來ルナラバ「一ツ削除サレテハドウカ、斯様ニ考ヘテ居リマスガ、明快ナル御答辯ヲ望ミマス」

○三宅政府委員 本法ニ規定シテアリマスル檢事ノ職務ハ、是ハ公訴提起前、即チ起訴前ノ捜査手續アリマス、起訴前ノ捜査手續ニ付キマシテハ、檢事ガ之ニ當ルコトハ法規ノ上ニ於テ何等差支ヘガナイコトニナツテ居リマス、而シテ其ノ公訴提起前ノ捜査ニ付テ檢事ノ活動ニ關スル規定ヲ設ケタ譯デアリマシテ、何等判事ノ領分ニ檢事ガ容喩スルト云フヤウナ、裁判所構成法八十一條ニ違反スルヤウナ行爲デナイト考ヘテ居リマス、尙此ノ捜査手續ハ憲法ニ申シマス裁判ト云フ、裁判手續デハゴザイマセスカラ憲法ニモ反スルモノデハナイ、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス(衆議院國防保安法案委員會議録(連記)第六四)

○田村委員 次ハ刑事手續ニ關スル第十六條第二項ノ點デアリ

マスガ、是ハ刑事訴訟手續ノ調期的變革デアルトモ言ヘルノデアリマス、是ガ取扱ノ如何ニ依ツテハ本法運用上ノ弊害或ハ人權蹂躪等ヲ派生スル處ガアリマスカラ、其ノ點ナキヲ期シタイ爲ニ此ノ點ヲ明確ニシテ置キタイノデアリマス、第十六條ノ二項ニ「外國」トシテアリマス、外國ト云フ言葉ハ第三條ニ依リマシテ、外國人ヲ包含スルト云フコトハ法文上明瞭デアルト思ヒマスガ、外國人ト第十六條第二項ニ包含セラレテ居ル所ノ各法令等ニ關シマシテ、或ハ外國人ト貿易ヲヤツテ居ル者ガ如何ニ取扱ハレルカ、外國貿易ハ現在事變下ニ於キマシテモ極力振興シナケレバナラヌ、然ルニ外國貿易ヲスル爲ニ此ノ法律ニ觸レルト云フヤウナコトニナツテ參リマス、茲ニ相當深ク考慮シナケレバナラヌ問題ガ起ル、或ハ外國人ト行動ヲ共ニシテ「國家總動員法ガ規定セラレテ居リマスカラ、商賣上關取引ヲヤツタト云フヤウナ場合ニハ此ノ刑事手續ガ適用セラルル、斯ウ云フコトニナツテ居リマス、斯ウ云フコトニナツテ三十四條ト關聯シテ來ルノデアリマスガ、此ノ點ニ對スル取扱、事ヲ極端ニ申シマスレバ、外國人ト行動ヲ共ニスル一切ノ行爲ハ本刑事手續ニ依ツテ取扱ハレルト云フ風ニ見ラレルノデアリマス、而モ目的ハ防諜デアルガ、此ノ點ニ關スル明確ナル御説明ヲ此ノ際ホツテ疑義ヲ質シテ置キタイノデアリマス

○秋山政府委員 只今ノ御答辯ノ本法第十六條第二項ノ所謂「外國」ト通譯シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ「外國」ト申シハ外國人個人ヲ包含スルカト云フコトデアリマスガ、是ハ解釋上ハ包含シテ居ルノデアリマス、然ラバ只今御答辯ガアリマ

シタヤウニ、少々其ノ扱ヒ上ニ於テ酷ニ失スルヤウナ場合モ起リハセヌダラウカ、其ノ點ハドウデアラウカト云フ御趣意ノヤウニ承リマシタガ、外國人ガ外國政府ノ指令ヲ受ケテ來テ居ル者デアルカドウカト云フコトハ、捜査ノ手ガ國外ニ及ビマセヌノデ、其ノ點ハ甚ダ困難デアリマス、併シナガラ實際問題ト致シマシテハ、表面ハ普通ノ善良ナル實業家、旅行者デアリマシテモ、其ノ人ガ外國政府又ハ軍部ノ内命ヲ受ケテ居ルカモ知レナイノデアリマス、之ヲ心配シナケレバナラヌト云フノガ今日ノ實情デアリマス、隨テ表面上大變態ニ失スルヤウナ感ハアリマスルケレドモ、必要上已ムヲ得ナイモノデアルト、此ノ點ハドウゾ御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス、然ラバ「外國人ト取引ヲシテ、ソレガ臨時措置法ナドニ觸ルルナラバ、外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ取引シタコトニナルカト云フコトデアリマスガ、ソレハ自己ニ利益ヲ得ル目的ニ過ギナイノテハナカラウカト思ヒマス、相手方ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ取引シタモノトハ是ハ認メラレナイト思ヒマス、尙ホソレ等ノ點ニ付キマシテハ運用上十分注意ヲ致シマシテ、目的ヲ以テナシタモノデアルカドウカト云フ點ニ付キマシテ、詳細ナル取調ヲナシマシテ、適當ニ處理ヲ致シタイト考ヘテ居リマス(同第七回)

○黒崎定三君 私人聽キ誤リデアリマシタラバ取消ヲ致シマスガ、成ル程國防保安法ニハ、私先程申上ゲマシタヤウニ、治安維持法ノ罪ニシテ而モ外國ニ通譯シ又ハ外國ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テスル、サウ云フ目的ヲ持ツテ居リマスレバ本法ヲ適用スル、第二章ノ刑事手續ヲ適用スル、斯ウナツテ居リマス、居リ

マスガ、其ノ適用セラルベキ國防保安法ノ特別規定ヲ見マスルト、治安維持法ノ刑事特別手續ノ規定ト殆ト變リナイ、治安維持法ノ罪ニ付テノ特別規定ハ今ノ外國ト通譯シヤウトシマイト、外國ノ利益ヲ圖ル目的ガアラウトナカラウト、サウ云フコトト間ハズ、總テ特別規定ニ依ルノデアリマス、其ノ特別規定ハ國防保安法ニ規定シテ居ル特別規定ト全然同ジダト申シテ宜イ譯デアリマス、唯先程私ガ申上ゲマシタ點ダケガ違ツテ居リマス、豫防拘禁ヲ第一ニシテ、其他ノ問題ガ違ツテ居ルダケデアリマス、其ノ他檢事ノ命令ヲ以テ司法警察官更ガ勾引シテ見タリ、或ハ第一審ノ裁判ニ對シマシテハ控訴ヲ許サナイト云フ點モ全ク同ジ規定デアリマス、同ジ規定ガ書イテアリマスノデ、ドチラヲ適用シテモ宜イノデアリマスカラ、觀念論ニナルカモ知レマセヌガ、若シ國防保安法ノ方ヲ強ク解釋シ、強イモノダト解釋シマスト同ジ規定ガアルニ拘ラズ、治安維持法ノ罪ニ付キマシテハ、法文ノ内容ハ同ジデアアルニ拘ラズ、國防保安法ノ刑事手續ノ第何條ノ規定ニ依ル、斯ウ云フコトニナラザルヲ得ヌノデアリマス、是ハ單ニ觀念滿足ダケニ過ギナイノデ、實質ニハ何等ノ利益ガナイノデハナイカト思ハレルノデアリマス、寧ろ是ハ私ノ考ヘダケデアリマスガ、治安維持法ノ改正案ヲ別途御出シニナリマスナラバ、アレト説ミ合セマスルト、國防保安法中ノ此ノ刑事特別規定ハ治安維持法ノ罪ニ付テ適用スルト云フコトヲ言フ必要ハナイノデハナイカ、斯ウ思フノデス如何デゴザイマスカ

○政府委員(秋山要君) 御尤モノ御尋ダト思ヒマスガ、此ノ國

防保安法ハ防護法デアルト云フ點ニ考ヘマシテ、其ノ性質ヲ明カニスルト云フヤウナ意味デアリマシテ、外國ト通謀シタル治安維持法ノ罪ハコチラヘ入レタ方ガ宜カラウ、斯ウ云フ風ニ考ヘタノデアリマス、ソレレテ國防保安法ト治安維持法トノ關係ハ只今通話モアリマシタガ、國防保安法ノ方ガ勿論強イノデアリマシテ、是ハマア治安維持法ノ一ツノ特別法ト云フヤウナコトニナルノデハナイカト考ヘマス、デスカラ外國ト通謀シタル者ニ付キマシテ治安維持法ノ刑事手續ノ規定ガ適用ニナル、斯ウ云フ風ニ解釋シテ居ル次第デアリマス（貴族院國防保安法案特別委員會議事速記第二號）

○澤田牛豊君 私ハ非常ニ幼稚ナコトヲ教テ乞フ譯デアリマスガ、今例ニ出マシタカラチヨツト其ノ序ニ伺ヒタイノデアリマス、本法ノ罪人當然一種ノ罪ノ一カテゴリニ成シテ居ルモシテスカラ、問題ナイノデスケレドモ、松村委員カラ御話ノアリマシタ二項ノ問題ニ付テハ、外國ニ利益ヲ與ヘルカ外國ト通謀スルカ、サウ云フヤウナ法文ニクツ附イテ居ツテ、一種特別ナ犯罪ニナルノデアツテ、サウシテソレニ依ツテ二審カ三審カニ分レル、猶ガクツ附イテ居ルト二審ニナリ、猶ガクツ附イテ居ナイト三審ニナル、此ノ猶ノ有ルカ無イカト云フコトガ既ニ相當ナ疑問デ、其ノ疑ガアツテ裁判ヲサレルノデアリマスカラ、判決ノハツキリ分ル迄ハ、此ノ猶ガ果シテ附イテ居ルモノデアルカ、或ハ附イテ居ラスモノヲ捜査スル者ガ附イテ居ルト見誤ツタカト云フ、ソコノ點ガムツカシイモノダラウト思フノデスガ、サウスルト二審ノ手續ニ屬スルモノカ、三審ノ手續ニ

屬スルモノカ、初メ二審ノ手續ニ屬スルモノガ途中カラ三審ノ手續ニ屬スルモノカ、其ノ邊ガ私共裁判ノ實際ヲ知リマセスカラ、ドウナルカ分リマセヌノデ、御教ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員（三宅正太郎君） 今御話ノ外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ、爲シタル此ノ種ノ犯罪ト云フモノハ外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與ヘル目的ヲ以テ爲シタルトシテ起訴セラレマスカラ、其ノ起訴セラレタノニ基キマシテ、其ノ判斷ヲ致ス、今御話ノ猶ガ附イテ居ルモノト認定スレバ、猶ガ附イテ居ルトシテ判決ヲ致シマス、必ズ猶ニ付テノ判斷ヲシナケレバナラヌヤウニ、此ノ先ニ條文ガ出來テ居リマス、若シ此ノ猶ガ附イテ居ラヌト云フコトニナリマスレバ、ソレハ普通ノ手續ヲ濟ム譯デアリマス、控訴審ハ許サレル譯デアリマス、サウシテ是ハ此ノ第三十四條デ一裁判所ハ外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ第十六條第二項ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認定メタルトキハ其ノ旨ヲ判決ニ揭示スベシト斯ウ書イテアリマス、此ノ揭示スルコトニ依ツテ、控訴審ニ行タカ、或ハ上告審ニ行タカト云フコトノ區別ガ付ク譯デアリマス

○澤田牛豊君 分リマシタ

○内田重成君 私ハ本條ニ付キマシテ疑ヲ持ツテ居リマスルノハ、刑事訴訟法中管轄ノ規定トノ關係デアリマスガ、一人ノ被告人ガ本條ニ規定シタル罪ト他ノ普通ノ罪ト同時ニ起訴セラレル場合ニ於テ、即チ刑事訴訟法ノ牽連事件、申上ゲル迄モナク第五條、第七條、第八條、第九條、第十條、之ニ依リマスル

ト、土地管轄ヲ異ニスル數個ノ事件ガ牽連スル時ハ、一箇ノ事件ニ付管轄權ヲ有スル裁判所ガ併セテ他ノ事件ヲ管轄スルコトヲ得、又事物管轄ヲ同ジタル數個ノ牽連事件ガ各別ニ數個ノ裁判所ノ公判ニ屬スル時ハ、檢事ノ請求ニ依リ決定ヲ以テ各裁判所ハ一ノ裁判所ニ併合スルコトヲ得、而シテ數個ノ事件ハ左ノ場合ニ於テ牽連スル、一人ガ數罪ヲ犯シタル時、マア假ニ此ノ一項ダケヲ以テ論ジテ見マスルト、一人ガ竊盜若シタハ強盜、其ノ他ノ犯罪ヲ犯シ、併セテ此ノ本條ニ規定シタル罪ヲ犯シタト云フ場合ニ、其ノ數箇ノ罪ニ付テ一ノ裁判所ガ審理ヲ致シマス時ニ、又ハ檢事ガ之ニ付テ捜査ヲ致シマス時ニ、其ノ一箇ノ犯罪、即チ本條ニ掲ゲタル所ノ第三條乃至十三條ノ罪及第二項ノ罪ト他ノ普通ノ犯罪ト併合ノ場合ニ、檢事ノ捜査權ノ非常ナ強靱ナル捜査權ガ其ノ總テニ及ビマスカ、其ノ中ノ唯一部分ノ罪ニノミ及ンデ、他ノ犯罪ニ付テハ普通ノ刑事訴訟法ノ適用ニ依ツテヤルモノデアリマスカ、又裁判所ガ之ヲ起訴スルニ付テハ、同時ニ其ノ本章特別ノ規定ノ犯罪ト普通ノ犯罪ト同一ノ裁判所ニ牽連事件トシテ起訴スルモノデアリマスカ、而シテ其ノ起訴ヲ受ケタル裁判所ハ辯護人ノ制限ヲ受ケ、又審級ノ制限ヲ受ケベキモノデアリマスカ、其ノ各箇ノ犯罪ニ付テ之ヲ分割シテ審理スル手續ハ之ニハナイ、ドウシテ之ヲ分割シ得ルカ、刑事訴訟法ノ此ノ管轄ノ規定ヲ如何ニシテ之ヲ適用シ得ルノデアルカ、是ダケデハ此ノ刑事訴訟法ノ管轄規定トノ問題ニ付キマシテ、一向ニ私ニハ了解ガ出來ナイノデアリマス、其ノ點ノ一應御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員（三宅正太郎君） 其ノ點ニ付キマシテハ、此ノ十六條ニ當ル犯罪ト他ノ犯罪トガ牽連關係ガアリマシテモ、刑事手續ハ此ノ十六條ニ規定シタル犯罪ニ付テノ適用ガアルノデアリマシテ、是ト牽連セラレル所ノ他ノ事件ニ付テハ此ノ刑事手續ハ適用ガアリマセヌ、從ツテ別箇ニ審理セラレ、別箇ニ裁判ガアル譯デアリマス

○内田重成君 サウ致シマス、只今ノ御説明ニ依ツテ見マスルト、數箇ノ事件ニ付テハ、其ノ中ノ所謂刑法ノ數罪併發ノ規定ヲ適用シテ、重キ刑ニ付處斷ヲ受ケル譯ニナル、此ノ事件ガ其ノ數罪併發ノ中ノ一ツデハアルケレドモ、輕キ場合デアツテ重キ刑ハ他ノ普通犯罪デアルト云フ場合ニ、其ノ普通犯罪ニ付テハ審級制度ガ、所謂普通刑事訴訟法ノ手續ニ依ツテ二審ノ裁判ヲ受ケ、其ノ中ノ一部ノモノニ付テハ本法ノ罪ニ付テハ、第二審ヲ受ケ得ナイ、數罪併發ノ中ノ一部分ニ付テハ二審ノ審判ヲ受ケル、一部分ハ受ケ得ナイ、斯ウ云フ結果ニ相成ルノデアリマスガ、又數罪ノ中ノ一ツノ普通犯罪、例ハ強盜トカ竊盜トカ云フモノニ付テハ、辯護人ノ數ハ一ツモ制限ガナイ、何人付イテモ宜シイ、此ノ事件ニ付テダケハ辯護人ノ數ハ二人ニ制限サレル、斯ウ云フヤウナ非常ナ妙ナ結果ヲ來ス、ソレハ如何デスカ

○政府委員（三宅正太郎君） 手續ヲ異ニスル所ノ二箇ノ事件ガ、結局別箇ニ裁判サレル例ハ決シテ刑事訴訟法上之シクナイノデアリマシテ、其ノ事ハ刑法モ、併合罪ノ中ニ其ノ點ハ豫想シテ書イテアルノデアリマス、併合罪ニ於テソレレ別箇ノ判

決ノ官渡ノコトモ豫想シテ居リマス、只今御説明ノヤウニ、刑
事手續ガ違ヒマス、即チ刑事訴訟法ニ特別法トシテ特例ガ設ケ
ラレテアルノデアリマスカラ、飽迄モ其ノ特例ニ依ツテノ手續
ガ行ハレルノデアリマシテ、彼ト是トヲ同時ニ刑事手續ニ於テ
審理スル譯ニ行カナイ譯デゴザイマスカラ、別箇ノ審理テ判決
サレルコトハ、是ハ當然ナ結果ダト思フノデアリマス、

○内田重成君 刑事訴訟法ト仰シヤルノハ、恐ラク大審院ノ特
別檢事ヲラウト思フノデアリマスガ……

○政府委員(三宅正太郎君) サウデハアリマセス

○内田重成君 何處ニアルノデスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 國防保安法ノ刑事手續ハ、刑事訴
訟法ノ特例ヲ作ツテ居ルモノデアリマスカラ、此ノ刑事手續ハ、
刑事訴訟ノ規定ヲ其ノ部分ダケ排除シテ居ル譯デアリマス、從
ツテ此ノ國防保安法ニアル所ノ刑事手續ガ適用セラレル限ニ於
テハ、刑事訴訟法ノ手續ハ排除セラレルト、斯ウ云フコトヲ申
上ゲタ譯デアリマス

○内田重成君 サウスルト、此ノ刑事訴訟法ノ管轄ノ規定ヲ全
面的ニ排除シタト云フコトニ相成ルト思フ、サウ云フ解釋ハ私
ニハ出來ナイノデス、是ハヨク一ツ御研究ヲ願ヒタイ、而シテ
其ノ點ニ付キマシテ、私ノ申スコトハ御分リダラウト思フ、ソ
レカラ、續イテ申シマス、本條ノ第二項デゴザイマスカ、刑法
ノ第二編第一章、第二章、第四章、第八章トナツテ居リマスガ
今度ノ議會ニ御提出ニナツテ居リマスル刑法改正案ノ第七章ノ
二ト云フノニ、安寧秩序ニ對スル罪ト云フノガアル、此ノ中ニ

ハ百五條ノ二、百五條ノ三、百五條ノ四トシテ、戰時、天災其
ノ他ノ事變ニ際スル場合ノ規定ガ相當ニアルノデアリマス、此
ノ犯罪ハ相當ニ重イノデアリマス、而シテ是ハ戰時、事變ヲ多ク
目的ニ致シテ居ルノデアリマス、然レバ此ノ十六條ノ一項ノ二
ノ場合國家總動員法第十四條等ノ罪ガ掲ゲテアリマス、是等ノ
關係カラ見マスレバ、刑法ノ今度改正サルベキ七章ノ二ノ罪
ハ、當然此ノ中ニ入ツテ宜サウナモノデアリマス、又ソレガ
外ノ權衡上カラ云ツタラバ、入ルベキモノデアラウト思ヒマス
ガ、ソレガ入ツテ居リマセヌノハ、此ノ法律ガ先ニ御提出ニナツ
テ居ツタノテ、斯ウ云フ風ノコトニ相成リマシタモノデアラウ
トモ推察スルノデアリマスガ、若シ然ラズンバ一ツ御答ヘ願ヘ
タイ

○政府委員(三宅正太郎君) 全ク御推察ノ通りデアリマシテ、
刑法ノ改正案ガ現ニヤツト出來タ、此ノ法案ノ出來マス時ニハ
マダ刑法ノ改正法案ガハツキリ成案ニナツテ居リマセヌデシ
タ爲ニ遲レマシタ、尤モ今御話ノ點ハ八條、九條、十條ノ相當
ニ附ヘルノデアリマス、全部ガ附ヘルト必ズシモ私申上ゲルノ
デアリマセヌガ、百五條ノ二、三、四ト云フノハ大體ニ於テ八
條、九條、十條トニ一外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目
的ヲ以テ云々之ニ續キマス、結局大體ニ於テ八條、九條、十
條ト云フ形ニナルモノト思ハレマスノデ、現ニ遲レタ譯デアリ
マスケレドモ、無クトモ相當ノ所迄附ガ付クヤウニ思フノデア
リマス

○内田重成君 モウ一ツ伺ヒマスガ、本條ノ二項ノ罪ノ中ニ治

安維持法ガ入ツテ居リマス、既ニ此ノ點ニ付テハドナタカ御尋
ニナツタカト思ヒマスガ、治安維持法ノ改正法案ガ出テ居リ
マス、之ノ規定ハ國防保安法ト殆ド同一ニナツテ居リマス、此
ノ手續法ガ……然レバ此ノ治安維持法ト云フノハ要ラヌモノデ
ハナイカト云フ疑ガアリマス、ソレハ如何デスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ點モ實ハマダ治安維持法ガ果
シテ通過致シマスカドウカ分リマセヌ、本法ダケ通過致シマシ
テ治安維持法ガ通過シナカッタト云フコトヲ考ヘマスト非常ニ
缺ケタコトニナリマスノデ、殊ニ本法提出當時ハマダ治安維持
法ガ提出ニナツテ居リマセヌ關係上此ノ規定ヲ入レタ譯デアリ
マスガ、入レマシテモ別ニ多少重複ト云フコトハチヨツト申上
ゲ難ネマスガ、別ニ入レマシテモ運用上ノ差支ハナイト考ヘテ
居ルノデアリマス

○内田重成君 唯法ノ適用上、治安維持法ガ之ニ入ツテ居リマ
スト、裁判官ナリ檢事ガ法ヲ適用致シマス上ニ、國防保安法ニ
依ツテアルノデアルカ、又ハ治安維持法ノ法律ヲ適用スルノデ
アルカ、ソコガハツキリセヌノデス、ソレカラモウ一ツノ疑ハ、
治安維持法ニハ豫防拘禁ノ規定ガアリマスガ、コチラニハナイ
ノデアリマス、假令國防保安法ニ依ツテ治安維持法違反ノ行爲
ヲ處罰致シマシタ場合ニモ、豫防拘禁ノ制度ハ治安維持法ニ依
ツテ之ヲ適用スルコトガ出來ルモノデアルト云フ解釋ヲ致シテ
宜シウゴザイマスカ、其ノ點ヲ一ツ……

○政府委員(三宅正太郎君) 御尤モデゴザイマス、外國ト通謀
シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ治安維持法違反ノ犯罪ヲ

犯シマシタ者ニ付キマシテハ、御示ノ通り刑事手續ハ即チ國防
保安法ニ依ツテ刑事手續ヲ行フノデアリマス、併シナガラ其ノ
刑事手續ノ結果、治安維持法ノ犯罪トシテ判決セラレマシテ、
更ニ刑ヲ受ケマシタ者ニ付テノ豫防拘禁ノ手續ニ付テハ、是ハ
既ニ治安維持法ノ方ノ罪ニ依ツテ刑ヲ受ケタ者ト云フヤウニナ
リマス、其ノ中ニハ治安維持法ノ罪ト云フコトデ全部外國ニ通
謀シ、又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ爲シタル者モ爲サ
ル者モ同時ニ入りマスカラ、豫防拘禁ノ方ノ規定ノ適用ニハ少
シモ差支ヘナイト思フノデアリマス(同第六號)

○政府委員(三宅正太郎君) 外國人トノ間ニ付テノ取引ニ付テ
御懸念遊バサレマシタノハ御尤モト思ヒマス、成ル程取引ト云
フモノハ雙方ガ互ニ利益ヲ追求スル行爲デアリマスガ、併シ
ナガラ其ノ行爲カラ轉ジテ例ヘバ關取引トナリ法律違反ノ行爲
ヲ爲ス、其ノ法律違反ノ行爲ヲ外國、假令今ノ御言葉ニシマシ
テモ、外國人ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ關取引ヲスルコトニナ
リマス、ソレハ矢張り處罰シテ宜イト思ヒマス、勿論ソレハ
事情ニ依リマシテ輕イノモアリマセウ、重イノモアリマセウケ
レドモ、ソレハ關取引ト云フ不當ナ利益ヲ外國人ト共ニ、或ハ
外國人ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テスルト云フ、例ヘバ日本ニ於
テ必要ナル輸入品ヲ外國人ノ利益ヲ圖ツテ、サウシテ不當ナ價
格ヲ以テ外國ニ賣ツテシマフトカ云フヤウナ場合ハ、是ハ相當
ニ糾弾シテ宜シイ行爲デヤナイカト思フノデアリマス、唯商賣
ヲスルト云フコトハ、成ル程商賣ヲスルト云フコト、外國人ニ
利益ヲ關取引ノ結果與ヘルト云フノデナク、唯外國人ト取引ヲ

シテ、自分方閣取引ノ利益ヲ得ル、日本人方閣取引ノ利益ヲ得ルガ、唯商賣ハ外國人トシタト云フ場合ガアルガ、其ノ行爲ハ外國人ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ爲シタル閣取引ノ行爲デハナイノデアリマス、ソレハ此ノ條文ニ當ラナイト思ヒマス

○内田重成君 此ノ第十六條ニ關聯致シマシテ、牽聯事件ノ處理ニ關シテ本法ニ何等ノ規定ガナイ、現行ノ刑事訴訟法ガ大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續ニ於キマシテハ、四百八十條、四百八十一條ニ於テ大審院ノ特別權限、即チ皇室ニ對スル罪並ニ内亂ニ關スル罪、此ノ罪トソレ以外ノ罪トガ牽聯スル場合ニ於テハ、大審院ハ他ノ牽聯罪ニ付テモ豫審及ビ公判ヲ爲スコトガ出來ルコトニナツテ居ルノデアリマス、尤モ大審院ハ檢事總長ノ請求ニ依ツテ、其ノ牽聯事件ノ元來大審院ノ特別權限ニ屬セザル他ノ牽聯事件ハ、他ノ管轄裁判所ノ豫審判事ニ送付スルコトガ出來ル規定ハアリマス、其處ニ牽聯事件ニ付テノ處理方ニ付テ明カニ規定ハ致シテアルノデアリマス、之ト同ジヤウナ規定ガ私ハ立法上必要デアラウト思ツテ居リマス、是デハドウモ運用モ出來ナイノデヤナイカト云フコトヲ感ズルノデアリマス、非常ニ其ノ疑念ガ多イ、解釋上困難ナ點ガ多イノデハナイカト云フコトヲ感ズルノデアリマス、モウ一應ドウカ明快ナル御説明ヲ承リタイト思ヒマス

○政府委員(三宅正太郎君) 牽聯シタ事件ハ成ルベク併合スル方ガ宜イコトハ御話ノ通りデアリマス、デアリマスガ、刑事訴訟法ハ牽聯シタ事件ハ必ず併合セヨ、併合シテ審理セヨトハ書イテナイノデアリマス、併合スルコトヲ得ト書イテアルノデア

ノデカラソレハ宜イ、尤モソレモ不都合デアルトスレバ、更ニ下級審ニ下ゲルコトモ出來ル、是モシテモ宜シ、シナクテモ宜シト云フ規定デアリマス、デアリマスカラ此ノ牽聯シタ事件ヲ併合シナケレバナラヌト云フ御立場カラ御考ヘ下サレバ、成ル程妙デアリマスケレドモ、併合シテ審理シナケレバナラヌコトモナイシ、又審理スルコトガ却テ被告人ノ利益デアラウ場合ニハ、寧ろ別々ニ審理シタ方ガ宜イノデアリ、又ソレガ法ノ正シイ趣旨ダト思フノデアリマス、ドウカ左様御了承願ヒマス

○内田重成君 御趣意ハ大體分リマシタガ、サウ致シマスルト刑法第二編第一章第二章ノ大審院特別權限ニ屬シマスル罪ガ、假ニ例ヲ大審院ノ特別權限ノ罪ニ假定致シマス、大審院ニ屬致シマシタ場合ト牽聯スル普通犯罪ノ罪ニ付テハ、是ハ矢張り普通ノ刑事訴訟法ノ手續ヲ、此ノ牽聯事件デアリマス部分ヲ大審院ハ如何ニ取扱ヒマスカ、其ノ部分ダケハ假ニ辯護人トシテ、辯護人ノ數ニ付テ無制限デ、其ノ辯護人ハ又司法大臣ノ認可ヲ得テ辯護人ニアラズトモ宜シト、是ハサウ云フコトニナリマスカ、サウシテ司法大臣ノ認可ヲ得テ辯護人又ハ此ノ數ノ關係ハ本法ノ適用ヲ受ケル罪ノミニ適用サレテ、其ノ他ノ牽聯事件ノ餘罪ニ付テハ適用ガナイト云フコトニ相成リマシテ、一般ノ刑事手續ニ依ルコトニ相成リマスガ、サウ云フヤウナ理窟デゴザイマスケレドモ、一例ヲ以テ申上ゲルノデアリマ

○政府委員(三宅正太郎君) 刑法第二編第一章、第二章、是ハ第十六條ノ第二項ニアリマスガ、此ノ第一審ノ裁判所ト申シマ

リマシテ、牽聯シタ事件ヲ別々ニ裁判スルコトハ別ニサウ不思議デハナイノデアリマス、デアリマスカラ刑法ノ第四十五條ニ一確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス、トアツテ併合罪ニ關係ガアルゾト云フコトガ書イテアリ、更ニ第五十條ニハ一併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未ダ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス、トモアリマシテ、ソレハ併合罪ガ別々ニ處斷サレルコトハ法律上ハ別ニサウ不思議ト思ツテ居リマセヌノデアリマス、併シ實際ニ於テ今仰セニナリマシタヤウニ成ルベク牽聯シタ事件ハ同時ニ裁判シタ方ガ手數ノ上カラモ、本人ノ爲カラ言ツテモ宜イデアリマセウ、併シ本件ニ付キマシテハ、若シ併合スルト致シマスレバ、其ノ被告人ニ不利益デアリマス、ト云フノハ本件ノ方ハ御承知ノ通りニ控訴審ナシニ進ンデ行ク事件デアリマス、處ガ今御話ノ之ト牽聯ノ關係ニベキ事件ヲ牽聯事件ノ故ヲ以テ二審テ進ム事件ニ併合シテシマフト云フコトハ、是ハ法ノ建前トシテ許サレナイコトダト思ヒマス、其ノ關係上ドウシテモ性質上併合シ得ナイ關係ニナツテ居ル、其ノ弊害ヲ豫想致シマシテ、此ノ十六條ニハ「事件ニ付之ヲ適用ス」ト書イテアル、事件ニ適用スルノデアリマシテ、人ニ付テ適用スルハ書イテナイ、デアリマスカラ事件々々ニ付テ適用ス、デアリマスカラ飽ク迄モ別個ニ審理セラレテ行ク譯デアリマス、先程大審院ノ特別權限デソレト牽聯スル事件ヲ一緒ニヤル、是ハ大審院ト云フ一番上デノ場合デアリマス、デアリマスカラ大審院デ一緒ニスルト云フコトハ、最モ高イ所デスル

スノハ即チ大審院デアリマス、大審院ノ特別權限ニアルモノデアリマスカラ大審院デ致シマス、デアリマスカラ之ニ對シテハ控訴審ヲ省クトカ省カヌト云フコトハ、當然ニ問題ハナイ譯デアリマス、而シテ今御話ニアリマシタヤウニ、ソレチヤ此ノ特別權限ヲ以テヤツタ場合ニ一體ドウナルカ、少クモ其ノ特別權限ニ於テモ辯護人ノ制限等ハ適用ハアル譯デアリマスカラ、本法ノ外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ爲サレタル犯罪デアル限リハ、ソレハ矢張り辯護人ノ制限等ハゴザイマス、而シテソレデハアトノ牽聯シタ犯罪ニ付テハドウナルカト云フコトデアリマスガ、先程申シマス通りニ第十六條第二項ニ掲ゲマスル犯罪ニ關スル事件ト他ノ事件トハ、區別シテ審理ヲ致スコトガ原則デアリマスカラ、大審院ニ於テモ別々ニ審理スルト云フノガ適當ダト思フノデアリマス

○内田重成君 牽聯事件ガ屢々起キ得ルト私ハ豫想致シマスガ、此ノ事件ノ如キモノハ多クハ他ノ普通犯罪カラ發見サル、場合ガ多イダラウト思フ、例ヘバ放火ノ罪ト假定致シマス、ソレヲ調ベテ居ル内ニ、ソレガ外國ト關聯シテ居ル、所謂國內ノ治安ヲ妨害スル爲ニ放火ヲスル、是等ガ外國ト關聯ガアルト云フヤウナコトガ出來ル場合ガ多イダラウト思フ、ソレニ連レテ其ノ際竊盜ヲシタ、若シタハ其ノ他ノ犯罪ヲ爲シテ居ルト云フヤウナコトガ發見サレルト云フコトモアリ得ル、然ル場合ニ司法警察官又ハ檢事ガ取調ベテ致シマスノニ、サウ云フ普通犯罪ヲ主題トシテ取調ヲシテ行クノガ普通デアラウト思フ、サウ

ト關聯シテ居ルト云フヤウナ事情が出テ來ルト云フコトニナツテ、書類ハ一ツニナル、書類ノ分割ハ出來ナイノデアル、ソレ等ハ矢張り其ノ訴訟書類ノ取扱ハドウ云フ風ニ取扱ヒマスカ、即チ謄寫デモ致シテ別ノ事件ニタツケルコトニ致シマスカ、サウ云フモノハ此ノ三十二條ノ如キ一辯護人ハ訴訟ニ關スル書類ノ謄寫ヲ爲サントスルキハ裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス、ソレカラ一書類ノ閱覽ハ裁判長又ハ豫審判事ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ爲スベシト云フヤウニ、書類ノ取扱ニ付キマシテモ、色々特別ナ規定ガアルノデアリマスカラ、書類ノ、訴訟記録ノ取扱等ニ付キマシテモ餘程ハ關係ガアルヤウニナリマスガ、或ハ書類ノ謄寫デモ附ケルトカ、謄本デモ添ヘルトカ云フヤウナコトニデモナサル積リデアリマスカ、サウ云フ事務ノ取扱ヒ振リニ付キマシテ、左様ナ場合ニ如何ニナサル御豫定デアリマスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 書類ニ付キマシテハ十分ニ氣ヲ附ケマス、ソレニ付キマシテハ從來既ニ種々其ノ取扱例ガゴザイマス、例ヘバ大審院ノ判例ニ於テモ謄本ヲ以テ、例ヘバ豫審判事ノ謄本、或ハ檢事ノ訊問調書ノ謄本ニ依ツテ、ソレヲ證據トシテ犯罪ヲ認定スルコトハ差支ナイト云フコトニナツテ居リマス、デアリマスカラ若シ必要ガゴザイマスレバ、甲ノ事件ノ書類ノ謄本ヲ乙ノ事件ノ方ヘ附ケマシテ、サウシテ其ノ謄本デ用ヲ達スルヤウニ致シマス、尤モ是ハ前々申上ゲマスヤウニ、國家機密ニ關シマスコトハソソナ風ニシテ謄本ヲ無闇ニ振撒クコトハ宜シクナイノデアリマスカラ、國家機密ニ屬スル部

分ハ寧ロ其ノ分ダケヲ一ツノ調書ト致シマシテ、サウシテ其ノ事件ノ限リニ致シテ、ソレヲ無闇ニ謄本ニシテ外ノ記録ヤ何カニ附ケルコトハ十分慎シミタイト思フデアリマス、其ノ點ノ注意ハ致シマスガ、併シナガラ書類ハ一通ノ調書ガ出來マスレバ、其ノ調書ヲ各色々澤山ノ事件ニソレレ、利用シ得ル形ニナツテ居リマス、例ヘバソレヲヤツテ居リマスノハ治安維持法ノ事件デアリマス、治安維持法ハ澤山ノ被告ガ居リマシテ、其ノ被告ガソレレ、一ツノ事件ヲ形作ツテ居ル場合ガ多イノデアリマス、サウ致シマス甲ノ事件ニ付テハ乙ノ事件ニ付テノ調書ノ謄本ガ附イテ居リマス、サウ云フヤウニシテ處置ヲ現在致シテ居リマスノデ、其ノ點ノ差支ハ毛頭ナイト思ツテ居リマス(同第七號)

○澤田牛警署 ちヨット序ニ、今ノ廣瀬君ノ質問ト關聯シテ居リマスガ、是ハ詰ラヌコトデアリマスガ(第十六條ニ規定スル罪)ト云フノガ二十八條ニアリマス、ソレカラ三十三條ニハ非常ニ詳シク(第十六條第一項ニ掲グル罪又ハ外國ト通謀シ若ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ同條第二項ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル)トアリ、ソレカラ第三十七條ニハ(第十六條ニ規定スル罪)ソレカラ第三十四條ニハ(第十六條ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル)ト云フヤウニ色々書キヤウガ違フノデスガ、是ハ何カ意味ガアルノデスカ、此ノ三十三條デハ、第十六條ニ規定スル罪トハ云ヘナカツタノデセウカ

○政府委員(三宅正太郎君) 是ハ勿論サウ云フ風ニ書キマシテモ分ラナイコトハナイト存ジマスケレドモ、併シ此ノ一犯シタ

ルモノト認メタルト云フ風ニ書キマシテ、第一審判決……是ハ重要ナ規定デアリマスノデ、此ノ規定ニ於キマシテハ唯第十六條第二項ニ掲グル罪ト云フノデハナイ、ソレニハ、外國ト通謀シ若シハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ第二項ニ掲グル罪ト、斯ウ云フコトデアリマシテ、是ハ要スルニ丁寧ニ書イタダケデアリマシテ、寧ろ三十三條ノ規定ハ重要ナ規定デアリマス關係上、ソレダケ註釋のニ此ノ點言及致シマシテ、サウシテ間違フナイコトヲ期シタ譯デアリマス

○澤田牛警署 第三十四條ニハ「掲グル罪」トナツテ居リ、第三十七條ニハ「規定スル罪」トナツテ居ル、色々書キヤウガ違フノデスガ、是ハドソナモノデスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 「掲グル」ト云フコトト「規定スル」ト云フコトトノ言葉ノ違ヒデゴザイマスカ

○澤田牛警署 各條ニ依ツテ言ヒ方ガ違フノハ、何カ意味ガアルノデスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 「第十六條ニ規定スル」ト云フコトハ、是ハマア法律ノ作り方デアリマシテ、第十六條ハ第一項第二項ト分レ、第一項ノ中ガ第一號第二號ト分レテ居ル、處デ斯ウ云フ場合ニハ「第十六條ニ規定スル」ト書キマス、ソレカラ第十六條ノ二項デアリマス、ズツト「ツツ」並ベテデアリマシテ、此ノ二項ノ中ニ看板ガ澤山掲ゲテアルヤウナ關係デアリマスノデ、此分ニ付テハ「掲グル」ト云フヤウナ、斯ウ云フ文例ト云ヘバ文例デアリマス

○澤田牛警署 サウスルト第三十四條ノ第三項ノ「第十六條ニ

掲グル罪」ト云フノハ、第二項ダケノコトナンデスカ、第十六條ノ第二項ノ罪ダケノコトデ、全體デハナイノデスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ「掲グル」ト云フコトト「規定スル」ニ付テハ、私ハ法制局ニ行キマシテサウ云フ風ニ承ツテ居リマシタカラサウ御答ヘシタノデスガ、成程今御話ノ「第十六條ニ掲グル」ト云フコトニナリマス、今ノ私ノ説明ハ十分徹底シナイコトニナリマス、是ハ或ハ第十六條ニ規定スル罪ト書イタ方宜カツタノカモ知レマセヌガ、趣旨ハ決シテ違フナイノデアリマス

○澤田牛警署 第三十三條ノ「第十六條第一項ニ掲グル」ト云フノモ、規定スルト云フノモ、皆同ジコトニナルノデスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 結局サウナリマス

○小原直君 例ヘバ三十三條、三十四條ニハ、第十六條第一項ニ掲グル罪又ハ外國ト通謀シ若ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ同條第二項ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト、斯ウ云ヒマスルカラ、此處デハ「掲グル」デ分ル、ソレハ目的ヲ示シテ、特ニ十六條ノ第二項ニ掲ゲテアル目的ト同ジ目的、條件ヲ以テ犯シタル場合ガ掲ゲテアルノデアリマスカラ、ソレハ「第二項ニ掲グル罪」ト書キナガラ、實ハ十六條ノ「第二項ニ規定シタル罪」ト謂フコトト同ジナルト思ヒマスガ、然ルニ其處ノ區別ヲハツキリサセズニ「規定スル」ト書キ「掲グル」ト書タト云フコトハ、用語トシテドウカト思フデアリマス、サウシテソレカラ詰メテ行タト、私ハ十六條ニ懸ツテ疑問ガ出テ來ルノデアリマスガ、第九條及第十條ノ「外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與

アル目的ヲ以テト云フコトハ、是ハ目的罪タルコトハ明白デア
 アルト思フ、處ガ第十六條ニ來テ、十六條第二項ニ「本章ノ規
 定ハ外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テト云フ
 コトデ、九條、十條ト同ジ目的罪ミタヤウナ形ニシテ、軍機保
 護法以下刑法等ノ各罪ヲ擧ゲテ、サウシテ手續ニ關シテハ本章
 ノ規定ヲ適用スルト、斯ウアルノデアリマスガ、此ノ書キ方ヲ
 見ルト、外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テト云
 フ條件ヲ加ヘタ爲ニ、是等ニ掲ゲテアル罪ガ目的罪ニ變更シテ
 來タノデハナイカト云フ風ニ見ラレル疑ガアルト思ヒマス、而
 シテ斯ウ云フ條件ヲ附シテ來ルト、既ニ第三十四條ニ掲ゲラレ
 タヤウニ、裁判所ガ有罪ノ判決ヲ宣告スル場合ニハ「外國ト通
 謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ第十六條第二項ニ掲
 ル罪ヲ犯シタルモノ」ト書タト、斯ウ云フコトニナルト思フノ
 デアリマス、斯ウナツテ來ルト判決ニ書クト云フコトヲ、此處
 デハ唯文辭的ニ書イタノデアリマスケレドモ、實ハ軍機保護法
 其ノ他刑法等カラ抜き出シテ來タ是等ノ罪ガ、特ニ條件ヲ附シ
 タガ爲ニ目的罪ニ變テ來タノダト云フコトニナルノデハナイ
 カ、即チ犯罪ノ構成要素トシテ、外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益
 ヲ與フル目的ヲ以テ犯シタルモノノ外コトヲ判決ノ中ニ證據ヲ
 擧ゲテ説明シナケレバナラヌ、其處ハドウナリマスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 第十六條ノ第二項ニ適用致シマシ
 タ犯罪ガ、即チ此ノ十六條ニ書イテアリマスル目的ヲ以テ爲サ
 レタト云フ、其ノ部分ニ付キマシテハ、ソレガ其ノ目的ヲ以テ
 爲サレタ場合ト、爲サレナイ場合トニ於テ刑事手續ガ違フ譯テ

アリマス、從ツテ上告、控訴等ガ異ルコトニナリマスノデ、三
 十四條ニ其ノ書別ケヲ致サセタ、其ノ必要カラ出タ規定ナノデ
 アリマス、勿論其ノ部分、少クモ其ノ目的ヲ以テ爲サレタ其
 ノ部分、第十六條ノ第二項ニ書イテアリマス各罪ノ中デ、此ノ
 目的ヲ以テ爲サレタ部分ダケハ、即チ其ノ部分ダケニ付テ言ヘ
 バ、サウ云フモノガ目的罪デアルト、斯ウ申セルト思フノデア
 リマス

○小原直君 サウスルト、第十六條ノ第二項ニ依ツテ、同條項
 ニ掲ゲラレタル各種ノ罪ガ單純罪カラ目的罪ニ變ツテ來タノダ
 ト云フ風ニ解釋セラレテ、規定ヲ設ケラレタノデアリマスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 若シ是ガ目的罪トシテ構成要件ニ
 ナツテシマヘバ、ワザノ「三十四條ニ斯ウ云フ規定ヲ設ケル必
 要ハゴザイマセヌガ、併シナガラハ第十六條ノ第二項ニ各列
 擧セラレマシタ犯罪ハ、此ノ犯罪ノ固有ニ持つ構成要件以外ニ
 何等構成要件ヲ附加スル譯デハアリマセヌ、併シナガラ「外國
 ト通謀シ、又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ犯シタル」ト云
 フ場合ノ行爲、其ノ場合ニ依ツテ本刑事手續ニ當ルト、斯ウ御
 考ヘ觀ケレバ結構ダト思ヒマス

○小原直君 起案ナサル時ニハサウ云フ考テ御起案ニナツタノ
 デアリマセウガ、斯ウ書イテ來ルト、各種ノ單純罪ガ目的罪ニ
 變ツテ來タノダ、從ツテ判決ニハ斯ウ云フ目的ヲ持つタト云フ
 コトヲ證據ニ依ツテ明示シナケレバナラヌト思ヒマスガ、ソレ
 ハセヌデ宜シイノデスカ、是ハ唯三十四條ガアル爲ニ書カレル
 ト云フダケデナク、本來三十四條ガナクとも、裁判所ハ外國ト

通謀シ又ハ外國ノ爲ニ利益ヲ與フル目的ヲ持つタト云フコトヲ
 證據ニ依ツテ示サナケレバナラヌノデスカ、ドウデスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 御言葉ノ通りデアリマス

○小原直君 サウナルト、十六條ノ書キ方ガ甚ダ都合ガ惡イト
 云フコトニナツテ來ルノデハナイカト思ヒマス、要スルニ十六
 條ノ第二項ニ掲ゲテアル罪ハ、ソレ自體ハ單純罪デアアル、併シ
 ナガラ、本法案ニ依リマシテ目的罪ニ變ツテ來タノダ、言ヒ換
 ヘレバ國防保安法違反ノ罪ヲ犯シタルモノデアルト云フコトニ
 モ謂ハナケレバナラヌト思ヒマス、サウスルト、實體法ハ實體
 法ヲ以テ定メレバ宜シウガ、此ノ第十六條以下ノ手續ニ依ツ
 テ、刑法其ノ他ニ掲ゲテアル重要犯罪ノ實體ヲ變ヘテ來タト云
 フコトニナルノデ、斯ウ云フ手續ヲ以テハ規定ガ出來ナインジ
 ヤナイカ……

○政府委員(三宅正太郎君) 十六條ノ第二項ハ、決シテ今御言
 葉ノヤウニ、之ニ依ツテ目的罪ガ決定セラレタノダト、斯ウ云
 フ風ニハ私共ハ解釋シテ居ラナイノデアリマス、デアレバコソ
 此ノ三十四條ノ第一項ノ規定ガ必要ナノデアリマシテ、即チ斯
 タノ如キ場合ニ於テ斯ウ云フ風ナ場合ト云フモノヲ特段ニ取出
 シテ此ノ刑事手續ニ入レタ譯デアリマシテ、別ニ犯罪ノ構成要
 件ヲイヂクツタト云フ譯デハナイノデアリマス

○小原直君 度々問題ガ出タノデアリマスケレドモ、今ノ十六
 條第二項ニ掲ゲテアルヤウナ放火罪トカ、盗水罪、殺人罪或ハ傷
 害罪等ハ、斯ウ云フ目的ヲ以テヤレバ所謂一種ノ賣國行爲デ、犯
 罪ノ態様ガ變ツテ來ルンダト云フコトニ謂ハナケレバナラヌノ

デヤナイカ、サウシテ既ニ御説明ニアルヤウニ、此ノ目的ハ證
 據ニ依ツテ示サナケレバナラヌノデアルト云フコトヲ言ハレレ
 バ、ソレハ犯罪構成要件ニナツテ來ル、其ノ犯罪構成要件ノ異
 リタルモノヲ以テ犯サレタル殺人傷害等ハ特別ノ犯罪ニナルト
 云フコトニ言ハナケレバナラヌノデヤナイデセウカ

○政府委員(三宅正太郎君) 犯罪ノ構成要件デアアルガ故ニ判決
 ニ示サナケレバナラヌ、又從ツテソレハ證據デ以テ明カニシナ
 ケレバナラヌト、斯ウ云フ風ナ御意見デアリマスガ、私共ノ立
 場ハサウデハゴザイマセヌノデ、斯ウ云フ場合ニ於テハ其ノ場
 合デアルトト判決ニ示サナケレバナラヌ、判決ニ示スト云フ
 以上ハ、サウ云フ場合ダト云フコトヲ唯判決ニ書イタダケデ
 ハ、恐ラクハ一般ノ不安ヲ招クト思ヒマスノデ、特ニ此處ニ
 判決ニ摘示シロト書イテアル、摘示シロト云フコトハ、結局ソ
 レ等ノ摘示シタモノニ付テハ、證據ヲ擧ゲテ判決ニ書イテ實ヒ
 タイ、斯ウ云フコトガ三十四條ノ第一項ノ説明トナル次第デア
 ルト思ヒマス

○小原直君 他ノ立法ニ斯ウ云フ書キ方ヲ以テ實體ヲ變更シタ
 ヤウナモノガアリマスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 斯ウ云フ體裁ノモノハ他ニ餘リゴ
 ザイマセヌケレドモ、併シ今ノ御言葉ノヤウナ實體ヲ變更スル
 トハ飽ク迄認メテ居リマセヌ、斯ウ云フ犯罪ヲ犯ス場合ニハ色
 色ナ場合ガアル、其ノ色々ノ場合ヲ此處ニ書イタト斯ウ云フ風
 ニ私共ハ考ヘテ居ルノデアリマシテ、別ニ犯罪其ノモノガ之ニ
 依ツテ實體ガ變ツタトハ考ヘテ居リマセヌ

○小原直君 同ジヤウナコトヲ議論ニナリマスケレドモ、矢張リ斯ウ云フ目的ヲ以テ犯シタル犯罪ハ、此ノ法案ニ依ル特別ノ罪ニナル、言換ヘレバ普通殺人罪、文書偽造罪ハ犯罪アルカラ、悪イニハ違ヒアリマセヌガ、ソレデモ尙賣國の犯罪デハナラ、併シ本法案ニ依ツテ書カレタヤウナ、條件ヲ以テスレバ所謂賣國の犯罪アルト云フコトニナルノデ、相當社會的、法律的重責ヲ負ハサレタ犯罪アルト云フコトニナル譯デアリマス、而シテ其ノコトハ判決ヲ指示セシメレバナラヌト云ヘバ此ノ書キ方ヲ十六條ノ二項ノ手續法ヲ決メルト云フコトハ、度々言フヤウニ少シ行過ギテ居ルノデハナイカ

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ第三十四條ノ斯ウ云フ風ノ目的ヲ以テ犯シタルコトヲ認メルト云フコトハ、是ハ御言葉ノ通り非常ニ重大ナコトデアリマシテ、此ノコトヲ若シ裁判ノ上ニ於テ輕ク取扱フタト致シマシタラバ、恐ラク前日來歴々御批判ノアリマシタコトガ實現スルコトニナルノデアリマス、飽ク迄モ此ノ目的ガアツタト云フコトニ付テハ慎重ニ取調ベ、而モ慎重ニ取扱ヒタイト云フコトガ、此ノ三十四條ノ趣意デアリマシテ、從ツテ其ノ旨ヲ判決ニ滴示シ、其ノ判決ヲ見タ所ノ上告審ガ、更ニ第二項ニ依リマシテ、其ノ目的ヲ以テ犯シタル犯罪カサナイカト云フコトニ付テ、疑フニ足ルベキ顯著ナル事由ガアルカドウカ、特ニ判斷審查スル、サウ云フコト迄第二項ニ書イタ次第デアリマス、サウ云フ譯デアリマスノデ、御言葉ノヤウナ犯罪其ノモノヲ書イタト云フコトデアリマスレバ、或ハ今賣國の犯罪トスレバ、寧ろ是ハ別ニ規定ヲ設ケ、其ノ規定

ニ依ツテ法定刑ヲモツト高クスルトカ云フコトニシナケレバナラスト思ヒマス、唯從來ノ犯罪ヲ其ノ儘ニシテ置キマシテ、斯クノ如キ場合ニ於テハ斯ウ云フ手續ヲ執ル、マア斯ウ云フ風ニ致シタノデアリマス、或ハ多少ノ新シイ例ニ屬シマスノデ、御耳新シク御感ジニナルカモ知レマセヌガ、取扱上ニ於キマシテハ、十分ニ慎重ヲ期セラレル仕組トナツテ居ルト思ヒマスルノデ、寧ろ其ノ取扱上慎重ヲ期シタイト思フカラ、特ニ三十四條ニ斯ウ云フ風ナ態々規定ヲ設ケタノデアリマシテ、御懸念ニナルヤウナ愚イ結果ハ萬起ラナイモノト信ジテ居ル次第デゴザイマス

○小原直君 モウ宜シウゴザイマス(同第九號)

(17) 第十七條關係

○内田重成君 是ハ既ニ質疑應答ノアツタ點デアラウカト考ヘマスガ、若シ然ラバ前略ニ御答ヘ下サイマシテ結構デアリマス、唯檢事ナリ司法警察官ノ作リマス被疑者ニ關スル書類、ソレカラ押收捜査、檢證ニ對スル書類、斯ウ云フモノニ付キマシテハ別ニ裁判所ノ書記ト云フヤウナ立會ハナイノデアラウカト思ヒマスガ、其ノ點ハドウナツテ居リマスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 檢事ガ捜査ヲ爲ス場合ニハ裁判所書記ガ、司法警察官捜査ノ場合ニハ司法警察官更ガ調書ヲ作ルノデアリマス、何レニシテモ捜査ヲ爲ス者ト調書ヲ作ル者トハ別人デアリマス

○内田重成君 何條デスカ現行犯ノ場合ハアルノデスケレドモ訊問調書作成ノ場合ハ……

○政府委員(三宅正太郎君) 刑事訴訟法第五十四條、第五十六條デアリマス

○内田重成君 サウスルト刑事訴訟法ノ五十六條ノ規定ガ適用カレルト云フコトハ、此ノドノ條文ニ據ツテ居リマスカ、是ハ裁判所書記ガ之ニ立會フ、檢事ノ方ハ裁判所書記ト云フモノガ附屬シテ居ル、司法警察官ニハ裁判所書記ハナイ、司法警察官ガヤリマス場合ニハ何條デスカ

○政府委員(三宅正太郎君) ソレハ第十七條ノ三項ハ、御承知ノ通り「召喚狀」送達ニ關スル裁判所書記及執達吏ニ屬スル職務ハ司法警察官吏ノ行フコトヲ得ト云フコトガゴザイマス、此ノ第十七條ノ三項ガ第二十五條ノ末項、第二十六條ノ末項ニ何レモ準用サレテ參リマス、デアリマスカラ司法警察官ノ捜査ニ付テハ司法警察官吏ガ調書ヲ作成スルコトニナツテ居ルノデアリマス、本法デゴザイマス(同上)

(18) 第二十一條關係

○鈴木(文)委員 サウアランコトヲ希望ニ堪ヘマセヌ、ソレカラ第二十一條デアリマスニ勾留ニ付テハ警察官署又ハ憲兵隊ノ留置場ヲ以テ監獄ニ代用スルコトヲ得トナツテ居リマスガ、所謂憲兵隊、警察署等ノ留置場トハ、ドウ云フモノガ要件デアリマセウカ、例ヘバ雜居アルトカ、或ハ雜居デナクテ一人デ居ラナケレバナラヌトカ或ハ衛生上ノ設備、危險豫防ノ設備、其ノ他ノモノハ完全ナモノデアリマセウカ、如何デアリマセウカ

○大竹政府委員 此ノ第二十一條ハ、申上ゲルマデモナク警察

官署又ハ憲兵隊ノ留置場ヲ以テ監獄ニ代用スルコトガ出來ルト云フ規定ダケデアリマシテ、其ノ他ハ實際アル所ノ警察官署ノ留置場、憲兵隊ノ留置場ヲ現在ノ儘デ用ヒテ、尙ホ不十分ナ所ハ實際問題トシテ事實上改善シテ行クト云フ以外ニナイヤウニ思ヒマス

○鈴木(文)委員 ソコデ私ハモウ一ツ伺ヒタイノデゴザイマスガ、私ハ完程カラ申上ゲマスルヤウニ、法律ノ素人デ法律ヲ知リマセヌカラ、若シ間違ッタリナンカ致シマシタ時ニハドウゾ御親切ニ御教ヘテ願ヒタイ、此ノ法律ニ付キマシテハ豫審ト云フコトガナイノデアリマスカ、其ノ點ヲ御伺ヒ致シマス

○大竹政府委員 此ノ法律ハ重大犯罪ニ關スルモノデアリマスカラ運用上多クノ場合ハ豫審ニ掛ケテ行ク積リデアリマス豫審ニ掛ケルカ直接公判ヲ求メルカト云フコトハ現在ノ刑事訴訟法上ノ規定デハ檢事ガ適當ニ判斷シテ決メルコトニナツテ居リマシテ、現行法上ドチラデモ出來ルノデアリマス、隨テ運用ノ問題トシテハ豫審ニ掛ケテ慎重ヲ期シタイト考ヘマス

○大竹政府委員 現在刑事補償法ト云フ法律ガアリマシテ、本法ノ違反テ起訴サレテ無罪ニナツタ場合ニ於キマシテモ、刑事補償法ハ適用ニナリマス

○眞鍋(儀)委員 監獄法ニチャント規定ガアツテ、憲兵屯所ノ留置場ヲ使フ序デニ電ネテ又警察ノコトモ書カレテ居ルト云フナラバ、憲兵屯所ノコトダケデ用ハ足リルヤウニ思ヒマスガ如何デセウカ

○秋山政府委員 此處ニ憲兵隊ノ留置場ダケヲ書キマスト、此

ノ法案ニ付キマシテハ、監獄ノ代用ハ憲兵隊ノ留置場ニ限ルノ
ダト云フヤウナ解釋上ノ誤解ヲ生ズル處ガアリマスノデ、是ハ
變方ヲ書クベキモノダト考ヘテ居リマス（衆議院國防保安法案
委員會議録（速記）第四回）

(19) 第二十八條關係

○廣瀬久忠君 二十九條（行々前ニ、チヨット私分ラヌ所ガア
リマスカラ何ヒマス、二十八條ノ二項デスカ三項デスカ、非常
ニ分ラナイ規定ノヤウデスカ、意味ハドウ云フ意味デスカ、外
國ノ船舶ノ問題デスカ、二十八條ノ一番後ノ所ニ、前二項ノ規
定ハ云々トアリマスガ……

○政府委員（三宅正太郎君） 是ハ先程モ申シマシタヤウニ、刑
事手續ハ總テ第十六條ノ第一項、第二項ニ書イテアル犯罪ノ搜
査ニ付テノミ適用サレルノデアリマシテ、其ノ他ノ事件ニ及ボ
スコトハナイノハ、是ハ再々申上ゲタ所デアリマス、唯例外ト
致シマシテ此ノ第二十八條ノ分ダケハ、是ハ元々此ノ必要ハ主
トシテ本法ノ犯罪、即チ第十六條ノ第一項、第二項ノ犯罪ニ付
テノ必要カラ之ヘ出シタデアリマスケレドモ、併シナガラ此
ノ規定ハ是迄刑事手續ニ規定シテナイコトデアリマシテ、
且屢々此ノ問題ハ不便ヲ非常ニ感ジ、之ガ爲ニ國家ノ要塞トカ
或ハ軍事上ノ機密ト云フモノガ、奪ヒ去ラレル危險ガ屢々アツ
タ問題デアリマス、デアリマスカラ、此ノ第二十八條ヲ此處ニ設
ケマシタガ、サレバト云ツテ唯之ヲ本法ノ原則ニ從ツテ、第十
六條ノ第一項、第二項ノミニ適用スルト云フコトニ致シマスノ
ハ、聊カ狭イノデアリマスカラ、ソレデ是ハ第十六條ニ規定ス

タ譯デハナイト私ハ思ヒマス、ソコデ是ハ成ル程辯護人ノ資格
ハ國家ガ與ヘマス、又試験ヲ致シマスガ、併シ自由職業デアリマ
スカラ、辯護人ノ責力或ハ財產等迄モ別ニ國家ハ何等配慮致シ
マセヌ、從ツテ辯護士ニ成リタテデアツテモ、其ノ十分ナ資本
ガナイ爲ニ、マア學校ヲ出テカラ一年半ノ修業ヲ致シテ授業
士ニナツタト云フ人達ノ中ニハ、ソレハ相當ナ事務所ヲ設ケ、
相當ナ資本ノアル人モアリマセウケレドモ、中ニハソレダケノ
資本ヲ元來持ツテ居リマセウケレドモ、他人ノ家ニ同居シテ居ル人
モアリマセウシ、又自分ノ今迄持ツテ居ツタ住宅ヲ其ノ僱事務
所ニ利用シテ居ル人モゴザイマセウシ、或ハ下宿「アパート」ニ
居ル者モアル譯デアリマス、サウ云フ人達ヲ今考ヘマスト、サ
ウシテ現在ノ訴訟事件ノ數ニ對シテ、辯護人ノ數ト云フモノハ
相當多イデアリマス、ソレデアリマスカラ辯護人ノ全部ニ付
テ、裕カナ資本ヲ持ツテ、辯護士ノ仕事ヲシテ居ル者ガ全部デ
アルト言ヒ切レナイ現情デアルトハ、是ハ能ク御承知デアラウ
ト思ヒマス、サウシマスト國家機密ト云フヤウナ重要ナル機密
ヲ持ツテ居ル書類ヲ、サウ云フ不完全ナ設備ヲ持ツテ居ル人ニ
託スト云フコトハ國家トシテ不安心ダト斯ウ考ヘルコトハ、是
ハ已ムヲ得ナイコトト思ヒマスシ、又一面ニ於テ辯護士ノ方モ
ア承シテ職ケルト思ヒマス、サウ云フ關係上國家機密ト云フモ
ノガ、サウ云フ所デ偶々漏レルト云フコトハ、其ノ人ニモ迷惑デ
アリマスカラ、ドウモ已ムヲ得ナイ措置ト致シマシテ、サウ云
フ設備ノ十分デナイ人、或ハ又執務上ノ經驗ノ十分デナイ人、
即チドウ云フ風ニ一體書類ヲ所持スベキカ、ドウ云フ風ナコト

ル罪以外ノ事件ニ付テモ之ヲ適用スル、是ハ本法中ニ於テノ例
外デアリマス、昨日松村委員カラ、一體外ニ持ツテ行ツテモ宜
インヂヤナイカト云フ、二十二條ニ付テノ御質問ガアリマシタ
ガ、是ハ他ニ刑事手續ノアル場合ハ別デアリマスガ、是ハ全然
他ニゴザイマセウカラ、此ノ條文カラ刑事訴訟法ノ手續ノ方ニ
押出シタ部分ガ其ノ末項デアリマス（貴族院國防保安法案特別
委員會議事速記第九號）

(20) 第二十九條關係

○江原委員 辯護人ノ選定ハ被告人ニ任セナイデ、司法大臣ノ
豫メ指定シタル辯護士ノ中カラ之ヲ選定スルト云フコトニシ
タ、アノ軍法會議ナドニ於ケル辯護人ト同ジヤウニヤウタモノ
ト思ハレマスガ、是ハドウ云フコトヲスル必要ガアルノデア
ルカ

○秋山政府委員 是ハ辯護士ヲ信用シナイト云フ趣旨デハ毛頭
ナイノデアリマス、唯辯護士ノ中ニモ實ハ斯ウ云フコトニ協
スルコトヲ好マナイト云フヤウナ人モナイトモ限リマセヌ、例
ヘバ治安維持法ノ罪ニ依ツテ處置サレタヤウナ方モアルヤウナ
事情モアリマスノデ、サウ云フホンノ一部ノ人ダケハ之ヲ除イ
タラドウカト云フヤウナ趣旨デゴザイマス（衆議院國防保安法
案委員會議事速記（速記）第二回）

○政府委員（大竹武七郎君） 指定ニ付キマシテハ別ニ期限ヲ切
ツテ居リマセウカラ、未ダ指定辯護士ニナツテ居ナイ人ヲ辯護
人ニ選定シタイト云フ御希望ノ被告ガアツタ場合ニハ、其ノ際
ニ申請シテ職イテモ結構ナノデアリマス、刑事訴訟法ノ第四十
條第二項ハ、是ハ申上ゲル迄モナク辯護士トシテノ登錄ノナイ
者ノ場合デアリマスカラ、之ヲ働カセテ行ク積リデハゴザイマ
セヌ（貴族院國防保安法案特別委員會議事速記第九號）

(21) 第三十三條關係
○江原委員 二審制度ニシマシタ理由ヲ承ツテ置キタイト思ヒ
マス

○三宅政府委員 御心配ノ點ハ洵ニ御尤ト存ジマス、唯斯ウ云
フ事件ハ只今仰セラレマスルヤウニ慎重ニト云フコトダケデハ
イケナイノデアリマシテ、國內ニ於ケル毒ノ傳播ト云フ風ナ
コトヤ、其ノ國內ニ及ボス影響ト云フヤウナモノヲ考ヘマス
ト、出來ルダケ迅速ニ處理シナケレバナラヌ必要ガアルノデア
リマス、慎重ニシナケレバナラヌト云フコトハ確カニゴザイマ
スガ、一面ニ又迅速ニ片付ケナケレバナラヌト云フコトモ必要
ナノデアリマス、例ヘバ御承知ノ内亂罪ト大逆罪ノ如キハ、現

ニ大審院一審片付ケルト云フコトニナツテ居リマスルノモ、重大デアリマスガ、併シナガラ是ハ早ク片付ケルトガ國內ノ治安上ニ於テモ必要ダト斯ウ痛感スルカラデアリマス、ソコデコノ事件モ、實ハ裁判官ヲ信用シナイトカ、辯護人ヲ信用シナイト云フ考ヘハ毛頭ゴザイマセヌガ、國家秘密ハ一人デモ餘計ニ知ラセタクナイノデアリマス、ソレデアリマスルカ出来ルダケ是ハ小範圍ニ止メテ、サウシテ成ベク多クノ人ノ耳ヤ口ニ掛カラスヤウニ、出来ルダケ早ク處理シタイト云フコトガ必要ダト感ジマシタノデアリマス、ソコデ結局サウ云フ關係上此ノ控訴審ハ省略サレマシタガ、併シ只今御話シノヤウニ事實審ガ唯一回ダト云フヤウナコトハ申シ得ナイノデアリマシテ、大審院ニ於キマシテノ事實審ハ、若シ大審院ガ事實ノ審理ヲ開カウトスレバ、大審院デハヤハリ事實ノ審理ヲ開ケルノデアリマシテ、事實審ガ一審ダケ決スルト云フヤウナ事件ニ付テハ、大審院ニ上告サレタ場合ニ大審院ハ特別ニ其ノ點ニ付テ力ヲ致スデアリマセウシ、第一審ノ認定ニ顯著ナ間違ヒガアルト云フコトデアリマスレバ、更ニ事實審ヲ開クト云フコトニナルノデアリマシテ、一審デオ終ヒト云フコトニハナラナイノデアリマス、ソレカラ今傍聴禁止ヲスレバ宜イデハナイカト仰セラレマシタガ、傍聴ヲ禁止致シマシテモヤハリ記録ガ大勢ノ人ノ手ニ渡ルト云フコトモ考ヘラレマスシ、二審トナレバソレダケ又辯護人モ多クナルト云フ形モゴザイマスシ、サウ云フ關係上、國家秘密ガ多クノ人ニ知ラレナイヤウニ、又知ラセナイコトガ即チ此ノ國防保安法ノ違反罪ヲ起サナイ譯デアリマス、デ

アリマスルノデ、出来ルダケ是ハ少數ノ者ニ止メタイ、斯ウ云フ譯デアリマス、辯護人ニ付テノコトモ決シテ辯護人ニ信用ヲ置カナイト云フ意味デハナイノデアリマシテ、餘リ大勢ノ人ニ、假ニ辯護人ニデモ知レマスレバ、萬々一其ノ人カラ又更ニ偶然ノ事實カラ他ニ傳播スルト云フ點モナイデアリマセヌシ、又辯護人ヲ制限致シマシタノモ、一ツハサウ云フ國家秘密ヲ包含スル記録トカ、或ハ謄寫シタモノトカ其ノ他ノモノガ、ソレヲ十分ニ保存スルダケノ設備ヲ持ツテ居ル方ナラバ宜シウゴザイマスケレドモ、輕々ニソレ等ノモノガ外部ニ漏レル、或ハ出ルト云フコトノ心配ノアル所ニハ、サウ云フ方ガ此ノ辯護人ニナラナイト云フコトノ制限ヲ附シタ次第ナノデアリマス、決シテ不信用ト云フ意味デ制限シタ譯デハナイノデアリマス

○秋山政府委員 其ノ點ニ付キマシテハ政府ニ於キマシテモ十

府ノ御方針トスル所ヲ承リタイト思ヒマス

分考ヘテ居リマシテ、取扱上ノ點ニ於キマシテハ一審ハ地方裁判所ニ致シタイト考ヘテ居リマス(同第七回)

○澤田牛齋君 此ノ第二章ノ規定ハ非常ニ特別ナ規定ニナツテ居リマシテ、私共ガ今度初メテ見參スル法規ニナツテ居ルノデアリマス、即チ一番分り易イ所ハ、三審制度ヲ採用セズニ、刑事訴訟法ノ改正ニ依ラズシテ、二審制度ヲ採用シテ居ルト云フ點デゴザイマス、司法當局ガ大變ナ御英斷ヲ以テ、三審制度ヲ止シテ二審制度ニシタ、殊ニ極刑ハ死刑制度ヲ以テ臨マレテ居ル所ガ澤山アル、ソレヲ三審制度ヲ廢シテ二審制度ニスル、而モ此ノ二審制度ハ類似ノヤウナ犯罪多數ニ及シテ居ル、寧ろ是ダケデ一種ノ特別ノ刑事訴訟法ヲ確立シタヤウナ風ニナツテ居ル、寧ろ此ノ單行法ニ依ツテ原則的ノモノヲ成立シタト云フコトハ、是ハ立法ノ今迄ノ慣例ト言ヒマスカ、極メテ異例デアアル、各種ノ方面カラ見テ私ハ非常ニ異様ナ感ジガスルノデアリマスカラ、此ノ點ニ關スル十分御説明ヲ伺ツテ見タイト思ヒマス

○政府委員(三宅正太郎君) 本法ニ於キマシテ、控訴審ヲ除キマシタ理由ハ、唯速クヤレ、速クヤリタイト云フコトハ、勿論訴訟ノ迅速ハ望ム所デアリマスノデ、又特ニ此ノ種ノ事件ニ付テハ迅速ニ處理スルコトガ飽ク迄モ必要デアルコトデアリマスルカラ、迅速ノ處理ト云フコトモ一ツノ理由デアリマスルケレドモ、更ニソレ以上ニ大キナ理由ハ、主トシテ國家秘密其ノ他國ノ安危ニ關スル諸種ノ情報等ハ、ソレ等ガ多人數ノ耳目ニ觸レルコトヲ出来ルダケ避ケタイト云フコトガ主眼デアリマス、

如何ニ公開ヲ禁止致シマシテモ、訴訟ガ三審ニ行キマス間ニハ其ノ事件ノ内容ヲ知ル者ハ相當ノ數ニ上ル譯デアリマス、又一審、二審三審ト云フ間ニハ、土地モ違フ場合モ多イノデアリマシテ、ソレノ土地ニ於テノ、ソレノ「センセーション」ヲ起シ得ル譯デアリマス、ソコニ國家秘密ガアルゾト云フコト、例ヘバ先程御審議ガアリマシタヤウナ未遂罪ノヤウナ場合ニ、マダ外國ニ漏レナイ國家秘密ト云フモノガアル、ソレハ即チ裁判所ノ審理ノ中ニアルノダト云フヤウナコトデ、外國ノ觸手ガ其ノ方ヘ向ツテ色々活動スルト云フコトモ考ヘラレ得ルノデアリマス、サウ云フ關係上出来ルダケ關與ヲスル人ヲ少クシヨウト云フコトガ一ツノ理由デアリマシテ、ソレデ結局二審ト云フコトニ致シタ次第デアリマス、ソコデソレニ對シテ今澤田委員カラ、三審ハ即チ憲法發布以來ノ鐵則デハナイカ、是ハ即チソレガ司法ノ根幹ヲ成スモラデハナイカト云フ、斯ウ云フ御意見デアリマス、成ル程裁判所構成法ヲ見レバ、即チ三審制度ヲ原則ト致シテ居リマス、併シナガラ此ノ司法ノ根幹ガ三審制度デナケレバナラヌト云フコトノ御議論ハ、私共トハ聊カソコニ違ヒガアルノデアリマシテ、現ニ外國ニ於キマシテモ三審制度ガ決シテ普通トハ申シ得ナイノデアリマス、現在ノ各國ノ司法制度ヲ御覽下サイマスレバ、決シテ必ズシモ日本ノヤウナ三審制度ヲ持ツテ居リマセヌノデアリマス、殊ニ各種ノ變革ガアリマシテ、ソレノ「ニ此ノ司法制度ハ變リツ、アルノデアリマス、而シテ日本ニ於テモ決シテ三審制度ガ明治二十三年ニ、裁判所構成法が出来マシテ以來、其ノ儘ニズツト來テ居ルト云フ

譯デナイコトハ、例ハ陪審法ガ施行サレマシタコトニ依ツテ、陪審法ニ付テハ、アレハ二審デアリマス、ソレカラ刑事訴訟法ガ改正ニナリマシテ、大審院ニ、更ニ又事實審ト云フヤウナモノヲ設ケマシタ、是ハ從來ニ於テハ、大審院ハ單ニ法律審デアツタニ拘ラズ、之ヲ大審院ニ於テ、事實ノ誤認、量刑ノ誤審ニ付テモ大審院ガ調ベルコトニ組織ヲ變ヘマシタ、是ハ家口丁寧ニナツタ方ノ事實デアリマス、更ニ又刑事訴訟法ニ於キマシテハ、一審ノ判決ニ對シテ直チニ上告ヲスルコトノ出來ルコトノ規定ヲ設ケテ居リマス、即チソレハ當事者ノ希望デアリマス、即チ其ノ間ニ控訴院ヲ省略スルコトヲ、矢張り刑事訴訟ニ認メルノデアリマス、必ズ三審ヲナケレバナラス、サウシテ一點一畫デモソレヲ缺イテハ、即チソレハ司法ノ精神ヲ害スルモノデアルトハ、斯ウ云フ風ニハ、私共ハソレ程迄ニハ考ヘマセヌノデ、ソレヲ又色々ニ此ノ時勢ニ應ジ、又事件ニ應ジテ、其ノ關係ハ變ヘテ行ツテモ宜イノデハナイカト思フノデアリマス、例ヘバ只今問題トナツテ居リマス、控訴審制度ニ於キマシテモ、舊刑事訴訟法ニ於ケル控訴ト、大正十一年カラ行ハレマシタ新刑事訴訟法ノ控訴ト云フモノハ、矢張り是デ意義ガ違ツテ居ルノデアリマス、色々其ノ制度ニ依リマシテ、三審制度ト申シマスケレドモ、其ノ内容ハ色々ニ變革ヲ來シテ居ルノデアリマシテ、是ハ其ノ事件ニ應ジ、其ノ時勢ニ應ジテ變ヘテ然ルベキモノデハナイカト斯ウ思フノデアリマス、尙附加ヘテ申上ゲマス、斯ウ云フコトモ申上ゲテ見タイト思ヒマス、裁判所構成法ガ出來マシタ時ニハ、大審院ハ七人ノ判事ヲ以テ組織

シ、控訴院ハ五人ノ判事ヲ以テ組織シ、地方裁判所ハ三人ノ判事ヲ以テ組織シマシタ、即チ大キナ、重大ナ事件ニ付キマシテハ、始メ三人、其ノ次五人、其ノ次七人ト云フ風ナ判事ヲ以テ調ベルベクナツテ居リマシタ、只今デハソレガ地方裁判所ガ三人、控訴院三人、而シテ大審院五人ト斯ウナツテ居リマス、是等モ、實際ニハ審級ト云フ意味デアリマセヌガ、審級ヲ形作ル所ノ判事ト云フモノノ數ニ付テモ、モウソレダケノ變更ガ來サレテ居ル譯デアリマス、私モ二十年ニ互ツテ判事ヲ致シテ居リマスカラシテ、マア裁判ノ點ニ付キマシテ、色々考ヘテ見ダコトモアルノデアリマスガ、成ル程裁判ハ鄭重デアレバ鄭重デアル程宜シイ、其ノ點ニ付キマシテハ全ク異議ガゴザイマセヌ、併シナガラ一面ニ於テ、折角鄭重デアツテモ、餘リニ長ク掛リマス、實際ノ裁判ノ效果ト云フモノヲ減殺スル形ガアルコトハ申ス迄モアリマセヌ、尙又三審制度ノ良イ所ハ勿論ゴザイマスガ、又一面ニ之ヲ裁判スル人ノ責任感ト云フ所カラ申シマス、矢張り一審二審三審トシマスコトハ、一面ニ於テハ裁判官ガ自分ノ裁判ガ將來上級審ニ於テ修正サレ得ルノダ、斯ウ云フ考ヲ持チ得ル、是ハ持ツテナラヌカモ知レマセヌガ、人情上持チ得ルト云フ形ニナリマシテ、其ノ裁判ニ對シテ全責任ヲ負フト云フヤウナコトニ付テノ責任感ト云フモノハ、ドツチカト申シマス、幾ラカハソコハ輕クナル感ジモノイ譯デアリマシテノデアリマス、今日此ノ法律ニ於キマシテ二審ニナリマシテモ、是ハ裁判所構成法、當時ノ刑事訴訟法ト違ヒマシテ、大審院ガ一個ノ事實審トナツテ居ルノデアリマス、地方裁判所デ裁

判致シマシタコトニ付キマシテ、事實ノ認定刑ノ量定ニ付テ著シキ誤謬ガアルトスルナラバ、ソレヲ大審院ニ於テ更ニ事實ヲ調ベ、サウシテ更ニ刑ノ量定ヲスルノダト云フダケノ權限ヲ大審院ハ持ツテ居ルノデアリマス、從來ハ斯ウ云フモノヲ持ツテ居リマセヌデアリマシタカラ、事實ノ調ベハ一遍コツキリ、一審キリト、斯ウナツテ居ツタノデアリマスガ、今日行ハレテ居リマス刑事訴訟法以來、サウデハナイノデアリマシテ、大審院モ事實ノ調ベヲスルノデアリマス、デアリマスカラ、此ノ事實審ガ一審ヲ終ヒテ、ソレデ決ツテシマウコトハゴザイマセヌデ、ソレニ著シキ誤謬アリト大審院ガ認メマシタ場合ニハ、更ニ事實審ノ調ベガアル譯デアリマス、全國最高ノ判事ヲ以テ組織サレマスル其ノ大審院ニ於テ更ニ事實ノ調ベヲスル譯デアリマスカラ、其ノ點ニ於テ是ハ今日一般ノモノカラ見ルト、成ル程控訴審ダケガ減ル譯デアリマスカレドモ、併シナガラ實際ニ於テ事實審ハ二審アル譯デアリマス、若シサウシテ大審院ガ事實ノ調ベヲ致シマシテ、十分ナラズト致シタ場合ニハ、更ニ下級審ニ差シ戻シテ、更ニ調ベサセルト云フコトヲモウ一遍サセルト云フコトモ出來テ居ルノデアリマシテ、被告人ノ冤罪ニ陥ルコトヲ防グニハ相當ナル用意ヲシテ居ルノデアリマス、デアリマスカラ、今日斯ウ云フ特殊ノ事情ニアル事件ニ付テ、餘リニ多クノ人ニ知ラセタリ、聽カセタリシタナイ關係ガアリマスノデ、セメテ其ノ中ノ一ツノ審級ダケヲ取リマシテモ影響スル所ガサウ甚ダシクハナイト、斯ウ云フ風ニ考ヘマシテ致シタ次第デアリマス、實際ニ於キマシテ尙又斯ウ云フコトニナリマス

レバ、大審院ト致シマシタモノ、既ニ一審ニ於テ事實ヲ調ベテ、ソレデ以テ判斷ヲサレタト云フ場合ニ、ソレデ大審院ガ果シテ何ノ事件ガ事實ニ付テ誤アリヤ否ヤト云フコトヲ考ヘマス時ニハ、前ニ一審ヲ調ベタニ過ギナイト云フコトニナリマスレバ、特別ニ其ノ點ニ付テハ注意ヲシテ審判ヲ致スコトハ當然ノコトデゴザイマス、十分ニ慎重ナ態度ヲ執ツテ裁ケルト思フノデ此ノ程度十分ナイカト思フノデアリマス、尙又附加ヘマスコトハ、本法ニ於テ捜査ノ手續ニ付テモ一定ノ機關ヲ限ツテ捜査ヲサセテ裁キマスシ、更ニ又此ノ事件ハ豫審ニ屬リマス、更ニ豫審判事ガソレヲ調ベ、事實ニ付テノ調ヲスル、捜査機關ガ調ベ更ニ豫審判事ガ調ベ、更ニサウシテ第一審ヲ調ベ、ソレデ足リナケレバ、大審院ガ調ベルト云フコトニ致シマシテ、相當手ヲ重ネテ事實ノ調ベヲ致シマスノデ、十分ニ事情ヲ盡シテ間違ヒガナイコトニナルト思フノデアリマス、ドウカ決シテ司法ノ精神ニ反スルヤウナ制度デアナイコトダケヲ特ニ御了承ヲ願ヒタイト思フノデアリマス。

○政府委員(三宅正太郎君) 二審ニ致シマシタ理由ニ付テハ先程申上ゲマシタヤウニ、出來ルダケ多クノ、一人ダケデモ斯ウ云フコトヲ國家機密、其ノ他ニ之ニ類スルコトヲ知ラシタタナイト云フコトガ一つ、ソレカラ迅速ニ片付ケルコトガ國家ノ利益デアルト云フコトノ二ツデアリマス、而シテ是ハ先程申上ゲタモノナイノ申上ゲマセヌデシタガ、御承知ノ通り大審院ハ刑法第七十三條、七十五條及七十七條乃至七十九條即チ大逆罪並ニ内亂罪ニ付テハ一審ニシテ且ツ終審、是ハ一審コツ切りノ裁

判ヲ致シテ居リマス、而シテ此ノ國防保安法ノ違反ハ一審ヲ、一審ト申シテハイケマセヌガ、少クモ此ノ行爲ハ此ノ犯罪行爲ト云フモノハ、内亂罪ト匹敵スル程度ノ行爲トモ考ヘテレル點ガアルノデアリマス、併シ其ノ内亂罪デハゴザイマセヌケレドモ、内亂罪、國家ノ安危ガ之ニ關ツテ居ル場合モ存在スルノデゴザイマス、内亂罪ヲ特別權限トシテ大審院ノ一審且ツ終審ニシタト云フ理由モ既ニ先例トシテアルノデアリマス、ソレ程ニ強クスト云フコトノ必要ヲ認メマセヌデモ、少クモ此ノ程度ニ致スコトハ裁判所構成法ノ趣旨カラ言ツテモ反對ノコトデハオイト斯ウ云フ風ニ考ヘル次第デアリマス、尙最後ニ御尋ニナリマシタ司法省ニ於テ、他ノコトニ付テ此ノ三審制度ヲ變更スルト云フ考ハナイカト云フ御尋デゴザイマシタ、只今ノ處司法省トシテ成案ヲ得テハ居リマセヌ、別ニ司法省トシテ三審制度ヲ變ヘルノガ宜イトカ惡イトカ云フヤウナ結論ハ得テ居リマセヌ、併シナガラ司法制度ト云フモノハ時代ニ依ツテ變ヘナケレバナラヌ、又變ラナケレバナラヌモノダ、司法精神ヲヨリ良ク昂揚サセル爲ニハ、相當ニ變更ヲ加ヘル必要ガアルモノダト考ヘテ居リマス、從ツテ此ノ審級制度ニ付テモ考究ハ意ツテ居リマセヌ、併シナガラ是ガ斯ウ云フ風ニナルカラ外ノモノヲ皆之ニシテシマフノダト云フヤウナ考ガ司法省ニアルト云フ風ニハ御考ヘ下サラナイヤウニ願ヒタイト思ヒマス、飽ク迄司法省ハ慎重ニ審理スベキ事件ニ付テ慎重ニ審理スルト云フコトハ必要ダト考ヘテ居リマス。

○澤田牛齋君 松村委員ノ質問ニ關聯シテ伺ツテ置キタイト思ヒマス、今刑法ノ内亂罪ノコトデ、大審院ノ特別權限、サウ云フコトノ御話ガアリマシタガ、私ハ寧ろソレハ結構ダト思フノデアリマス、ソレデ寧ろ此ノ保安法ノ犯罪ガ大審院ノ特別權限カナンカニナツテ、サウ云フコトデ最高ノ、判檢事ガ最高ノ法律知識ヲ傾ケテ最善ノ力ヲ盡シテヤラレルト、サウ云フ特別モノニスルナラ、是ハ又見方ガ違フト思フノデアリマス、普通ノヤリ方デ、三審ヲ二審ニスルト云フヤウナコトハ、大審院ノ特別裁判デ一審ダケテ済マスト云フノデハ、是ハ唯階段ヲ縮メタト云フ問題ダケデナク、内容ニ於テ非常ニ重要サガ違フモノデアリマスカラ、私ノサツキ御伺ヒシタノハ大審院ノ特別裁判ニナツテ居ルコト迄モ、疑義ヲ懷タトカ、非難ヲスルトカ、或ハ不賛成ヲ表スルト云フ意味デハナイノデアリマス、寧ろ保安法ガ其ノ例ニ倣ツテ居ルナラ、又ソレモ一ツノ考ヘ方デアルト見テ行ツテ宜イト思フノデアリマス、唯普通ノ裁判ノ進行ニ依ツテ三審デアルモノヲ、斯ウ云フコトニ限ツテ二審ニスルト云フコトニ付テ疑問ヲ持ツテ居ル者デアリマス。

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ法律ニ付キマシテハ只今ノ御言葉ニアリマシタヤウナコトモ考ヘタノデアリマス、併シ内亂罪ト云フヤウナモノト違ヒマシテ、各地ニ發生致シマスシ、各地ニ於テ起ルコトヲ一々大審院デ裁判スルト云フコトモ實際上ニ於テ非常ニ不便ガ多カラウト思フノデアリマス、ソレカラ或ハ控訴院デ一審ヲ審理シタラドウカト云フコトモ考ヘマシタノデス、是モ一々皆控訴院迄行クト云フコトモ、是ハ裁判ハ欠

張り其ノ土地ノ事情ニ明ルイコトモ必要ナノデアリマス、第一審ト致シマシテハ、矢張り此ノ土地ノ地方裁判所デ致スコトガ適當ダト思フノデアリマス、尙サウ申シマスト御疑念ガ出ルトイケマセヌカラ申上ゲマスガ、第十六條ノ中ニハ區裁判所ノ權限ニ屬スル事件モアルノデアリマス、併シ是ハ勿論區裁判所ニ起訴シテ差支ナイコトデアリマスガ、取扱上ト致シマシテハ地方裁判所ニ起訴致シマシテ、サウシテ地方裁判所ノ豫審ヲ求メルコトガ適當ダト斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス(貴族院國防保安法案特別委員會議事速記第六號)。

○小原直君 字句ノ用ヒ方カラシテノ問題ト思フノデアリマス、疑ガアリマスカラ御尋ニスルノデアリマス、第三十三條ノ控訴ヲ認メザル趣旨ヲ規定シタ條文ノ中ニ「同條第二項ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ズト云フ規定ガアリマスガ、此ノ罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審ノ判決」ト云フコトハ、有罪ノ判決ノミヲ意味スルノデハナカラウト思フノデアリマスカレドモ、是ハ有罪判決ダケヲ謂フノデアリマスカ、若シ無罪ノ判決ガアツタ時ニ、檢事ガ此ノ條文ニ依ツテ控訴ヲナサズシテ、直チニ上告ガ出來ルノデハナイノデアリマスカ。

○政府委員(三宅正太郎君) 是ハ字句ノ點ニ付テハ多少御疑問ノゴザイマスカトハ、御尤デアリマスガ、只今御說明ノ兩方ヲ之ニ含メテ趣旨デアリマシテ、無罪ノ分モ之ニ入ルノデゴザイマス。

○小原直君 サウスルト、第三十四條ニ至ツテ、裁判所ハ云々

ノ目的ヲ以テ「第十六條第二項ニ掲グル罪ヲ犯シタルモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ判決ニ揭示スベシ」是ハ有罪ノ判決ダケデセウネ。

○政府委員(三宅正太郎君) ソレニ關連ヒアリマセヌ。

○小原直君 今舉ゲマシタ三十二條ト三十四條ト同ジ文句ヲ用ヒテ、一方ハ有罪ニ、一方ハ有罪無罪ヲ認メルト云フノハ用語ノ使ヒ方ニ於テ不當ガアルノデハナイカ……

○政府委員(三宅正太郎君) 是ハ裁判所ガ認メタ、其ノ判決ニ揭示シロト云フコトデアリマスカラ、無罪ノ分ハ當然判決ニ揭示、ルト云フ點ニ於テ入ラナイト云フ、斯ウ云フ次第デゴザイマス。(同第九號)

(22) 第三十六條關係

○澤田牛齋君 第三十六條ノ說明ヲ御願ヒシタイト思ヒマス、是ハ前ニモチヨット初メノ時ニ申上ゲマシタガ、訓令ノヤウナ風ニ聞エマスガ、何カ的確ナ法律上ノ意義ガアルノデゴザイマスカ、一連ニ其ノ裁判ヲ爲スベシ、速カニト云フコトハ、順序ヲ規定シタモノトハ見エナイノデスガ、是ハドウ云フ意味デスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ規定ハ成ル程法律ノ體裁トシテ訓示のデゴザイマシテ、訓示的ノ規定ト申シテ宜シイノデアリマス、唯是ハ衆議院議員選舉法ノ第四百一十一條ノ第三項ニ之ト同ジ規定ガゴザイマシテ、衆議院議員ノ訴訟ニ付テモ、早クヤルト云フ之ト同ジ規定ガアリ、此ノ規定ガアリマス爲ニ、相當進行ノ程度ヲ早ク致スコトガ出來マスノデ、成ルベク早クスルト云フ意味ニ於テ此ノ規定ヲ掲ゲタ次第デアリマス。

○澤田牛登君 只今ノ御説明デ、一ツノ點ハ分リマシタガ、之ガ起ツタ場合ニハ、衆議院議員選舉法ノ事件ト、ドツチガ強イコトニナリマスカ

○政府委員(三宅正太郎君) ドツチガ強イカ、勿論其ノ事件ノ性質ニ依ツテ決メルト云フ外ハナイト思ヒマス

○澤田牛登君 ソレカラ三十八條ト二十八條ノ第三項トノ關係、二十八條ニ依リマス、先程御話ノ事ツタ通り前二項ノ規定ハ第十六條ニ規定スル罪以外ノ罪ニ付テモ適用ストアル、サウスルト此ノ第三十六條デ「本章ノ規定ノ適用ヲ受クル罪」ト云フ中ニハ、此ノ「以外ノ罪」ト云フノハドウ云フ罪カ知ラスガ、以外ノ罪ト云フモノニモ之ヲ適用スト云フノダカラ、三十六條ニ云フ、適用ヲ受クル罪ニナル譯デスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 本法ノ第二十八條ハ前二項ノ規定トゴザイマスノデ、第二十八條ノ第一項第二項ハ、第十六條ニ規定スル罪以外ニ食ミ出ル、斯ウ云フコトヲ書イテ居ルノデアリマス、第三十六條ハ食ミ出ナイ罪デアリマス「本章ノ規定ノ適用ヲ受クル罪」ト書イテゴザイマスカラ、是ハ第二十八條ノ第三項トハ違フ、第三項ハ前二項ノ罪デアリマスカラ、デスカヲ第三十六條ハ、本法ノ第十六條ニ書イテアル此ノ規定ノ罪、斯ウ御了承願ヒマス(同上)

(23) 附則關係

○柳川國務大臣 御答ヘ致シマス、只今小高君ノ述べラレマシタ通りニ、本法ガ非常ニ重大ナ意義ヲ有シ、國民ニ勳モスレバ不安ノ感ヲ與ヘルヤウナ處レノアルコトハ御説ノ通りデアリマ

ス、デスタノ如キ立法ハ已ムヲ得ズシテ制定サレル譯デゴザイマシテ、無論國際情勢ガスタノ如キ非常ノ立法ヲ必要トスル期間ニ行ハルベキモノデアラウト存ズルノデアリマス、隨テ國際情勢ガ平靜ニ復シ、スタノ如キ憂ノナクナルカ、若クハ減少ヲシタ場合ニ於テハ、何レハ他ノ立法若クハ本法ノ改廢等ノコトモ議セラレラウト存ズル次第デアリマス

次ニ此ノ法ガ謀略、國內的ニ使ハレルコトニ關スル處レガアルト云フ御意見デアリマスガ、是ハ司法當局ト致シマシテ、決シテスタノ如キコトヲシナイコトヲ御誓ヒ申シテモ宜カラウト思ヒマス、決シテ左様ナコトハシナイコトニシ、又行政責任ノ方トモ連絡ヲ致シマシテ、本法立法ノ精神タル間諜防止、國家機密ノ漏洩ヲ豫防スル以外ニ之ヲ他ノ目的ニ利用スルコトハ一切致サナイコトヲ確言致シテ置ク次第デアリマス

○田中政府委員 今暫定法ト云フ御言葉デアリマシタ、司法大臣閣下カラモ、何レハト云フコトデアリマシタガ、私ハ司法省ト見解ヲ異ニシテ居ルノデアリマセヌガ、唯御參考マデニ申上ゲタイコトガアルノデアリマス、例ヘバ「フランス」ガ何ガ故ニ「ドイツ」ノ前ニスタノ如ク脆クモ倒レタカト「フランス」ノ大官ト云フモノハ平素カラ「ドイツ」ノ謀略ニ掛ツテ親獨の行爲ガアツタカラデアリマス、スパイノ防止ハ戰時ニナツテ、交通ガ遮斷サレタ場合ニ於テヨリモ、平時ニ於ケル「スパイ」ノ防止ガ大事ナノデアリマス、戰時ニ於キマシテハ、平時ノ蓄積ガ現ハレテ來ルノデアリマス、此ノ點御參考マデニ申上ゲテ置キマス(衆議院國防保安法案委員會議錄(速記)第三回)

(三) 國防保安法施行令 (昭和十六年五月七日) 勅令第五四二號

國防保安法施行令

第一條 主務大臣ハ國家機密ニ屬スル各事項ニ付其ノ取扱者其ノ他特ニ關係アル者ニ對シ秘密保持上執ルベキ措置其ノ他其ノ取扱方ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スベシ

前項ノ規定ハ國防保安法第一條第一號又ハ第二號ニ規定スル國家機密ニ屬スル事項ニ付テハ御前會議ニ在リテハ內閣總理大臣、其ノ他ノ會議ニ在リテハ當該會議ノ長又ハ主宰者ニ之ヲ準用ス

第二條 前條ノ指示ニ係ル國家機密ニ屬スル事項ヲ表示スル圖書物件ノ保管者ハ當該圖書物件ニ附圖ニ定ムル標記ヲ附スベシ

第三條 主務大臣及第一條第二項ニ規定スル者ハ各其ノ指示ニ係ル國家機密ニ屬スル事項ガ國防上外國ニ對シ秘密スルコトヲ要セザルモノト爲ルニ至リタル場合ニ於テハ關係者ニ其ノ旨ヲ了知セシムル爲必要ナル措置ヲ執ルベシ

前項ノ場合ニ於テハ前條ノ圖書物件ノ保管者ハ當該圖書物件ニ附シタル標記ヲ抹消スベシ

附則

本令ハ國防保安法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附圖



備考

一 第一種及第二種ハ圖書ノ、第二種ハ物件ノ標記トシ赤色トス

二 國家機密ニ屬スル事項ノ表示ヲ一部ニ包含スル圖書ニ付テハ表紙ニ第二種ノ標記ヲ、當該事項ヲ表示スル部分ニ第一種ノ標記ヲ附スルモノトス

(四) 辯護士指定規程 (昭和十六年五月九日) 司法省令第四七號

第一條 國防保安法第二十九條及治安維持法第二十九條ノ規定

ニ依ル辯護士ノ指定ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條 司法大臣ハ十年以上辯護士タル者ノ中ヨリ毎年豫メ相當數ノ辯護士ヲ指定ス但シ豫メ指定ヲ欲セザル旨ノ申出アリタル場合ニ於テ其ノ理由アリト認ムルトキハ之ヲ指定セズ

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ指定セズ

一 國防保安法第十六條ニ規定スル事件又ハ治安維持法違反事件ニ付罰金刑ニ處セラレ刑ノ執行納豫ノ言渡ヲ受ケ若ハ起訴納豫處分ニ付セラレタル者又ハ公訴ノ提起ヲ受ケテ其ノ裁判確定セザル者

二 前號ニ規定スル事件以外ノ刑事事件ニ付前號ノ處分ヲ受ケタル者ニシテ指定ヲ適當ナラズト認ムルモノ

三 思想、經歷其ノ他ノ事由ニ因リ指定ヲ適當ナラズト認ムル者

第四條 指定セラレタル辯護士ニシテ前條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ指定ハ之ヲ取消ス

第五條 指定ノ效力ハ一年トス但シ選任セラレタル事件ニ付テハ其ノ確定ノ時迄指定ノ效力ヲ有ス

第六條 指定ヲ爲シタルトキハ本人ニ其ノ旨ヲ通知シ官報ヲ以テ之ヲ公告ス指定ノ取消ヲ爲シタルトキ亦同ジ

第七條 司法大臣ハ指定辯護士名簿ヲ調製シ之ヲ司法省ニ備フ指定辯護士名簿ニハ辯護士ノ氏名、住所、生年月日、登録年月日、登録番號、所屬辯護士會及事務所其ノ他必要ト認ムル事項ヲ記載ス

附 則

本令中國防保安法ニ關スル部分ハ同法施行ノ日ヨリ治安維持法ニ關スル部分ハ治安維持法改正法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニ依ル指定ハ昭和十六年ニ限り施行後之ヲ行フコトアルベシ

本令ニ依リ昭和十六年ニ於テ爲ス指定ハ昭和十七年十二月三十一日迄其ノ效力ヲ有ス

(五) 國防保安法及治安維持法所定ノ刑事手續ノ適用ヲ受クベキ犯罪事件ニ關スル票請

第一條 國防保安法及治安維持法所定ノ刑事手續ノ適用ヲ受クベキ犯罪事件ニ關スル票請及報告ニ付テハ本訓令ニ從ヒ處理スベシ

第二條 票請及報告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ但シ急遽ヲ要スルモノハ口頭、電話又ハ電信ヲ以テ之ヲ爲シタル後速ニ成規ノ手續ヲ爲スベシ

第三條 左ニ掲グル事件ニ付被疑者ノ檢舉(勾引又ハ勾留)ヲ爲シタルトキハ檢舉正ハ速ニ司法大臣、檢舉總長及檢舉長ニ其ノ旨ヲ報告スベシ

一、國防保安法第三條乃至第七條ノ罪及此等ニ關スル第十一條乃至第十三條ノ罪ニ關スル事件

由ニ因リ不起訴ノ處分ヲ爲サントスルトキハ此ノ限ニ在ラズ同項第四號ニ掲グル事件ニ付起訴ノ處分ヲ爲サントスルトキ亦前項ニ同ジ

同條第二項ニ掲グル事件ニ付捜査ノ結果ニ因リ起訴又ハ不起訴ノ處分ヲ爲サントスルトキハ檢舉總長ハ豫メ司法大臣ニ事情ヲ具申シテ其ノ指揮ヲ受クベシ

第七條 第五條並ニ前條第一項及第二項ニ依リ檢舉長ノ指揮ヲ請ヒタルトキハ檢舉正ハ直ニ司法大臣及檢舉總長ニ其ノ旨ヲ報告スベシ

第八條 檢舉長第五條並ニ第六條第一項及第二項ニ依リ指揮ヲ爲サントスルトキハ豫メ檢舉總長ニ事情ヲ具申シテ其ノ指揮ヲ受クベシ

第九條 檢舉總長前條ニ依リ指揮ヲ爲サントスルトキハ豫メ司法大臣ニ事情ヲ具申シテ其ノ指揮ヲ受クベシ

第十條 檢舉總長第八條ニ依リ指揮ヲ爲シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ司法大臣ニ報告スベシ

第十一條 第三條第一項各號ニ掲グル事件ニ付起訴又ハ不起訴ノ處分ヲ爲シタルトキハ檢舉正ハ速ニ司法大臣、檢舉總長及檢舉長ニ其ノ旨ヲ報告スベシ

同條第二項ニ掲グル事件ニ付起訴又ハ不起訴ノ處分ヲ爲シタルトキハ檢舉總長ハ速ニ司法大臣ニ其ノ旨ヲ報告スベシ

第十二條 第三條第一項第一號乃至第三號ニ掲グル事件ニ付勾留ノ期間ヲ更新シタルトキハ檢舉正ハ速ニ司法大臣、檢舉總長及檢舉長ニ更新ノ年月日及事由ヲ報告スベシ同項第四號ニ

一、同法第八條乃至第十條ノ罪及此等ニ關スル第十一條乃至第十三條ノ罪並ニ同法第十六條第一項第二號ニ掲グル罪ニ關スル事件
三、同法第十六條第二項ニ規定スル事件(刑法第七十三條、第七十五條及第七十七條乃至第七十九條ノ罪ニ關スル事件ニ付檢舉ヲ爲シタルトキハ檢舉總長ハ速ニ司法大臣ニ其ノ旨ヲ報告スベシ)
四、治安維持法ノ罪ニ關スル事件
刑法第七十三條、第七十五條及第七十七條乃至第七十九條ノ罪ニ關スル事件ニ付檢舉ヲ爲シタルトキハ檢舉總長ハ速ニ司法大臣ニ其ノ旨ヲ報告スベシ
第四條 前條第一項第一號、第二號及第四號ニ掲グル事件ニ付内密捜査ニ着手シタルトキハ檢舉正ハ速ニ司法大臣、檢舉總長及檢舉長ニ其ノ旨ヲ報告スベシ同項第三號ニ掲グル事件ニシテ重大ナルモノニ付亦同ジ
同條第二項ニ掲グル事件ニ付内密捜査ニ着手シタルトキハ檢舉總長ハ速ニ司法大臣ニ其ノ旨ヲ報告スベシ
第五條 第三條第一項第一號ニ掲グル事件ニ付被疑者ノ檢舉ヲ爲サントスルトキハ檢舉正ハ豫メ檢舉長ニ事情ヲ具申シテ其ノ指揮ヲ受クベシ但シ緊急事件ニ付急遽ヲ要シ豫メ指揮ヲ受ケタルノ邊ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ
第六條 第三條第一項第一號乃至第三號ニ掲グル事件ニ付捜査ノ結果ニ因リ起訴又ハ不起訴ノ處分ヲ爲サントスルトキハ檢舉正ハ豫メ檢舉長ニ事情ヲ具申シテ其ノ指揮ヲ受クベシ但シ被疑者ノ死亡、責任能力ノ欠缺、大赦及公訴時効ノ完成ノ理

掲グル事件ニ付四月ヲ超エテ勾留ノ期間ヲ更新シタルトキ亦同ジ
 勾留シタル被疑者ヲ釋放シ又ハ勾留ノ執行ヲ停止シタルトキハ
 八、檢事正ハ速ニ司法大臣、檢事總長及檢事長ニ釋放又ハ執行
 停止ノ年月日及事由ヲ報告スベシ
 第十三條 國防保安法第二十八條ノ強制處分ヲ爲シ又ハ之ヲ解
 キタルトキハ檢事正ハ速ニ司法大臣、檢事總長及檢事長ニ其
 ノ旨ヲ報告スベシ
 第十四條 第三條第一項各號ニ掲グル事件ニ付豫審終結決定、
 略式命令又ハ地方裁判所若ハ區裁判所ノ裁判ノ裁判アリタル
 トキハ檢事正ハ速ニ司法大臣、檢事總長及檢事長ニ其ノ旨ヲ
 報告スベシ
 同號ニ掲グル事件ニ付控訴院ノ裁判ノ裁判アリタルトキハ檢
 事長ハ速ニ司法大臣及檢事總長ニ其ノ旨ヲ報告スベシ
 同號ニ掲グル事件ニ付上告ノ裁判アリタルトキ又ハ同條第二
 項ニ掲グル事件ニ付公判ノ裁判若ハ刑事訴訟法第四百八十三
 條ニ規定スル決定アリタルトキハ檢事總長ハ速ニ司法大臣ニ
 其ノ旨ヲ報告スベシ
 第十五條 前條第一項ノ裁判若ハ略式命令ニ對シ上訴ノ申立若
 ハ正式裁判ノ請求アリタルトキ又ハ同條第二項ノ裁判ニ對シ
 上訴ノ申立アリタルトキハ檢事正又ハ檢事長ハ前條ニ準ジ速
 ニ其ノ旨ヲ報告スベシ
 第十六條 第三條第一項各號及第二項ニ掲グル事件ニ付裁判確
 定シタルトキハ檢事正、檢事長又ハ檢事總長ハ第十四條ニ準

ジ速ニ其ノ旨ヲ報告スベシ
 第十七條 第三條第一項各號及第二項ニ掲グル事件ニ付豫審終
 結決定、略式命令又ハ公判ノ裁判アリタルトキハ該裁判所ノ
 長ハ速ニ裁判書ノ謄本ニ通テ添附シテ司法大臣ニ其ノ旨ヲ報
 告スベシ
 第十八條 第三條及第四條ニ依ル報告書ニハ概ネ左ノ事項ヲ記
 載スベシ但シ第三條ニ依ル報告書ニハ第四條ニ依リ豫メ報告
 ヲ爲シ又ハ第五條ニ依リ豫メ指揮ヲ受ケタルトキハ之ト重複
 スル部分ノ記載ヲ省略スルコトヲ妨ゲズ
 一、被疑者ノ氏名、年齢、職業、本籍（外國人ナルトキハ國
 籍）及住居
 二、捜査ノ端緒
 三、被疑事實ノ概要
 四、事件ノ見透
 五、他ノ檢事局又ハ他ノ官署トノ連絡ノ要否
 六、檢舉年月日又ハ檢舉豫定年月日
 七、令狀發付名義ノ別
 八、其ノ他參考ト爲ルベキ事項
 第十九條 第五條ニ依ル檢舉票請書ニハ概ネ左ノ事項ヲ記載ス
 ベシ
 一、前條第一號乃至第五號ニ掲グル事項
 二、檢舉豫定年月日
 三、檢舉ヲ必要トスル事由
 四、其ノ他參考ト爲ルベキ事項

第二十條 第六條ニ依ル處分票請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
 一、被疑者ノ氏名、年齢、職業、本籍（外國ナルトキハ國籍）及
 住居
 二、罪名
 三、被疑事實
 四、證據關係ノ概要
 五、適條
 六、被疑者ノ經歷
 七、犯罪ノ動機
 八、改悛ノ有無
 九、處分理由ノ要旨
 十、身柄拘束不拘束ノ別
 十一、令狀發付及執行ノ年月日
 十二、起訴ノ方法別
 十三、主任檢事ノ氏名
 十四、其ノ他參考ト爲ルベキ事項
 特ニ必要アルトキハ重要ナル調書其ノ他ノ書類ノ謄本又ハ抄
 本ヲ票請書ニ添附スベシ
 第二十一條 前條ノ規定ハ第十一條第一項ニ依リ第三條第一項
 第四號ニ掲グル事件ニ付不起訴處分ノ報告ヲ爲ス場合ニ付之
 ヲ準用ス
 第二十二條 第十三條ニ依ル報告書ニハ概ネ左ノ事項ヲ記載ス
 ベシ
 一、處分ヲ爲シ又ハ之ヲ解キタル年月日

二、處分ヲ受ケタル船舶若ハ航空機ノ名稱及國籍又ハ滞留ヲ
 命ゼラレタル者ノ氏名及國籍
 三、處分ノ概要
 四、處分ノ事由殊ニ犯罪トノ關係
 五、其ノ他參考ト爲ルベキ事項
 被疑者ノ檢舉ニ附隨シテ第十三條ノ處分ヲ爲シタルトキハ第
 三條第一項ニ依ル報告書ニ併セテ前項ニ掲グル事項ヲ記載ス
 ベシ
 第二十三條 第十四條ニ依ル報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
 但シ報告書ニ裁判書（裁判ヲ記載シタル調書ヲ含ム）ノ謄本
 又ハ證據説明ヲ省略シタル抄本ヲ添附シテ重複スル部分ノ記
 載ヲ省略スルコトヲ妨ゲズ
 一、被告人ノ氏名
 二、罪名
 三、犯罪事實ノ要旨
 四、裁判ノ主文
 五、裁判年月日
 六、主任檢事ノ氏名
 七、檢事ノ沙刑
 八、裁判ニ對スル意見
 九、其ノ他參考ト爲ルベキ事項
 第二十四條 第十五條ニ依ル報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
 一、上訴ノ申立又ハ正式裁判ノ請求ヲ爲シタル者
 二、上訴ノ申立又ハ正式裁判請求ノ年月日

三、檢事ノ上訴ニ係ルトキハ上訴ノ理由
 四、其ノ他參考ト爲ルベキ事項
 第二十五條 第十六條ニ依ル報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
 一、裁判確定ノ年月日
 二、執行指揮又ハ囑託ヲ爲シタル年月日
 三、直ニ刑ヲ執行スルコト能ハザルトキハ其ノ理由
 四、其ノ他參考ト爲ルベキ事項
 第二十六條 第十七條ニ依ル報告書ニハ左ノ事項ヲ附記スベシ

一〇 治安維持法改正法律

(昭和十六年三月一〇日)
 法律第五四號

改正法文

第一章 罪
 第一條 團體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者
 又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ死刑
 又ハ無期若ハ七年以上ノ懲役ニ處シ情ヲ知りテ結社ニ加入シ
 タル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ三
 年以上ノ有期懲役ニ處ス
 第二條 前條ノ結社ヲ支援スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シ
 タル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル

者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處シ情ヲ知りテ結社
 ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタ
 ル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス
 第三條 第一條ノ結社ノ組織ヲ準備スルコトヲ目的トシテ結社
 ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事
 シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ五年以上ノ懲役ニ處シ情ヲ知り
 テ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ
 爲シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス
 第四條 前三條ノ目的ヲ以テ集團ヲ結成シタル者又ハ集團ヲ指
 導シタル者ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處シ前三條ノ目的ヲ

以テ集團ニ參加シタル者又ハ集團ニ關シ前三條ノ目的遂行ノ
 爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス
 第五條 第一條乃至第三條ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實
 行ニ關シ協議若ハ煽動ヲ爲シ又ハ其ノ目的タル事項ノ宣傳シ
 其ノ他其ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以上
 十年以下ノ懲役ニ處ス
 第六條 第一條乃至第三條ノ目的ヲ以テ騷擾暴行其ノ他生命、
 身體又ハ財産ニ害ヲ加フベキ犯罪ヲ煽動シタル者ハ二年以上
 ノ有期懲役ニ處ス
 第七條 團體ヲ否定シ又ハ神宮若ハ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スベキ事
 項ヲ流布スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社
 ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者ハ無期若ハ四年
 以上ノ懲役ニ處シ情ヲ知りテ結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ
 目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期懲役
 ニ處ス
 第八條 前條ノ目的ヲ以テ集團ヲ結成シタル者又ハ集團ヲ指導
 シタル者ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處シ前條ノ目的ヲ以テ
 集團ニ參加シタル者又ハ集團ニ關シ前條ノ目的遂行ノ爲ニス
 ル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス
 第九條 前八條ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ目的トシテ金品其ノ他
 ノ財産上ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル者
 ハ十年以下ノ懲役ニ處ス情ヲ知りテ供與ヲ受ケ又ハ其ノ要求
 若ハ約束ヲ爲シタル者亦同ジ
 第十條 私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織

シタル者又ハ情ヲ知りテ結社ニ加入シタル者若ハ結社ノ目的
 遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮
 ニ處ス
 第十一條 前條ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ協
 議ヲ爲シ又ハ其ノ目的タル事項ノ實行ヲ煽動シタル者ハ七年
 以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
 第十二條 第十條ノ目的ヲ以テ騷擾、暴行其ノ他生命、身體又ハ
 財産ニ害ヲ加フベキ犯罪ヲ煽動シタル者ハ十年以下ノ懲役又
 ハ禁錮ニ處ス
 第十三條 前三條ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ目的トシテ金品其ノ
 他ノ財産上ノ利益ヲ供與シ又ハ其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタル
 者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス情ヲ知りテ供與ヲ受ケ又
 ハ其ノ要求若ハ約束ヲ爲シタル者亦同ジ
 第十四條 第一條乃至第四條第七條、第八條及第十條ノ未遂罪
 ハ之ヲ罰ス
 第十五條 本章ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減
 輕又ハ免除ス
 第十六條 本章ノ規定ハ何人ヲ問ハズ本法施行地外ニ於テ罪ヲ
 犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス
 第十七條 第二章 刑事手續
 第十八條 檢事ハ被疑者ヲ召喚シ又ハ其ノ召喚ヲ司法警察官ニ
 命令スルコトヲ得

檢事ノ命令ニ因リ司法警察官ノ發スル召喚狀ニハ命令ヲ爲シタル檢事ノ職、氏名及其ノ命令ニ因リ之ヲ發スル旨ヲモ記載スベシ

第十九條 被疑者正當ノ事由ナクシテ前條ノ規定ニ依ル召喚ニ應ゼズ又ハ刑事訴訟法第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ檢事ハ被疑者ヲ勾引シ又ハ其ノ勾引ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得前條第二項ノ規定ハ檢事ノ命令ニ因リ司法警察官ノ發スル勾引狀ニ付之ヲ準用ス

第二十一條 刑事訴訟法第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ檢事ハ被疑者ヲ勾留シ又ハ其ノ勾留ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第二十二條 勾留ニ付テハ警察官署又ハ憲兵隊ノ留置場ヲ以テ監獄ニ代用スルコトヲ得

第二十三條 勾留ノ期間ハ二月トシテ必要アルトキハ地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事ハ檢事長ノ許可ヲ受ケ一月

第二十四條 勾留ノ事由消滅シ其ノ他勾留ヲ繼續スルノ必要ナシト思料スルトキハ檢事ハ速ニ被疑者ヲ釋放シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ釋放セシムベシ

第二十五條 檢事ハ被疑者ノ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第二十六條 檢事ハ被疑者ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第二十七條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第二十八條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ押收、搜索若ハ檢證ヲ爲シ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第二十九條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第三十條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第三十一條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第三十二條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第三十三條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第三十四條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第三十五條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第三十六條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第三十七條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第三十八條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第三十九條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第四十條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第二十四條 勾留ノ期間ヲ更新スルコトヲ得但シ通ジテ一年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十五條 檢事ハ被疑者ノ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第二十六條 檢事ハ被疑者ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第二十七條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第二十八條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ押收、搜索若ハ檢證ヲ爲シ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第二十九條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第三十條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第三十一條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第三十二條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第三十三條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第三十四條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第三十五條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第三十六條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第三十七條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第三十八條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第三十九條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第四十條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第四十一條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第四十二條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第四十三條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第四十四條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第四十五條 檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第四百二十二條第一項トアルハ陸軍軍法會議法第四百四十四條第一項又ハ海軍軍法會議法第四百四十六條第一項トシテ第二十五條第二項中刑事訴訟法第十九條第一項ニ規定スル事由アル場合ニ於テハトアルハ何時ニテモトス

第三十八條 朝鮮ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ朝鮮總督、檢察長トアルハ覆審法院檢察長、地方裁判所檢察事又ハ區域裁判所檢察トアルハ地方法院檢察、刑事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事訴訟法トス但シ刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一條トス

第三章 豫防拘禁

第三十九條 第一章ニ掲グル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者其ノ執行ヲ終リ釋放セラレベキ場合ニ於テ釋放後ニ於テ更ニ同章ニ掲グル罪ヲ犯スノ虞アルコト顯著ナルトキハ裁判所ハ檢察ノ請求ニ因リ本人ヲ豫防拘禁ニ付スル旨ヲ命ズルコトヲ得
第一章ニ掲グル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リタル者又ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者思想犯保護觀察法ニ依リ保護觀察ニ付セラレ居ル場合ニ於テ保護觀察ニ依ルモ同章ニ掲グル罪ヲ犯スノ危險ヲ防止スルコト困難ニシテ更ニ之ヲ犯スノ虞アルコト顯著ナルトキ亦前項ニ同ジ
第四十條 豫防拘禁ノ請求ハ本人ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢察事其ノ裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

執行終了後ト雖モ豫防拘禁ニ付スル旨ノ決定ヲ爲スコトヲ得
第四十五條 裁判所ハ事實ノ取調ヲ爲スニ付必要アル場合ニ於テハ參考人ニ出頭ヲ命ジ事實ノ陳述又ハ鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

裁判所ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

第四十六條 檢察ハ裁判所ガ本人ヲシテ陳述ヲ爲サシメ又ハ參考人ヲシテ事實ノ陳述若ハ鑑定ヲ爲サシムル場合ニ立會ヒ意見ヲ開陳見ヲ開陳スルコトヲ得

第四十七條 本人ノ屬スル家ノ戸主、配偶者又ハ四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ輔佐人ト爲ルコトヲ得

輔佐人ハ裁判所ガ本人ヲシテ陳述ヲ爲サシメ若ハ參考人ヲシテ事實ノ陳述若ハ鑑定ヲ爲サシムル場合ニ立會ヒ意見ヲ開陳シ又ハ參考ト爲ルベキ資料ヲ提出スルコトヲ得

第四十八條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ本人ヲ勾引スルコトヲ得
一 本人定リタル住居ヲ有セザルトキ
二 本人逃亡シタルトキ又ハ逃亡スル虞アルトキ
三 本人正當ノ理由ナクシテ第四十四條第一項ノ出頭命令ニ應ゼザルトキ

第四十九條 前條第一號又ハ第二號ニ規定スル事由アルトキハ裁判所ハ本人ヲ豫防拘禁所ニ假ニ收容スルコトヲ得
但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ監獄ニ假ニ收容

豫防拘禁ノ請求ヲ爲スニハ豫メ豫防拘禁委員會ノ意見ヲ求ムルコトヲ要ス

豫防拘禁委員會ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第四十一條 檢察ハ豫防拘禁ノ請求ヲ爲スニ付テハ必要ナル取調ヲ爲シ又ハ公務所ニ照會シテ必要ナル事項ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ取調ヲ爲スニ付必要アル場合ニ於テハ司法警察官吏ヲシテ本人ヲ同行セシムルコトヲ得

第四十二條 檢察ハ本人定リタル住居ヲ有セザル場合又ハ逃亡シ若ハ逃亡スル虞アル場合ニ於テ豫防拘禁ノ請求ヲ爲スニ付必要アルトキハ本人ヲ豫防拘禁所ニ假ニ收容スルコトヲ得但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ監獄ニ假ニ收容スルコトヲ妨ゲズ

前項ノ假收容ハ本人ノ陳述ヲ聽キタル後ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ本人陳述ヲ肯ゼズ又ハ逃亡シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十三條 前條ノ假收容ノ期間ハ十日トス其ノ期間内ニ豫防拘禁ノ請求ヲ爲サザルトキハ速ニ本人ヲ釋放スベシ

第四十四條 豫防拘禁ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ本人ノ陳述ヲ聽キ決定ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ本人ニ出頭ヲ命ズルコトヲ得

本人陳述ヲ肯ゼズ又ハ逃亡シタルトキハ陳述ヲ聽カズシテ決定ヲ爲スコトヲ得
刑ノ執行終了後豫防拘禁ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ刑ノ

スルコトヲ妨ゲズ
本人監獄ニ在ルトキハ前項ノ事由ナシト雖モ之ヲ假ニ收容スルコトヲ得

第四十二條第二項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス
第五十條 別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外刑事訴訟法中勾引ニ關スル規定ハ第四十八條ノ勾引ニ、勾留ニ關スル規定ハ第四十二條及前條ノ假收容ニ付之ヲ準用ス但シ保釋及責付ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十一條 豫防拘禁ニ付セザル旨ノ決定ニ對シテハ檢察事ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

豫防拘禁ニ付スル旨ノ決定ニ對シテハ本人及輔佐人ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十二條 別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外刑事訴訟法中決定ニ關スル規定ハ第四十四條ノ決定ニ、即時抗告ニ關スル規定ハ前條ノ即時抗告ニ付之ヲ準用ス

第五十三條 豫防拘禁ニ付セザレタル者ハ豫防拘禁所ニ之ヲ收容シ改換セシムル爲ニ必要ナル處置ヲ爲スベシ

豫防拘禁所ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第五十四條 豫防拘禁ニ付セラレタル者ハ法令ノ範圍内ニ於テ他入ト接見シ又ハ信書其ノ他ノ物ノ授受ヲ爲スコトヲ得

豫防拘禁ニ付セラレタル者ニ對シテハ信書其ノ他ノ物ノ檢閲、差押若ハ沒取ヲ爲シ又ハ保安若ハ懲戒ノ爲ニ必要ナル處置ヲ爲スコトヲ得假ニ收容セラレタル者及本章ノ規定ニ依リ勾引狀ノ執行ヲ受ケ留置セラレタル者ニ付亦同ジ

第五十五條 豫防拘禁ノ期間ハ二年トス...

合ニ於テハ裁判所ハ決定ヲ以テ之ヲ更新ス...

豫防拘禁ノ期間満了前更新ノ請求アリタル...

間満了後ト雖モ更新ノ決定ヲ爲スコトヲ得...

更新ノ決定ハ豫防拘禁ノ期間満了後確定シタル...

ヲ期間満了ノ時確定シタルモノト看做ス...

第四十條、第四十一條及第四十四條乃至第五十二條ノ規定ハ...

更新ノ場合ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ第四十九條第二項...

中監獄トアルハ豫防拘禁所トス...

第五十六條 豫防拘禁ノ期間ハ決定確定ノ日ヨリ起算ス...

拘禁セラレザル日數又ハ刑ノ執行ノ爲拘禁セラレタル日數ハ...

決定確定後ト雖モ前項ノ期間ニ算入セズ...

第五十七條 決定確定ノ際本人受刑者ナルトキハ豫防拘禁ハ刑...

ノ執行終了後之ヲ執行ス...

監獄ニ在ル本人ニ對シ豫防拘禁ヲ執行セントスル場合ニ於テ...

移送ノ準備其ノ他ノ事由ノ爲特ニ必要アルトキハ一時拘禁ヲ...

編成スルコトヲ得...

豫防拘禁ノ執行ハ本人ニ對スル犯罪ノ捜査其ノ他ノ事由ノ爲...

特ニ必要アルトキハ決定ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ本人ノ...

現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ノ指揮ニ因リ之ヲ停止ス...

ルコトヲ得...

刑事訴訟法第五百三十四條乃至第五百三十六條及第五百四十...

四條乃至第五百五十二條ノ規定ハ豫防拘禁ノ執行ニ付之ヲ準...

用ス...

事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム...

第六十五條 朝鮮ニ在リテハ豫防拘禁ニ關シ地方裁判所ノ爲ス...

ベキ決定ハ地方法院ノ合議部ニ於テ之ヲ爲ス...

朝鮮ニ在リテハ本章中地方裁判所ノ檢事トアルハ地方法院ノ...

檢事、思想犯保護觀察法トアルハ朝鮮思想犯保護觀察令、刑...

事訴訟法トアルハ朝鮮刑事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル刑事...

訴訟法トス...

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令(昭和十六年勅令第五百五十三號)ヲ以テ...

同年五月十五日ヨリ施行)ヲ以テ之ヲ定ム...

第一章ノ改正規定ハ本法施行前從前ノ規定ニ定メタル罪ヲ犯シ...

タル者ニ亦之ヲ適用ス但シ改正規定ニ定ムル刑ガ從前ノ規定ニ...

定メタル刑ヨリ重キトキハ從前ノ規定ニ定メタル刑ニ依リ處斷...

ス...

第二章ノ改正規定ハ本法施行前公訴ヲ提起シタル事件ニ付テハ...

之ヲ適用セズ...

第三章ノ改正規定ハ從前ノ規定ニ定メタル罪ニ付本法施行前刑...

ニ處セラレタル者ニ亦之ヲ適用ス...

本法施行前朝鮮刑事令第十二條乃至第十五條ノ規定ニ依リ爲シ...

タル捜査手續ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス...

前項ノ捜査手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ...

本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス...

本法施行前朝鮮思想犯豫防拘禁令ニ依リ爲シタル豫防拘禁ニ關...

スル手續ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス前項ノ豫防拘禁...

第五十八條 豫防拘禁ニ付セラレタル者收容後其ノ必要ナキニ...

至リタルトキハ第五十五條ニ規定スル期間満了前ト雖モ行政...

官廳ノ處分ヲ以テ之ヲ退所セシムベシ...

第四十條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス...

第五十九條 豫防拘禁ノ執行ヲ爲サザルコト二年ニ及ビタルト...

キハ決定ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ本人ノ現在地ヲ管轄ス...

ル地方裁判所ノ檢事ハ事情ニ因リ其ノ執行ヲ免除スルコトヲ...

得...

第四十條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス...

第六十條 天災事變ニ際シ豫防拘禁所内ニ於テ避難ノ手段ナシ...

ト認ムルトキハ收容セラレタル者ヲ他所ニ護送スベシ若シ護...

送スルノ暇ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得...

解放セラレタル者ハ解放後二十四時間内ニ豫防拘禁所又ハ警...

察官署ニ出頭スベシ...

第六十一條 本章ノ規定ニ依リ豫防拘禁所若ハ監獄ニ收容セラ...

レタル者又ハ勾引狀若ハ逮捕狀ヲ執行セラレタル者逃走シタ...

ルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス...

前條第一項ノ規定ニヨリ解放セラレタル者同條第二項ノ規定...

ニ違反シタルトキ亦前項ニ同ジ...

第六十二條 收容設備若ハ械具ヲ損壞シ、暴行若ハ脅迫ヲ爲シ...

又ハ二人以上通謀シテ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ三月以...

上五年以下ノ懲役ニ處ス...

第六十三條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス...

第六十四條 本法ニ規定スルモノノ外豫防拘禁ニ關シ必要ナル...

法ニ依リ爲シタルモノト看做ス...

資料

(一) 提案理由説明

○三宅政府委員 本會議ニ於キマシテ治安維持法改正法律案提...

出ノ理由ヲ大體御説明申上ゲマシタガ、尙ホ稍々詳細ニ互リ御...

説明申上ゲタイト思ヒマス、本改正案ハ第一章罪、第二章刑事...

手續、第三章豫防拘禁ノ三章ヨリ成ツテ居ルノデアリマス、第...

一章ハ現行法ノ罰則ノ全般ニ互ル改正ヲ加へ、之ヲ整備強化致...

シタノデゴザイマシテ、第二章及第三章ハ新タニ規定ヲ設ケン...

トスルモノデアリマス、以下章ノ順ヲ逐ヒ改正ノ要領ヲ申上ゲ...

マス...

第一章ハ現行法ノ罰則ヲ整備強化致シタノデアリマスガ、罰...

則ノ改正強化ヲ必要トスル理由ニ付キ少シク詳シク申上ゲマス...

ト御承知ノ如ク現行治安維持法ハ大正末期ヨリ昭和初年ニ掛ケ...

テノ思想運動情勢ヲ背景トシテ立案セラレマシタ關係上、共產...

主義運動、殊ニ日本共産黨ノ活動ヲ主タル對象トシテ規定セラ...

レテ居ルノデアリマス、然ルニ同法施行後ノ實績ニ微シマスル...

ニ、共產主義運動ニ於キマシテ、日本共産黨ノ外ニ日本共産青...

年同盟又ハ日本労働組合全國協議會ヲモ第一條所定ノ結社ト認...

定處罰致シマシタノミナラズ、是等ノ所謂正統派共產主義運動...

ト對立的ナル所謂勞農派グループニ對シ、或ハ日本無政府共產黨等ノ無政府主義運動ニ對シ又ハ民族獨立運動ニ對シ、更ニ皇道大本、天理本道、燈臺社等ノ所謂類似宗教運動ニ對シマシテモ亦本法ノ罰則ヲ適用シテ、是ガ檢舉處罰ヲ行ハザルヲ得ナカッタ次第アリマシテ、其ノ取締對象ガ立法當時豫想セラレタル所ニ比シ著シク擴大セラレ、且復強化スルニ至ツテ居リマスト共ニ、共產主義運動ニ關シマシテモ、日本共產黨ノヤウナ有力結社ハ屢次ノ檢舉ト情勢ノ變化ニ依リ、殆ト全ク其ノ活動ヲ休止シ、外面上其ノ存在ヲ疑ハルルニ至リマシタ結果、運動形態ヘ從來ノ統一の組織の運動形態ヨリ、分散的個別的運動形態ニ移行シ、且ツ黨ノ目的遂行ノ爲ニスル活動ヨリ一轉シテ、黨ノ組織再建ノ準備活動、又ハ黨の機運ノ醸成ノ爲ノ活動ヲ終始スルニ至ツテ居ルノデアリマス、昭和十年七月ノ一コミンテルン第七回世界大會ニ於ケル人民戰線方策ノ採用、及ビ一昨年秋ノ一コミンテルンノ戰術轉換ハ、更ニ運動形態ノ複雜化ヲ增大致シテ居ルノデアリマス、斯カル事態ハ現行法ノ豫想ヲシナカッタ所デアリマシテ、法ノ運用上相當困難ガアルノデアリマスカラ、現行法第一條乃至第三條ヲ適當ニ改正シテ、新情勢ニ對應セシメルト共ニ、刑罰ニ付テモ之ヲ加重シテ、我が國體ノ尊嚴ニシテ冒スベカラザルモノナルコトヲ規定ノ上ニ明確ナラシメ、以テ取締ノ完整ヲ期スルト共ニ、早期檢舉ノ實ヲ舉グル爲メ改正ノ必要ガアルノデアリマス、其ノ趣旨ニ於キマシテ罰則ヲ整備強化セントスルモノデアリマスガ、其ノ主要ナルモノハ次ノ六點デアリマス

其ノ一ハ本案ニ於キマシテハ國體ヲ變革スルコトヲ目的トスル犯罪ト、私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トスル犯罪ニ關スル規定ヲ各別個ノ條文ト致シ、又國體變革ニ關スル犯罪ニ付キマシテハ、刑種ヲ懲役ニ限リ禁錮刑ヲ削除致シマスト共ニ、刑ノ短期ヲ高メルコトニ依ツテ刑罰ヲ重化致シタ點デアリマス其ノ二ハ本案ノ第二條ニ於テ支援結社所謂外圍團體ニ關スル處罰規定ヲ新タニ設ケタコトデアリマス、御承知ノ如ク、各種ノ外圍團體ニ依ル共產主義者ノ組織的行動ハ、現行法實施以後ニ現ハレマシタル思想犯罪ノ新ナル態樣デアリマスガ、是等ノ外圍團體ハ専ラ日本共產黨ノ貯水池タル役ヲ果シ、一、二、三、五事件以來數次ニ互リ黨中央部ニ對シ致命的檢舉ヲ加ヘマシタニ拘ラズ、其ノ力ニ依ツテ黨ノ勢力ヲ順次補給シ、黨ノ再建ニ寄與致シマシタ一面、廣ク大衆ニ共產主義思想ヲ滲透傳播セシムルニ與ツテ力ガアツタコトハ顯著ナル事實デアリマス、即チ共產主義運動ニ對スル防遏ノ目的ヲ達シマスタメニハ、獨リ共產黨ノミヲ取締ノ對象トスルノデハ到底不十分デアアルコトガ明カト相成ツタノデアリマス、此ノ點ニ關シマシテハ、現行法ハ第一條中ニ於テ一結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者一ト云フ規定ヲ設ケ、結社ノ外部ニアル者ニシテ結社ノ活動ヲ支援スル者モ亦、結社加入者ト同様ニ處罰シ得ル途ヲ開イテ居リマスノデ、外圍團體構成員ノ行動ニ對シマシテモ、亦、結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者トシテ、或ル程度マデノ處罰ガ出來ルノデアリマスガ、其ノ組織者又ハ之ニ匹敵スル主動者ニ對スル刑罰トシテハ輕キニ過グルバカリデハナク、

規定自體カラ申シテモ、外圍團體ヲ直接ノ對象トシテ規定シテ居リマセマ爲ニ、遺憾ノ點ガ頗ル多イノデアリマス、共產黨自體ノ活動ガ殆ト休止セル狀態ニアリマス最近ニ於キマシテモ、唯物論研究會其ノ他一、二ノ典型的ナル外圍團體ヲ檢舉致シマシタ事例モアリマシテ、現在ニ於テモ支援結社ノ處罰規定ヲ設ケル必要ハ十分ニアルノデアリマス、隨テ本案ニ於テハ、外圍團體ニ關スル特別規定ヲ新設致シマスト共ニ、國體變革ヲ目的トスル結社ノ例ニ倣ヒマシテ、支援結社ノ組織者及ビ之ニ匹敵スベキ主動者ニ對シテ最高ヲ死刑ト致スト共ニ、最低ハ五年ノ懲役ト規定致シ、尙ホ其ノ加入者又ハ目的遂行行爲者ニ對シテモ之ヲ處罰シ得ルノ途ヲ開イタノデアリマス

其ノ三ハ本案第三條ニ於テ準備結社ニ關スル規定ヲ新設致シタコトデアリマス、最近ノ共產主義運動ノ特色ハ、前述ノ如ク、分散的個別的ナル形態ヲ採ツテ居ル點デアリマシテ、殊ニ國體變革ヲ究極ノ目標トシテ待望シツツ、當面、集會、宣傳、啓蒙其ノ他ノ方法ニ依リマシテ共產主義者ヲ養成結集シテ、黨再建ノ機運ヲ醸成スルコトヲ主タル目的トシテ結社ヲ組織スル者ガ相當ニ多イ現狀デアリマス、斯カル結社ヲ現行法第一條ノ結社ト認メ得ナイコトハ勿論デアリマシテ、而モ斯カル結社ニ對シマシテハ、支援結社ニ對スルト同様、相當ノ重刑ヲ以テ臨ミ、且ツ結社其ノモノヲ捉ヘテ之ヲ處理スルノ必要ガアリマスノデ、新タニ準備結社ニ關スル規定ヲ設ケタルコトト致シタノデアリマス

其ノ四ハ結社ノ程度ニ至ラザル集團ニ關スル規定ヲ設ケタコ

トデアリマス、前述ノ如ク、最近ノ共產主義運動ノ形態ガ分散的個別的トナリマシタ結果、所謂準備結社ノ出現ト共ニ、所謂「グループ」の形態ニ依ル運動ガ漸次其ノ數ヲ加ヘテ居ルノデアリマス、現行法ノ解釋トシテ、結社ハ共同ノ目的ノ爲ニスル特定多數人ノ任意ノ繼續的結合ニシテ相當結合力ノ鞏固ナルモノデアルト解セラレテ居リマス爲、其ノ結社ノ要件ノ一ヲ缺ク場合ニ於キマシテハ、之ヲ結社トハ認メ得ナイノデアリマス、而モ、前述ノ所謂「グループ」的存在ノ中ニハ、或ハ共同目的ノ點ニ於キマシテ、或ハ構成員ノ特定性ノ點ニ於キマシテ、結社ト認定シ得ナイモノガ相當ニ多ク、現行法ノ規定ヲ以テシマシテハ、之ヲ結合體トシテ處理シ得マセマ爲、結社ニ關スル規定ノミヲ以テシマシテハ取締ノ完整ヲ期シ得ナイノデアリマス、而モ此ノ種集團ハ單ニ最近ノ共產主義ニ於ケル運動形態ニ現ハレテ居リマスノミナラズ、無政府主義運動又ハ民族獨立運動ニ於テハ常ニ現ハレル運動形態デアリマスノデ、斯カル現行法ノ不備ヲ補正スル必要アルニ鑑ミ、茲ニ第一條乃至第三條ノ目的ヲ以テ結成セラレタ集團ニ關スル處罰規定ヲ設ケタルコトニ致シタイノデアリマス

其ノ五ハ本案第五條ニ於テ宣傳其ノ他國體變革ノ目的遂行ニ資スル行爲ヲ取締ル規定ヲ設ケタコトデアリマス、現行法ハ個人ノ行爲ニ關スル取締規定トシテ實行ノ協議、煽動及ビ犯罪煽動ニ關スル處罰規定ノミヲ設ケ、其ノ餘ノ行爲ニ及ンデ居ナイノデアリマスガ、最近ニ於ケル運動情勢ヲ見マスルニ、宣傳啓蒙其ノ他危險ナル行動ヲ取締ル必要ガ多分ニアルノデアリマ

ス、宣傳ハ煽動ト共ニ結社活動ニ於テ缺クベカラザル運動方法トシテ重要ナル意義ヲ有スルモノデアリマス、宣傳ガ結社ノ目的遂行ノ爲ニ爲サレタ場合ニ於キマシテハ、結社關係ノ行爲トシテ檢舉處罰シ得ルノデアリマスガ、結社ト關係ナク不逞目的ヲ實行ヲ宣傳致シタ場合ニ於キマシテハ、全然之ヲ罰スベキ規定ヲ缺イテ居ルノデアリマス、元來宣傳ハ一定ノ事項ヲ不特定又ハ多數人ニ説明シ且ツ題ヘテ其ノ理解ト共鳴トヲ求メントスル行爲デアリマスガ故ニ、不逞ノ思想ガ國民ノ腦裡ニ浸潤致シ、遂ニ國體觀念ヲ腐蝕セシムルニ至ル危險ガアルノデアリマシテ、其ノ危險性ハ煽動ト殆ド軒輊ガナイノデアリマス、殊ニ人民戰線方策ニ則リ、巧妙且ツ隱秘ノ間ニ主義ノ宣傳ヲ爲ス行爲ハ實ニ危險デアリマスガ故ニ、結社ニ關係ナク不逞思想ヲ宣傳致ス行爲ヲ處罰スル規定ヲ新タニ設ケタ次第デアリマス、ソレト同時ニ最近ニ於ケル運動情勢ガ分散ノ個別的デアリマスノミナラズ、所謂人民戰線方策ノ採用以來ソノ運動態様モ多岐多様ニ互ルニ至リマシタノデ、取締ノ完備ヲ期スルガ爲ニハ苟モ國體變革ノ思想ニ基キ其ノ目的ノ遂行ニ資スベキ一切ノ個別的活動ヲモ亦、總テ之ヲ罰スベキモノトナス必要ヲ認メマシタノデ、個人の行爲ニ關シマシテモ、茲ニ一其ノ他目的ノ遂行ノ爲ニスル行爲ニナル包括の規定ヲ設ケタルコトト致シタ次第デアリマス

ハ前述ノ通りデアリマスガ、是等ノ外過去ニ於テ人心ノ不安ニ乘ジ無智蒙昧ナル一般大衆ヲ對象トシテ、神宮又ハ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ、其ノ他國民ノ國體觀念ヲ惑亂スルガ如キ不逞不逞ノ教義ヲ宣布スルコトヲ目的トスル類似宗教團體ニ對シテ、治安維持法ヲ適用スルコト困難ナル爲メ、之ヲ結合體ソレ自體トシテ處罰シ得ズ、單ニ其ノ個々ノ行爲ヲ捉ヘテ之ヲ處罰シタニ過ギナイ事例ガ二、三ニ止マラナイノデアリマス、類似宗教團體ノ思想犯罪トシテノ特異性ハ、是等團體ガ個人ノ精神ノ救濟ヲ其ノ主タル使命トスル一般ノ宗教團體ト異ナリ、現實ノ國家社會ノ改革ニ活動ノ重點ヲ置イテ居リマス結果、政治乃至社會運動團體タルノ性格ヲ帯ビテ居リマスト共ニ、其ノ反面ニ於テ宗教的色彩ヲ多分ニ帯ビテ居ル點ニアルノデアリマシテ、主トシテ政治乃至社會運動ヲ取締對象トシテ居リマスル現行法ヲ以テ之ヲ處罰セント致シマスト、勢ヒ法ノ不備ヲ免レナイノデアリマス、其ノ必要ニ鑑ミ、新タニ國體ヲ否定シ、又ハ神宮若シクハ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スルコトヲ目的トスル結社、及ビ集團ニ關スル處罰規定ヲ設ケタ次第デアリマス

次ニ第二章ハ刑事手續ニ關スル規定ヲ新設致シタノデアリマスガ、大體ニ於テ四ツノ事項ヲ其ノ主要ナルモノト致スノデアリマス、其ノ一ハ捜査機關ニ對シ相當廣汎ナル強制捜査權ヲ認メタコトデアリマス、其ノ二ハ公判手續ニ於テ控訴審ヲ省略スルコトニ致シタコトデアリマス、其ノ三ハ辯護士ノ指定及ビ其ノ數ノ制限等ニ關スル規定ヲ設ケタコトデアリ、其ノ四ハ管轄移轉ヲナシ得ル場合ヲ擴張致シタコトデアリマス

御承知ノ通り思想犯罪ハ、組織的且ツ集團的デアルコトヲ一ノ特質ト致スノデアリマス、隨テ被疑者ノ數ハ相當多數ニ上ルノヲ常ト致シマスルノミナラズ、其ノ多クハ相互ニ上下左右ノ組織的關係ヲ有シテ居リ、而モ其ノ組織ハ多ク場合秘密組織デアリマス、而シテ其ノ複雜ナル關係ニアル秘密組織ヲ捜査シ、或ル程度明確ニシタ後ニアラザレバ、特定ノ被疑者ガ如何ナル組織系統ニ屬シ、如何ナル地位、任務ヲ有シ、更ニ如何ナル徑路ニ依ツテ、又如何ナル目的ノ下ニ其ノ犯罪ノ活動ヲ遂行シタカヲ知り難イ事情ニアリマス爲メ、隨テ捜査ニ相當長キ日時ヲ必要トシ、且取調ニ際シ種々ノ困難ガ伴フノデアリマス、加之思想犯人ハ確信犯人タル特性ヲ備ヘ、極メテ執拗ナル行動ニ出デマスル關係上、或ハ地下ニ潛入シ、或ハ偽名ヲ使用シ、或ハ一味ノ秘密ヲ嚴守シテ果テ他ニ及ボサザランコトニ專念致シ、捜査ノ難ニ當ル者ニ對シテ容易ニ實ヲ告ゲズ、甚ダシキハ檢舉後數十日ヲ經過致シマシテモ、尙ホ其ノ氏名スラモ之ヲ供述シナイ者モアリマシテ、捜査ニ實ニ困難ヲ極メルノデアリマス、又犯人中稍々重要ナル地位ニ在ル者ハ、廣範圍ニ互ツテ活動致スヲ常トシ、各地ニ多數ノ關係者ガ散在致スノデアリマスカラ、短日月ノ間ニ捜査ヲ終了致シマスコトハ、殆ド望ミ難イノデアリマス、殊ニ人民戰線方策ノ採用以來、其ノ活動ガ合法場面ヲ利用スル偽裝ノモノニ立至リマシタ結果、其ノ現ハレタ行動カラ直チニ不逞思想ヲ看破致シ得ル場合ハ、殆ド稀デアリマシテ、合法利用ノ文化運動ノ如キハ、實ニ山積スル證據品ヲ検討シ、極メテ稀薄ニ表現サレテ居ル思想ヲ捕捉シ、之ニ依

ツテ罪ヲ斷ズルノデアリマス、其ノ困難ニシテ且ツ時間ヲ要スルコト、申スマデモアリマセズ

斯クノ如ク治安維持法ノ事犯ハ、捜査ヲ困難且ツ長期ニナラシムル幾多ノ事由ヲ具備スル反面ニ於テ、一般犯罪者ト異ナリ、其ノ捜査ニ際シ被疑者ノ身柄ヲ拘束致シマセズ時ハ、忽チ其ノ所在ヲ晦マシ、直チニ其ノ犯罪ノ活動ヲ繼續スルヲ常トスルノデアリマス、隨テ一旦檢舉致シタ以上ハ、其ノ終局處分ヲナスマデ其ノ身柄ヲ拘束シ、逃亡ヲ防止致シマスコトハ絕對ニ必要デアリマス、然ルニ現行刑事訴訟法ニ於テハ、御承知ノ如ク捜査機關ニ附與セラレタ強制捜査權ハ、極メテ狭イ範圍ニ限ラレテ居リマシテ、捜査上ノ必要ヲ殆ド充シ得ナイノデアリマス、仍テ本案ニ於テハ捜査權ハ極メテ狭イ範圍ニ限ラレテ居リマシテ、捜査上ノ必要ヲ殆ド充シ得ナイノデアリマス、仍テ本案ニ於テハ現行法上捜査機關ノ中樞タル地位ヲ認メラレテ居リマスル檢事ニ對シ、相當廣範圍ノ強制捜査權ヲ附與シ、敏速適正ナル捜査ヲ實施セシメ、以テ治安維持ノ爲ノ必要ヲ充足スルト共ニ、其ノ濫用ヲ防止スル爲メ、強制捜査ヲ致シタ場合ニ於テハ、其ノ責任ノ所在ヲ明確ニ致スベク十分ノ配慮ヲ加ヘテ規定致シタ次第デアリマス

次ニ審判手續ニ於テ控訴審ヲ省略致シタ點デアリマス、從來兎モスルト刑事裁判ガ敏速ヲ缺キ、甚ダシキニ至ツテハ檢舉後數年ヲ經過シテ尙ホ判決ノ確定ヲ見ザル事例モアリマシテ、斯クテハ刑罰ノ效果ヲ期待シ難キ憾ミヲ藏シテ居ツタノデアリマス、殊ニ治安維持法違反事件ノ如キハ、急速ナル裁判ニ依リ

犯罪ノ續壓ト豫防トノ效果ヲ擧ゲルコトヲ最モ必要トスル事案
デアリマシテ、裁判確定セザレバ之ニ伴フ社會不安ヲ解消セシ
ムルコト困難ナル事例ニ乏シクナイデアリマス、元來此ノ種
事件ハ其ノ實體の内亂豫備ニ該當致スノデアリマス、現行刑事
訴訟法ガ内亂豫備事件ヲ大審院ノ特別權限ニ屬セシメ、一審制
ヲ採用致シテ立法趣旨ニ鑑ミマスルナラバ、此ノ種事案ハ極メ
テ敏速ニ處理致スコトガ必要デアアルコトハ申スマデモナイ所デ
アリマス、仍テ本案ニ於テハ審判手續ヲ敏速化スル爲メ控訴審
ヲ省略スルヲ適當ト認メ、第一審ノ判決ニ對シ控訴ヲ許サザル
旨ヲ規定致シテ次第デアリマス

本案ニ於テハ、前述ノ如ク辯護ニ關シ種々ノ制限ヲ設ケマシ
タ、其ノ立法趣旨ハ、要スルニ被告人ノ辯護ニ名ヲ籍リタ所謂
法廷闘争ヲ防止セントスル所ニアラデアリマス、治安維持法
ノ違反事件ノ審理ニ際シマシテ、屢々法廷闘争ガ行ハレマシタ
コトハ、既ニ御承知ノ事柄ト存ジマスノデ詳シクハ申上ゲマセ
ヌ、本案ニ於テハ斯カル事例ニ鑑ミ、其ノ弊害ヲ防止スル爲メ、
辯護士指定ニ關スル規定ヲ設ケタル共ニ、訴訟ノ敏速化ヲ圖ル
爲メ辯護人ノ數ノ制限ニ關スル規定ヲ設ケ、且ツ訴訟ニ關スル
書類ノ閱覽、謄寫ヲ制限シ得ルモノト致シテ次第デアリマス
次ニ管轄轉移ヲナシ得ベキ場合ヲ擴張致シテ點デアリマス
ガ、前述ノ如ク思想犯罪ハ組織的、集團的犯罪タル特質ヲ有シ
テ居リマスノデ、全国各地ニ互リ多數ノ關係者ヲ檢舉シ、起訴
致ス場合ガ多クデアリマス、事件ニ依リマシテハ各地ニ散在
スル事件ヲ一箇所又ハ數箇所ノ裁判所ニ集中シテ審理ヲ致スコ

トガ、審理ノ敏速適正ヲ期スル上ニ極メテ效果のデアル場合ガ
多クデアリマスガ、現行刑事訴訟法ノ管轄轉移ニ關スル規定
ハ極メテ狭イ範圍ニ限ラレテ居リ、斯カル必要ヲ充シ得マセ
ノデ、新タニ管轄轉移ニ關スル規定ヲ設ケ、審理ノ迅速適正ヲ
期シテデアリマス

最後ニ第三章ハ豫防拘禁ニ關スル規定ヲ新タニ設ケタノデア
リマス、思想犯人ハ所謂確信犯人デアリマシテ、之ヲ實情ニ微
シマスルニ、一旦感染シタル思想ハ容易ニ拂拭シ難ク、刑ノ執
行ニ依ルモ全然悔悟セズ、在監久シキニ互リナガラ轉向ヲ背ゼ
ザル者、若シクハ非轉向ノ儘刑ノ執行ヲ終了シ釋放セラレタル
者、或ハ轉向ヲ偽裝シテ寛大ナル處置ヲ受ケタル者等、其ノ數
相當多數ニ上ツテ居ルノデアリマス、而モ最近ノ共產運動ニ於
テハ、活動ノ中心ヲ成ス者ノ多クハ斯カル非轉向分子、又ハ偽
裝轉向分子ニシテ、刑ノ執行ヲ終了シタル者、若シクハ執行猶
豫ノ處分ニ付セラレタ者デアリマシテ、中ニハ出獄後半歳足ラ
ズシテ多數ノ同志ヲ結合シ、無垢ノ者ニ惡思想ヲ感染セシメタ
ル事例モ少クナイデアリマス、加之本年中ニハ所謂三、一五
事件及ビ四、一六事件關係ノ非轉向互頭分子ニシテ、出獄スベ
キ者ガ相當數ニ上ルノデアリマシテ、彼等ヲ現下ノ社會ニ放出
致シマスコトハ危險極マリナイデアリマス、而シテ斯カル説
激分子ハ思想犯罪保護觀察法實施ノ結果ニ微シマスルニ、保護觀
察ニ付スルモ到底改悛ヲ期待シ得ザル者デアアルコト明白デアリ
マスノデ、茲ニ豫防拘禁ノ制度ヲ新設シタノデアリマス、即チ
激激思想ヲ拋棄セズ、再犯ノ虞顯著ナル者ニ對シ、國家治安ニ

關スル危險ヲ豫防スルト共ニ、危險ナル犯罪ヲ防遏スルノ效果

ヲ完整ナラシムルガ爲メ、一定ノ條件ト手續ト下ニ之ヲ社會ヨ
リ隔離シ、惡思想ノ傳播ヲ防止シ、併セテ強制ノ方法ニ依リ思
想ノ改善ヲ圖リ、忠良ノ日本人ニ立返ラシムルコトヲ以テ、豫
防拘禁制度ノ主眼ト致スノデアリマス、而シテ本案ニ於テ規定
致シタ豫防拘禁制度ハ、其ノ對象者ヲ治安維持法ノ罪ヲ犯シ、
刑ノ執行ヲ終リテ出獄セントスル者、及ビ刑ノ執行終了若シク
ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ原因トシテ、思想犯罪保護觀察法ニ依リ
保護觀察中ノ非轉向分子ト致シタコト、檢事ノ請求ニ依リ、裁
判所ノ決定ヲ以テ豫防拘禁ニ付スルコトト致シタコト、此ノ豫
防拘禁ノ期間ヲ二年トスル相對的定期制度ヲ採用シタルコト、
行政官廳ノ處分ヲ以テ何時ニテモ退所セシメ得ルコトト致シタ
コト、豫防拘禁委員會ヲ設ケ豫防拘禁ノ請求、更新及ビ退所ニ
付キ委員會ノ意見ヲ求ムルコトヲ要ストナシタコト、及ビ決定
確定前ニ於ケル檢事及ビ裁判所ノ強制權ヲ或ル程度認メタコト
等ヲ其ノ骨子ト致スノデアリマス

以上ガ改正ノ主要ナル點デアリマスガ、大體ニ於キマシテ、
國體變革ニ關スル行爲ニ付キ特ニ其ノ罰則ヲ強化徹底セシムル
コトニ重點ヲ置キ、現在ノ實情ニ即シ、思想犯罪ノ處理ノ敏速
適正ヲ圖リ、其ノ豫防及ビ鎮壓ノ作用ヲ、一層效果のナラシム
ル趣旨ニ出デテ居ルノデアリマス、何卒慎重御審議ノ程ヲ御願
ヒ申上ゲマス (衆議院治安維持法改正法律案委員會議錄(速
記)第二回)

(二) 質疑 應答

(1) 治安維持法違反事件ト内亂罪トノ干係

○次田大三郎君 國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ色々ナ行爲
ヲスル者ハ不逞ノ徒デアツテ、嚴重ニ取締ラナケレバナラナイ
ト云フコトハ何人モ異存ノナイコトデアアルト思ヒマス、其ノ爲
ニ現ニ治安維持法ノ規定ガアリ、而シテ更ニ此ノ治安維持法ノ
規定ヲ擴充シヨウトセラレテ居ルノデアリマス、處テ私ガ伺ヒ
タイノハ、國體ノ變革ヲ企圖シテ行動ヲ起ス者ハ、其ノ第一歩
カラ刑法ノ規定ニ抵觸スルコトニ、マア大體ナルト思フノデア
リマス、或ハ刑法ノ 天皇ニ關スル罪、アノ條項ニ當ルモノモ
アリマス、朝憲紊亂、内亂ト云フヤウナ罪ニ當ルモノモアラウ
ト思フノデアリマス、普通刑法デハ取締ルコトガ出來ナイ、特
別立法ヲシナケレバ取締ルコトニ不十分デアアルカラト云フノ
デ、此ノ治安維持法ノ規定ガ出來而シテ更ニ今度之ヲ擴充シヨ
ウト御考ヘニナツテ居ルト思フノデアリマス、私伺ヒタイノ
ハ、普通刑法デハ是レノノ事項ハ十分取締レナイ、治安維持
法ニ係ツテ、是レノノ事項ガ取締レルンダト云フ其ノ事項
ヲ、一應指稱シテ御說明ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、私モ
大體分ツテ居ル積デアリマスケレドモ、政府カラ其ノ說明ヲ伺
ツタ方ガ議論ヲスル上ニ於テ好都合ト思ヒマスカラ、御面倒デ
アリマスルガ、ソレヲ一ツ御說明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○國務大臣(柳川平助君) 政府委員カラ御答ヘ致サセマス
○政府委員(秋山要君) 御答ヘヲ致シマス、治安維持法ニ規定
シテアリマスル色々ノ條項ハ、之ニ該當スル事案ハマア大體ニ
於テハ、刑法其ノ他ノ法條ニ依ツテ之ヲ處置スルコトガ出來ル

ノデアリマス、唯刑法ヲ以テシテハ尙細カイ點ニ於キマシテ、處分ノ出來ナイ部分ガアリマスルシ、刑ノ關係等ニ於キマシテ矢張り、特ニ規定ヲ設クル必要ガアリマスルノデ治安維持法ノ改正ヲ致サウトシタ次第デアリマス、治安維持法ヲ設ケラレマシタ沿革カラ見マシテモ、特殊ノ場合ヲ取上ゲマシテ、之ヲ重キ刑ニ處分スルト云フヤウナ考ヘ方ガ主デアリマス、マア大體サウ云フ風ニ考ヘテ居リマス

○次田大三郎君 只今ノ御説明ニ、普通刑法デハ犯罪ガ輕過キルト云フコトガ一ツノ理由デアルヤウニ思ヒマス、尙其ノ外ニ細カイ點デハ普通刑法デハイカニコトガアルト云フ御話デアリマシタガ、ソレヲ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(秋山要君) 内亂罪等ニ於キマシテ、暴力ヲ以テ國體ノ變革ヲ企テヨウト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、之ヲ處置スルコトノ出來ルコトハ勿論デゴザイマスルガ、暴力ニ依ラナイデ國體ノ變革ヲ企テヨウト云フヤウナモノニ付キマシテハ、矢張り治安維持法ノ規定ヲ要スルノデアリマスガ、尙其ノ國體ヲ變革セムトスルヤウナ結社ヲ組織シタ其ノ結社ヲ支援スル團體トカ、或ハ準備スル團體トカ、若シタハ國體變革ノ目的ヲ以チマシテ集團ヲ結成スルト云フヤウナ場合ニ付キマシテハ、治安維持法ノ規定ヲ以テ處置スル外ハナイノデゴザイマス、勿論共犯トカ云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、刑法ノ理論ニ依ツテ内亂罪ヲ以テ處置スルコトノ出來ル場合モアラウト思ヒマス、尙國體變革ノ目的ヲ以チマシテ、其ノ實行ニ付テノ協議ヲスルトカ或ハ宣傳、煽動ヲスルトカ云ツタヤウナ場合ニ付キマシ

テモ同様デゴザイマス、其ノ他單ニ國體ヲ否定スルト云フヤウナ場合ニ付キマシテハ、之ヲ處置スル法條ハゴザイマセヌ、矢張り本法ノ改正ニ依ツノ外ハナイト思ヒマス、其ノ他私有財産制度ヲ否認スル目的ヲ以テ、結社ヲ組織スルヤウナ場合ニ付キマシテモ、刑法ノ理論ヲ以テシテハ處置出來ナイノデゴザイマス、尙其ノ他、私有財産制度否認ニ關スル部分ニ付キマシテ、其ノ目的ヲ以テ犯罪ヲ煽動スルト云フヤウナ事柄ニ付キマシテモ同様デゴザイマス、大體サウ云フ風ナ事項ニ付キマシテモ此ノ治安維持法ノ規定ヲ必要トスルモノト考ヘテ居リマス

○次田大三郎君 暴力ニ依ラズシテ國體ヲ變革スルト云フ場合ハ考ヘラレナイト思ヒマスガ、サウ云フ場合ハ考ヘラレルノデセウカ

○政府委員(秋山要君) 仰セノ通り暴力ヲ以テ國體ノ變革ヲ企テルト云フ場合ガ多イト思ヒマス、併シナガラ意識的ニ國體變革ヲ企テル、所謂意識革命ト申シマスカ、例ヘバ類似宗教トカ云フヤウナモノニ付キマシテハ、暴力ニ依ラナイデ國體變革ヲ企テルト云フモノガアルノデゴザイマス(貴族院治安維持法改正法律案特別委員會議事速記第五號)

(2) 政體問題
○田村委員 近時ノ一ツノ弊風ハ、議會制度ヲ否認スルヤウナ言動ヲスル者ガ相當居ルノデアリマス、ソレニ對スル處罰規定ト云フモノガ——是ハ暴動、内亂ヲ起スコトヲ目的トシタ場合、是ハ未遂罪モ朝憲紊亂罪デ處罰サレルノデアリマスガ、議會制度ヲ否認スルヤウナ言動ヲスル者ガ居ルノデアリマス、ソ

レニ對スル處罰規定ハナイヤウデアリマスガ、朝憲紊亂ノ言葉ダケハ、サウ云フ思想ノ發表ヲシタダケデハ朝憲紊亂罪ニ觸レルカドウカ疑問デアリマスガ、サウ云フモノニ對シテハドウ云フ風ナ處罰ガ出來マスカ、此ノ點ニ對シテ、司法大臣ハドウ云フ所ヲ取ツテ押ヘラレルカ、偶々此ノ法ノ制定ト相關聯シテ御考慮ニナルドラウト思フノデアリマスガ、御伺ヒ致シタイノデアリマス

○柳川國務大臣 此ノ治安維持法ガ不備ナ點ハ、只今仰シヤツタ宣傳ト云フコトガナカッタノデアリマス、現行法ニハナイノデゴザイマシテ、是ハ昭和九年頃カラ、教唆ト云フノハアリマシテモ、宣傳ト云フノガナイノデゴザイマシテ、當時思想對策トシテ定メテ、此ノ度ノ改正案ニハ其ノコトガ載ツテ居リマスカラ、大體其ノ方デ取調ガ出來ルト考ヘテ居リマス(田村委員一朝憲紊亂ノ方デスカ)思想上デスネ、思想上ノ宣傳ヲスルモノハ、是マデノ現行法ニハ宣傳ト云フコトガナイノデゴザイマス、新改正法律案ニ宣傳ト云フノヲ加ヘラレタノデアリマス、多分ソレニ依ツテ取調ガ出來ルドラウト存ジテ居リマス

○田村委員 ソレハ本法ノ國體變革ニ付テハ新シイ法律ガ出マスコトハ仰ツシヤル通りデゴザイマス、私ノ申上ゲルノハ、議會制度ノ否認ヲ公然ト公開ノ席上ナド言ウテ居ル者ガ現ニ居ル、中央カラ行キマシタ者デモサウ云フコトヲ言ウテ居ル、者ガ居ル之ニ對スル取締法規デアル、國體ト政體トハ違ヒマスガ、國體ノ變革ヲ目的トスル煽動若シタハ宣傳ヲナス者ハ此ノ新シイ法律ガ出來マスレバ、此ノ法律ニ依ツテ嚴重處罰サレルコト

ニナツテ居ル、所ガ一方議會制度ニ對スル崩壞ヲ巧ム思想ヲシテ煽動ヲスル者ガ現ニアルノデアリマス、ソレ等ニ對シテ如何ナル法條ニ依ツテ取締リ得ルカト云フ點ヲ承リタイノデアリマス

○秋山政府委員 議會制度ノ破壞ヲ企テルト云フ場合ハ、國體變革ノ目的ヲ以テ、此ノ目的デアル例ヘバ宣傳スルトカ、或ハ之ヲ公衆ニ對シテ煽動スルトカ云フコトニ掛リマスノデ、本案ノ第五條ニ該當スル譯デアリマス

○田村委員 例ヘバ大政翼賛會ガ出來タカラモウ議會ナドハ要ラヌト云フ考ヘニナツテ、翼賛會ノ若イ者ナドニハ議會ナドハモウ要ラス、議會制度ハ止メテシマッタ方ガ宜イト言フノガアル、サウ云フ場合ニモサウ云フ言動ヲ取締リ得ルカドウカ、其ノ取締リ此ノ法條デヤルヤ否ヤ、其ノ點ヲ御考慮ニナツタカドウカ伺ヒタイ

○秋山政府委員 例ヘバソレガ文書ニ依ツテナサレル、或ハ新聞紙上ニ發表サレルト云フヤウナ場合ニハ、新聞紙法或ハ出版法ニ當ル場合ガ多イト思ヒマス、唯併シナガラ其ノ事例ヲ具體的ニ一々檢討シテ考ヘテ見ナケレバ、ソレガ果シテ出版法ニ當ルカ、新聞紙法ニ當ルカト云フコトヲ判斷スルコトハ困難デアリマス

○中村(高)委員 關聯シテ——今ノ刑事局長ノ御答辯ニ依リマス、議會制度ヲ變更スルト云フヤウナコトニ對シテモ、新聞紙法、出版法ニ掛ル場合ガアルト云フヤウナ御答辯デアリマシタガ、私ハ現在ノ法律デハ、唯議會制度ヲ變ヘルト云フ演說ヲ

スルトカ、出版物ヲ出シテモ法律ニハ觸レヌト思ヒマス、ソレガ若シモウ少シ不穩ノ行動ニテモ出ルトカ、何カ實力ニ依ツテ變更スルトカ云フ程度ニ至レバ、是ハ朝憲紊亂ニナルト思ヒマスガ、幾ラ演説シタリ文書ニ書イテモ是ハ取締ノ規定ハ現在ナイト私ハ思ヒマスケレドモ、是ハ如何デアリマセウカ

○秋山政府委員 ソレガ悉ク新聞紙法、出版法ニ觸レルト申シタ譯デアリマセヌ、具體的ニ事案ニ付テ十分検討シテ見ナケレバ、之ニ當ルカドウカ分ラヌト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、議會制度ノ破壊ノ意見ヲ發表シマスル其ノ程度如何ニ依ツテハ、新聞紙法、出版法ニ觸レル場合ガアリ得ルト思ヒマス、此ノ立案當時ノ心持ヲ申シマス、議會制度否認ノ思想ト云フモノハ、人體ニ於テ國體變革ノ思想若シクハ私有財産制度否認ノ思想ヲ實現スル爲ノ手段ニ用ヒラレルモノデアルト考ヘテ居リマス、唯議會制度否認ダケテ更ニ進ンデ何モ考ヘナイト云フヤウナモノハ、サウ惡質ノモノデアリナイデアツテ、ソレガ漸次進ンデ國體變革ノ思想ニマデ入ツテ行ク處ガアリマスカラ、ソコニ非常ナ恐ロシイ點ガアルノデアリマスガ、ソレハ大體ニ於テ今申上ゲマシヤウナ國體變革ノ思想實現ノ手段、私有財産否認實現ノ手段トシテ之ヲ見ルコトガ出來、恐ラク捜査ガ進ンデ參リマスレバ先刻來大臣カラ御説明ノアツタヤウニ、結局ハ國體變革ノ思想、私有財産否認ノ思想ニマデ突進ンデ行クコトガ出來ルト思フノデアリマス、隨テ政體變革ノ問題、議會制度否認等ノ問題ニ付キマシテハ、特ニ此處ニ現ハサナイデモソレテ賄ヒガ付タヤウニ考ヘテ居ルノデアリマス、併

シ尙ホ其ノ點ハ研究モ致シマセウケレドモ、私共ト致シマシテハ十分ニ研究シタ上デ、斯ウ云フコトニ立案ヲ致シタ次第デアリマスカラ、其ノ點ヲ申上ゲテ置キマス（衆議院治安維持法改正法律案委員會議錄（速記）第二回）

○世耕委員 此ノ前治安維持法ヲ司法省デ御提出ニナリマシタ時ノ議會ノ資料ヲ見マスノニ、國體ノ變革ノ中ニ政體ト云フコトガ盛ラレテ居タユトガアツタガ、ドウ云フ關係デ之ヲ議會デ削ツテシマツタカ、寧ろ私ハ今日ノ時局柄、其ノ間ニ政體ト云フコトヲ一ツ入レルベキデアリナイカ、斯ウ考ヘルノデスガ、其ノ點ハ如何デアリマスカ

○太田政府委員 御説ノ如ク最初治安維持法ヲ提案致シマシタ時ニハ、國體ノ變革ト並ニ政體ノ變革ト云フ言葉ヲ使ツテ居リマシタ、ソレガ衆議院ニ於テ削除サレタデアリマス、衆議院ニ於ケル當時ノ速記ヲ見マス、政體ノ變革ト云フ言葉ハ如何ニモ曖昧デアル、是ハ立憲制度ヲ變革スルト云フ趣旨以上ニ廣イモノヲ包含スル、斯ウ云フ曖昧ナ言葉ハ斯ウ云フ重キ點ヲ以テ臨ム法律ニ規定スベキデアリナイト云フ衆議院ノ御意見デ、削除ニナツタノデアリマス、左様ニ私共ハ速記ヲ承知シテ居リマス

○世耕委員 今度ハソレヲ御入レニナル御考ヘハナイカト云フコトヲ御聽キ致シマス

○太田政府委員 其ノ後六十五議會及ビ六十七議會ニ司法省ト致シマシテ治安維持法ノ改正案ヲ提案致シタノデアリマス、又今度モ提出致シタノデアリマスガ、最初ノ時ノサウ云フ案

議院ノ御意見ヲ尊重致シマシテ、又私共モソレガ多少曖昧ナ言葉デアルト存ジマスノデ、ソレヲ避ケテ居ルノデアリマス、ソレデ此ノ間司法大臣カラ御話ノアリマシタヤウニ、單純ナル政體ノ變革ト云フコトハ、餘リアリ得ナイノデアツテ、結局私有財産制度ヲ否認スルカ、或ハ國體變革ニ至ルベキ手段、或ハ其ノ道程トシテ政體ノ變革ト云フコトガ考ヘラレル場合ガ多イト思ハレマスノデ、政體變革ノ思想ヲ調ベテ參リマスレバ、現行ノ治安維持法ニ依ツテ處罰セラルベキ思想ヲ含ンデ居ルモノト云フ風ニ多ク考ヘラレルデアラウト思フテ居リマス（同第五回）

○小畑委員 憲法ヲ否定スルモノハドウ云フ風ニ取扱ハレルノデアリマセウカ、勿論國體ニ關スル條章ヲ否定スルモノハ、前ニアリマシタカラ宜シウゴザイマスガ、其ノ他例（バ立憲政治ヲ否認スル、議會政治ヲ否認スル、斯様ナル思想犯ニ對シテハ、ドウ云フヤウナ御考ヲ御持チニナツテ居リマセウカ

○太田政府委員 政體變革ニ關スル思想モ、治安維持法ニ於テ取締ル規定ヲ置イタト云フコトハ、此ノ間カラ御質問ガゴザイマシテ御答ヘ致シタノデアリマスガ、此ノ間司法大臣カラ御答辯ノアリマシタ如ク、立憲政體ヲ否定致シマス思想ハ、之ヲ糾明致シマス、單ニソレヲ止マル場合ハ極メテ少イノデアリマシテ、多クハ國體ヲ變革スル目的、或ハ私有財産制度ヲ否認スル目的ノ爲ノ手段トシテ、政體變革ト云フコトガ行ハレル場合ガ多カラウト存ズルノデアリマス、隨ヒマシテソレヲ糾明致シマスナラバ、治安維持法ニ觸レルヤウナ實體ガ多クノ場合ニ必ズ出テ來ルモノダト存ゼラレルノデアリマス、ソレノ

ミナラズ、實ハ政體變革ト云フ觀念ガ曖昧ナ觀念ダト云フヤウニ言ハレテ居リマシテ、政體變革ト規定致シマス、單ニ立憲政體ヲ否認スルト云フニ止ラズ、更ニソレヨリモ廣イ觀念ガ入ツテ、言葉ガ曖昧ダカラト云フコトモ世間デ言ハレテ居リマス、左様ナ點ヲ考慮致シマシテ、政體變革ニ關スル規定ヲ置カナカツタ次第デアリマス

○小畑委員 此ノ政體ヲ變革シヨウト云フ場合ハ、多クノ場合國體ヲ變革シ、或ハ私有財産制度ヲ否認スルト云フコトニナル場合ガ多イト言ハレマスガ、是モ今日ノ實際カラ申シマス、サウ云フ國體トカ或ハ私有財産制度ト云フヤウナコトニ觸レナイデ、社會主義トカ、或共産主義トカ云フヤウナコトニ觸レナイデ、社會主義トカ或ハ共産主義トカ云フヤウナ思想トハ關係ナク、唯議會制度ヲ否認シ、立憲政治ヲ否認シテ獨裁政治ヲ布カウ、斯ウ云フコトニ考ヘル者、此ノ思想ヲ宣傳スル者モ亦絶無デアルトハ考ヘラレナイノデアリマス、苟クモ憲法ノ條章ニ定メラレタル我が國ノ立憲政治ノ政體ニ、紛淆ヲ試ミヨウトスルガ如キ者ニ對シテハ、當然相當ノ制裁ヲ設ケナケレバナラヌモノト考ヘタカラ伺ツタノデアリマス、ソレカラ政體ト云フコトガ、随分色々ノ意味ニ使ハレルト云フコトデアリマスガ、私モ實ハソレヲ思フノデアリマス、ケレドモ國體トカ政體トカ云フヤウナ言葉ヲ左様ニ色々ノ意味ニ使フコトハ、成ルベク避ケナケレバナラヌコトデアリマス、本當ヲ言ヒマス、私ハ新體制ダトカ新政治體制ト云フヤウナ言葉ガ嫌ヒナノデアリマス、日本政治體制ト云フモノハ、憲法ニ依ツテ定ツテ居ルノデアリ

マシテ、國務大臣が輔弼ノ責任ヲ執リ、御諮詢ノ機關トシテ樞密院ガアリ、裁判所ハ獨立シテ、帝國議會ガアツテ、サウシテ帝國議會ニハ兩院ガアリ、其ノ一ハ國民ノ公選ヲ以テ成ル所ノ議員ヲ以テ組織スル、是ガ即チ日本ノ政體デアリトデアリマシテ、日本ノ憲法ニ定ツタ所ノ政治體制ノ新ノ字ヲ加ヘテ之ヲ革新スル、斯ウ云フコトハ即チ憲法上ノ我が國ノ政治體制ニ紛清ヲ試ムルト云フコトデゴザイマシテ、私ハ新政治體制ト云フ言葉ガ出テ來タ時カラ、非常ニ嫌ヒナノデアリマス、恐ラク新政治體制ヲ主張サレタ人達ハ我が國ノ立憲政治、我が國ノ憲法政治體制ト云フモノヲ、否認シヨウト云フ思想カラ出來タコトデナイコトハ勿論明瞭デアリマス、併シ言葉ノ上カラ申シマス、今御説ノ如ク、政治體制トカ或ハ政體トカ云フ言葉ハ、色々ナ意味ニ用ヒラレテ居ル、唯國體ト政體トヲ區別スル、此ノ觀念カラバカリデナクテ、色々ノ意味カラ用ヒラレテ居ルカラ、政體ヲ變更シヨウト云フモノニ對スル制裁規定ヲ設ケルコトガ困難デアル、斯様ニ申サレルコトハ私モ能ク分ルデアリマスガ、併シ苟モ憲法ハ欽定憲法デアツテ、サウシテ憲法改正ノ手續ハハツキリ定メラレテ居ルデアリマス、吾々國民ガ之ニ對シテ是非ノ論ヲナスコト云フガ如キコトハ、何カノ法規ニ依ツテ取締マレテ然ルベキモノデアアルト思フデアリマスガ、此ノ點ハ是テ宜シクゴザイマス(同第六回)

○太田政府委員 今回ノ改正ニ何故政體變革ニ關スル規定ヲ設ケナカッタカト云フ御質問デゴザイマスガ、實ハ此ノ點ハ色々考ヘテ見タノデゴザイマス、併シ大正十四年ノ第五十議會ニ最

初治安維持法ヲ提案致シマシタ時ニ、政府ノ原案ニハ、國體若シクハ政體ヲ變革シト、云フ風ニ規定致シマシテ提案致シタノデゴザイマス、此ノ時ニ政府ノ考ヘマシタ所デハ、此ノ政體ヲ以テ立憲政體、議會制度ト解シマシテ、議會政治否認ノ思想ヲ防止スルコトヲ意圖シテ居ッタノデアリマスガ、衆議院ニ於キマシテ、政府立法ノ趣旨ハ之ヲ諒トスルケレドモ、政體變革ト云フ文字ハ、提案者ノ考ヘテ居ルヨリモ非常ニ廣イ解釋ヲ容レル餘地ガアル爲ニ、相當危險デアルト云フ理由ヲ削除意見ガ出タノデゴザイマス、之ニ對シマシテ、當時ノ政府ニ於キマシテハ熱慮ノ末、治安維持法ハ要スルニ無政府主義、共產主義ヲ目標トスル罰則デゴザイマシテ、斯カル思想ニ基ク行爲ガ、或ハ國體變革、或ハ政體變革、又ハ私有財産制度否認ト云フ形ヲ取ツテ現ハレルデアリマスカラ、政體ニ關スル部分ヲ削除シマシテモ、國體變革思想或ハ私有財産制度否認思想トシテ、十分取締リ得ルト云フ風ニ、考ヘ衆議院ノ削除意見ニ同意ヲ表シマシテ、貴族院デモ、其ノ儘通過致シ、現行法ノ基本法ガソコニ成立ツタ次第デゴザイマス、ソコデ今度ノ改正ニ付キマシテモ、此ノ過去ノ衆議院及ビ貴族院ニ於テ其ノ儘通過シマシタ御意見ヲ尊重致シマシテ、且又政體變革ト云フ言葉ハ相當曖昧ナ言葉デアリマスノデ、之ヲ規定致サナカッタ次第デアリマス、之ヲ規定シナカッタ理由ハ左様ナ譯デゴザイマシテ、立憲制度ヲ否認スル思想ヲ取締ル意思ガナイト云フノデハナイノデアリマシテ、元日來申上ゲテ居リマスヤウニ、立憲制度ヲ否認スル其ノ行動、思想ハ、ソレダケガ目的デアルト云フ場合ハ殆ドナ

イノデゴザイマシテ、國體變革ノ思想或ハ私有財産制度否認ノ思想、其ノ目的實現ノ手段トシテハ行ハレルト云フ風ニ見テ居リマス、決シテ政體變革即チ立憲制度ヲ否認スル思想ヲ輕視シタ譯デハナイノデゴザイマス、唯左様ナ過去ノ経緯、且ツ其ノ立法技術上ノ問題カラ、之ヲ規定シナカッタ次第デゴザイマ

○秋山政府委員 議會制度否認ノ思想ハ許サレザル思想デアルト考ヘマス、多クノ場合ニ於テハ國體變革ヲ目的トスル思想カラ派生シテ來ルモノト思ヒマスルシ、又治安維持法ノ國體變革ノ場合ニ當ラヌ場合ガアリマシテモ、其ノ他ノ規定例ヘバ刑法ノ内亂罪ト云フヤウナ規定ニ依ツテ相當取締リ得ルモノト思フテ居リマス、議會制度否認ノ思想ヲ取締ル緩慢ニシテ宜シイト云フ考ヘデアリマセス、斯様ナ思想ガ宜シクナイト云フコトハ勿論司法省トシテモ考ヘテ居ルノデアリマス、唯私ノ申上ゲテ居リマシタコトハ、結局議會制度否認ノ思想即チソレガ國體否認ノ思想ナリ、斯ウ云フ風ニハ言ヘナイ場合ガアル、併シナガラ多クハ國體變革ノ思想カラ派生シタ即チ國體變革ノ思想ノ手段方法トシテ、サウ云フコトガ言動ニ現レテ來ルト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、決シテ議會制度否認ノ思想ハ取締リ緩慢ニシテ、サウ云フ思想ガ悉ク國內ニ浸潤スルコトヲ許スベキモノダト云フ風ニ考ヘテ居ルノデハゴザイマセヌ(同第七回)

○柳川國務大臣 御質問ノ第一點ハ國體變革ノ思想、私有財産制度否認ノ思想以外、憲法否認ノ思想ヲ罰スル條項ガ存シナイガ、是ハドウカト云フコトデアリマス、憲法否認ノ思想ハ即チ

國體變革ノ思想ト同様デハナイカ、斯様ニ承リマシタ、憲法否認ノ思想ハ御意見ノ通りニ、延イテハ國體變革ノ思想ト何處カ通ズルヤウニナツテ、自然是ノ搜查取調ノ間ニ合體スル場合ガアラウト思ヒマスガ、サウデナクシテ、單ニ憲法否認ト云フダケノ單純ナル思想デアレバ、之ヲ直接取締リマスル所ノ罰則ト致シマシテハ、刑法内亂罪ニ關スル規定、新聞紙法及ビ出版法ニ於ケル朝憲紊亂又ハ國憲紊亂ニ關スル處罰規定等ガアル譯デゴザイマス、之ヲ間接ニ取締ルベキ法條ト致シマシテハ、不穩文書臨時取締法、治安警察法其ノ他ノ法律ニソレム、規定ガゴザリマス、憲法否認ノ問題デゴザイマスガ、憲法第一條ヲ否認スル思想ハ國體變革ノ思想デアルト云フコトハ、申スマデモナイコトデゴザイマスガ、政體變革ト云フ思想ヲ限定シテ考ヘレバ、直チニ國體變革ノ思想ト同一デアルトハ申上ゲラレナイデゴザリマセウト思ヒマス、政體變革ノ思想デハゴザイマス、スルガ、國體變革ノ思想、又ハ私有財産制度否認ノ思想ト同様ノ思想カラ出發スル場合ガ多カラウト存ズルノデアリマス

次ノ御質問ノ點ハ、私有財産制度否認ノ思想ヲ流布宣傳スル行爲ヲ處罰スル規定ニ關スルコトデアリマスガ、御説ノ如ク之ヲ直接對象トスル規定ハ存シテ居リマセヌ、併シ既ニ政府委員ヨリ説明申上ゲマシタ如ク、過去ノ實績ニ徴シマシテモ、本改正案中ノ規定又ハ其ノ他ノ法律ノ罰則ニ依リマシテ、十分取締リ得ルト存ズルノデアリマス、尙ホ此ノ機會ニ一言當局ノ方針トシテ申上ゲタイト思フコトハ、國體變革ノ思想ニ關シテハ今更申スマデモナク、私有財産制度否認ノ思想ハ勿論、政體ヲ否

認スル思想ニ關シテモ、他ノ法律ノ罰則ト相俟チマシテ、本改正案成立ノ曉ハ斷乎タル取締ヲ致シ、治安維持ノ完備ヲ期シタ
イト存ジテ居ル次第デゴザイマス、此ノ點宜シク御諒承ヲ御願
ヒ致シマス (同第八回)

第七十六回帝國議會貴族院

○次田大三郎君 治安維持法ノ改正ノ機會ニ於テ政體ヲ變革
セムトスルモノヲ取締ル規定ヲ附加ヘニナラナカッタ理由ヲ伺
ヒタイト思フノデアリマス、是ハ私申上ゲル迄モナク政府ハ能
ク御承知デアラウト思ヒマスガ、昭和九年第六十五議會ニ提出
セラレマシテ、ソレニ對シテ貴族院ハ修正ヲ加ヘタノデアリマ
ス、ソレハ治安維持法ニ關スル立法經過參考資料トシテ、政府
カラ提出ニナツテ居リマス、其ノ「パンフレット」ノ第十二頁ニ
載ツテ居リマス、第八條原案ハ「私有財産ヲ否認スルコトヲ目
的トシテ結社ヲ組織シタル者結社ニ加入シタル者又ハ結社ノ目
的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮
ニ處ス」ト云フ規定デアッタノデアリマス、ソレニ對シテ修正
ヲ加ヘマシテ「私有財産制度ヲ否認シ又ハ憲法ノ定ムル統治組
織ノ機能ヲ不法ニ變壞スルコトヲ目的トシ、又ハ憲法ノ定ムル
統治組織ノ機能ヲ不法ニ變壞スル者ニ對シテハ、私有財産制度
ヲ否認スル者ト同ジヤウナ取締リヲシヨウト云フ趣旨ノ修正ヲ
貴族院デ出シタノデアリマス、ソレガ直チニ衆議院ノ同意ヲ得
ルコトガ出來マセヌデ、兩院協議會ヲ開イテ居ル中ニ、會期ガ
盡キマシテ了トナツタコトガアルノデゴザイマス、帝國院ノ
彼此スルコトノ不都合ナコトハ無論デアリマスガ、其ノ外ニ

政體ヲ變壞セントスル考ヘデ以テ、色々ナ事ヲスル者ハ取締ル
ベキモノデアルト云フ意見ハ、貴族院ノ意見トシテハ一應成立
シテ居ルノデアリマス、此ノ貴族院ノ意見ヲ、今度治安維持法
ノ改正ヲナサル際ニ、政府ハ如何ニ商量セラレタカ、何ガ故ニ
政體變壞ニ關スル制裁規定ヲ此ノ治安維持法改正ノ際ニ挿入ニ
ナリマセヌデシタカ、其ノ理由ヲ伺ヒタイ

○國務大臣(柳川平助君) ソレハ御存ジノ通りニ、最初治安維
持法案ノ議會ニ提案セラレマシタノハ、大正十四年第五十議會
デアリマシテ、其ノ當時ニ於キマシテ政府案ニ於キマシテハ
「國體若ハ政體ヲ變革シ」云々ト最初アツタノデゴザイマスガ、
是ハ衆議院カラ、政府ノ立法ノ趣旨ハ之ヲ諒トスルモ政體ノ變
革ナル文字ハ、政府提案ノ趣旨ヨリモ廣イ解釋ヲ入レル餘地ガ
アル爲ニ、頗ル危險デアルト云フ理由デ、削除意見ガ出タノデ
アリマス、之ニ對シマシテ當時ノ政府ニ於キマシテハ、熱慮ノ
末本法ハ要スルニ無政府主義共產主義ヲ目標トスル處罰規定デ
アツテ、斯カル思想ニ基ク行爲ガ、或ハ國體或ハ政體變革、或
ハ又私有財産制度否認ト云フ形ヲ取ツテ現レルノデアルカラ、
政體變革ニ關スル部分ヲ削除シテモ、取締上大シタ不都合ハナ
イト云フノデ、衆議院ノ削除意見ニ同意ヲ表シ、貴族院ニ於テ
モ其ノ儘通過致シテ居リマス、其ノ後幾度カ政府ヨリ改正案ガ
提出セラレタノデアリマスガ、其ノ都度政體ノ問題ニ關シマシテ
ハ、第五十議會ニ表明サレマシタ議會ノ意思ヲ尊重シマシテ、
此ノ點ニ改正ヲ加ヘナイコトニナツテ居ル次第デアリマス、只
今仰セニナリマシタ政體變革ト云ヒ、憲法ノ内容ニ關シテ紛

若ハ變革ヲ企ツル所ノ言動ハ、之ヲ捜査致シテ居リマス、結局
先程申シマシタ通りニ、國體變革ノ結果ニナルノデハナイカト
多クノ場合存ズルノデアリマス、單ニ國內ダケニ限ツタ一部ノ
單純ナル企テゴザイマスコトガ明カニナリマスレバ、是ハ刑法
ノ内亂罪其ノ他ノ方デ裁ケルコトニナルヤウニ思ハレルノデ、
此ノ度提案致シテ居リマス國體變革ト私有財産否認及ビ之ニ關
聯シタ罰則ダケデ、漏レナク取締ガ出來ルト考ヘテ居ルヤウナ
次第デアリマス

○次田大三郎君 只今ノ御答辯ハ、第一ニ第五十議會ニ於テ政
府ハ「國體若ハ政體ヲ變革シ」ト云フ原案ヲ出シタ處ガ、衆議
院ハ「若ハ政體」ト云フ文字ヲ削ツタ、而シテ貴族院モ亦之ニ同
意シタ、其ノ院議ヲ尊重シタノデアルト云フコトガ第一點デア
リマス、ソレカラ第二點ハ、政體ノ變革ト云フコトハ、ソレヲ
捜査シテ行ケバ結局國體ノ變革ト云フコトニナル、ソレダカラ
其ノ方デ取締ルカラ宜シト云フノガ第二點、第三點ハサウデ
ナイ場合、詰リ國體ノ變革進行カナイ場合ハ、普通刑法ノ内亂
罪其ノ他デ以テ取締ルカラソレ宜シイ、斯ウ云フ御説明ト拜
聽シタノデアリマス、成ル程初メテ治安維持法ガ五十議會ニ提
出セラレマシタ時ニ、原案ニハ「國體若ハ政體ヲ變革シ」トアリ
マシタ、而シテ衆議院ガ「若ハ政體」ト云フ文字ヲ削リ、而シテ
貴族院ガソレニ同意シタコトハ御話ノ通りデアリマス、ソレハ
大正十四年ノ話デアリマス、其ノ後昭和九年ニナリマシテ、貴
族院ハ矢張り政體ヲ變革セムトスル者ニ對シテモ、其ノ不法ニ
帝國憲法ノ定メタル統治組織ヲ紛亂セムトスル所ダケハ、取締

ラナケレバナラナイト云フ考ニナリマシテ、是ハモウ院議ヲ決
定シタノデアリマス、ソレヲドノ程度迄商量ナサツタカ、サウ
云フ貴族院ノ院議ガアルニ拘ラズ、ソレヲ加味セラレナカツタ
ト云フノハ、ドウ云フ理由カト云フコトヲ御尋ネシタノデアリ
マス、第五十議會ニ若ハ政體」ト云フ文字ヲ削ツタト云フ趣旨
ハ、廣ク荷モ政體ヲ變革セムトスル者ニ對シテ制裁ヲ加ヘルト
云フコトデアレバ、ソレハ廣過ギルンダ、ソレデハ例ヘバ貴族
兩院以テ帝國議會ヲ構成シテ居ルノヲ、一院ニスルガ宜イヂ
ヤナイカト云フ議論ヲスルトカ、請願ヲスルト云フヤウナコト
デモ取締ラレルコトニナル、極ク合法的ナ手段デサウ云フコト
ヲ考ヘテ、事實ニ現サウトスルモノデスラ、嚴重ナル制裁デ取
締ラレルト云フコトニナル、ソレハ餘り廣過ギル、斯ウ云フ意
味デ衆議院ガ削リ、而シテ貴族院モ同意シタノデアリマス、處ガ
昭和九年ニ貴族院ガ意思表示ヲシマシタノハ、ソナナ廣イ意味
ノコトデナク、荷モ政體ヲ變革セムトスル者ハ全部取締ラウト
云フ譯デハナカッタ、是ハ條文ヲ御覽ニナツテモ能ク分リマス
通りニ、憲法ノ定メル統治組織ノ機能ヲ不法ニ變壞スルコトヲ
目的トスル初メノ大正十四年ノ場合ヨリカ、ズツト狭イ範圍ノ
モノヲ嚴重ニ取締ル必要ガアルト云フコトニナツタノデアリマ
ス、院議ヲ尊重シタト云フ話デアリマスガ、是ハ大正十四年ノ
時ノ院議デアリマシテ、ソレカラ後貴族院ノ意見ハ變ツテ來テ
居ル、其ノ點ダケハ變ツテ來テ居ル、ソレヲドノ程度商量ナスツ
テ此ノ原案ヲ御出シニナツタカト云フコトヲ伺ツタノデアリマ
ス、再應其ノ點ニ關スル御説明ヲ願ヒタイデアリマス、ソレ

カラ第二ノ點、政體ノ變革ハ調ベテ行ケバ國體ノ變革ト云フコトニ落着クカラ、取締ル必要ガナイト云フ御話デアリマスガ、私ハ必ズシモサウ云フ譯チヤナイト思ヒマス、國體ハ其ノ儘ニシテ置ク、併シナガラ政體ハ變ヘヨウト云フコトハ、國體ト政體トノ間ニ區別ヲ考ヘル以上ハ、政體モ國體モ同ジモノダト云フ憲法論ガ成立ヲナラソレハ別デアリマスガ、今日普通行ハレテ居ル憲法論ハ、政體ト云フコトト國體ト云フコトトハ、別ナモノダト云フ觀念デヤツテ居リマスカラ、其ノ普通ノ觀念ヲ御採用ニナル以上ハ、政體ヲ變革セムトスルモノガ調ベテ行ケバ、國體變革ニナルカラ取締ルノ必要ハナイト云フ御説ハ如何ナモノカト思ヒマス、ソレカラサウデナクテ、ドウシテモ國體變革迄行カナイト云フ場合ニハ、内亂罪其ノ他ノ普通刑法テ行クカラ宜イト云フ御話デアリマス、併シナガラ此ノ治安維持法ハ普通刑法テハ不十分ダカラ、例ヘバ國體變革ニ關スル犯罪ヲ取締ルト云フヤウナ場合ノ如キ、普通刑法テハ不十分ダカラ、サウ云フコトヲ目的トシテ結社ヲ組織スルトカ、若シクハ其ノ目的ノ遂行ノ爲ニスル行爲普通刑法テハ罰シナイ行爲デモ、其ノ目的ガアレバ罰スルト云フコトニナツテ居ル、其ノ點ハ普通刑法テモ内亂罪其ノ他ノ規定ガアルカラ、政府ノ變革ヲ不法ニシヨウトスルモノニ對スル取締規定ヲ新タニ設クル必要ガナイト云フコトニハナラナイト思フデアリマス、其ノ點ハ如何ナモノデゴザイマセウカ、今一應御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○國務大臣(柳川平助君) 只今ノ御質問ハ、憲法ヲ變革スルモノヲ政體變革ト云フヤウニ仰セラレテ、不法ニ憲法ヲ變革スル

モノヲ取締ルト云フヤウニ、貴族院ノ院議ガナツタノヲ考慮シナカッタノカト云フ御質問デアリマス、立法ノ際十分考慮シマシタノデゴザイマスガ、憲法ニ定ムル事柄ノ變更ハ、不法ニ依ル場合ニ限ルベキデナク、憲法ハ不法トカ不法デナイニ限ラズ、一體變革ヲスルコトハ是ハ許サレナイコトデゴザイマスカラ、憲法變革ノコトハ、悉ク是ハ本法ガナクテモ取締ルヤウニナツテ居ル譯デゴザイマス、ソレカラ政體變革ヲ企テタモノヲ搜查スレバ、其ノ結果ガ國體變革ニ至ルダラウト言ヒマシタノハ、政體ト國體ヲ一緒ニシテノ話デハナイデアリマス、政體變革ヲ企圖スルガ如キモノヲ調ベレバ、實際上國體變革ト同ジヤウナ結果ニナル場合ガ多カラウト斯ワ云フ考ヘデゴザイマセテ、政體ト國體ト同ジヤウニハ言ツテ居ル譯デハゴザイマセヌ、ガ我が國ニ於キマシテハ、國體ニ依ツテ政治様式ヲ定メラレタノデゴザイマスカラ、此ノ憲法ヲ變革スルモノハ、殆ド國體變革ト似寄ツタ考ヘニナルト思フデアリマス、從ツテ搜查ヲシテ居ル間ニ國體變革ノ考ヘヲ持ツテ居ルコトヲ發見スルヤウニナルダラウト斯ウ申シマシタ、併シ單純ニ、今仰ツシヤルヤウニ國體變革ニ至ラナイ、極ク單純ナ考ヘデアルト云フコトデアレバ、是ハ本法デナクシテモ、本來取締ルヤウニナツテ居ルデアリマスカラ、一般ノ刑法テ主ナル取締ハ出來ルト斯ウ考ヘテ居ル次第デゴザイマス

○次田大三郎君 私ノ質問ノ言葉ガ足りマセナンダデアリマス、只今ノ御答辯ヲ伺フト益々疑ヲ深クスルデアリマス、私ハ憲法ヲ變更スルモノヲ取締ルベキモノダト云フコトヲ申シ

タコトハアリマセヌ、ソレハ速記録ヲ御覽下サレバ分リマスガ、私ハ憲法ニ定メテアル統治組織ノ機能ヲ不法ニ變壞スルト云フコトヲ申シタデアリマス、憲法ニ定メテアル統治組織トハ、例ヘバ議會ノ如キモノデス、憲法ヲ改正スルト云フコト、ソレ自身ガ不法デアルト云フ御話デアリマスガ、ソレハ如何ナモノデアリマセウカ、憲法改正ハ無論御發議ハ、大典ニ依ツテ御發議ニナツテ、ソレデ兩院ガ議決スルコトニナツテ居ルデアリマシテ、例ヘバ憲法ノ國體ニ觸レナイ或ル條項ヲ直シテ戴キタイト云フ請願ヲ假ニ出ストスル、ソレガ不法行爲デアルト云フコトハ私ハナイト思フ、只今司法大臣ハ憲法ヲ動かサウト云フモノハ不法ノ行爲ダト云フ風ニ御話ニナリマシタノハ、私ハドウシテモ諒解出來ナイデアリマスガ、ソレニ相違ゴザイマセヌカ、先ヅ其ノ點ヲ伺ヒマス

○國務大臣(柳川平助君) 憲法ノ變革ハ不法デアルト云フコトハ相違ゴザイマセヌ、併シ憲法ニ關スル請願ト云フヤウナコトハ、又是ハ趣ガ違ヒマセウ、憲法ノ一部改正ノ請願ナドト云フモノハ趣ガ違ヒマセウガ、政體ノ變革ト云フコトヲ企圖スルモノハ、憲法ノ變革ト云フコトニナルダラウト思フデアリマス、ソレテ今仰シヤルヤウナ場合、此ノ貴族院ノ院議ニ付テ、此ノ前ノ昭和九年ノ時ニ兩院協議會ガ纏ラナカッタ事情ハ、憲法ノ定ムル組織ノ機能ヲ變更スルコトヲ、不法ニ改變シト云フ貴族院ノ院議ニ對シテ、衆議院ノ方デハ必ズシモ不法ノ手段ニ依ル場合ニ限ルベキニアラズト云フ意見モアリマシテ、兩院ノ意見ガ纏ラナカッタヤウナ次第デゴザイマシテ、マダ議ガ熟

シテ居ラナカッタト思フデアリマス、其ノ後研究ハ致シマシテモ、矢張其ノ點ニ議論ガ行ク處ガアルノデ、本改正案ニ此ノコトヲ載セマセヌデ、先キ申シマシタヤウニ大體漸レナク取締ガ出來ルト云フ考ヘカラ、國體變革ト私有財産制度ノ否認ノ結社、及ビ之ニ準ズル準備行爲等ヲ取締ルヤウニ立案サレタ所以デゴザイマス、其ノ點御承知ヲ願ヒマス

○次田大三郎君 シツコイヤウデアリマスガ、此ノ憲法ノ國體ニ觸レナイ或ル條項ヲ直ス方ガ宜シイト云フ考ヘヲ以チマシテ、其ノ目的ヲ遂行スルタメニ結社ヲシタ、サウ云フモノハ是ハ國體ヲ變革スルト云フコトデ、今度ノ案ノ一國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ云ケト云フモノニ該當シテ取締ラル、ト云フ御解釋デアリマセウカ、ドウモ御話ヲ伺フトサウ云フ風ニ思ハレルノデスガ、今一應御答辯ヲ伺ヒマス

○國務大臣(柳川平助君) 只今ノ御意見ハ憲法一部ノ改正ノ爲ニスル爲ニ結社等ヲシタモノハ、第一條ノ國體變革ヲ企圖スルモノニ該當スルモノトシテ取締ガ出來ルカト云フ御答デゴザイマス

○次田大三郎君 左様デゴザイマス

○國務大臣(柳川平助君) 恐ラクサウ云フ風ニ單純ニハ出ナイダラウト思ヒマスガ、併シ是モ憲法ヲ改正スルト言ツテ結社ナドヲスル、憲法ニ依ツテ定マツタ所ノ組織ヲ變革スルト云フ、其ノ組織其ノモノガ議會制度ノ改正トカ云フヤウナ大キナ問題ニナリマシタナラバ、恐ラク對象ニナルト存ズル次第デゴザイマス

○次田大三郎君 チョツトソコノ所ヲハツキリシテ置キタイノ
デスガ、憲法ノ定ムル統治組織ノ機能ヲ變ヘルト云フコトト、
ソレカラ憲法ノ國體ニ觸レナイ取ル條項ヲ變ヘルト云フコト
ト、必ズシモ其ノ範圍ガ同ジチヤナイト思ヒマス、憲法ヲ變更
セムトスルモノハ國體變革ニナルト云フ先程來ノ御說明ニ、私
ハ疑ヲ有ツテ質問ヲ致シテ居ルノデアリマス、一ツ是ハ一國
ノ司法大臣ガ治安維持法ノ解釋ニ付テノ御言明デアリマスルカ
ラ、ハツキリシテ置キタイト思ヒマス、今一應……

○國務大臣(柳川平助君) 國體變革ト迄ハ行カヌ所ノ改正ヲ企
圖スルモノヲ國體變革ト言フ意味デハナイノデゴザイマス、國
體變革ヲ企圖スルモノト、ソレニ至ラヌモノトハ、自カラ差ガ
アリマセウガ、憲法ノ重要點ヲ改革スルヤウナコトヲ結社ヲシ
テ運動シヨウト云フヤウナ考ヘヨシテ居ル者ハ、恐ラク此ノ第
一條ノ取締ノ對象トナルデアラウ、事實取調ベテ見ナケレバ分
リマセヌ、此ノ國體變革ニ至ルヤウナ考ヘヨシテ居ル者ハ、過
ツテ其ノ一部變更等ノ企圖ガアツタモノデ、極ク單純ナモノデ
アレバ普通刑法内亂罪等ノ適用ヲ受クベキモノデアアル、斯ウ考
ヘテ居ル次第デゴザイマス

○次田大三郎君 尙能ク今ノ御話ハ、速記ガ出來マシタナラ
バ、速記ヲ讀ミマシテ今一應質問シテ見タイト思ヒマス、ドウ
モ御話ガ前後違フ所ガアルヤウデアリシ、私能ク吞込メマセヌ
カラ、私ハ質問ヲ留保シテ、其ノ點ニ關スル今ノ憲法改正ヲ企
圖スルモノガ國體變革ナリヤ否ヤト云フ風ナ點ニ關スル質問ハ
今日ハ是ダケニシテ置キマス、ソレカラ第二點デアリマスル
ガ、普通ノ刑法ニ規定シテ居ルコトヲ取締レバソレデ十分デア

ルト云フ御說明デアリマス、併シナガラ昭和九年ニ貴族院ガ、
憲法ノ定ムル統治組織ノ機能ヲ不法ニ變革スルコトヲ、私有財
産ヲ否認スルコトト同ジヤウニ、取扱ツテ特別ノ規定ヲ設ケマ
シタ趣旨ハ、普通刑法ノ規定ハ足リナイ、ソレデハ十分斯ク
ノ如キ不逞ノ者ヲ取締ルコトガ出來ナイト云フ趣旨デ斯ウ云フ
修正ヲ加ヘタ次第デアリマス、其ノ時ノ事情ヲ申上ゲマスル
ト、是ハ大正十四年ニ初メテ本法ガ制定セラレル時ニハ、マル
デ豫期出來ナカッタコトナンデアリマスルガ、其ノ當時色々ナ
「テロ」行爲ガ行ハレタノデアリマス、此ノ治安維持法ヲ議會デ
審議スル直前ニ埼玉縣デ、鈴木政友會總裁ヲ襲撃スル計畫ガア
リマシテ、大勢ノ者ガ捕ヘラレタト云フヤウナコトガアリマシ
タ、其ノ人達ノ主張ハ、ドウモ議會ト云フモノヲ否認スルコト
ニアルラシイ、ソレデサウ云フ者ハドウシテモ取締ラナケレバ
イケナイト云フコトカラ、此ノ規定ガ挿入サレタ次第ナンデ
アリマス、其ノ人達ガ議會ヲ否認スルコト云フ意味デ働キマシ
タモノノ、併シ其ノ當時ハマダノ議會否認論者ハ極ク少數
デアリマシテ、而モソレヲ暴力ヲ以テ實行シヨウト云フ人達ハ
非常ニ少カッタデアリマス、非常ニ少數デアアルカラ斯ウ云フ
規定ヲ挿入スル必要ガナイト云フノガ、政府ノ原案支持ノ理由
デアッタノデアリマス、木村前司法大臣ガ其ノ當時刑事局
長デ、松本學君ガ警保局長デ、頼リニ委員會デサウ云フ説ヲ
述ベテ原案支持ヲサレタノデアリマス、ソレハ其ノ大正十四年
始メテ本法ガ制定セラレマシタ時ニハ、サウ云フコトデハマル
デ考ヘ得ナカッタ、處ガ昭和九年ニナリマスルト、サウ云フヤ
ウナ社會情勢ガ發生シマシタカラ、サウシテ非常ニ危險デア

ト云フノデ此ノ條項ヲ貴族院ガ加ヘタノデアリマス、今日ニナ
ツテ見マスルト、其ノ議會制度否認スルコト云フ議論ハ、昭和九
年當時ニ較ベマスとズツト強クナツテ參ツテ居ルノデアリマ
ス、相當ナ政治家ガ、議會ナント云フモノハモウ潰シテシマ
ト云フヤウナコトヲ、放言スルコトサヘモアルヤウニナツタノ
デアリマス、私ハ貴族院ノ修正、即チ憲法ノ定ムル統治組織ノ
機能ヲ不法ニ變壞スルコト云フコトヲ、私有財産制度ヲ否認スル
ト同様ニ取締ルベシト云フ其ノ主張ノ根據、其ノ主張ヲシナケ
レバナナイヤウナ社會情勢ハ、昭和九年ヨリカズツト今日ハ
進ンデ參ツテ居ルト思フノデアリマス、ソレニモ拘ラズ、普通
ノ刑法ノ規定ガ十分デアルト云フ風ニ政府ガ御考ニナツタノハ
如何ナル次第デアリマセウカ、今一應御說明ヲ願ヒタイト思ヒ
マス

○國務大臣(柳川平助君) 普通ノ刑法デ十分デアルト切離シテ
考ヘレバ、サウ云フ風ニ取レルカモ知レマセヌガ、大體先ニ申
シマシタ通りニ、憲法ニ定ムル所ノ統治組織ヲ不法ニ變更シヨ
ウト云フヤウナ結社ヲナシタリ、或ハ其ノ準備ヲナシタリスル
ヤウナモノハ、大體本法ノ國體變革ト云フモノト同ジ點カラ出
發シテ居ルヤウニ思ヒマス、搜查ヲシタナラバ、恐ラク第
一條ノ對象ニナルト思ヒマス、非常ニ重要ナモノハ……、ソレ
デナクシテ極ク單純ナモノデアレバ、普通ノ刑法ノ内亂罪デ取
締レルノデ、之レニ漏レルコトハナイダラウト考ヘル次第デア
リマシテ、第一條ニ關シマシテモ、當時ノ昭和九年ノ改正案當
時トシマスレバ、第一條ノ準備團體若クハ其ノ又準備ノヤウナ

マセウカ、若シ今一應例説明ガ願ヘレバ結構デアリマス
 ○國務大臣(柳川平助君) サツキカラ申シマス通りニ、政體變
 革ニ、必シモ國體變革ト同一デアルトハ申シテ居ラナイノデア
 リマス、從ツテ司法省ノ解釋ガ無理ト仰ツシヤリマス、ケレド
 モ、政體ト國體トヲ今仰ツシヤルヤウニ無理ニ分ケテ解釋ス
 ルコトガ却テドウカト思フ位テゴザイマシテ、私共ハ政體ハ國
 體ト全ク合致シテ居ルモノテゴザイマスカラ、政體變革ヲ考ヘ
 ルヤウナ企テハ、恐ラク國體ノ何處カヲ變革スルヤウナ、ドノ
 部分カヲ變革スルヤウナ考カラ出發シテ居ルモノト考ヘルノデ
 ゴザイマシテ、實際ニ於キマシテ、政體變革ヲ考ヘテ居ル者ガ其
 ノ考ヲ徹底サセルヤウニナルト、遂ニ本法決定メテアリマスル
 所ノ私有財産制度ノ否認ニナリ、又延イテハ國體ノ變革ニ及
 ヤウニナルノガ、多クノ場合ダラウト思フ、實際カラ考ヘテノ意
 見デゴザイマス、而シテ斯クノ如キコトヲ捜査シテ、如何ニ調
 テモ斯クノ如キ大ソレタモノデハナイ、唯單ニ一部ノサウ云フ
 大害ニ及バナイト云フモノデアルナラバ、仰ツシヤル通りニ全
 クソレト區別ノ出來ルヤウナ單純ナ犯行デアレバ、是ハ他ノ法
 令ヲ以テ處斷ノ出來ルヤウニ從來カラナツテ居ルノ其ノ儘ニ
 處斷シテ行ツタナラバ宜カラウト云フ考デゴザイマス、是ガハ
 ツキリココ迄ガ政體、ココ迄ガ國體ト云フコトハ、恐ラク實際ノ
 場合ニ於テハ、必ズソコハ兩方組ミ合ツテ來ルダラウト存ズル
 ノデアリマス、實際ノ場合ニ於テハ、結社ヲシタリ其ノ準備ヲシ
 タリスルト云フ位ナ計畫ノ背後ニハ、國體變革ト云フヤウナコ
 トニ至ルノデアラウト思フノデゴザイマシテ、多クノ場合ハ、搜

査スルト先ツキカラ申シマス通りニ第一條ニ該當スル、若タハ
 第二條、三條ニ該當スルヤウニナルダラウト考ヘテ居ル次第
 ゴザイマス

○次田大三郎君 要スルニ政體ヲ變革セントスル、具體的ニ申
 シマスト、其ノ中デ憲法ノ定ムル統治組織ノ機能ヲ不法ニ變壞
 セントスルモノハ、謂ベテ見レバ是ハキツト國體變革ニナルン
 ダ、國體ノ變革ヲ企圖スルコトニナルンダ、サウ云フ斷定ノ下
 ニ御話ニナツテ居ルヤウデアリマスガ、私ノ考デハ必シモサウ
 ハナラス、サウナラスモノハ大ソレタモノデナイト云フヤウナ
 御話デアリマスガ、サウナラスモノデモ非常ニ大ソレタモノガ
 アルト思フノデアリマス、普通刑法テハ、サウフ目的ヲ以テ結
 社ヲ組織シ、若シクハ結社ヲ組織セントスルモノヲ取締ツテ居
 ナイ、ソレハ取締ラスデモ宜イト云フ御意見デアリマセウカ、
 例ヘバ今問題ニナツテ居リマス神兵隊ノ如キ其ノ他ノ所謂愛國
 團體ト云フヤウナ、是ハモウ日本ノ國體ヲ變更シヨウト云フ考
 ヲ持ツテ居ナイ、日本ノ國體ヲ擁護シヨウト云フ考デヤツテ居
 ルコトハ疑ナイ、併シサウ云フ愛國團體ノ中デモ議會ヲ潰シテ
 シマフ方ガ宜イト云フ議論ヲスル人ハアル、場合ニ依レバソレ
 ヲ不法ニ變壞セムトスル企テヲスル者ガナイトモ言ヘナイ、サ
 ウ言フ者ニ對シテ私有財産制度ヲ否認スル者位ノ程度ノ位ノ
 御取締ヲナサル必要ガアルト云フノガ貴族院ノ意見デアリマ
 ス、如何デセウカ、サウ云フコトヲ目的トシテ結社ヲ組織ンタ
 者若シクハ其ノ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタ者ヲ取
 締ラスデ宜イト云フ御意見デゴザイマセウカ

○國務大臣(柳川平助君) 取締ラスデモ宜イト云フヤウナ考
 ハ、取締ル結果ニナルダラウト存ジテ居ル次第デアリマス

○次田大三郎君 是レ以上何度ヤツテモ結局同ジコトデアリマ
 スカラ、此ノ程度テ止メマス(貴族院治安維持法改正法律案特
 別委員會議事速記第三號)

○政府委員(三宅正太郎君) 昨日ノ次田委員ノ御質問ニ關聯致
 シマシテ政府ノ意見ヲ纏メテ申上ゲマス、尤モ足リマセヌ所ガ
 ゴザイマシタナラバ、更ニ御質問ニ依ツテ御答ヲ致シタイト思
 ヒマス、大正十四年ノ第五十議會ニ提出致シマシタ政府案ニハ
 政體變革ノ規定ガアリマシテ、是ハ結局削除セラレマシタコト
 及ビ其ノ後、昭和九年第六十五議會ニ本法改正案ガ提出セラレ
 マシタ時ニ、改正案第八號ニ、憲法ノ定ムル統治組織ノ機能ヲ
 不法ニ變壞スルト云フ字句ヲ挿入シテ修正案ガ貴族院ニ於テ可
 決サレマシタガ、兩院協議會デ協議調ハズ、審議未了ニナリマ
 シタコトニ付キマシテハ、是ハ皆サン御承知ノコトデアリマシ
 テ、此ノ點ニ付キマシテハ今同ノ改正案ノ審議ニ付キマシテ
 モ過去ノ是等ノ事情ヲ篤ト研究致シマシタシ、又現在ノ我が國
 ノ思想情勢ハ必ズシモ過去ニ於ケル事情ト同一ト申ス譯デモア
 リマセヌノデ、從來ノ行掛リニ捉ハレルコトナク、更ニ新タナ
 見地カラモ檢討ヲ加ヘマシテ、本改正案ヲ立案致シタノデアリ
 マス、而シテ其ノ研究檢討ノ結果ハ、政體變革ト云フ字句モ、
 亦貴族院デ修正ノアリマシタ所謂憲法ノ定ムル統治組織ノ機能
 ヲ不法ニ變壞スルト云フ字句モ、亦是ト狙ヒ所ヲ同ジタスル字
 句ヲモ遂ニ挿入セザルコトニ決定致シタノデアリマス、其ノ理

由ヲ先ツ端のニ結論カラ申シマスレバ、第一ノ理由ト致シマシ
 テハ、此ノ種ノ目的ヲ有ツ結社等ヲ正確ニ規定スル適當ナ表現
 ヲ見出し得ナイコトナデアリマス、ソレハ立法技術ノ問題モ
 ゴザイマスガ、主タル所ハ其ノ對象ガ捕捉シ難イ點ニアルノデ
 アリマス、第二ノ理由ト致シマシテハ、嚴シク之ガ規定ヲ設ケズ
 トモ現在ノ刑罰法規ニ依ツテ或ル程度迄取締リ得ルト云フコト
 ガアルカラデアリマス、以下第一、第二ノ理由ニ付キマシテ聊
 カ御説明ヲ申上ゲマス、第一ニ次田委員ノ對象トサレマスル結
 社等ヲ、適當ニ示ス表現ヲ見出し得ナイト云フコトニ付キマシ
 テハ、是ハ總テ今日迄ノ本案ニ關スル解釋ガ之ヲ示シテ居ル
 思フノデアリマス、私ハ昨日山口委員カラ御話シガアリマシタ
 ガ、別ニ行掛リニ拘泥シテ申上ゲルノデアリマセヌ、其ノ表
 現ノ困難ナコトノ例トシテ申上ゲタイノデアリマス、先ツ政府
 ハ當初ニ於テ、政體變革ト云フ字句ヲ用ヒタノデアリマス、政府
 ノ否認ヲ防止スルコトヲ意圖シテ居タノデアリマスガ、衆議院
 ニ於キマシテ政府立法ノ趣旨ハ之ヲ諒トスルケレドモ、政體ノ
 變革ナル文字ハ、政府提案ノ趣旨ヨリモ廣イ解釋ヲ入レル餘地
 ガアル爲、頗ル危險デアルト云フ理由ヲ削除意見ガ出タノデア
 リマス、此ノ政體ト云フ言葉ハ、學上ノ用語デアリマシテ、
 天皇ノ統治權行使ノ作用方法ト解釋セラレ、議會制度ノミナラ
 ズ司法權行使ノ爲ノ裁判所、最高諮詢機關タル樞密院等ヲモ包
 含致シテ居リマスノデ、貴族院ヲ廢止シテ議會ヲ一院制度トス
 ル主張ハ政體變革ニ該當スルカトカ、或ハ裁判所ト樞密院ノ廢

止論ガドウカトカ云フ議論ガ出マシテ、結局政體變革ナル文字ヲ使用スル用語等ハ妥當ヲ缺クト云フコトヲ削除論ガ出タ次第デアリマス、之ニ對シテ當時ノ政府ニ於キマシテハ、熟慮ノ結果、本法ハ要スルニ無政府主義、共產主義ヲ目標トスル處罰規定デアリマシテ、斯カル思想ニ基テ行爲ガ國體變革、私有財產制度否認ト云フ形ヲ取ツテ現ハレルノデアアルカラ、大體ニ於テハ之ヲ削除シテモ治安維持上大シタ不都合ハナイト考ヘマシテ、衆議院ノ削除意見ニ同意シ、貴族院テ其ノ儘通過致シタノデアリマス、此ノ政體變革ト云フ文字ノコトニ付テデアリマス、其ノ後昭和九年第六十五議會ニ治安維持法改正案ヲ提出致シマシタ際ニ於ケル政府案ニモ、亦第五十議會ニ表明サレマシタ議會ノ意思ヲ尊重致シマシテ、政體ノ問題ニ觸レテ居ナカッタノデアリマスガ、當時ノ社會情勢ニ於キマシテハ、當初ノ治安維持法制定ノ當時ト多少情勢ヲ異ニ致シマシテ右翼運動ガ盛ニナリ、議會否認等ノ過激言論ガ右翼運動トシテ横行シマシテ、加之五・一五事件、神兵隊事件ト云フ直接行動事件ガ起リマシテ、先ヅ衆議院ニ於テ斯カル激右翼運動ノ取締規定ヲ、治安維持法ニ挿入スル必要ガアルト云フコトヲ議論ガ相當強カッタノデアリマスガ、之ヲ如何ナル形テ規定スルカト云フ、立法技術ノ上テ難點ガアリマシタノミナラズ、本法ガ主トシテ當初左翼運動取締ヲ目的トシテ來タ沿革ヲ持ツテ居ルコトニ鑑ミマシテ、右翼運動ノ取締ニ付テハ、寧ろ別ノ法律ニ依ツテ取締ルベキデアルトノ結論ニ到達致シマシテ、結局衆議院ニ於キマシテハ現時ノ世相ニ鑑ミ、政府ハ宜シク朝憲ヲ紊亂セムトスル暴力行爲ヲ嚴

ヨリ統治組織ノ意義及ビ不法ノ變壞ト云フ意義ニ付キマシテ、明確ヲ缺クト云フ意見ガ大勢ヲ支配シテ居ルヤウニ窺ヘルノデアリマス、而シテ政府ノ見解ト致シマシテモ、此ノ統治組織ノ意義ガ明確デナイト考ヘマシタシ、又不法ノ變壞ト云フコトモ解釋上疑義ヲ存シマスノデ、政府トシテ反對ノ意見ヲ表明シテ居ルノデアリマス、結局此ノ問題ノ爲バカリデハゴザイマセヌデシタガ、兩院協議會ノ結果協議調ハズ、此ノ改正案ハ審議未了ニナツテ居ルノデアリマス、今當時ニ廻リマシテ、現實ニ當時如何ナル結社ヲ對象トシテ斯カル規定ノ必要ヲ痛感サレタカト云フコトヲ考ヘマスト、前ニモ申シマス通り、當時ハ右翼運動ニ依ツテ政府、其ノ他ノ憲法上ノ統治機關及ビ其ノ作用ヲ、暴力、脅迫、威力等ノ不法手段ニ依ツテ、永久的或ハ一時的ニ變廢棄スルコトヲ企圖スル者ガアツタカラデアアルノデアリマス、併シナガラ實際上ノ運用ニ於キマシテハ、其ノ大部分ガ刑法内亂罪ノ豫備除謀トシテ處斷シ得ル場合ニ限ラレルヤウニ考ヘルノデアリマス、即チ他ク迄實際上ノ取締ノ必要ト云フ觀點カラ論ヲ進メタイノデアリマス、例ヘバ議會制度ヲ不法手段ニ依リ變壞スルコトヲ目的トシテ居ル結社ガアリト假定致シマスト、ソレガ共產主義ニ基クモノアリトスレバ、勿論治安維持法ニ依ツテ處理出來マス、然ラズシテ所謂右翼運動ノ形ヲ取ツテ現レマシタ場合ニ於テハ、議會制度否認ノ結果ノミナラズ、其ノ手段ニ付テ是具體的ニ結社ノ目的トシテ決定シテ居ル以上ハ、其ノ不法手段ハ暴力以外ニ考ヘ得ラレナイノデアリマシテ、暴力ト結ビ付カズシテ、脅迫トカ、威力ト云フコトハ單ナ

重ニ取締リ、且之ニ關スル適當ノ制裁法規ヲ立案シテ速カニ帝國議會ニ提出スベシト云フ希望條件ヲ附シテ、政府ノ原案ヲ可決致シタノデアリマス、此ノ希望條件ニ付テ政府ノ行ヒマシタコトハ後ニ申上ゲマス、然ルニ此ノ改正案ハ貴族院ニ廻付セラレマスルヤ、昨日次田委員ヨリ御話ノアリマシタ如ク、右翼運動取締規定ヲ挿入スベシトノ議論ガ矢張り貴族院ニ於テ相當強ク行ハレマシテ、結局改正案第八條ニ、憲法ニ定ムル統治組織ノ機能ヲ不法ニ變壞スルトノ文句ヲ挿入シテ修正ガ可決サレタノデアリマス、即チ此處ニ憲法ニ定ムル統治組織ノ機能ヲ不法ニ變壞スルト云フ表現ガ現ハレタノデアリマス、此ノ字句ガ是テ宜シケレバ結構デアツタノデアリマスガ、此ノ字句ノ解釋ニ付テ當時貴族院ノ委員ノ御説明ニナリマシタ所ニ依リマスト、茲ニ謂フ憲法ニ定ムル統治組織トハ、憲法上ノ統治機關ト云フ意味デ議會、政府、樞密院、會計検査院、裁判所等ヲ指ス、又茲ニ謂フ機能トハ統治機關トシテ自體並ニ其ノ統治機關ノ作用ヲ意味スル、又不法ニト云フコトハ、主トシテ暴力行爲、脅迫又ハ威力ニ依ル場合ヲモ含ム、又變壞トハ永久的又ハ一時的ニ變更又ハ廢棄シ、或ハ其ノ作用ヲ止メルト云フコトヲ意味スルト云フコトニナツテ居リマシタ、斯様ナ解釋ニ基テ修正案ニ對シマシテハ、貴族院ノ本會議ニ於キマシテ、一議員カラ憲法ニ定ムル統治機關ノ機能ヲ變壞スルト云フコトハ、欽定憲法ニ於テハ臣下ノ容喙スベキモノデナイカラ、不法ナルト否ト問ハズ、是認スベキデナイト云フヤウナ趣旨ノ反對意見ガ出テ居リマシタノミナラズ、最後ノ兩院協議會ニ於キマシテモ、衆議院側ノ委員

ル觀念上ノ思想ニ過ギヌト思ヒマスカラ、前述ノヤウナ結社ガ出來タト致シマスレバ、其ノ結社關係者ハ暴力ニ依リ議會制度破壞、或ハ變壞スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シ、又ハ協議シタト認メ得ルノデアリマシテ、斯様ナ意味カラ内亂罪ノ豫備除謀ニ該當スルコトハ當然デアアルト思フノデアリマス、併シ一體此ノ右翼ト申シマシテモ、極メテ曖昧ナ觀念デアリマシテ、左翼ノ如ク其ノ思想ヲ捉ヘテ、之ヲ處罰セムトスル規定ヲ設ケルコトハ不可能ニ近イノデアリマス、即チ所謂右翼團體ハ團體其ノモノトシテハ不法ノ團體デハナイノデアリマス、寧ろ團體其ノモノノ思想ヲ捉ヘテ見マス、或ハ忠君愛國ト云ヒ、或ハ天皇中心ト云ヒ、日本人トシテ最モ正シイコトヲ主張シテ居ルノデアリマシテ、團體其ノモノ、或ハ團體トシテノ行動ヲ法律ヲ以テ取締ルコトハ出來ナイト思フノデアリマス、又右翼團體ノ中ニハ政策問題ニ關シ、或ハ議會ヲ輕視、或ハ無視スルガ如キ主張ヲナシ、或ハ財產學、土地國有論等ヲ其ノ綱領ニ掲ゲルモノモアルノデアリマス、其ノ殆ンド全部ハ結論又ハ結果ノミヲ言フニ止リ、其ノ手段ニ付テ是具體的ニ主張シテ居ルモノハ寡聞ニシテ存ジナイノデアリマス、從ヒマシテ第六十五議會ニ出マシタ貴族院ノ修正案ノ如キモノガ假ニ設ケラレマシテモ、此ノ種ノ右翼團體ヲ取締ルコトハ出來ナイト考ヘラレルノデアリマス、デ尙ソレデハマダ其ノ貴族院ノ修正案以外ニ、何カ適當ナ字句ヲ考ヘタラ宜イデナイカト云フ御意見モ勿論ゴザイマス、ソレニ付テモ種々考慮致シマシタガ、今申上ゲマスヤウニ其ノ對象ガ甚ダ茫漠ト致シテ居リマスシ、大體ニ

於テ團體其ノモノトシテハ、不法團體トシテ取締ルト云フヤウ
ナコトハ出來ナイヤウナ關係ニアリマスノデ、實際適當ナ字句
ヲ發見スルコトガ出來ナカッタノデアリマス、尙其ノ右翼運動
ト云フモノニ付テドウシテ取締ヲ必要トスルカト云フコトヲ、
具體的ニ能ク考ヘテ見マス、其ノ取締ガ要求セラレル所ハ、
其ノ思想ヨリモ寧ロ行動ニアルノデアリマス、所謂行動ニアル
ノデアリマス、其ノ行動ニ付キマシテモ團體トシテノ行動ハ
ナクシテ、團體中ノ或ル者ガ時ニ其ノ目的ヲ達セムトスルニ急
ナルノ餘リ、直接不穩ノ行動ニ出ル危險性ノアル點ニ取締ヲ要
スルノデアリマス、即チ其ノ直接行動タルヤ、左翼思想ニ於テ
ハ理論ト實踐トガ不可分離ノ關係ニ結ビ付イテ居ルノデアリマ
ス、是トハ違ヒマシテ右翼運動ニ付キマシテハ、必ズシモ彼等
ノ運動ノ主義、主張トハナラナイノデアリマス、請ハハ其ノ不穩
ノ行動ハ、偶發的ナ行動デアルト云フノガ實際ノ有様デアリマ
ス、從ヒマシテ斯様ナ行爲ニ對シマシテハ刑法ノ内亂罪ナリ、
殺人ナリ、傷害ナリ、又ハ暴力行爲取締法、爆發物取締罰則、
現在アル法規ニ依ツテ十分目的ヲ達シ得ルノデアリマス、又若
シ手段ノ點ニ觸レナイデ、議會否認、財産差違等ニ關シ詭激ナル
言論ヲ爲スト云フモノニ付キマシテハ、多ク文書ニ依ルヲ常ト
致シマスカラ、新聞紙法、出版法、不穩文書臨時取締法等ノ罰
則ニ依ツテ取締ルコトガ出來マスシ、集會等ハ治安警察法ノ行
政、司法ノ兩方面カラ適當ニ取締ルコトガ出來ルノデアリマ
ス、尤モ御心配ニナリマスヤウナ愛國ヲ偽裝シ、眞實ハ共產思想
ニ基イテ行動シテ居ルト云フヤウナモノニ付テハ、是ハ勿論治

安維持法ノ適用ガアルコトハ申ス迄モナイノデアリマス、デ以
上ノヤウニ繰返シテ申シマスガ、實際ニ對象ガ茫漠ト致シテ居
リマス關係上、之ヲ取締ルベキ表現ニ乏シイコトト、更ニ又サ
ウ致シマスセヌデモ、個々ノ行動ニ對シテ、其ノ運動ノ實際ニ鑑
ミマシテ、個々ノ運動ニ對シマシテハソレハ、取締規定ガ、現
行刑法法規中ニ存在シテ居ルノデアリマスカラ、政府ト致シマ
シテハ現下ノ情勢ヲ判斷致シマシテ、政體否認ノ傾向アル言論
及ビ偶發的ニ發生スル直接行動ヲ取締ル上ニ於キマシテハ、現
在ノ法規十分デアルト云フ見解ヲ採ツテ居ルノデアリマス、第
六十五議會ニ現レマシタ兩院ノ希望の意見ヲ尊重致シマシテ、
不法團體等處罰ニ關スル法律案ヲ提出致シマシタ、是ハ即チ希
望條件ニ基イテ案ヲ具シタノデアリマスガ、結局審議未了ニ終
ツテ居ルノデアリマス、其ノ當時ノ議會ノ空氣ヲ見マシテモ、
右法律案ハ結局刑法ノ殺人等ノ罪ノ共犯ノ場合ニ、多少刑ヲ加
重シテ行クモノニ過ギナイカラ、現行刑法デ足リルノデハナイ
カト云フ議論ガ強カッタヤウニ思フノデアリマス、此ノ法律案
ハ其ノ右翼運動ノ不法ノ活動ヲ處罰スルニ如何ナル形ヲ執ツテ
規定スベキカニ付テ、政府ハ熟慮檢討ノ結果出來上ツタ案デア
リマシテ、右翼運動ノ不法ノ活動ヲ現在治安維持法ノヤウナ思
想ニ基キ結社活動トシテ規定ノ上ニ現スコトガ實際ニ適合セ
ズ、從ツテ妥當デナイト云フヤウナコトカラ、斯ウ云フ風ナ刑
法ノ殺人等ノ罪ノ規定ノ場合、刑法ノ特別法化シタヤウナ形ヲ
取ルニ至ツタ次第デアリマス、是等ノ從來ノ政府ノ種々苦心

致シマシタ所ハ、今回ノ改正法律案ヲ提案スルニ致シマシテモ、
種々改メテ考慮致シタイノデゴザイマスシ、更ニ又當時ノ社會
情勢ト現在ノ社會情勢トノ違ヒ、又恐ラク斯ウ云フ法律案ニ對
スル社會ノ關心ノ度合等モ當時ノ、前ノ議會等トハ違ツテ居ル
ト云フコトモ十分ニ考慮ハ致シマシタノデアリマス、ヤレド
モ、今申上ゲマスヤウナ種々ノ困難ノ點ガアリ、又更ニ現在ノ
法規ニ於テモ斯ヘルト云フ關係ガゴザイマスノデ、今回ニ於キ
マシテ、政體、若シテハ次田委員ノ仰セラレマシタヤウナ、サ
ウ云フ字句ヲ加ヘナカッタ次第デアリマス、ドウカ政府ノ苦心
ノ存スル所ヲ何卒御了承願ヒタイト思フノデアリマス
○田口獨一君 憲法ヲ停止スルト云フヤウナ事柄ハ、非常ナ
私ハ重大ナコトデアリマシテ、或意味カラ言ヘバ是ハ矢張り國
體ノ變革ニモナレバ、内亂罪ニモ該當スルヤウナ重大ナ事柄チ
ヤナイカト思フ、唯年限ヲ切ツテ或ハアツタカモ知レマセヌガ、
年限ヲ切リマシテモ、日本ノ憲法ヲ無期ニ停止スルコトヲ主張
スルト云フコトニナレバ、是ハモウ明カニ國體ノ變革ヲスルコ
ト迄モ意味スルコトニナツテ、サウ云フ憲法ハ無期延期シテ、
憲法ハ有ツテモ無イト同ジヤウナ風ニナルシ、ソレカラ且憲法
ニ規定セラレタル、統治機關ノ機能ヲスツカリ停止シテシマフ
ト云フヤウナコトハ、是ハ重大ナ問題デアラウト思フノデアリ
マスガ、治安警察法ハ今度ノ改正ト違ヒマシテ、團體ノ方デ、
治安維持法ノ適用ハナカッタノデアリマセウケレドモ、ア、云
フ議論ガ出テ來タコトガ、後ニ非常ナ結果ヲ齎シテ來タモノト
私ナンカ想像スルノデアリマスガ、サウ云フモノニ對シテノ今

迄ノ取締リ方ガ非常ニ緩ヤカデ、ア、言フモノヲ見テモ檢察當
局ノ方デモ、サシタルモノチヤナイト云フヤウナ、影響スル所
モ餘リ御考ニナラズニ、放任シテ居リマシタノデアリマスカド
ウデスカ、其ノ當時ノ事情等モ御分リデアリマシタラ、少シ御
話ヲ願ヒタイト思ヒマス
○政府委員(三宅正太郎君) 只今ノ憲法ノ一時停止ト云フコト
ハ、非常ニ廣イ意味ヲ含ンデ居リマス、若シソレガ憲法ノ第一
條、第二條トカ云フヤウナモノ迄モ停止スルト云フコトデアリ
マスレバ、國體變革ニ當ルコト疑モナイコトデアリマス、併シ
其ノ人ノ意圖スル所ハ、憲法ノ何レノ條章ヲ停止スルヲ目的ト
シテ居ツタカト云フコトニ依ツテ、又結論ガ多少相違致シマ
ス、何レニ致シマシテモ、朝憲紊亂ノ事項デアアルコトハ疑ヒモ
ナイノデアリマス、ドウ云フ譯デソレヲ出版法、新聞紙法等ニ
依ツテ處罰シマセヌデシタカト云フコトニ付テハ、出來得ル限
リ取調ベマシテ、後ニ御返事申上ゲタイト思ヒマス
○政府委員(秋山要君) 議會ノ不要論トカ云ツタヤウナ、政體
ノ變革ニ關係ナルヤウナコトガ、今日ノ社會情勢ニ於テ、相
當ニハ論議ヲスル者ガ實際上アルト思ヒマス、此ノ點ハ仰セノ
通りダト考ヘテ居リマス、ソコデ之ヲ悉ク治安維持法ノ國體變
革ニ關聯ヲ持ツデアラウト云フ嫌疑ヲ以テ、直チニ搜查ヲ開始
スルト云フコトモ、仰セノ通り運用上カラ申シマスレバ如何カ
ト思ヒマス、思ヒマスガ、併シ斯ウ云フ情勢ガ若シ非常ニ募リ
マシテ、結局斯ウ云フ議論ガ大勢ヲ制スルト云フヤウナコトニ
ナリマスルト、是ハ國家ノ上ニ於キマシテ非常ナ由々シイ大事

デアラウト思ヒマスノデ、斯ウ云フ思慮ハ矢張り、之ヲ早期ノ間ニ取締ツテ行ク方ニ必要デアラウト、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、唯果シテドノ程度ニ、其ノ取締ノ實ヲ擧ゲテ行クカト云フコトニナリマスルト、結局運用ノ問題ニナリマシテ、非常ニムヅカシイコトニナラウト思ヒマスガ、併シナガラ斯ウ云フ思想ノ瀾漫滲透スルコトハ、國家ノ上ニ於キマシテ決シテ宜シクナイコトト思ヒマスルノデ、出来ルダケサウ云フ思慮ノ瀾漫セナイ、早期ノ間ニ之ヲ取締ツテ行クベキモノダト、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス（同第四號）

○國務大臣（柳川平助君） 曩ニ秘密會ノ時デアツタト思ヒマスガ、國體ニ關スル、政體ニ關スル御質疑デアリマシテ、其ノ時ニ私カラ御答ヘシマシタノガ、國體ト政體ヲ混同スルヤウナ御話モゴザイマシテ、改メテ御答ヘスルヤウニ申上ゲテ、委員長カラ御要求ガゴザイマシテ、今日ニ至ツテ居ル次第デアリマス、ソレニ付キマシテ二十六日ノ同委員會ニ於テ、司法次官カラ御答ヘ申上ゲマシタ事柄ハ、私が當時申上ゲタノト内容ハ、大體同ジ意味デアリヤウニ思フノデゴザイマス、ソレハ國體ノ意義ハ既ニ確立シテ居ル、大審院判例ハ「我帝國ハ萬世一系ノ天皇君臨シ統治權ヲ總攬シ給フコトヲ以テ其ノ國體ト爲シ、治安維持法ニ所謂國體ノ意義亦此ノ如ク解スベキモノトス」ト國體ノ意義ヲ明カニシテ居リマスガ、國體ト政體トノ意義ニ付テ觀念上明確ナル相違アルコトハ論ナシ、政體ハ統治權ノ働キヲ意味シ、立憲政治又ハ憲法上ノ各種機關ニ依ル統治權ガ行使セラルル形ヲ意味ス、政體ノ變革ト國體ノ變革トハ勿論同一ニアラ

ズ、但シ統治權ガ 天皇ニ存スルト爲スモ、其ノ實ヲ失ハシムルガ如キコトハ國體ノ變革トナル、斯カル點ニ於テ兩者ノ間ニ一脈ノ繋リアルベシ、政體ナル語ハ内容極メテ曖昧ニシテ、如何ナル範圍ノ事項ヲ政體ト云フカ、確定スルコト困難デアル、斯ウ云フ意味ヲ司法次官カラ御答ヘシタト云フコトデアリマス、私が此ノ前ニ申シマシタノモ、大體斯ウ云フ意味ノ積リテ言ツタノデゴザイマスガ、不明瞭デアツタノデ誤解モアルヤウデゴザイマスカラ、改メテ同一ノコトデアルト思ヒマスガ、此ノ政體變革ニ關スル、此ノ治安維持法案ニ政體ト云フコトヲ除キマシタ事由ノ一端トモシテ、此ノ前申上ゲタヤウナコトヲ、モ一遍繰返シテ申上ゲテ御諒解ヲ得タイト思ヒマス、國體ト政體ト、其ノ意義ガ同一デナイト云フコトハ明カデアリマスガ、我が國ニ於キマシテハ、國體ニ基キ定メラレタル政體デアリマスノデ、政體ハ國體ニ合致スルと思フノデアリマス、デ此ノ前歴史ノ例ヲ擧ゲラレマシテ、我が國ハ政體ニ變革アリタルモ國體ニ搖ギナシト述ベラレマシタコトハ、正シク左様ナコトデアリマシテ、事實デアリマス、デゴザイマスガ、所謂武家政治ノ如キガ、政體ガ度々變革セラレタ事實デアルト思ヒマスガ、此ノコトハ「我國體ニ悖リ且ハ我祖宗ノ御制ニ背キ率リ」ト我々軍人勅諭ニ仰セラレタ如ク、國體ト合致セザルモノト考ヘルノデアリマス、ソレデアリマスカラ明治ノ初メニ、文武一途 天皇親政ノ政體ヲ定メラレ、明治二十二年憲法御欽定ニ依リマシテ定メラレマシタ政體ハ、皇祖祖宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラスト宣ハセラレタ如ク、全ク國體

ニ則ラセラレタモノト思フノデアリマス、ソレデアリマスカラ現下ノ政體ヲ改ムルト云フコトハ、結局スル處國體ニ悖ルコトニナリ、斯クノ如キ變革ヲ企ツルコトハ、究極スル處、國體變革ノ心ヲ包藏シテ居ル所ヨリ、出發スルコトナルコトガ多カラウト思フノデアリマス、ソレデゴザイマスカラ、政體變革ノ企テハ、其ノ現レガ政體變革ノヤウニ、單純ニサウ云フ風ナ工合デナクシテ、結局國體變革ノ準備行爲ノヤウニシテ現レルダラウト斯ウ考ヘルノデアリマス、ソレデ本改正案ニ依ツテ、此ノ間御尋ネノ御意見ノヤウナコトハ、自然包含セラル、ダラウト思フノデアリマシテ、唯單純ニ一部ノ、國體ノ變革ニ至ラヌヤウナ單純な企テニ對シマシテハ、他ノ法ヲ以テ取締ルヤウニナルデアラウト考ヘル次第デゴザイマス

○次田大三郎君 國體ト政體トノ區別ニ關スル二十六日ノ委員會ニ於ケル司法次官ノ御説明、只今大臣モソレト同ジ説明ヲ加ヘラレマシテ、國體ト政體トハ觀念上區別ガアルト云フコトヲ明ラカニセラレマシタコトニ付テハ、私ハ満足デアリマス、唯引續イテ述ベラレマシタ我が國ニ於テハ、現在ノ政體ハ國體ニ基イテ定メラレタモノデアルカラ、此ノ政體ヲ變革セントスルモノハ、結局國體ヲ變革スルノ意圖ヨリ出テ居ルモノデアル、結局取調ベレバ國體變革ト云フコトニ歸著シテ、治安維持法ノ取締ノ範圍ニ入ルト云フ御説明ハ、私承服致シ策ヘルノデアリマス、國體ヲ變革スル考ヘハ毛頭ナイ、國體ハ何處迄モ之ヲ擁護シテ行カナケレバナラヌト云フ固イ信念ノ下ニ於テモ、尙政體ヲ變革セムトスル企テ、而モソレハ治安保持ノ上カラ考ヘテ、極

メテ重大ナル關係ヲ有スル企テハ有リ得ルト考ヘマス、例ヘテ申シマスレバ、一、二六事件ヲヤツタ所ノ青年將校ハ、判決書ヲ讀ンデ見マスルト、憲法ヲ停止シ政體ヲ變革スルノ意圖ヲ以テ陛下ノ將兵ヲ私シテ暴動ヲ起シタト云フコトガ、公判ニ書イテアルノデアリマス、私ハアノ青年將校ノヤツタ叛亂行爲ハ誠ニ不都合ナコトダト斯ウ思フノデアリマス、併シナガラアノ人達ガ國體變革ノ意思ガアツタト云フコトハ、公判ヲ讀ンデ見マシテモ、前後ノ事情ヲ考ヘテ見マシテモ、ドウシテモ信ジラレナイ、政體變革ノ意思ガアツタト云フコトハ、公判ニ書イテアルノデスカラ、是ハ疑ヒナイト思ヒマス、デアリマスルカラ、是ハ一例デアリマスガ、政體ヲ變革スルコトヲ企テタカラト申シマシテ、ソレガ必ズ國體變革ヲ企テタト云フコトニ歸著シテ、治安維持法ノ取締ノ範圍ニ入ルトハ言ヘナイノデ、サウ考ヘルノデアリマス、更ニ是ハ一ツノ假裝デアリマスレドモ、例ヘバ貴族院廢止期成同盟會ト云フ結社ヲ作ツタトシマス、是ハ貴族院ガ其ノ態度ガ面白クナイ、公選ノ議員デアアル所ノ衆議院ノ決議ヲ、貴族院ニ於テ修正ヲ加ヘルナント云フコトハ、不都合ノ思想ダ、イギリスニ於テモ、元ハ下院ノ決議ヲ貴族院デイチツタコトガアルガ、ソレハ不都合ダカラト云フノデ、段々貴族院ノ權限ヲ縮小シテ、今日デハ有名無實ノモノニナツテ居ル、恰度ソレト同ジヤウニ、一ツ貴族院ト云フモノヲ廢止シテシマハウヂヤナイカ、若シクハ貴族院ト云フモノヲ「イギリス」流ニ有名無實ノモノニシテシマハウヂヤナイカト云フ考ヘラ起シテ、假ニ貴族院廢止期成同盟會ト云フ結社ヲ作ツタト致シマシテモ、現行ノ治安維持法ニ依ツテモ、又改正案ガ實現シマシ

タ場合ニ於テモ、治安維持法ヲ以テ之ニ對シテハ非常ナ制裁ヲ加ヘルト云フコトハ、私ハ出來ヌト思フノデアリマス、是ハ即チ、政體變革ヲ意圖スル者ガ必ズシモ國體變革ヲ意圖スルモノデナイ、ト云フ例トシテ申上ゲタノデアリマス、其ノ邊如何ナモノデゴザイマセウカ

○國務大臣(柳川平助君) 例ニ學ゲラレマシタヤウニ、明瞭ニ國體變革ノ考ヘガナクシテ、取ル一部ノ政治組織變更等ニ關スル言動ハ、國體變革ト同一ニナルト云フ意味申上ゲタノデアリマス、國體變革ト同一ニナルト云フ意味申上ゲタノデアリマス、是ガ多カラウト申上ゲタノデアリマス、全部國體變革ニ至ルト云フ意味申上ゲタノデアリマス、例ニ御答辯ニナリマシタヤウナノハ、即チ内亂罪等ニ依ツテ處斷ノ出來ルヤウニナツテ居リマスノデアリマス、ソレト併セテ、治安ノ維持ガ出來ルヤウニ取ルコトガ出來ルト、斯ウ申上ゲル次第デゴザイマス、第二ニ學ゲラレマシタヤウナ事柄モ、是ガ最初ノ起リノ運動ガ輕易デアレバ、是ハ治安維持法ノ取締ル範圍ニハ入ラヌデアリマセウカ、我が國ノ憲法ニ定メラレテ居ル兩院制度ヲ破壞スル如キ考ヘハ、結局趨ク所國體變革ノ考ヘヲ包藏シテ居ルト、云フヤウナ所カラ出發シテ來ルノデアラウト思フノデアリマス、サウデナクシテ、今仰セラレマシタヤウナ範圍ノ事柄ガ、全部此ノ治安維持法案ノ條項ニ當嵌ルトハ、私モ考ヘテ居ラヌ次第デゴザイマス

○次田大三郎君 只今ノ御説明ニ依リマス、政體變革ヲ意圖スル者ハ、國體變革ヲ意圖シテカラ、ソレカラ起ツテ來ル場合

ガ多イト云フ御見込ニ過ギナイノデアツテ、必ズシテ常ニ國體變革トハナラナイト云フ私ノ意見ニハ、御同意下スツタモノト考ヘテ宜シウゴザイマセウカ、ソレヲ御伺ヒ致シマス

○國務大臣(柳川平助君) 御説ノ通りニ、必ズ國體變革ニナルトノミハ限ラヌデアラウト思ヒマス、多クノ場合ハ國體變革ノ方ノ企圖カラ出發スル行動ガ本法ノ對象ニナルヤウナノデアリマス、必ズシモ國體變革ノ考ヘカラ今ノヤウナ運動ニナルモノトノミ限定ハ致サレナイデアラウト考ヘル次第デゴザイマス

○次田大三郎君 政體變革ヲ意圖スル者ガ、同時ニ國體變革ヲ意圖スルト云フ場合ノアルコトハ、御説ノ通りデアリマス、ソレカラ之ニ反シテ、政體變革ヲ意圖シテモ國體ハ之ヲ尊重スルト云フ場合ノアリ得ルコトハ、例ヘバ二、二六事件ノ青年將校ガ正ニサウデアツタト云フコトハ、只今ノ御答辯ニ依ツテ御認メニナツタモノト私ノ了承致シマス、唯政體變更ヲ意圖スル者ガ國體變更ヲ同時ニ意圖スル場合ガ多イカラ、或ハ國體變更ノコトハ考ヘナイデ、唯政體ノミヲ變更セムトスル場合ガ多イカラ、ト云フ事實論ニ付キマシテハ、私ハ不幸ニシテ司法大臣ト意見ヲ異ニスルモノデアリマス、是ハ意見ノ相違デアリマス、スルカラ、質問ノ際ニハ取止メルコトニ致シマス、後ニ討論ノ際ニ私論ジテ見ヨウト思ヒマス、ソレカラモウツ、ソレニ關聯シテ伺ヒタイ、ソレハ元達ツテ二十五日フ委員會ニ於ケル速記ガ出來マシテ、明瞭ニナリマシタノデアリマス、御伺ヒ致シタイトヒマス、是ハ憲法ヲ改正スルト云フコトハ不法デアルト云フコトヲ、大臣御答辯ニナツテ居ルノデアリマス、私ハ合法ノ手續ヲ

以テ法ノ許シテ居ル範圍内ニ於テ、憲法改正ト云フコトヲ考ヘ、又ソレヲ實現スル爲メ、法ノ許シテ居ル範圍内ニ於テ、色々ノ行動ヲスルト云フコトハ、不法デナイト考ヘテ居ルモノナラナイデアリマス、例ヘバ議會ノ會期ハ三箇月ト云フコトガ憲法ニ規定シテアリマス、此ノ三箇月ハ長過ぎルカラ、ソレヲ二箇月ニ直サウト云フコトヲ考ヘ、若シハ短カ過ぎルカラ之ヲ六箇月ニ直サウト云フコトヲ考ヘマシテ、サウシタ方ガ宜シイナラト云フ宣傳ヲシ、同志ニ呼ビ掛ケテ、例ヘバ議會ノ會期ヲ延長スルト云フ期成同盟會ト云フヤウナモノヲ作ツテ、或ハ當局ニ陳情シ、場合ニ依ツテハ請願ヲ出ス、其ノ他演說會ヲ開キ、新聞雜誌ヲ其ノコトヲ論ズルト云フヤウナコトヲ致シマシテモ、是ハ不法デナイト考ヘマス、其ノ點ハ如何ナモノデアリマセウカ、是ハ先年議會制度調査委員會ガ出來マシタ時ニ、モウ世間デハ憲法トシテ斯ウ云フ論議ヲヤツタノデアリマス、例ヘバ常置委員會ヲ設ケルト云フコトハ、憲法ニ會期ノ規定ノアル以上ハ、憲法違反ダト云フ議論ガアリマシタ際ニ、イヤ、ソレハ憲法ヲ改正シテ常置委員會ヲ作ツタラ宜イデヤナイカト云フヤウナ議論ガ起リマシテ、ソレヲ實現スル爲メ、相當合法の色々ノ行動ヲシタト云フコトモアルノデアリマス、治安維持法ノ取締ノ範圍ニ入ラナカッタ、又理論上入ルベキモノデヤナイト思フ、大臣ガ憲法ノ變革ハ不法デアルト云フコトハ相違ゴザイマセヌ、斯ウ云フ意味ノコトヲ述ベラレテ居ルノデアリマス、是ハ何カ御言葉ガ足りナカッタデヤナイカト思フノデアリマス、念ノ爲ニ伺ヒマス

○國務大臣(柳川平助君) 私申シマシタ意味ハ、憲法ハ臣民ノ方側カラ改正ヲ申出ヅルモノデアナイノデアリマシテ、憲法ノ改正ヲ考ヘルコトハ適當デナイト考ヘルノデアリマス、又憲法改正ノ請願ヲ國民ノ方カラスルコトハ、只今ハ禁ゼラレテ居ルサウデゴザイマス、其ノ憲法改正ニ關スル議院ノ上奏ダケノ途ガアルノデアリマス、其ノ上奏ノ途ノ爲メ運動ナラバ、是ハ其ノ途ダケハアルト云フコトヲ認メナケレバナラヌト存ズルノデアリマス

○次田大三郎君 要スルニ他ノ法規ニ觸レナイ限リニ於テ、憲法改正ノ運動ヲスルト云フコトハ、他ノ法規ニ觸レナケレバ治安維持法ヲ御取締リニナルト云フコトハナイ、サウ考ヘテ宜シウゴザイマス

○國務大臣(柳川平助君) 他ノ法規ニ云々ト云フヤウニナリマス、チヨツト法ノ適用等ニナリマス、政府委員カラ……

○政府委員(三宅正太郎君) 先程カラノ御質問ニ對シマシテ、司法大臣カラ御答ヘニナリマシタヤウニ、憲法改正ト云フコトハ勅命ニ依ルコトデアリマシテ、臣民カラ請願或ハ建議又ハ公的ナ上奏ト云フヤウナコトハ、出來ナイコトニ規定シテアルト思フノデアリマス、唯絕對的ニ出來ナイカト云フ御質問ニ對シマシテハ、兩院ハ上奏ヲ爲ス所ノ權限ヲ持ツテ居ラレマス、其ノ上奏ノ内容トシテ、憲法改正ノ上奏ヲナサレルコトニ付キマシテハ、是ハ妨ゲナイト云フコトニナツテ居リマス、ソレハ例外デアリマシテ、一般ニハ、其ノ他ノ場合ニ於テハ、憲法改正ト云フコトヲ國民側カラ申出ヅルコトハ違法デアル、斯ウ考

ヘテ居ルノデアリマス、デアリマスノデ、實ハ次田委員カラ仰
セラレマシタ不法ニ憲法ニ定ムル統治組織ヲ變壞シ、ト云フコ
トニ付キマシテモ、其ノ議論ヲ以チマシテ、斯ウ云フ字句ハ穩
當デナイデハナイカト云フコトヲ申上ゲタイノデアリマス
○次田大三郎君 是ハ極ク最近ニ起ツタコトデアリマスルガ、
或ル政治家ガ議會ハモウ無クシテモ宜イシト云フヤウナ演説
ヲシタ、サウ云フコトガ新聞ニ載ツテ居ル、若シソレガ事實デ
アリマスルナラバ、ソレハ結局憲法ノ變革ヲ意圖スルモノデア
ル、取締リノ必要ガアルノデアリマスカ、ナイノデアリマスカ
○政府委員(三宅正太郎君) 事實問題ト致シマシテ、議院ガ無
クテモ宜イノダト云フコトト、議院ヲ廢止シト云フコトハ、ソ
コノ間ニ區別ガアルチヤナイカト思フノデアリマス、議會ヲ廢
止セヨト云フコトヲ述ベルト云フコトデアリマス、今モ申上
ゲマシタヤウニ、其ノ方法ニ依ツテ憲法ノ改正ヲト云フコトデ
アリマスレバ、先程申上ゲタコトニ當リマス、唯議會ガ要ラナイ
ノデハナイカト云フコトハ、唯ソレダケノコトデ憲法ノ改正ヲ
意圖スル結社トカ、或ハ目的トスル結社ト云フコトノ前提ニハ
ナラナイト思フノデゴザイマス、如何ナモノデゴザイマセウカ
○次田大三郎君 誰モ唯我々ノ家庭テ茶話ヲスルナラバ、何
デスガ、政治家ガ例ヘバ、公開ノ席上デ議會ハ要ラヌノダト、
斯ウ云フコトヲ言フノハ、議會ト云フモノハ廢止スベシト云フ
前提トシテ話シテ居ルノダ、只議會ハ要ラヌノダケレドモ其ノ
儘ニシテ置クノガ宜シト云フ人ハ、私ハナイト思ヒマス、只
沙中偶語デ議會ハ要ラヌノダト云フ話合ヲスル、コンナ風ナ

議會デハ政府ノ案ヲ何チモ吞込シテ通スノダカラ議會ハ要ラヌ
ノダ、軍夫馬丁ガ言ツテ居ルナラバ、ソレナラバ別デアアルガ、
併シ政治家ガ議會ハ要ラヌノダト云フコトヲ議論スレバ、直
グ其次ニハ議會廢止スベシト云フモノト……サウ云フ議會廢止
ハ治安維持法ノ條文ニ當嵌メテ見ルト、議會ヲ廢止スル目的ヲ
以テ、其ノ目的ノ遂行ノ爲ニ必要ナル行爲、即チ宣傳ヲスルモノ
ト解釋シナケレバナラヌト私ハ思ヒマス、併シナガラ司法當局
ハサウ云フ御考ヘデアアルナラバ、愈々議會ヲ廢止スルト云フ迄
ハ取締ラヌ、ドンナニ議會ガ無力ナモノデアアルカ、議會ハ筭棒
ナモノデアアルカト云フコトヲ、ドノ位極言シテモ、其ノ最後ノ
切札ヲ出サヌ以上ハ取締ラヌト云フ御考ヘデアアルナラバ、ソレ
ハ別問題デアリマス、ソレハ後デ討論ノ時ニ私ハ申上ゲマス
○子爵岡部長景君 ソレニ關聯シテ、今ノ問題ニ付キマシテ更
ニ極端ナル主張ハ、國體ヲ擁護スル爲ニ政體ヲ變革スル、憲法
ノ條章ニ依ツテ設ケラレテ居ル政體ヲ變革スルト云フコトヲ、
主張スル人間ガ私ハアルト思ヒマス、今ノ御話ハ、先ツ政體ヲ
變革スルト云フ意圖ハ、雖アハ國體變革ノ方ニ向ケ得ルモノ
ト、其ノ前提ト見テ大體宜イト云フ御說明デアリマスガ、多少
是ハ極端ノ右翼カモ知レマセウガ、國體擁護ノ爲ニ、或ハ天
皇親政ト云フヤウナコトヲ主張スルトカ、其ノ爲ニ議會ハ無用
デアアル、或ハ寧ろ國體ニ反スルモノデアアルト云フヤウナ見解ノ
下ニ、今ノ憲法ニ設ケラレテアル、政體ノ色々ノ問題ニ付テ變
革ヲ要スルト云フ聲ハ、私ハ事實アルト思フノデアリマス、是
等ニ對シテハ今大臣ノ仰シヤツタ御懸念ト、寧ろ反對ノ根本理

念カラ主張サレテ居ルノダト思ヒマス、併シ私モサウ云フ假面
ノ下ニ、矢張り政體ヲ變革シテ、ソレガ段々ニ國體ニ動搖ヲ來
スト云フ間接的、射撃的ナ運動モアリ得ルト思ヒマス、ソレハ
殆ンド表面バカリ見テ居ツタシテハ判斷ガ出來ナイ根底ガアリ
ハシナイカト思ヒマス、ソレ等ニ付テドウ云フ風ニ御考ヘニナ
ツテ居ラレマスカ
○國務大臣(柳川平助君) 只今ノ御説ノ、國體ヲ擁護センガ爲
ニ政體ヲ變革セムトスルヤウナ考ヘヲ起シテ居ル者ハ、恐ラク
能ク物ノ道理モ分ラズニ、只熱心ノ餘リサウ云フコトヲ言フノ
デアラウト思ヒマス、是ハ教育ノ方デサウ云フコトヲ矯正シテ
行カナケレバナラヌノデアリマス、ソレガ事實ニ於テ國內ノ治
安ヲ害スル如キコトニナルヤウデアリマスナラバ、一般ノ治安
警察法等ノ法令ニ依リマシテ之ヲ取締ラナケレバナラヌ事柄デ
アルト考ヘラレマス
○子爵岡部長景君 先達ツテ戴キマシタ極秘ノ司法省刑事局デ
作ラレタ右翼團體調査ノ中ニハ、所謂 天皇親政ノ大義ヲ標榜
シテ居ル團體ニハナイノデアリマスガ、是等ノ運動ハ只今御話
ノヤウナ無智、或ハ低級ナル考ヘカラ主張シテ居ルトモ言ヘナ
イヤウナ、立派ナ方ガ代表者トナツテ居ラレル團體モアルノデ
アリマシテ、今ノ例ノ御話ノヤウナ取締リト云フ程度デナカナ
カ是等ガ治マルモノデナカラウト思ヒマス、餘程此ノ關係
ノ形カラ見ルト、餘程強イ信念カラサウ云フコトヲ主張シテ
居ラレルヤウニ思フノデスガ、私ハ其ノ純ナル氣持ヲ持ツテ
居ル人達ノ考ヘハ決シテ危險ナコトデハナイト思ヒマス、ガ寧

ロ今ノ憲法ノ運用、政體ノ實際ノ現レト云フ點カラ見レバ、御精
神カラ逸脱シタモノモ少クナイト思ヒマス、ソレハ制度ト運用
トヲ混淆シテ、運用ノ誤リヲ、同時ニ政府ニモ責任ヲ持ツテ行
キ、ダカラ制度モ改メナケレバナラヌト云フ、詰リ或ル程度迄政
體ヲ變革シテ行クト、國體ハ益々明瞭ニナルト云フヤウナ考ヘ
方ガアルノデアツテ、固ヨリ是ハ教育等ニ依ツテ各方面ノ過チ
ヲ是正シテ行クコトガ、非常ニ必要デアアルコトハ申ス迄モナイ
ノデアリマスガ、斯カル運動ヲ總テ國體變革ノ前提デアアルト云
フコトハ、餘程考ヘモノデナカラウト思フノデアリマス
○國務大臣(柳川平助君) 仰セノ如ク危險ノナイヤウナ純眞ナ
人ガ、思ヒ違ヒデ爲シテ居ルモノヲ、國體變革ノ心ヲ包蔵シテ
居ル者ト一緒ニ混同シテ取締ルコトハ無論イカナイダラウト存
ズルノデアリマス、天皇親政等ノ大變立派ナ言葉ヲ利用シ
テ、逐次國體變革ノ方ニ接近セシムル如キ行動ヲ執ルニ至リマ
スレバ、矢張り是ハ取締ラナケレバナラヌシ、又帝國憲法ハ、
兼ニモ申上ゲマシタル通りニ、全ク國體ニ合致シテ定メラレタ
モノト考ヘルノデアリマシテ、此ノ重要部分ニ關シテ其ノ動搖
ヲ來ス如キ考ヘニ至リマスレバ、初メノ國體ニ關スル精神ハ、
假令純デゴザイマシテモ、結局取締ラナケレバナラヌコトニ至
ルト存ズル次第デゴザイマス
○子爵岡部長景君 此ノ根本ハ私ハ運用ニアリト思フノデアリ
マス、斯ウ云フコトヲ主張スル純眞ナ氣持ノ人ノ考ヘト云フコ
トモ非常ニ狭量デアリ、非常ニ或ルモノニ因ハレテ居ル、或ハ
或ルモノニ對スル反感、或ハ憂慮ト云フモノガ加ツテ、サウ云

運動ヲスル處ガアル、又ソレ等ノ人ノ言フコトモ無理カラ
ス、實際憲法ノ運用ト申シマスカ、政體ノ實施ト言ヒマスカ、
是等ノ點ニ付テ確カニ間違ツテ居ル點モ少クナイト思ヒマス、
是等ニ對シテモ餘程兩面カラ今日ノ誤リハ是正シテ行カナケレ
バ、結局斯ウ云フ風ナ運動モナカク、絶エナイシ、又事實或ル
程度ニ於テハ、彼等ノ言ツテ居ルコトモ尤モナコトガアルト思
ヒマス、是ハ先達ツテ來色々御質問ガアツタノデアリマスガ、
矢張り國民ノ啓蒙、教育ト云フコトニ政府ガ本腰ニ掛ラレナ
イ、ト是等ノ病根ハナカク、斷テ切ラレルモノデハナイ、益々
甚ダシクナツテ來ルノデハナイカ、色々是ニ付テ他ノ委員ノ御
意見モアラウト思ヒマスガ、ソレニ付テ大臣ノ御所見ヲ伺ヒ
タイト思ヒマス

○國務大臣(柳川平助君) 御説ノ如ク國體、政體共ニ完全無缺
デアツテモ、其ノ運用宜シキヲ得ナイ爲ニ、純眞ナ人ガ此處ニ
基クダラウト云フ間違ヒカラ、憲法ノ内容ニ反スルヤウナ考ヘ
テ起シタリナンカスルヤウナコトガアルコトハ、多ク私共モ傳
聞致シテ居ルヤウナ次第デゴザイマシテ、是ハ一面ニ於キマシ
テハ斯クノ如キ運用ヲ改メルヤウニ、立法行政共ニ、斯クノ如キ
誤解ヲ除クヤウニ努メナケレバナラヌト同時ニ、又斯クノ如キ
誤解ヲ生ズルヤウナ考ヘテ是正スルヤウニ、教育、教化ノ方面
ニ努力シナケレバナラヌト存ジテ居ル次第デゴザイマス、今日
斯クノ如キ法案ヲ本議會ニ、國防保安法ト本改正法案ト同時
ニ出シテ御協賛ヲ願ハナケレバナラヌダケ、ソレダケ内外ノ情
勢ガ非常ニ重大ナル時機デゴザイマスルノデ、一層此ノ誤ヲ是

正スルコトニ努力ヲセナケリヤナラヌト存ジテ居ル次第デゴザ
イマス、殊ニ終リニ述ベラレマシタ教化ニ關シテハ、政府ハ無
論ノコト全力ヲ注ギ、國民ノ協力ヲ得テ、斯クノ如キ過テ一
掃スルコトニ努力シナケレバナラヌト考ヘテ居ル次第デゴザイ
マス (同第五號)

(3) 機關問題

○猪野毛委員 內務大臣モ勿論此ノ天皇機關説ハ國體ノ本義ニ
反スルト云フコトニ付テハ、司法大臣ト同一ノ御意見デアリマ
セウト思ヒマスガ、是モ序デニ承ツテ置キタイノデアリマス
○平沼國務大臣 天皇機關説ハ國體ニ反スルコトハ、是ハ勿論
デアリマシテ、議論ノ餘地ハナイト思ヒマス、ソレカラ又國體
ニ反スルガ如キ思想ヲ表明シタ文書ハ、十分ニ是ハ取締ル方針
デ居リマスカラ、左様御承知ヲ願ヒマス

○樺田國務大臣 機關説我ガ國體ニ相容レズト云フコトハ既ニ
國家ノ方針トシテ定マツテ居ル所デアリマス、機關説ハ我ガ國
體ト相容レナイモノト信ジテ居リマス
○田中政府委員 陸軍ニ於テモ其ノ通りデアリマス (衆議院治
安維持法改正法律案委員會議録(速記)第六回)

政府委員(橋本清吉君) 天皇機關説ハ國體ノ本義ニ反スト云フ
コトハ、過般ノ衆議院ニ於キマス本法案ノ委員會ニ於キマシテ
內務大臣、司法大臣ガ明言サレテ居リマス、速記録ニ明カデア
リマス、從ヒマシテ今後ノ內務省ノ是等ニ關シマス出版物關
係ノ取締ニ付キマシテハ、國體ノ本義ニ反スルモノナリ、固ヨ
リ安寧秩序ヲ紊スモノナリ、斯クノ如キ見解ノ下ニ、嚴重ニ取

締ツテ行キタイト存ジテ居リマス

○男爵井田馨楠君 其ノ機關説ナルモノハ、二元論ト云フ意味ニ
於テノ機關説ハマダ許サレテ居ルノデアリマスルカ、如何デア
リマスカ

○政府委員(橋本清吉君) 御質問ノ意味ガ、チヨット私ニ分リ
兼ネマスガ……

○男爵井田馨楠君 天皇ニモ統治權ノ主體ガアリ、同時ニ國家
ニモ主體ガアルト云ツタヤウナ二元の意味ノ機關説ガアツタノ
デアリマス、是ハ出版法上許サレルカドウカ、斯ウ云フ意味デ
アリマス

○政府委員(橋本清吉君) 許サレマセヌ (貴族院治安維持法改
正法律案特別委員會議事速記録第五號)

(4) 第一條關係

○藤田委員 御尋ね申上ゲルノハ司法省關係デアリマスガ、此
ノ際內務大臣閣下ニ御教ヘテ戴キタイノデアリマス、ソレハ第
一條ニ「國體ヲ變革」トアル、國體ト云フコトニ付キマシテハ、
我が國ノ國體ト云フコトハ常識的ニ分ツテ居リマセウ、併シ是
ハ考ヘテ見マス、色々疑義ヲ生ジテ來ハシナイカト思フノデ
アリマスカラ、內務大臣ヨリ明確ナル國體ト云フモノノ定義ニ
付テノ御意見ヲ、御發表願ツテ置キマスレバ、尙ニ治安維持法
ガ實際ニ行ハレル上ニ於テモ、鮮明ニ相成ルト存ズルノデアリ
マス、普通ノ常識カラ考ヘルト、政體ト國體ト混同シテ居ル頭
モアリマスジ、色々意見モアリマセウシ、又今日マデ多クノ
學者ノ説ニ依リマシテモ、又此ノ學者ノ説ニハ全然許スベカラ

ザルヤウナ意見モアリマシタヤウナ譯合ナノデアリマス、本法
モ本議案ノ第一章ノ頭ニアルヤウニ、國體ヲ變革スルコトヲ目
的トシタル者ヲ罰スルノデアリマスカラ、國體ト云フモノハ如
何ナルコトヲ意味スルカ、國體ノ觀念ニ付テハツキリト一ツ定
義ヲ御與ヘ下サイマスレバ、尙ニ仕合せト存ズルノデアリマシ
テ、御教ヘテ戴ク譯デアリマスカラ御願ヒテ致シマス
○平沼國務大臣 現今國體ノ觀念ハ國民全體ガ瞭解ヲ致シテ、
我が國體ニ付テノ疑ヒノアル者ハナイヤウニ考ヘマス、唯之ヲ
文章ニ書キ、或ハ口ニ表ハスト云フコトニナリマス、人々ニ
依ツテ或ハ言葉ノ用ヒヤウガ違フカモ知レマセヌ、是ガ爲ニ色
々是非ノ論モ生ズルノデアリマセウガ、大體國體ト云フコトニ
付テノ其ノ實質ニ付キマシテハ、國民全體誤リハナイ積リデア
リマス、是ハ私ガ申スマデモナイコトカト存ジマスガ、唯今御疑
ヒノ點ハ、色々學者ノ申シテ居リマスコトニ、言葉ノ用ヒ方ガ
違フ爲ニ、サウ云フ御疑ヒガ生ズルノデハナイカト、私ハ斯ウ
思フノデアリマス、先ヅ一言申シマスレバ、憲法第一條ニ「大
日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」ト、斯ウ御示シナツ
テ居リマス、是ハ固ヨリ憲法ニ依ツテ定ツタノデハナク
シテ、肇國以來今日ニ至ルマデ是ハ論ラザルコトデゴザイマ
ス、之ヲ言葉テ表ハシマスレバ、此ノ憲法ニ表ハサレテ居ルノガ
正確デアラウト考ヘテ居リマス、即チ 天皇ガ國家ヲ統治セラ
ルル其ノ 天皇ハ萬世一系デアラセラレル、茲ニ歸齋スルモノ
ト私ハ考ヘテ居リマス、斯ク表ハスノガ最モ正確ナ表ハシ方デ
アラウト思ヒマス

○藤田委員 私ノ觀念ニハ疑義ハナイノデアリマスガ、此ノ法律ヲ適用シマス上ニ於テ、其ノ範圍ヲ非常ニ誤解シテ進ム危險ガアルノデハナイカ、言換ヘレバ政體、立憲政治ノ仕方ニ疑義ヲ持ツテ之ヲ制限セントスル、或ハ之ヲ直サウトスル説モ、或ハ解釋ノ仕方ニ依レバ第一條ニ包含スルヤウナ解釋ヲセラレル場合ガ生ジテ來ルノデハナイカ、斯ウ云フコトヲ感ジマシタガ故ニ、何カ言葉ヲハツキリ定義シテ戴ケレバ、サウ云フ疑義ガハツキリ區別サレテシマヒハセヌダラウカ、カウ私ハ思フタノデアリマス

○平沼國務大臣 只今申シマシタ通り、憲法第一條ニ御定メニナツテ居ル此ノ規定、是ハ日本ノ國體ヲ明カニシタモノデアリト思ヒマス、其ノ他ニ或ハ憲法ノ條章ヲ紛淆スルトカ云フコトハ、是ハ或ハ朝憲紊亂ニハナルカモ知レマセヌガ、國體變革ニハナルマイト思ヒマス（衆議院治安維持法改正法律案委員會議錄（速記）第二回）

○三田村委員 國體變革罪ニ關スル御尋ネハ大體以上テ終ツタノデアリマスガ、此ノ機會ニ此國體變革罪其ノモノニ付テノ御見解ヲ少シ伺ツテ置キタイノデアリマス、是ハ立法ノ沿革ニ歸ラナケレバイカヌト思ヒマスガ、最初ニ申シマシタ如ク、本法ハ社會主義、所謂共產主義、ソレヲ對象ニシテ生レタモノデアリ、國體變革ノ用語モソコカラ來テ居ルト思ヒマス、併シ今日此處ニ國體變革ト云フ文字ヲ使ツタ場合ハ、先般此ノ提案理由ノ御説明ノ中ニモアツタト思ヒマスガ、唯獨リ共產主義トカ、社會主義トカ、或ハ無政府主義ト云フモノヲ對象ニスルノデハナク

テ、立法ノ沿革ハ變更サレテ、此處ニ謂フ國體變革罪ト云フモノハ、其ノ思想ノ何タルト問ハズ、苟クモ日本ノ國體ニ變革ヲ加ヘルモノ、領土ノ僭竊ヲ希望スルトカ、天皇大權ヲ否定スルトカ、主權ノ存在ヲ否認スルトカ云フ目的ヲ以テヤツタ場合ハ、全部此ノ國體變革罪ニ入ルノデアツテ、從來此ノ立法ノ沿革トシテ持ツテ居リマシタ社會主義トカ、共產主義トカ、所謂「マルキシズム」無政府主義ト云フモノヲ對象ニスルダケデナクテ、廣ク國體變革ニ關スル一切ノ思想行動ヲ、之ニ依ツテ取締ルノダト云フ解釋ガ必要デナイカト思ヒマス、サウ云フ解釋ヲシテ置クコトガ、一面ニハ治安維持法ト云フモノガ、社會主義取締法ト云フ認識カラ離レテ、後段七條、八條ノ規定ニアリマス如ク、名目ハ宗教デアツテモ何デアツテモ、其ノ行為ノ内容ガ國體變革ニナレバ、之ニ依ツテ處罰サレルト云フコトガ、明カニナツテ宜イノデハナイカト思ヒマス、其ノヤウナ御説明ヲ聽イタヤウニ記憶シテ居リマスガ、モウ一度其ノ點ヲ確認致シタイト思ヒマス

○太田政府委員 申上ゲルマデモナク治安維持法ハ、最初ニ無政府主義及ビ共產主義、更ニ民族主義、此ノヤウナモノヲ取締ル爲ニ立法サレマシタモノデアリマスコトハ、是ハ沿革ニ數シマシテ疑ヒノナイコトデアルト思ヒマス、併シ其ノ後ノ運用ヲ見マスルニ、更ニ左様ナ無政府主義、或ハ共產主義ト云フヤウナ、所謂社會主義ニ關係ノナイ思想カラ出發致シマシテ、ヤハリ國體變革ヲ企圖スルヤウナ團體ニ對シマシテモ、適用サレテ參ツタノデアリマス、所謂類似宗教團體ニ對スル適用ガソレデ

ゴザイマシテ、左様デゴザイマスカラ、今日ニ於キマシテハ、單ニ社會主義ヲ取締ルト云フヤウナ法律デハナイノデアリマシテ、苟クモ國體ニ對シテ不逞ナル變更ヲ加ヘヨウトスル者一切ニ對シテ、十分ニ之ヲ適用シ、之ヲ檢舉シテ行クベキ任務ヲ持ツタ法律デアルト云フ風ニ考ヘテ居リマス（同第四回）

○藤田委員 伺ヒタイノハ獨立ノ運動デス、獨立ノ運動トハ何か、當局ノ御答ヘデハ、獨立ノ運動ハ統治權ノ及ブ範圍ヲ縮小スルコトニナルカラ是ハ國體ノ變革ダ、ダカラソレハ第一條ニ依ツテ取締ルノダ、斯ウ御言明ニナツテ居ルルヤウニ記憶シテ居リマスガ、ソレニ相違ナイカドウカ、一應確カメテ置キマス

○秋山政府委員 只今ノ御意見ノ通りノ意味デゴザイマス
○藤田委員 私ハ國體ト云フ觀念ヲ政府當局ハドウ考ヘテ居ラレルカト云フコトヲ承リタイノデス
○秋山政府委員 國體ハ要スルニ憲法第一條ニ規定シテアリマス通りノ意味デアリマシテ、領土ガ縮小セラレタコトガ直チニ國體變革ノ問題ニナルト云フコトハ、是ハ統治權ヲ制限スルコトニナルト云フヤウナ趣旨カラ、縮小シタ場合ハ違反ニナル、斯ウ云フ風ニ解釋サレテ居ルモノデアリマス（同第七回）

○政府委員（三宅正太郎君） 國體ノ意義ニ付キマシテハ、是ハ只今山岡委員ノ仰セニナリマシタ通り、既ニ確タル意義ガ確立致シテ居リマシテ、而シテ且大審院ハ再三ニ互リマシテ國體ノ意義ヲ明カニ致シテ居リマス、最早此ノ點ニ付テノ論議ノ餘地ガナイ迄ニ確定致シテ居ルト思フノデアリマス、其ノ國體ト申

シマスノハ、是ハ大審院ノ判例ヲ引用致シマスレバ「我が帝國ハ萬世一系ノ 天皇君臨シ統治權ヲ總攬シ給フコトヲ以テ其ノ國體ト爲ス、治安維持法第一條ニ所謂國體ノ意義亦之ニ外ナラズ」此ノ判例ハ其ノ後何等少シモ變更ヲ見ズシテ今日ニ來テ居リマス、ソコデ、デアリマスカラ此ノ國體ト云フ明確ナル定義ニ比シマスレバ、國體ト政體トノ觀念上相違ガアルコトハ明瞭ダト思フノデアリマス、即チ政體ハ統治權ノ働キヲ意味スルモノデアリ、デアリマスノデ例ヘバ今仰セニナリマシタ立憲政治ト云フコト、或ハ又各種ノ憲法ノ機關ニ依ツテ統治權ガ行ハレルト云フ形、是等ハ何レモ政體ニ屬スルモノト思フノデアリマス、デアリマスカラ政體ノ變革ガ即チ國體ノ變革ダト斯ウ一概ニハ申セラレナイ、申シ得ナイコトハ當然デアリマスガ、唯此ノ統治權ガ 天皇ノ御手許ニ總攬、 天皇ノ御手許ニ於テ總攬シ給フコトヲ其ノ形ヲ存シテモ、其ノ實ヲ奪フガ如キモノハ即チ、之ガ矢張り國體ノ變革ニ外ナラスコトハ是ハ申ス迄モアリマセヌ、政體ノ變革ト云フコトヲ名トシマシテモ結局ニ於テ國體ノ變革ヲ、詰リ統治權ソノモノヲ裏面カラ是ニ其ノ働キヲ失ハシムル形ニナリマスレバ、是亦國體ノ變革ナルコトハ疑ヒナイト思ヒマス、其ノ點ニ於テ國體ノ變革ト政體ノ變革トノ間ニ一聯ノ、一脈ノ繋ガリハゴザイマスケレドモ、併シナガラ觀念ハハツキリトシタイト思フノデアリマス、只今山岡委員カラ仰セラルルヤウニ然ラバ政體ト云フモノノ意味ノ範圍ト申シマスカ、ソレガ何處カト申シマスト是ハ説ク人ニ依ツテ色々デアリマス、例ヘバ法律辭書ヲ見マシテモ政體ト云フコトノ意味ニハ

幾様ニモ書キ分ケテゴザイマシテ、其ノ説タ人ニ依リマシテ其ノ範圍ナリ、内容ナリハ相當ニ違ヒガアル、之ヲ何處迄ガ即チ政體デアアルカト云フコトヲ確定致シマスコトハ、非常ニ困難ナコトデアリマスコトハ先程申上ゲタ所デアリマス、デアリマスノデ、政體變革ト云フコトガ決シテ喜ブベキ状態デアリコトハ、モウ仰セ迄モナク我々モ痛感シテ居ルコトデゴザイマスガ、扱之ヲ取締ルト云フ點ニ至リマスト、果シテドウ云フ風ニ取締ツテ、ドウ云フ風ナ規定ヲ設ケテ宜イカ迷ヒマスシ、更ニ又サウ云フ政體變革ヲ目的トスル結社、或ハ結社デナクモ或ハ其ノ協議トカ云フヤウナ、多數ガソレヲ協力シテ其ノ思想ヲ強メルト云フ風ナ形ニ持ツテ來ル、サウ云フ風ナ形ノ犯罪ト云フモノガ、一體現實ニアルカナイカト云フコトガ先程申上ゲマシタヤウニ問題デアリマス、寧ロソレ等ノモノハ内亂豫備ト云フコトヲ以テ處罰スルコトガ適當ダト思ヒマス、治安維持法ト云フ法律ガアルモノデアリマスカラ、聊カ内亂罪ト云フモノノ値打ガ何カ斯ウ聊カ閉却サレタカノ如キ感ジハゴザイマスカレドモ、國家ニ於テ内亂罪位重要ナ刑罰規定ハナイト申シテモ宜イデゴザイマセウ、ソレ位ニ内亂罪ハ重要ナノデアリマス、サウシテ而モ其ノ刑モ十分重クシテゴザイマス、チヨツト餘事ニ互リマスケレドモ、六十七議會ニ於テ不法團結等處罰ニ關スル法律案ヲ出シマシタガ、之ガ遂ニ御同意ヲ得ナクツタノデアリマスカ、是ハ特ニ人ノ生命ヲ害シ又ハ人ノ身體ニ傷害ヲ加ヘムガ爲ニ相團結シテ其ノ實行ノ豫備ヲ爲シタ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處スル、處ガ内亂ノ豫備ハ一年以上十年以下ノ禁錮ト

シテ、取締ルノデアルト云フコトヲ御説明ニナツタヤウデアリマスガ、先ヅ第一ニ伺ヒタイコトハ、此ノ民族獨立運動ニ關シテ治安維持法ヲ適用サレタコトガアルノデアルカ、又其ノ法律上ノ見解ハ、此ノ適用ニ依ツテ既ニ裁判上ノ事實トシテ現レテ、裁判所ノ意見トシテ、民族ノ獨立ハ國體ノ變革ニ外ナラズモノデアルト云フヤウナコト迄定ツテ居ルノデアリマスカ、其ノ點ヲ第一ニ伺ヒタイノデアリマス、ソレカラ次ニ民族ノ獨立ト云フコトハ、ドウ云フコトヲ意味スルノデアルカ、言ヒ換ヘレバ如何ナル範圍ニ迄其ノ問題ガ及ブノデアルカ、民族ノ獨立ガ最モ極端ニナルモノトシマスレバ、具體的ニ言ヘバ現ニ日本ノ統治權ノ下ニアル、日本民族ト違ツタ異民族ガ全然統治權ノ支配ヲ離レテシマツテ、從ツテ日本帝國ノ領土ヨリ離レテ、特別ナ地域トナルト云フコトガ、之ガ獨立トシテ著シイモノデアラウト思ヒマスガ、其ノ外ニ行政上ノ獨立ト言ヒマスガ、他民族ノ、其ノ民族ノ住スル地域ノ内ニ於テハ自治、行政上ノ自治ヲ得タイト云フコトノ運動、是ハモウ或程度迄今日迄行ハレテ來テ居ルコトデアラウシ、又將來ト雖モ必ズ實現サレルモノデアラウト思フノデアリマス、ソレカラ更ニ今日日本デハ、全ク問題ニサレテ居リマセスケレドモ、私ノ常ニ憂ヘテ居ルノハ國語ノ獨立デアリマス、是ハ外國ノ、殊ニ近年問題トナツテ大イニ重大ノ問題ニナツテ居リマス「ベルギー」ノ「フランドン」語ノ如キデアリマス、此ノ問題ヲ私ハ常ニ對岸視スルコトハ出來ナイ、日本ニ於テモ餘程考ヘテケレバナラヌ問題デハナイカト云フコトヲ痛感シテ居ル一人デアリマスガ、今後ハ一地方ノ方

アリマス、デアリマスカラ、内亂ノ豫備ノ方ガ重イノデアリマス、寧ロ不法團結等處罰ニ關スル法律案ヲ作ツテ、却テ内亂ノ豫備ヨリモ輕イ刑罰ヲ制定シタヤウナ感ガ茲ニアル譯デアリマス、寧ロ飽ク迄モ内亂罪ノ條章ニ據ツタ方ガ宜シイト思フノデアリマス、例ヘバ今回ノ治安維持法ニ付キマシテモ、今度改正ニナリマシタ第五條デ、協議、煽動、又ハ其ノ宣傳ト云フコトガゴザイマスガ、是デモ一年以上十年以下ノ懲役デアリマス、刑ノ重サニ付キマシテハ、矢張り内亂ノ豫備ト少シモ違ハナイ刑ヲ盛ツテ居リマスカラ、彼此別ニ内亂ヨリモ特ニ重イトカ、特ニ輕イトカ云フコトハナイノデアリマス、五年前ノ今月今日ノ、アア云フ不祥ナ事件ガ起リマシタコトヲ阻止シ得ナカッタコトハ誠ニ遺憾デアリマスガ、其ノ責任ハ寧ロ内亂ノ豫備ヲ爲シタル者ヲ早期ニ偵察シ得ナカッタコトノ責任デアリマシテ、寧ロ此ノ法規ヲ作ラナカッタコトノ責任ヨリモ、其ノ方ニ私ハ大キナ責任ヲ負擔セシムベキモノデヤナイカト思フノデアリマス、實ハ内亂ノ豫備ガ既ニモウ相當ニ重クナツテ居リマスノデ、此ノ刑罰ニ依ツテ國家ハ十分ニ取締リ得ルニ拘ラズ、其ノ取締ヲ爲シ得ナカッタト云フ、其處ニ遺憾ノ點ガアルト私ハ考ヘルノデアリマス

○織田萬君 只今迄ハ國體ト政體トノ區別ニ關シテノ質問並ニ說明デアツタノデアリマスガ、私ハ是ト對照的ノ角度ト言ヒマスカ、其ノ角度カラシテ明瞭ニシテ置カケレバナラヌト思フノハ、民族獨立問題デアリマス、一昨日ノ本會デアリマシタガ、政府委員カラ民族獨立運動ハ、國體ノ變革ニ關スルモノト

言サヘ、是ハ決シテ減ビルモノデハナイ、況シテ一ツノ國語トシテ、歴史的ニ成立ツテ居ルモノガ、減アルト云フコトハ到底アリ得ベカラザルコトデアアル、デアアルカラ日本ニ於テモ異民族ノ言葉トナツテ居ル、具體的ニハ朝鮮語、臺灣語ト云フモノガ、他日獨立問題ヲ起シハシナイカト云フコトヲ、私ハ今日カラ憂ヘテ居ルノデアアル、從ツテ之ニ對シテハ今日カラ餘程重大ナ關心ヲ以テ、何トカシナケレバナラヌト云フコトヲ私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、デスワ云フコトモ、マア民族獨立ノ問題デアツタノデアリマスガ、要スルニ民族ノ獨立問題ト云フコトハ、色々ノ方面カラ考ヘラレルノデアアルガ、此ノ治安維持法ヲ以テ取締ラウトセラレル所ノ民族獨立ト云フコトハ、ドウ云フ事實、ドウ云フ範圍ヲ目度トサレテ居ラレルノデアリマスカ、ソレヲ伺ヒタイト思ヒマス

○政府委員(三宅正太郎君) 民族ノ獨立運動ニ付キマシテハ、其ノ中デ治安維持法ニ觸レルベキモノト見テ、大審院並ニ朝鮮ノ最高法院デ既ニ確定シタ判例ガゴザイマス、併シナガラ其ノ何レガ國體ノ變革ニ當ルカト云フ場合デアリマス、ソレハドウ云フ範圍カト申シマス、即チ警ヲ朝鮮ニ取ツテ申シマス、朝鮮人ノ或者ガ朝鮮ノ民族ノ獨立ヲ策シテ、サウシテ朝鮮ニ於ケル日本ノ 天皇陛下ノ統治權ヲ排除シマシテ、彼等自ラガ其處ヲ統治シヨウト云フ、即チ 天皇陛下ノ統治權ヲ排除スルト云フ其ノ主張ガアリマス場合ニハ、國體變革ニ當ルノデアリマス、只今仰セノヤウナ、其ノ以外ニ於テ日本ノ 陛下ノ統治權ヲ別ニ排除スルモノデハナク、唯其ノ下ニ於テ自治ヲ求メタイ

或ハ國語ノ獨立ヲ得タイト言ヒマスコトハ、ソレハ國體ノ變革ニ當リマセズ、併シナガラサウ云フ場合ニ於キマシテモ、陛下ノ統治權ヲ認メナガラモ、其ノ朝鮮ノ獨立ヲ謀ツテ、私有財産ノ制度ヲ否認スルト云フヤウナ方法ヲ採ツタ事例ガゴザイマス、デアリマスカラ、私有財産制度ヲ否認スル結社トシテ朝鮮共產黨ト云フモノヲ處罰シタ、是ハ大審院ノ判例デゴザイマスガ、サウ云フ判例モゴザイマス、デスカラソレハ國體變革デナイ、私有財産ノ否認トシテ處罰致シテ居リマス、只今申上ゲマシタヤウニ、天皇陛下ノ統治權ヲ排除スルノデハナイ限リ、國體ノ變革ハ治安維持法ニ觸レルコトハナイト、斯ウ御了承ヲ願ヒタイノデアリマス。

○織田萬君 天皇陛下ノ統治權ヲ排除スルト云フコトヲ伺ヒマシタガ、ソレハ結局マア具體的ニ申上ゲマスレバ、朝鮮ガ所謂獨立ヲシテ日本帝國ノ統治ノ下ニ統治ヲ離レルト云フコトト同ジコトデアリマセウガ、唯日本帝國ノ領土デアリナガラ、陛下ノ統治權ノ下ニ服従シナイ、サウ云フ意味ニ取ルノデアリマセウカ、其ノ點ニ依ツテ又自ら法律上ノ見解ガ違フノデハナイカト思ヒマスガ……

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ「日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」ト云フ此ノ憲法上ノ條章、此ノ條章ガ即チ國體トナツテ居ルノデアリマスカラ、朝鮮ニ於キマシテモ假ニサウ云フ只今仰セノヤウナコトガゴザイマシタナラバ、何レモ國體變革ニ當ルト思フノデアリマス。

○織田萬君 異民族ノ統治ノ下ニ統治シテ居ツタ土地ガ、今日

日本領土トナツテ居ル、其ノ地域ガ更ニ獨立シテ日本ノ統治ノ下ニ服サナイト云フコトガ國體ノ變革ト云フコトニナルトシマスルト、其ノ逆ニ其ノ地域ガ日本ノ領土ノ一部トセラレタ時、即チ朝鮮ガ我が國ニ合併セラレタ時ニハ、日本國體ノ變革ニナツタト云フコトニナルデセウ、ドウモ論議上ノ結果、サウ云フコトニナリヤシナイカト思ヒマス。

○政府委員(三宅正太郎君) 私ハ左様ニハ存ジナイノデアリマス、日本ノ統治權ノ、天皇陛下ノ統治權ノ作用ハ廣ク、且大イナルモノデアリマシテ、其ノ及ビマス所ハ、若シ其土ガ攪マリマスレバ、幾ラデモ攪マリ得ル力ヲ御持チニナツテ居ルノデアリマスカラ、假令其ノ御行使ニナリマスル統治權ノ地域ガ攪マリマシテモ、ソレハ唯一箇ノ統治權ノ作用スル處ガ攪マツタト云フコトニ止マツテ居ルト思フノデアリマス、十分ニ御質疑ガ分ラナイデ申上ゲルノカモ知レマセウガ……

○織田萬君 我ノ申上ゲルノガ惡カツタノカモ知レマセウガ、我が國體ガ何デアルト云フコトヲ憲法ノ明文ノ上カラ見ルベキモノハ申上ゲモナク第一條デアリマス、「大日本帝國ハ萬世一系ノハ申上ゲモナク第一條デアリマス、即チ我が國體ノ條章デアリマス、天皇之ヲ統治ス」トアルノガ、即チ我が國體ノ條章デアリマスガ、帝國ハ領土ト、臣民ト、サウシテ萬世一系ノ天皇ヲ戴イテ居ル、之ニ依ツテ我が國體ガ出來テ居ル譯デアリマスデアリマス、萬世一系ノ、天皇ノ統治ノ下ニアルト云フコトハ、是ハ建國以來何等變更サル所ナク、所謂天壤無窮ノモノトシテ我々ハ考ヘナケレバナラヌコトデアリマスガ、帝國ノ領土及ビ臣民ニハ實際ノ事實ニ付テ見レバ、其ノ變更ハアリ得

ルノデアリマス、帝國ノ領土ガ攪マルト云フコトモアレバ、又是ハサウ云フ不詳ナコトハ萬々ナイコトデアリマスケレドモ、帝國ノ領土ノ一部ヲ割讓スルト云フコトモ、マア是ハアリ得ルコトデアル、從ツテ臣民モ、我が帝國ノ臣民デアツタ者ガ他國ノ臣民トナルト云フコトモ、是モアリ得ルコトデアリマス、其ノ領土ヤ臣民ノ變更ト云フモノハ、國體ノ變革ト云フコトニハ私ハ關係ナイコトダト思フ、サウスルト云フト所謂民族獨立ノ運動ト云フモノガ帝國ノ領土ニ變更ヲ及ボシ、或ハ臣民ノ上ニ差異ヲ生ズルト云フヤウナコトガアツテモ、國體ノ變革ト云フヤウナコトニハドウモ法律上認ムベキモノデヤナイト云フ疑ヲ私ハ有ツノデアリマス、ソレデソレ等ノ運動ガ、他ニ取締ルベキ法律ガナケレバ兎ニ角、先刻カラモ段々問題トナリマシタヤウニ、内亂罪ヲ以テ政體ノ變革ト云フヤウナコトヲ企ツル者ヲ取締ルト云フコトデアレバ、民族獨立ノ問題ハ、治安維持法ノ支配ニ屬スルモノデナクシテ、内亂罪ノ規定ヲ受ケルベキ確ノ事實デハナイカト私ハ思フノデアリマス、ソレハ政府ニ於テ見解ノ違ヒダト云フコトデアレバ、マアソレ以上ニ私ハ御尋ネシテモ無理デアルカモ知ラヌ、唯茲ニ我々トシテ考ヘナケレバナラヌコトハ、若シ此ノ民族獨立ノ運動ガ治安維持法ノ國體ノ變革ニ關スルモノトシテ、治安維持法ノ支配ヲ受ケルト云フコトガ、極ク公平ニ見テ、局外カラ考ヘテ少シハ無理ナ解釋デアル、謂ハバ曲解デアルト云フヤウナコトニデモナリマスレバ、異民族ニ對スル關係ニ於テ、異民族ヲシテ日本ノ政治ハ自ら作ツタ法律ヲモ曲解シテ我々ヲ取締ルンダト云フヤウナ感ジデ

モ起サセルト云フコトハ、異民族統治ノ上ニ於テ却テ惡イ影響ヲ惹キ起スコトニナル、或ハ其ノ獨立運動ヲ激成スルト云フヤウナ機會トモナラヌトモ限ラヌトモ思フノデアリマス、其ノ點カラ此ノ法律上ノ御解釋ヲ一ツ慎重ニ考ヘテ行ク必要ガアルノデヤナイカト私ハ思ヒマスカラ、ソレデ特ニ其ノ點ヲ明確ニ致シテ載キタイト云フ御尋ヲシタノデアリマス。

○政府委員(三宅正太郎君) 織田先生ノ御言葉能ク分リマシテゴザイマス、御言葉ノ中ニゴザイマスヤウニ、其ノ點ニ付テ先生ガ御疑問ヲ御懐キニナリマス點ノゴザイマスコトハ、能ク私共ノ方ニモ分リマシタノデゴザイマスガ、唯此ノ問題ハモウ既ニ大審院ノ判例決ツテ居リマスコトデアリ、既ニ法ノ解釋トシテモ有權的ニナツテ居リマスノデ、今日ト致シマシテモ、矢張り其ノ趣旨ヲ判斷ヲシテ行ク外ハナイカト思フノデアリマス、唯異民族ヲシテ非常ニ僻ミヲ起サセナイヤウナ用意ハ、十分ニ致サナケレバナラヌト存ジマスノデ、御議論ノ點ハ能ク拜承致シマシテ、篤トサウ云フコトニ付テノ行キ過ギノナイヤウニ考ヘタイト存ジテ居リマス(貴族院治安維持法改正法律案特別委員會議事速記第四號)。

○次田大三郎君 第一條以下ニ、今度ノ改正法案ニ依ツテ新タニ加ヘラレムトスル法條ノ中ニモアルノデアリマスガ、一結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ト云フ文字ガ殆ド各條ニアル、「結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲」ト云フ文句ノ有權的解釋ヲ伺ヒタイノデス、其ノ意味ハ、普通ニ考ヘマスト結社ト云フコトガ出來テ、ソレデ結社ノ目的遂行ノ行爲ト云フ問題ガ起ル、

是ガ普通ノ考ヘ方デアリマス、併シナガラ此ノ條文ノ解釋トシテハサウヂヤナイノデアリマス、結社ノ目的ト云フ意味ハ、置キ換ヘレバ國體ヲ變革スルコトヲ目トシテ、其ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ト云フ風ニ讀ムノヂヤナイカト思フノデスガ、此ノ有權的解釋ハドウ云フ風ニナツテ居リマスルカ、御伺ヒシマ

○政府委員(秋山要君) 結社ノ目的遂行行爲ト申シマスルノハ、結社ノ目的ヲ達スル上ニ於キマシテ、色々ノ行動ガゴザイマスルガ、ソレヲ全部包括シテ「目的遂行」ノ爲ニスル行爲トスル云フ風ニ解釋シテ居リマス、デアリマスルカラ、非常ニ是ハ廣イ觀念デゴザイマス、結社ノ既ニ出來テ居ルモノニ付キマシテハ、勿論問題ハナイト思ヒマス、デ結社ノ出來テ居ラヌモノ、ソレハ主觀的ニ結社ノ出來テ居ルモノト考ヘテ、其ノ「目的遂行」ノ爲ニスル行爲トスル云フ風ニ解釋セラレルモノト思ヒマス

○次田大三郎君 國體變革ノ爲ニ、國體變革ヲ目的トシテ結社ヲスル考ヘハ、初メカラナイ、又結社ヲシヨウト云フコトモ企テタコトモナイ、唯自分一人デ以テ、一ツ國體ヲ變革シテヤラウト云フヤウナ不逞ナコトヲ考ヘテ行動ヲ起ス、例ヘバ爆彈ヲ投ズルトカ、「ピストル」ヲ準備スルト云フヤウナモノハ、第一條ニ該當スルノデアリマスカ、モウ一人デスカラ、結社ヲスル、主觀的ニ結社云々ト云フ問題ハ起ラス、サウ云フ場合ニハ之ニ入ルノカドウカ、ソレカラソレガ假ニ五、六人相談ヲシタ場合ニハ之ニ入ルカドウカ、ソレヲ一ツ伺ヒタイ

ナイト思ツテ居ルノデアリマスガ、司法當局ハドウ云フ風ニ御考ヘデアリマセウカ

○政府委員(三宅正太郎君) 結社ノ定義ニ付テハ私今此處デ申シマセヌガ、血盟團ト云フ事例ニ付テ申上ゲマス、アノ當時アノ集團ハ結社ト認メナカッタノデアリマス、結社ト認メル程度ニ至ラナカッタモノデアルト斯ウ認定致シタノデアリマス

○次田大三郎君 ソレハドウ云フ譯ナンデアリマセウカ、一定ノ期間同志ノ者ガ集ツテ、其ノ中ニハ首領モアリ、使ハレテ居ル人モアリ、其ノ首領ノ指令ニ應ジテ一人一人ガ殺人ヲ犯シテ去リタ、ソレヲ結社ニ非ズト云フコトハ私共了解シ難ネルノデアリマスガ、モウ一應御説明ヲ願ヒタイ

○政府委員(三宅正太郎君) 實ハ實際ノ問題デアリマスノデ、ドウ云フ點ヲ結社ト認メタカ、又其ノドウ云フ點ヲ結社ト認メナカッタカト云フ點ニナリマス、私モ實ハ古イコトデアリマシテ、細カイ事實ノコトハ存ジマセヌカラ、他ノ政府委員カラ御説明ガ出來レバ御説明ヲサセタイト思ヒマス、又若シソレガ材料ヲ今日持ツテ居リマセヌデシタラ、至急ニ集メマシテ申上ゲタイト思ヒマス

○政府委員(太田耐造君) 只今ノ血盟團デゴザイマスガ、結社ノ定義ハ既ニ御分リノコトト思ヒマスノデ、申上ゲル必要モナイカモ知リマセヌガ、只今治安維持法ニ於キマス結社ニ付キマシテハ、一定ノ既成概念ガ出來テ居リマシテ、共同目的ヲ持ツタ多數人ノ結合體デナケレバナラス、而モ其ノ結合カハ相當鞏固デアリ、永續性ヲ持ツタモノデナケレバナラスト云フヤウニ

○政府委員(秋山要君) 第一條ハ、結社ノ關係ニ制限サレテ居リマスルノデ、只今仰セニナリマシタヤウナ事例ハ第一條ニハ當リマセヌ、ソレハ第五條ノ「第一條乃至第三條ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シテ協議スルトカ、煽動スルトカ云ツタヤウナ場合ニ當ルノデアリマス、唯協議モ煽動モセナイ、自分一人デ何カ國體變革ノ目的ヲ以テ暴行デモシヨウト云フヤウナ場合ニハ、ソレハ或ハ此ノ五條ノ「其ノ他其ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲」ト云フ中ニ入ル場合ガアラウト思ヒマス、尙同時ニ内亂ノ豫備トカ、或ハ其ノ他ノ刑法ノ法條ニ觸レル場合モ、場合ニ依ツテハアルカモ知レヌト思ヒマス

○次田大三郎君 サウシマス、苟モ國體變革ノ目的ヲ以テ何カシタラ兎ニ角治安維持法ニ引掛カルノダ、サウ考ヘテ宜シウゴザイマセウネ

○政府委員(秋山要君) 左様デゴザイマス

○次田大三郎君 モウ一點此ノ第一條ニ付テモウ一ツダケ伺ヒマス、ソレハ結社ト云フモノノ意味デアリマス、是ハ抽象的ノ解釋ヲ何ヨリカ、一ツ實例ニ付テソレヲ結社ト御覽ニナルカ、ドウカ、ナツタカドウカト云フコトヲ伺ヒマス、ソレハ例ノ血盟團ト云フモノガアリマス、所謂一人一殺主義デアリマス、即チ財閥、政界ノ名士ヲ一々襲撃シテ歩イタ團結ガアツタノデアリマス、私共ハソレハマアソレガ國體ヲ變革スル結社デハ無論ナイト云フコトヲ承知シテ居リマス、或ハ考ヘヤウニ依ツテハ政體ヲ變革スルコトヲ目的トスル結社デナイカモ知レマセヌガ、兎ニ角血盟團ト云フモノガ結社デアルト云フコトハ疑

定義サレテ居ルノデアリマス、血盟團ノ場合ニ於キマシテハ、私モ實ハ只今具體的ノ事情ハ能ク存ジテ居リマセヌガ、サウ云フ風ニ結社ト定義ニ當ルヤウナ鞏固ナト申シマスカ、血盟デゴザイマスカラ相當鞏固ハ鞏固ダツタラウト思ヒマスガ、永續性ノ點トカ何トカニ於キマシテ結社ノ程度ニ達シナイト見タノダラウト思フノデアリマス、尙右翼團體ノ「テロ」行動ノ問題デゴザイマスガ、多クノ場合ニ於キマシテ右翼ノ「テロ」團體ト申シマスノハ、「テロ」ヲスルコトヲ以テ目的トシテ集ツタト云フヤウニナカ、見ニタイノデゴザイマス、多クノ右翼ノモノヲ調ベテ見マシテモ、革新ナラ革新、國家改造ナラ國家改造ト云フ目的ヲ持ツテ居リマシテ、出來得ベクンバ通常ノ合法的ノ行動ヲ以テ目的ニ到達シテ行キタイ、サウシテ萬已ムヲ得ナイ時ニ突發的ニ「テロ」ヲ行フト云フヤウナノガ彼等ノ通常ノ考ヘノヤウデゴザイマス、名前ヲ擧ゲマスレバ、例ヘテ見レバ前田虎雄、本間憲一郎、彼等ハ檢事ノ取調ノ際ニ「テロ」ト被等ノ思想トノ關係ヲ述ベテ居リマスガ、是ハ本間ノ供述デゴザイマスガ、水ガ流レテ參リマス時ニ、何カ岩ガアツタトスル、ドウシテモソレヲ乗り越エナケレバ前ニ進メナイト云フ場合ニ、已ムヲ得ズ其ノ岩ニブツカツテ、其ノ岩ヲ碎カウトヤウナモノガナケレバ、一テロ一ナドト云フモノハ起キナイノダト云フコトヲ言ツテ居リマシテ、ソレハ勿論抱懐スル思想ノ根柢ニ萬已ムヲ得ナケレバ「テロ」ヲ行ハウト云フヤウナ考ヘ方ガ滑ンデ居ルカラサウナルノダラウトハ思ヒマスガ、サウ云

フ一テローヲ目的トシテ結社ヲ組織スルトカ、團體ヲ結成スルトカ云フ風ニハ通常ナカ、見ニクイノデゴザイマス、血盟團ノ場合ニ於テモ恐ラクサウ云フ點モゴザイマス、血盟團ヒマスシ、尙永續的ノ團體デアルカドウカト云フ點ニ付キマシテ、非常ナ疑問ガアツタノチヤナカラウカト存ジテ居リマス

○次田大三郎君 私ハ血盟團ニ關スル判決ヲ讀ンダノデアリマス、私ノ見タ所デハ今御話ニナリマシタ結社ト云フモノノ定義ニ該當スルト思ヒマス、アノ血盟團ハ鞏固ナラザル團體デアルトハドウモ言ヘヌドラウト思ヒマス、其ノ首領ノ指令ニ應ジテ一身ヲ犠牲ニシテ「テロ」的ノ行爲ヲ行フト云フノデアリマスカラ、其ノ團結ガ鞏固ナラザル團體デアラ出来ナイコトダト思フノデアリマス、ソレカラ永續性ニ付テノ御話モアリマスガ、併シナガラ一體ノ位デアツタラ永續性ガアルト言ヘルノデアアルカ、血盟團ハ若シアレガ捕ラナイデ居リマシタラ、マダノ長イ期間「テロ」行爲ヲ繰返シタコトデアラウト思フノデアリマス、ソレカラ右翼ノ方デハ「テロ」其ノモノノ目的トスルモノハナイ、外ノ方法ニ依ツテ目的ヲ達シヨウトスル、唯已ムヲ得ズシテ「テロ」行爲ニ出タト云フ話デアリマスガ、其ノ點ハ左翼デモ同ジダト思ヒマス、左翼ハ團體ヲ變革スルト云フ目的ヲ以テ出發スル、出来レバ「テロ」行爲ヲ行ハナイデソレヲ實行シタイト云フ意思ハ持ツテ居ルケレドモ、ドウシテモ違法ナ行爲ヲ行ハナケレバ其ノ目的ヲ達スルコトガ出来ナイデソレヲヤル其ノ點デ以テ右翼ト左翼ノ取締ヲ異ニスル理由ハナイト私ハ思フノデアリマス、私ノ質問ハ第一章ニ關シテハ此ノ位止メ

マス(同第五號)

(5) 第二條 關係

○田村委員 私ノ總體質問ハ大體終リマシタノデ、二、三法ニ付テ御伺ヒ致シタイト思ヒマス、其ノ第一ハ第二條ノ規定、是ハ新シイ規定デアリマスガ、此ノ共產結社ノ支援團體、外廓團體ト云フコトヲ、此ノ第二條ニ規定シテ居リマス、私ハ此ノ第二條ノ支援關係、外廓關係ト云フコトニハ、非常ニ注意ヲ拂ツテ、苟クモ其ノ處アル外廓的ノ行動、支援團體的ノ動キニ對シテハ、徹底シタ對策ヲ講ジナケレバナラヌト思フノデ、斯ウ云フ規定ヲ設ケラレタコトハ、洵ニ結構ダト私ハ思フノデアリマスガ、此ノ規定セラレテ居ル支援團體、外廓團體ニ對シテ、政府ハドウ云フ所マデ之ヲ狙ツテ居ラレルカ、詳細ニ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○太田政府委員 此ノ外廓團體ニ關スル第二條ノ規定ヲ置キマシタ趣旨ハ、我が國ノ共產主義運動ノ過去ノ實績ニ照シマシテ、前衛黨デアル共產黨ニ對シマシテ如何ニ取締ヲ加ヘマシテモ、其ノ勢力ヲ補給シテ參リマスル此ノ種外廓團體ヲ徹底的ニ取締ルニアラザレバ、其ノ效果ヲ完全ニ擧ゲ得ナイト云フヤウニ考ヘマシテ、サウ云フ實情ニ鑑ミマシテ、此ノ規定ヲ置イタノデゴザイマス、隨ヒマシテ此ノ規定ヲ置キマシタ以上、外廓團體加入者ト雖モ、其ノ團體ガ結局ニ於テ第一條ノ結社ニ關係ノアルコトヲ認識シナガラ、其ノ外廓團體ノ行動ニ參加致シマシタナラバ、此ノ第二條ヲ以テ徹底的ニ取締ル積リテ居リマス

(衆議院治安維持法改正法律案委員會議錄(連記)第四回)

○小畑委員 ソレハ姑ク後述シテ致シマス、第一條ノ結社ト第二條ノ支援結社ト第三條ノ準備結社トノ區別ニ付キマシテハ、先般三田村委員ヨリ質問ガアリマシテ御答辯ヲ伺ツタノデアリマスガ、尙ホ私ハ之ニ付テ能ク分ラヌ點ガアルノデ何ヒマス、第二條ノ支援結社及ビ第三條ノ準備結社ハ、結局第一條ノ結社ノ中ニ包含サレルノデハナイカト思フノデアリマス、即チ第二條第三條ノ結社ヲ第一條カラ分離シテ規定セラレマシタコトハ、第一條ノ罪ヨリハ第二條第三條ヲ輕クスルコトニアルト思ヒマスガ、現行法ニハ此ノ區別ハナイノデアリマス、總テ第一條デ之ヲ律スルコトニナツテ居ルト思フノデアリマスガ、第二條第三條ヲ第一條カラ特ニ引離シテ輕キ罪ヲ以テ之ニ臨ム理由ハナイヤウニ考ヘラレルノデアリマス、現行法ノ下ニ於テ第二條ノ支援結社ト第三條ノ準備結社トニ對シテハ、第一條ニ依ツテ取締ツテ居ラレルノデハナイカト思フノデアリマスガ、ソレハドウ云フ風ニナツテ居リマスカ

○太田政府委員 御答ヘ致シマス、改正規定ノ第一條ノ團體ヲ變革スルコトヲ目的トスル結社ハ、現行法ノ第一條ノ結社ト同一結社デアリマス、而シテ現行法ノ第一條ノ結社ハ、現行法制一定當時カラノ説明及ビ其ノ後ノ運用ノ實績ニ見マスルニ、改正規定ノ第二條及ビ第三條ノ結社ヲ包含シテ居ラナイ結社ダト云フ風ニ解釋セラレ、且ツ運用セラレテ居ルモノデゴザイマス、隨テ第二條及ビ第三條ノ結社ハ、現行法ノ下ニ於テハ結社トシテ認メラレテ居ラナイモノデゴザイマシテ、今度ノ規定ニ於テ

新タニ設ケタモノデゴザイマス、ソコデ此ノ第二條ノ如キ結社ヲ現行法デ如何ニ處置シテ居ルカト云フコトデゴザイマスガ是ハ大體ニ於キマシテ現行法第一條ノ結社ノ目的遂行行爲トシテ處置セラレテ居ルノデゴザイマス、隨テ個々ノ行爲ハ目的遂行行爲トシテ處置セラレテ居リマシテ、此ノ結社自體トシテソレヲ取上ゲテ處罰ノ對象トスルト云フコトガ出来ヌマスノデ、斯様ナ集團ノナ犯罪ニ於テハ、結社ソレ自體ヲ取上ゲテ處罰ノ對象ト出来ナイト云フ所ニ取締上ノ不都合ガゴザイマスノデ、第二條ノヤウナ規定ヲ設ケタノデアリマス、第三條ノ準備結社デゴザイマスガ、是ハ現行法ノ下ニ於テハヤハリ結社ソレ自體トシテノ處置ハ出来ヌルノデアリマシテ、結局此ノ準備結社ノ内部ニ於キマシテ、個々ニ實行ノ協賛ナリ運動ナリガ行ハレテ居リマスノヲ、現行法ノ二條、三條ノ行爲トシテ之ヲ個々ニ取締ツテ居ルニ過ギナイノデゴザイマス、此ノ改正規定ノ第三條ノ場合ニ於キマシテハ、第一條ノ結社ガ未ダ存在シナイ場合ニ於テ、ソレヲ作り出ス準備ヲ致シテ居ル結社デアリマスノデ、第一條ノ結社ノ目的遂行行爲ニハナラナイ場合ガゴザイマス、隨テ此ノ第一條ノ結社ノ目的遂行行爲トシテ處置スル譯ニ行カズ、結局其ノ個々ノ行爲ヲ捉ヘマシテ、實行ノ協賛ナリ實行ノ運動ナリト云フコトヲ以テ、或ル程度ノ處置ヲナシ得ルニ過ギナイノデアリマス、ソレデヤハリ一ツノ集團的ナ形ニ於テ之ヲ處置スルコトガ出来ナイノデ不都合ガゴザイマスノデ、新タニ新様ナ規定ヲ置イタ次第デゴザイマス(同第六回)

第三條關係

○三田村委員 今度ノ條文ハ非常ニ詳シクナツテ居リマシテ、殆ド洩レル所ハナイト思ヒマス、併シ其ノ對象ニナル行爲、治安維持法違反ナル行爲ノ箇々ニ付テ、大體ズツト一度當ツテ見タイト思ヒマス、第一條ハ國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、ソレカラ其ノ結社ニ加入シタル者、結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者、詰リ結社ノ組織罪ト、加入罪ト、目的遂行罪ト三ツニナル、第二條ハ其ノ結社ヲ支援スル目的ヲ以テ結社ヲ組織シタル者、所謂支援結社ノ組織ト、加入ト、其ノ目的遂行ト、是モ三ツデアリマス、ソレカラ第三條ニナツテ來ルト一寸疑問ガ出テ來ルノデス、一條、二條ハ從前カラノ規定デ大體分ルノデスガ、三條ニナツテ來マス、第一條ノ結社ノ組織ヲ準備スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、私ノ想像スル所デハ、日本共産黨ノ準備會トカ、組織委員會トカ、サウ云フモノダラウト思フノデスガ、第一條ノ國體變革結社ノ組織ヲ準備スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者、ソレカラ其ノ結社ニ加入シタル者、目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者、是モ三段ニ分レル

〔委員長退席、泉委員長代理着席〕

ソレカラ第四條ニナリマス、前三條ノ目的ヲ以テ集團ヲ結成シタル者、又ハ集團ヲ指導シタル者、同時ニ集團ニ參加シタル者、目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ト、是モ三段ニ書キ分ケラレテ居リマス、大體集團ト云フ名前ガ使ツテアリマス

シマス、其ノ目的ヲ實行スルト云フ目的ガナイ場合ガ多イノデアリマス、隨ヒマシテ第三條ノ規定ヲ設ケタノデアリマシテ、第三條ノ結社ト云フ場合ニ於キマシテハ、第一條ノ結社ガ存在シナイ場合ニ於キマシテ、第三條ノ結社ノ規定ガ働クノデゴザイマス

○三田村委員 今ノ御説明ハ分リマシタガ、結社ソレ自體ガ國體變革ヲ實行スルト云フモノノミニ、第一條ヲ適用シテ居ルト云フ御説明ノヤウデアリマスガ、從來ノ實際ノ適用ハ、必ズシモサウデハナカツタノデアリマセスカ、一寸補足的ニ申上ゲマス、第三條ノ只今ノ御説明ニ關聯シテ、第二條ノ問題モ當然ソコニ出テ來ルノデアリマスガ、玆ニ言フ第三條ノ結社ハ、ソレガ第一條ノ結社ニナツタ時ニハナクナリマス、併シ第一條ノ結社ガナクテモ、第二條ノ結社ハ存在シ、或ハ六條以下カ五條以下ノ犯罪ハ成立スル、詰リ實體ガナクテモ、具體的ニ申シマス、日本共産黨ノ存在ガナクテモ、實際出來テ居ナクテモ、日本共産黨ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ハアリ得ル譯デス、サウシテ又ソレヲ支援スル外郎團體ノ組織活動モアリ得ル譯デアリマス、實際問題トシテ、警視廳、内務省、司法省ガ協力サレテ、共産黨ヲ叩キ潰シ、全部ナクシテシマツタト云フ場合デモ、共産黨運動ト云フモノハアル譯デスカ、第一條ニ代ルベキ第三條ノ結社ハアリ得ル、ソレハ此ノ條文ヲ見ルト其ノ通りデアリマシテ、大體觀念的ニハサウ言ヘルト思ヒマスガ、第一條ノ結社行爲ト云フモノモ、其ノ結社自體ガ國體變革ヲ實行スルト云フコトヲ、必ズシモ絕對ノ目標ニシテ居ナイ場合ガア

ラ、組織デナクシテ結成トアリ、加入デナクシテ參加トアリ、其ノ下ニ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者、是ハ同ジデアリマスガ、三條ト四條ノ關係、ソレカラ一條ト二條トノ關係、一條、二條ハハツキリシテ居リマスガ、三條、四條ニ關ツタ結社行爲、ソレカラ加入行爲、目的遂行行爲、此ノ三ツニ付テ成ベク具體的ニ御説明ヲ願ヒタイ

○太田政府委員 御答へ致シマス、第三條ヲ申上ゲル前ニ、第一條ヲ一寸申上ゲタイト思ヒマス、第一條ハ國體變革ノ目的ヲ實行スル結社ニ關スル規定デアルト云フヤウニ、從來カラ解釋セラレテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ從來實際ノ適用ニ於キマシテモ、現行法ノ第一條ニ關スル問題ノ適用ニ於キマシテモ、其ノ結社ガ自ラ其ノ目的ヲ實行スルコトヲ擔當スルト云フコトヲ要件トシテ解釋シ、且ツ運用セラレテ居ルノデアリマス、今マデニ第一條ノ結社ト認メラレマシタ結社ハ、相當ニ澤山アルノデアリマス、總テ其ノ實行ノ主體的ノ團體ト云フコトニ認メラレタモノニナツテ居ルノデアリマス、然ルニ現在ニ於キマシテハ、自ラソレヲ實行スルト云フヨリハ、寧ロサウ云フ風ナ實行スル團體ヲ作ツテ、ソレニ依ツテ其ノ目的ヲ到達シテ行カウ、言ヒ換ヘマスルナラバ、サウ云フヤウナ團體ヲ作り上ゲテ、ソレガ出來上ル際ニハ、自分ハ自分ノ團體ヲ解消シテ、サウ云フ風ナ團體ノ中ニ入り込ムト云フヤウナ團體ガアルノデアリマス、ソレガ先程仰シヤイマシタヤウナ、準備會的ナ團體ナノデアリマスガ、其ノ準備會的ナ團體ハ、一條ノ團體ヲ作り上ゲルト云フコトダケガ目的デアツテ、其ノ團體自體ト致

ルカラ、單ニ國體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ、結社組織ヲスレバ宜イノデアツテ、ソレガ實行ト云フコトニナルト、實行ノ能不能ガアリマスシ、サウ嚴格ニ言ハナクテモ、從來ノ取締狀況カラ見テモ、第一條ノ説明ハ付クノデハナイカト思フノデアリマスガ、其ノ點ハ如何デスカ

○太田政府委員 一寸速記ヲ止メテ……

〔速記中止〕

○三田村委員 今ノ御説明ハ分リマスガ、其ノ御説明何フト、少々立法ノ沿革ニ入ラナケレバイカヌノデハナイカト思フノデス、此ノ治安維持法ハ御承知ノ通り、所謂社會主義取締トシテ出來タモノデ、實體ハ日本共産黨ノ取締ノ爲ニ出來タト云フコトニナリマシテ、御話ノ如ク日本共産黨ト云フモノガ、實ハ此ノ治安維持法制定ノ主要目的デアリ、其ノ結社組織、結社加入、其ノ目的遂行ト云フモノガ、大體取締ノ目標ダツタト思ヒマス、ソコデ日本共産黨ト云フモノガ、常ニ治安維持法ヲ改正スル際ニ考ヘラレ、之ヲ適用スル際ニ浮シテ來ルノデアリマスガ、實際ハ今御話ノ通り、私ハ日本共産黨ノ存在其ノモノヲ餘リ多ク問題ニシナイノデス、ソレハ「コミンテルン」トノ關係ニ於テ日本共産黨ハアル、實際檢舉シテモ檢舉シタ後ニ殘ルコトガアルノデスカ、是ハ御話ノ通りデアリマス、唯是ガ有機的ニ存在スルカ、或ハ法律上觀念的ニ存在スルカハ別ト致シマシテ、兎ニ角アルト云フコトハ言ヘルノデス、同時ニ是ハ日本共産黨ダケデハナイノデス、日本共産黨トシテ「コミンテルン」トノ關係ガナクテモ、國體變革ヲ目的トシタ結社ハアリ得

一條ノ結社ニナラナイノデアリマス、之ヲ法律的ナ言葉デ申シマスレバ、第三條ノ此ノ組織行爲ハ、第一條ノ組織行爲ノ豫備行爲ニ該當シテ居ルト思ヒマス（同第四回）

(7) 第四條關係

○三田村委員 御考ヘノ點能タ分リマシタ、ソレデハ第四條ノ行爲ノ内容ヲ少シバカリ何ヒタイノデアリマス、集團ヲ結成スル、勿論此ノ集團結成ノ目的ハ、第一條、第二條、第三條、即チ團體ヲ變革スル目的ヲ持ツテ居ルトカ、團體ノ變革ヲ目的トシタ結社ヲ支援スルコトヲ認識スルトカ、又其ノ準備ノ爲ノ準備行爲デアルト云フヤウナコトヲ認識スルコトガ必要デアリマスガ、目的ヲ以テ集團ヲ結成シタ場合ト云フノハ、ドウ云フ場合デアリマスカ

○太田政府委員 此處ニ申シマス集團トハ、是ハ規定ノ第一條、第二條、第三條、第四條ト來マス關係カラ、自ラ讀ム人ニ分ルト思フノデアリマス、要スルニ一ツノ團體ガアリマシテ、其ノ團體ガ結社ノ要件ヲ缺イテ居ル場合ガ、此ノ集團ニナルノデアリマス、結社ハ申スマデモナク、多數人ノ任意ナル相當鞏固ナル結合體デナケレバナラス、共同目的ヲ持ツテ居ラナケレバナラス、永續的ノモノデナケレバナラヌト云フヤウナ、各種ノ要件ヲ具備シナケレバ結社ニナラナイノデゴザイマス、所ガ最近ニ於キマスヤウナ分散的ナ運動形態ニナツテ參リマス、左様ナ鞏固ナル結合體デハナイ、ト云ツテ又或ル程度ノ結合體ヲ持ツテ所ノ團體ガ、運動ノ主體ニナルコトガ往々ニシテアル

ル譯デス、從來デモ「コミンテルン」トノ關係ガナクシテ、同じ性質ノモノガアツタノデス、サウスルト第一條ノ結社ノ組織ヲ準備スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者ト云フノハ、第一條ノ結社ニナリハシナイカ、斯ウ思フノデス、勿論今日所謂左翼ノ運動、共產主義運動ハ非常ニ複雑ニナツテ、御苦心ノ程ハ分リマス、斯ウ云フ色々ナ場合ヲ想像シタ規定ノ要ルコトハ分リマスガ、解釋論トシテハ、第一條「團體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者」モ、第一條「結社ノ組織ヲ準備スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者」モ、ヤハリ第一條ノ結社ナノデス、第一條ニ現ハレテ居ル文字ヲ見マス「準備」ト云フ言葉ハ使ツテアリマセヌシ、「準備運動」トシタル者「トモ書イテナイ」ノデス、唯一「結社ヲ組織シタル者」ト書イテアリマスカラ、サウスルト第一條ノ目的ハ、團體ノ變革ヲ確認シテ居ル譯デス、サウスルト第三條デ結社行爲ヲ確認出來ルナラ、ソレハ私ハ解釋論カラ言ツテ、第一條ノ結社ニナリハシナイカ、第一條デ押ヘラレハシナイカト云フ氣ガスルノデスガ、此ノ點ハ如何デセウカ

○太田政府委員 第一條ハ「團體ヲ變革スルコトヲ目的トシテ」ト云フ風ニ規定シテ居リマシテ、此ノ結社組織ノ動機ガ此ノ目的ニ出デナケレバナラス、又此ノ目的ハ變革スルト云フ其ノ行爲ヲナスト云フコトガ、目的デナケレバナラナイノデアリマス、左様ノ目的ノ下ニ結社ヲ組織致シマスレバ、勿論第一條ノ結社デゴザイマスガ、然ラズシテ第三條ノ、サウ云フ結社ヲ作ルト云フ準備ヲスル結社デアリマス場合ニ於キマシテハ、第

ノデアリマス、隨テ左様ナモノヲ團體其ノモノトシテ處置スル必要ヲ認メマシテ、第四條ノヤウナ規定ヲ置イタノデアリマシテ、要スルニ此ノ集團ト云フノハ、結社ノ要件ヲ缺イテ居ル場合ノ團體デアルト云フヤウニ、觀念シテ戴キタイト思ヒマス、尙ホ此ノ結成ト云フ言葉デアリマスガ、現在マデニ第一條、第二條乃至第三條ニ書カレテ居リマス組織ト云フ言葉ガ、是ガ契約ニ依ツテ成立スル、二人以上ノ者ノ相互ノ意思ノ合致ニ依ツテ成立スルト云フヤウニ解釋セラレテ居リマシテ、組織ト云フコトハ契約デアルト云フヤウナ既成ノ概念ガゴザイマス、所ガサウ云フヤウナ契約ニ依ツテ、多數人ノ結合ガ出來ルヤウナ形ヲ取ラズニ、多數人ノ團體ガ出來ル場合ガアルノデアリマス、一方的ナ行爲ニ依リマシテ、或ハ合同行爲ニ依リマシテ、多數人ガ結合セシメラレル場合ガアルノデアリマス、隨テ此ノ組織ヨリモ廣イ概念ニ對シマシテ、結成ト云フ言葉ヲ使ツテ居ル次第デゴザイマス

○三田村委員 サウシマス、斯ウ云フ言葉ヲ使ツテ、語弊ガアルカドウカ分リマセヌガ、何々文藝協會トカ、何々劇團、何々俱樂部ト云フヤウナモノモ、其ノ對象トナル譯デスカ、是ハ第二條ノ所謂支援結社ニモ當ラナイ、又第三條ニアル準備結社デモナイ、併シ其ノ性質ハ非常ニ左翼的デアリ、イケナイモノデアルト云フヤウナモノガアリ得ル譯デスカ、サウ云フ團體ヤ協會ハ此ノ第四條ノ對象ニナルノデスカ

○太田政府委員 御話ノヤウナ團體ガ、此ノ第一條乃至第三條ノ目的ヲ以テ結成セラレタ場合ニ於テハ、該當スル場合ガアル

ト思ヒマス

○三田村委員 此ノ目的ノ認識ノ問題デス、私ハ第七條ニ付テモ御伺ヒシヨウト思ツテ居リマスガ、其ノ結社目的ノ全部ガ、茲ニ所謂團體變革乃至其ノ支援ト云フコトヲ目的トシテナクテモ、其ノ目的ノ要素ノ中ニ何「パーセント」カ、或ハ五分ノ一カ、三分ノ一カ、七分ノ一カ分リマセヌケレドモ、其ノ目的トシテアツタ場合ハ、其ノ集團結成ノ目的ガ、必ズシモ全部的ニ該當スルニ合致シナイデモ、其ノ目的ノ要素ノ中ニ含マレル場合ハ、之ニ該當スルノデナイカト思ヒマスガ、是ハドウデセウカ

○太田政府委員 勿論左様ニ私共モ解釋致シテ居リマス、此ノ第四條ニ記載シテアリマス前三條ノ目的ハ、何モ是ガ主たる目的ヲ以テ結成サレルコトノ必要ハナイノデアリマス、ソレガ從タル目的デアル場合ニ於テモ、勿論此ノ第四條ニ觸レルト思ヒマス、例ヘテ見マスルナラバ、或ル藝術的ナコトヲ目指シマシテ、文化團體ヲ作ル、其ノ文化團體ヲ作ツテ藝術上ノ精進ヲスルト云フコトガ、主たる目的デアルト致シマシテモ、其ノ反面ニ於キマシテ、此ノ第四條ニ記載シテ居リマスヤウナ目的ヲ、副次的ニ持ツテ居リマスナラバ、其ノ團體ハ第四條ニ觸レル場合ガ勿論アルト思ヒマス

○三田村委員 サウシマス、モツト端のナ言ヒ方ヲスルト、日本共產黨トカ、其ノ支援結社トカ云フモノノ認識ハナクテモ、左翼的デアリ、社會主義デアリ、「マルキシズム」ノ認識ヲ持ツテ集團ヲ結成スレバ、此ノ第四條ニ該當スル譯デスカ

○太田政府委員 左翼ノ場合ニ於テハ、大體サウ云フコトガ言

ヘルト存ジマス、ソレハ左翼ニ於キマシテハ、理論ト實踐トノ
辨證法的統一ト申シマスガ、サウ云フ理論ト實踐トガ全ク不可
分ノ關係ニアル場合デアリマス、隨テ左翼ニ付テハ、御話ノヤ
ウナコトハ言ヘルト思ヒマス

○三田村委員 是非必要ナ規定ダト私共考ヘマスガ、是非運用
ノ如何ニ依ツテハ、非常ニ範圍ガ廣クナルノデハナイカト思ヒ
マス、例ヘバ學生ノ集團デモ、何々俱樂部トカ、或ハ何々協會
ト云フモノヲ學生ノ中デ作ル、サウ云フモノデモ社會科學ノ研
究トカ何トカ云フモノヲ随分ヤルモノデス、サウ云フモノガ非
常ニ頻繁ニナツテ來、其ノ動向ニ注意スベキモノガアレバ、御
話ノ通り今ノ「マルキシズム」ト云フモノハ、理論ト實踐ガ一
ツニナラナケレバ、其ノ性格ヲ把握出來ナイモノデス、サウス
ルト結局其ノ方ヘ進ンデ行ク、第四條ノ構成要件ヲビツタリ具
ヘルコトニナルノデナイカト思ヒマス、必要ナ規定ダト思ヒマ
スガ、運用ノ如何ニ依ツテ範圍ガ非常ニ廣クナルノデナイカト
云フコトヲ、實ハ惧レルノデス、其ノ點大體ノ邊ノ所マデ狙
ツテ居ラレルカ、其ノ狙ヒ所ヲ伺ツテ置キタイノデアリマス
○太田政府委員 此ノ第四條ノ集團ノ場合ニ於キマシテハ、結
社ト違ヒマシテ、集團自體ガ共同ノ目的ヲ有スルコトヲ必要ト
シナイ場合デアリマス、前三條ノ目的ヲ以テ達成シ、或ハ指導
ヲスレバ宜イノデアリマシテ、集團自體ガ前三條ノ目的ヲ以
テ、ソレガ共同目的デアルト云フコトヲ必要トシナイ場合デア
リマス、隨ヒマシテ、此ノ集團ノ參加者ガ、直チニ此ノ集團ガ
前三條ノ目的ノ下ニ伴ラレタモノデアルカドウカト云フコトヲ

認識シナイ場合ガ、往々ニシテアルカト存ジマス、隨テ其ノ認
識ヲ缺キマシテ、此ノ集團ニ參加シタヤウナ者ヲ、無罪ニ處罰
致シマスヤウナコトガアリマス、非常ニ工合ガ惡イト存ジマ
ス、隨ヒマシテ第四條ニ於キマシテハ、第一條乃至第三條ノ場
合ト違ヒマシテ、情ヲ知リテ集團ニ參加シタト云フヤウナ、參
加ニ際シテ認識ガアレバト云フヤウナ點ヲ特ニ避ケマシテ、ヤ
ハリ「前三條ノ目的ヲ以テ集團ニ參加」スルコトヲ必要トス
ル、即チ參加スル動機ガ、第一條乃至第三條ノ目的ニ出ルコト
ヲ必要トスルト云フヤウニ規定致シマシテ、御心配ノコトノナ
イヤウニ、特ニ注意シテ規定致シタ積リデアリマス

○三田村委員 能ク分リマシタ、學生ナドノ俱樂部トカ、協
會トカ云フモノハ、往々ニシテ斯ウ云フ危險ヲ持ツノデス、第
四條ノ規定ハ必要デアリマスガ、今御話ノ通りデアラナラバ、
其ノ趣旨ヲ十分學校當局ニ徹底セシメテ置イテ置キタイノデ
ス、今ノ御話ノ通り、例ヘバ早稻田ノ中ニ俱樂部ガアル、其ノ
俱樂部ノ組織者ノ一、二ノモノハ、三條ノ目的ヲ持ツテ居ル
ガ、大多數ノ者ハ其ノ俱樂部ノ名稱ニ依ツテ入ツテ居ルノデ、
目的ヲ認識シテ居ナイ、其ノ中デ目的ノ認識ヲ持ツテ居ル者
ハ、第四條ニ該當スルガ、其ノ他ノ者ハ該當シナイト云フ場合
ガ多イト思フノデス、斯ウ云フ場合ガ非常ニ危險ナノデ、實サ
ナケレバイカト思ヒマスガ、能ク其ノ點徹底シテ置カスト、
非常ニ大キナ誤リヲ犯スノデス、是非其ノ點ハ御注意ヲ願ヒタ
イ(同上)

○小畑委員 結社ト集團ノ區別ニ付キマシテモ先般御答辯ヲ伺

ツタノデアリマスガ、結社ノ要件トシマシテ御答辯ニ現ハレタ
所ニ依リマス、第一ニ結社ハ多數人ノ相當鞏固ナル結合體デ
ナクテハナラヌト云フコト、第二ニ共同目的ノ存在ガナケレバ
ナラヌト云フコト、第三ニ永續的ノ性格ガナケレバナラヌト云
フコト、此ノ三ツヲ御答辯ニナツタヤウニ思フノデアリマス
ガ、私ハ此ノ共同目的ノ存在ト云フコトハ集團ニ於テモ必要ナ
コトデアツテ、單ニ此ノ要件ヲ缺クガ故ニ結社ニアラズシテ集
團デアルト云フコトハ言ヘナイ、斯ウ云フ風ニ思フノデアリマ
ス、即チ共同目的ノ存在ト云フコトガ、集團ニ於テモ缺クベカ
ラザル要件デアルト云ヒマスノハ、第四條ニ於キマシテモ「前
三條ノ目的ヲ以テ集團ヲ結成シタル者」斯ウ云フコトニナツテ
居ルノデアリマスガ、即チ前三條ノ目的ヲ以テ集團ヲ結成スル
ト云フコトハ、取リモ直サズ共同ノ目的ガ存在スルト云フコト
デアルト思フノデアリマス、ソレカラ永續的ノ性格ノ問題デアリ
マスガ、是モ、集團ガ單ナル集團ト其ノ意義ヲ異ニ致シマスル
點カラ考ヘテモ明瞭デアリマスガ如ク、集團モ永續的ノ性格ヲ
有スルモノデアル、此ノ點ニ付テ結社ト集團ヲ明カニ區別スル
標準ヲ求メルコトハ、困難デアルト思フノデアリマス、一集團
ヲ結成シタル者トアリマスガ、結成ト云フ言葉ノ如キハ、是
ハ永續的ノ團體ニ用ヒラレル言葉デアリマシテ、其ノ時ニ會合ヲ
シマシテ、サウシテ其ノ時ニ直チニ解散ヲシテシマフト云フヤ
ウナ所謂會合デアリマシタナラバ、結成ト云フコトハナイ管デ
アルト思フノデアリマス、ソレカラ、多數人ノ相當鞏固ナル結
合體ガ結社デアツテ、集團ハ然ラザルモノデアルト云フコトデ

アリマスガ、此ノ多數人ノ相當鞏固ナル結合體ト云フコトハ、
相當鞏固ナルト云フヤウナコトハ、是ハ程度ノ問題デアリマシ
テ、中々容易ニ判別シ難イコトデアルト思フノデアリマス、殊
ニ其ノ結合體ガ多數人ノ相當鞏固ナル結合體デアルカドウカ、
結合體ノ強弱ニ依ツテ處罰ノ程度ヲ上下スルト云フコトハ、刑
事政策ト致シマシテモ適當デハナイノデヤナイカト思フノデア
リマス、其ノ結合ガ極メテ鞏固ナル場合ハ重キ刑ヲ科スル、其
ノ結合ガ或ル程度鞏固デアルケレドモ相當鞏固デハナイト、其
ノ刑ヲ輕タスルト云フガ如キコトハ、理由ガナイヤウニ考ヘラ
レルノデアリマス、現行法ハ此ノ集團ト結社トノ區別ヲ致シテ
居ラヌノデアリマスガ、特ニ結社カラ集團ヲ切離シテ別ノ規定
ヲ置イタト云フコトハ、ドウ云フ譯デアルカ分ラヌノデアリマ
ス

○太田政府委員 御尤モナ御質問デアリマス、此ノ第四條ノ集
團ニ關シマスル規定ハ最近思想情勢ノ運動形態ニ對應致シマシ
テ、結社ニ至ラナイ多數人ノ集合體ガ相當多クアリマスノデ、
之ヲ個々ニ處置致シマスルヨリハ、ヤハリソレヲ其ノ團體ノ形
ニ於テ處置致シタイト云フ風ニ考ヘマシテ、第四條ノ規定ヲ設
ケタ譯デアリマス、ソレデ、此ノ集團ト結社トノ違ヒマス點
ハ、只今御話ノアリマシタ通りデアリマシテ、結社ニハ種々ノ
要件ガ必要ダト云フ風ニ説カレテ居リマシテ、既成ノ法律概念
ヲナシテ居ルノデゴザイマスガ、其ノ要件ヲ一ツデモ缺イテ居
リマス場合ニ於キマシテハ、之ヲ結社ト見ニクイノデゴザイマ
ス、ヨコデ此ノ集團ノ規定ヲ設ケザルヲ得ナカツタノデゴザイ

マス、例へて見マスルナラバ、數人ノ「グループ」ガアリマシテ、是ガ一回二回ハ其ノ連中ガ全部出テ來テ會合シタ、所ガ三回目カラボツ、其ノ中カラ脱落シテ來タ、又或ル場合ニハ、少シ無理ニ本人ヲ呼ビニ行カナケレバ其ノ會ニ出テ來ナイト云フヤウナ結合力ノ「グループ」ナ小サナ團體ガアルノデアリマス、斯ウ云フモノヲ「結社」トシテ一寸處理シ得マセヌシ、又事實上結社トシテ取扱フテ居ラレナイノデアリマスガ、サウ云フ風ナ「グループ」ノ「結成者」之ヲ作リ上ゲタ者ハ、單ナル個々ノ行爲トシテ之ヲ處置スルヨリモ、ヤハリサウ云フ一ツノ團體ヲ作り出シタト云フ點ニ重點ヲ置イテ、ソレヲ多少重ク處置シナケレバナラヌ必要ガゴザイマスノデ、サウ云フ風ナ團體ヲ集團ト云フ風ニ考ヘタイト思フタ次第デゴザイマス、其ノ他、共同目的ノ點ニ致シマシテモ、ソレカラ又結合力ノ點ニ致シマシテモ、結社ト稱ス爲ニハ相當ソレガ明確ナ、又形ノハツキリシタモノデナケレバナラヌ、解釋上モ左様ニ言ハレテ居リマス、又實際ノ取扱ニ於テサウデナケレバ、結社ト認メテ居ラナイノデゴザイマス、其ノ程度ニ至ラナイモノガ非常ニ多クゴザイマスノデ、集團ノ結成ト云フ新シイ規定ヲ置イテ見タ次第デゴザイマス、要スルニ、今御話ノアリマシタヤウニ、結局或ル程度マデ參リマス、是ハ其ノ團體ヲ提ヘテ之ヲ具體的ニ檢討シタ上デナケレバ、結社ニナルカ、或ハ集團ノ程度ニ止マルカト云フコトハ、ハツキリシナイ場合ガアラウカト存ズルノデアリマス、要スルニ其ノ兩者ノ區別ハ最後ニ參リマス、是ハ具體的ノ形ヲ見マシテ、結局客觀的ノ通念ニ依ツテ定メナケレバナラナイ

場合ガ多カラウカト存ジマス（同第六回）
○山隈廉君 ソレデハ其ノ點ノ質問ハ此ノ程度ニ打切りマシテ、更ニ御尋ネテ致シタイコトハ、第四條ノ集團ノ結成ト云フ、集團ト云フ文字ハ治安維持法ノ沿革カラ言ヒマシテモ初メテ現レタ文字ノヤウデアリマス、此ノ法律上ノ定義ヲ正確ニ致シテ置キマセヌト、實際集團ノ結成ノ程度ニ至ツタカ、至ラナイカニ付テノ頗ル疑問ガアラウト思フノデアリマス、今迄政府ノ方ガ衆議院等デ御説明ニナツテ居ルノヲ拜見致シマスレバ、結社ハ特定ノ人ガ其ノ間ニ意思ノ合致ヲシテ、共同ノ目的ヲ以テ、永久ノ性質ニ依ツテ結合サレタモノデアル、是ハマア議論ノ餘地ハナイ、御説明ヲ煩ハサヌデモ明白ノコトデアリマス、集團ト共同ノ目的ヲ必要トセズ、特定ノ人ヲ必要トセス、斯ウ云フヤウナ意味ニ連記録見タヤウデアリマスガ、尙此ノ點明確ニ一ツ集團ノ定義ヲ御示シテ願ヘレバ幸ヒデアリマス
○政府委員（三宅正太郎君） 此ノ結社ト申シマスモノハ只今御言葉ニアリマシタヤウニ共同ノ目的ノ爲ニスル特定多數人ノ相當固且ツ永續性ヲ有スル結合ト云フコトニ致シテ居リマス、而シテ集團ハ結社ニ達セザル多數人ノ團結又ハ結合ヲ謂フト、斯ウ云フ定義ヲ致シテ居ルノデアリマス、是ハ實ハ、殊ニ共產主義ニ於キマシテノ結社ト申シマスモノハ、相當是ハ沿革ノアルコトデアリマシテ、「レーニン」ハ先ヅ其ノ組織ヲ組織セヨ、是ガ「レーニン」ノ非常ナ良イ言葉トシテ共產主義者ハ言ツテ居ル、組織ヲ組織セヨ、ソレカラシテ一ニモ組織、二ニモ組織、三ニモ組織、斯ウ云フコトヲ言ツテ居ル、兎ニ角此ノ思

想ト云フヨリモ、組織ノ力デ共產主義ヲ傳播シヨウ、斯ウ云フ考ヘ、從ツテ其ノ關係デ出テ來マシタ組織デアリマスカラ、其ノ所謂結社デアリマスモノハ、唯漠然タル多數人ノ集會デハナイ管デアリマシテ、其ノ間ニ結束ガアリ、其ノ間ニ意思ノ鞏固ナル共通點ガナケレバナラナイノデアリマス、ソレヲ目掛ケタノガ結社デアツタノデアリマス、處ガ御承知ノ通り、其ノ結社バカリダト思ヒマス、段々人民戰線以來ハ、ソシテ結社ヲ表面ニ出シタノデヤ、却テ共產主義ノ宣傳ニナラナイノデアリマスカラ、忽チ之ヲ後ロニ隠シマシテ、サウシテ唯漠然タル集團ト云フ、要スルニソシテ組織ヲ持タナイ、結社ヲ持タナイ集團ヲ作リマシテ、サウシテ、其ノ集團ノ力ニ依ツテ段々ニ宣傳シテ行カウ、斯ウ云フ譯デアアル、從ツテ結社ノ程度ニ達セザル多數人ノ團結又ハ結合ト申シマス、即チ一面ニ於テ、目的ノ點ニ於テ結社程ノ相互ノ諒解、理解ガナイコト、ソレカラ構成員ノ特定性ニ於テモ結社ト稱セラレル程ノ結束性ガナイコト、更ニ又從ツテ集團ノ永續性ト云フコトニ付キマシテモ、結社程ノ永續性ヲ持タナイト云フコト、サウ云フコトヲ結局結合力ニ於テ薄弱デアアル、斯ウ云フコトニナリマス、デアリマスカラ、多數人ノ勿論團結、結合デアリマスレドモ、結社程ノ結束力ヲ持タナイモノダト、斯ウ云フ風ニ御諒解ヲ願ヘバ宜イノデアリマス
○山隈廉君 結社ノ方ハ今御示シノ如ク、共同ノ目的ヲ以テ特定人ガ意思ノ結合ニ依ツテ永續性ヲ持ツテ居ル、從ツテ法律上

ノ性格ヲ備ヘテ居ルヤウデアリマス、此ノ故ニ組織ト云フ文字モ極メテ適當ナ意義ヲ成スト思ヒマスガ、集團ハ共同ノ目的デナク、意思ガ其ノ間ニ若干ハ通ジテ居リマシテモ、意思ノ共通ト云フコトヲ條件トシナイ、永久性モナイ、結局サウ云フ思想、若クハ思想ヲ懷イタ者ガ集ツタ状態ヲ指シテ、集團ト云フデハナカラウカ、ソコデ此ノ結成ト云フ文字ハ、私ハ將來非常ニコイツハ問題ガ起リハシナイカ、自然ノ集團、サウ云フ不逞ノ人間ガ密集ツテ結社ノ程度ニ至ラズ話合ヒマスルト云フコトモ、是ハ處罰ノ對象ニナツテ宜シイガ、結成ト云フ文字ガアル以上ハ、所謂密集ツタバカリデハ結成ハシテ居ナイ、結成ト云フ文字ハ將來ソコニ、多少紛議ヲ來シハシナイカト云フコトヲ衷心ヨリ心配ヲ致シマスカラ、此ノ點一ツ伺ヒタイ
○政府委員（三宅正太郎君） 結成ト云フ言葉ガ少シ強過ギマスト云フ御懸念ガアリマスコトハ御尤モト思ヒマス、併シ大體ニ於キマシテ、前ニ結社ハ組織ト云フコトヲ申シテ居リマス、結社ヲ組織ト云フコトニ比較シマシテ、集團ヲ結成ト云フコトハ、ソレヨリ輕イ意味ニ使ツタ積リデアリマスガ、唯結成ト云フ文字デケテ御覽ニナリマス、何ダカ非常ニソコニ結成式ト云フヤウナ意味ガアリマシテ、強ク響キマスガ、併シ例ヘバ讀書會ヲ開タトカ、或ハ「ハイキング」會ヲ開タトカ云フヤウナコトヲシマシテ、現在デハサウ云フコトデ段々ニ、斯ウ自分ノ同志ヲ集メテ行タト云フノガ、相當行ハレテ居リマスノデ、其ノ集團、ナカノ、忽セニ出來ナイ點ナンデゴザイマス
○山隈廉君 動モ致シマス御説明ガ實際ニ即シタ御説明デア

ツテ、私ノ間ハムトスルノハ結成ト云フ文字ノ法律上ノ見解、之ヲチヤシト決メテドウ云フモノガ此ノ維持法ノ結成デアルト...

○政府委員(三宅正太郎君) 結成ト申シマスコトハ、法律のニ言ヒマス...

○山隈廉君 モウ一遍何ツテ止メマス、餘リ面倒臭クナリマスカラ...

○政府委員(三宅正太郎君) 第四條ノ集團ノ結成ト云フコトハ、結成シタルモノ、即チ集團ノ結成ヲ見マシタモノガ之ニ當ル...

(8) 第五條關係

○三田村委員 ソレカラ「第五條ノ第一條乃至第三條ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ協議」ヲナシタルト云フ...

○太田政府委員 此ノ協議罪ニ付キマシテハ、現行法ノ第二條ニ於テモ規定サレテ居ルノデアリマシテ、現行法ノ第二條ニ於テ...

○三田村委員 第五條ノ後半ノ「若ハ煽動ヲ爲シ又ハ其ノ目的タル事項ヲ宣傳シ其ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル者」...

○太田政府委員 此ノ第五條ニ於キマス宣傳罪ノ構成要件ト致シマシテハ、先ツ第一ニ本條前段ノ場合ト同様ニ、第一條乃至第三條ノ目的ヲ以テ宣傳ヲナスコトヲ必要トスルノデアリマス...

ハ「コミンテルン」ノ指令デアツテ、人民戰線ノ標語デアルト云フヤウナコトヲ知リナガラ、更ニ又斯ウ云フ言論ヲナスコトハ、反戦主義ノ思想ヲ大ニ感シナラシメルノダト云フヤウ...

○太田政府委員 御話ノヤウニ、第五條ノ宣傳ノ場合ニ於キマシテハ、共產黨ノ目的遂行ノ爲ニスルト云フ意思ハ必要ゴザイマセヌ...

モノト存ジマス、併シナガラ此ノ事項ガ指示セラレルコトヲ必要トスルト申シマシテモ、變革ノ手段方法等ハ、必ズシモ宣傳行爲自體ニ於テ指示サレルコトハ必要ハナイト思ヒマス...

○三田村委員 御話ノ通り最も重要ナル規定ダト思フノデス、此處テ私ガ一ツハツキリ御尋ネシテ置キタイト思フノハ、五條ニ所謂煽動モ宣傳モ、實ハ是ハ獨立罪ナノデス...

ハ「コミンテルン」ノ指令デアツテ、人民戰線ノ標語デアルト云フヤウナコトヲ知リナガラ、更ニ又斯ウ云フ言論ヲナスコトハ、反戦主義ノ思想ヲ大ニ感シナラシメルノダト云フヤウ...

希望ヲ以チマシテ、其ノ宣傳行爲ヲ致シタ場合ガ、本案ニ觸レ
ルコトニナルノデアリマス

○三田村委員 其ノ點ハ此ノ解釋トシテ非常ニ難カシイノデ
ス、今ノ御説明モ、實ハ私ノ聽キ方ガ惡カッタト見エテ二段ニ
ナツタヤウナ氣ガスルノデス、初メハ目的ノ認識ガナクテハナ
ラヌト云フ御話デシタガ、後ノ御話ハ、御言葉ノ中ニ國體變革
ノ希望ヲ以テト云フヤウナ御言葉ガ出テ來タノデス、ソレデ私
ハ勿論斯ウ云フ行爲ハ徹底的ニ押ヘナケレバナラヌト思ヒマス
ガ、ドウカスルト片言隻句ヲ捉ヘテ押ヘラレルコトガアルノデ
ス、才前ハ國體變革ノ宣傳ヲヤルノチヤナイカ、社會主義ノ宣
傳チヤナイカト——宣傳ト云フ用語モ、今ノ御説明デハ非常ニ
嚴密ナ御解釋ノヤウデアリマスガ、實際法律用語トシテ宣傳ト
云フ言葉ヲ使ツタ場合ハ、ソノナニ嚴密ナ要素ヲ必要トスルノ
チヤナイヤウナ氣ガスルノデス、例ヘバ不特定多數人ノ場合、
大勢ノ前ニ出テ來テ言フト云フコトハ、自分ノ言論ニ依ツテ其
ノ相手方ヲ説得シ、納得セシメテ、自分ノ意思ニ合流セシメ、共
鳴セシメルト云フ、強イ意思ガソコニ作用シテナクテモ、其ノ多
數人ノ前ニ行ツテ、多數人ニ對シテソレヲヤルコト自體ガ宣傳
行爲ニナルノチヤナイデセウカ、假ニ全ク反對ノ陣營デアツテ
モ、全然望ミノナイ所ニデモ行ツテ、大イニ主義主張ヲ高調スル
コトハ、此處ニ所謂宣傳行爲ニナルト思フノデス、又サウデナケ
レバ法ノ目的ハ達セラレヌト思フ、其ノ兩面ヲ私ハ持つト思フ
ノデス、意識シナクテモ之ヲ自分ガ説伏セテ自己陣營ニ獲得シ、
乃至ハ共鳴セシメルト云フ目的ヲ以テヤツテモ、サウデナイ場

合モアリマス、又サウ云フ目的ハナクテモ、唯自分ハ左翼ノ思
想ヲ大イニ主張スルノダ、左翼ノ思想ノ認識ハ——勿論認識ガ
ナケレバイケマセスガ、其ノ認識ノ下デヤツタ場合、主張スル
コトニ依ツテ多クノ同志ヲ得ルトカ、自分ノ主義ニ共鳴セシメ
ルトカ云フ意思ハナクテモ、ソレハ宣傳ニナル、是ハ言葉デヤ
ル場合モ文章デヤル場合モ同ジコトデス、雜誌ニ論文ヲ書ク場
合モ、之ニ當嵌マルト思フ、書物ニ書ク場合モ之ニ當嵌マルト
思フ、書物ノ全體ヲ流レテ居ル思潮ヲ見レバ分ルノデスガ、部
分的ニ捉ヘテ行クト、非常ニ多クノ行爲ガ此ノ適用ヲ受ケルヤ
ウニ考ヘラレルノデス、此ノ解釋ヲ「ルーズ」ニスレバ、狙ツ
テ居ル所ハ拔ケテシマヒマスシ、嚴密ニ非常ニ強ク解釋シテ行
クト、非常ニ多クノモノガ此ノ第五條ニ引掛ツテ來ルト思フノ
デス、是ハ新シイ規定デ、適用ノ範圍ガ非常ニ明確ニナツテ居
ナイモノデスカラ、一ツ明確ニ御説明願ツテ置キタイト思ヒマ
ス

マシタモノデスカラ、此處ニ「目的ヲ以テト云フ風ニ、一以
テト云フ言葉ニナツテ居ルノデアリマスガ、一條乃至二條
三條ヲ見マスレバ、目的トシテト云フ言葉ヲ總テ現ハシテ
居ルノデアリマシテ、隨テ此ノ第五條ノ場合ニ於キマシテモ、
一目的トシテト云フコトニ讀ンデ行キタイト存ジテ居ルノデ
ゴザイマス、一目的ヲ以テト云フコトニ讀ンデ行キタイト存
ジテ居ルノデアリマスガ、併シ是ニハ多少判例等ニ
於テモ、認識ヲ以テ足ルト云フヤウナ曖昧ナ判例モアルヤウデ
ゴザイマスガ、此ノ第五條ノ場合ニ於キマシテモ、「目的トシ
テト云フ風ニ是ハ讀ムベキモノデアリマシテ、一目的トシ
テト云フ場合ニ於キマシテハ、現行法ノ解釋ノ下ニ於キマシ
テハ、是ハ單ナル認識デハナイ、相當ナル動機ガソコカラ出發
シテ來ルコトヲ必要トスルト云フヤウニ、大體解釋サレテ居リ
マスノデ、御心配ノヤウナ點ハ、非常ニ除カレルノデハナカラ
ウカト存ジマス、(衆議院治安維持法改正法律案委員會議錄(速
記)第四回)

○小畑委員 共產運動ノ經過等カラ考ヘマスルト、今御話ノコ
トハ能ク分ルノデアリマス、併シナガラ之ヲ取扱ヒマスモノハ
裁判所デアリマシテ、必ズシモ共產運動ト云フモノノ方式、實
體等ヲ徹底的ニ明カニシタ人バカリデハナイト思フノデアリマ
スカラ、解釋上ニ於キマシテモ、又適用上ニ於キマシテモ、色
々ノ疑問ガ生ジテ來ルト思フノデアリマス、此ノ點ハ實際ノ運
用ニ當リマシテ相當ノ注意ト、ソレカラ解釋及ビ適用ノ統一ニ
付テ、適當ナル方法ヲ御考ヘニナル必要ガアルト思フノデアリ

マス、ソレカラ第五條ニアリマスル「其ノ目的タル事項ヲ宣傳
シトアリマスガ、此ノ宣傳ト云フコトハ、御答辯ニ依リマス
ルト不特定多數人ニ對シテ理解ト共鳴ヲ求ムル爲ニ説明スル行
爲、斯様ニ伺ツタノデアリマスガ、第七條ノ流布ト云フコト、
ドウ云フ風ニ違フノデアリマスガ、流布ト云フノハ事實ヲ多數
人ニ告知スルト云フノデアアルト思フノデアリマスガ、其ノコト
ヲ先ヅ伺ヒタイト思ヒマス

○太田政府委員 宣傳ノ場合ニハ其ノ事項ヲ相手方ニ傳ヘテ、
其ノ共鳴ヲ得ルト云フ積極的ナ意圖ヲ包藏シテ居ル場合デゴザ
イマスガ、流布ノ場合ニ於キマシテハ單ニ傳播スルト云フ宣傳
ニ比較致シマシテ、積極的ナ意圖ヲ含ンデ居ラナイ場合デゴザ
イマス(同第六回)

○田口第一君 今山岡委員カラチヨツト御尋ネガアリマシタ
ガ、ソレト似タヤウナコトニナリマスガ、朝憲ヲ紊亂スル目的
ヲ以テ暴動ヲ起シタル者デアルトカ、或ハ其ノ未遂トカ、豫備、
陰謀ハ内亂罪ヲ以テ處罰セラレルコトハ、刑法ニ規定シテ居ル
所デアリマシテ、其ノ刑罰モ相當ニ嚴格ナモノデアリマスガ、此
ノ朝憲紊亂ト云フ中ニ、議會制度否認ノ如キモノガ含まレテ居
ルノダト云フヤウナコトハ、政府ノ方ノ御答辯ニ依ツテ略々伺
フコトヲ得タ譯デアリマスガ、此ノ改正案ヲ見マスルト、第五
條ノ方ニアリマスル所ヲ見ルト、其ノ目的タル事項ヲ煽動シ、
其ノ他其ノ目的ヲ達行スル爲ニスル行爲ヲ爲シタル者ト云フノ
ガアリマシテ、此ノ國體變革ト共ニ私有財産ノ方ニ關シテモ同
様デ、此ノ私有財産ノ方ハ、其ノ目的タル事項ノ實行ヲ煽動シ

ト十一條ニアルヤウデアリマス。始トサウ云フ煽動デア
トカ、宣傳デアルトカ云フコトガ處罰サレテ居ルヤウデア
スガ、此ノ朝憲紊亂ニ對スル煽動的行爲デアルトカ、或ハ教
的行動ト目サレルヤウナモノニ對シマシテハ、現行法ニ依リ
シテハ、何カ取締ノ方法ガゴザイマスノデスカ、此ノ點チヨ
ト御伺ヒ致シタイ

○政府委員(三宅正太郎君) 内亂罪ニ關シマシテ教唆罪ノ成立
ハゴザイマスノデゴザイマス、教唆並ニ從犯執レモ處罰セラレ
ルコトニナツテ居リマス

○田口弼一君 ソレハ教唆ト言ヒマス、或ル特定ノ人ヲ教唆
スルトカ云フヤウナコトデアリマスガ、教唆的ノ一ツノ演説ト
カ、或ハ宣傳トカ云フヤウナ、ハツキリ誰ヲ教唆シタトカ、
ドウシタトカ云フコトデナクテ、多少演説ガ教唆ニ當ルノデハ
ナイカト云フヤウニ思ハレル演説ヲシ、又宣傳ヲスル、宣傳ニ
該當スベキ條文ガゴザイマス

○政府委員(三宅正太郎君) 内亂ニ對スル宣傳罪ト云フモノハ
刑法ニ規定シテゴザイマセ、教唆罪ハゴザイマセケレドモ、
宣傳罪ト云フモノハ、刑法制度當時ニハ宣傳ト云フヤウナ行爲
ハ、謂ハバ普通處罰サレナイ部類ニ入ツテ居リマシタモノデ
ザイマスカラ、刑法ハ教唆迄ハ處罰致シテ居リマス、但今申シ
マスヤウニ、他ノ犯罪ト違ヒマシテ、豫備並ニ陰謀モ處罰スル
コトニナツテ居リマス

○田口弼一君 教唆ト言ヒマス、教唆ノ範圍ハ色々ナシテ
居ルカモ知レマセ、明カニ教唆ニ該當セラレルモノハ、教

唆ノ犯罪トシテ處罰ガアリマスシマシテ、昨日チヨウト私申
上ゲマシタ北一輝ノ禁止ニナツタ著述ノ如キモノハ、是ハ明カ
ニ教唆ト云フノチヤナイカモ知レマセ、非常ナ大張リ教唆
的ノ著述デアルヤウニ見エルノデスカ、誰ヲドウスルト云フノ
デハナクテ、宣傳ト云フヨリ寧ロ非常ナ教唆的著述デアツタ
ウニ思フノデアリマスガ、アア云フ風ノモノハ、昨日ノ御話ヲ
承ルト、何等取締……唯發賣禁止ヲシタダケデアツテ、何等處
罰ガナクツタヤウニ承リマスガ、斯ウ云フモノハ今迄ハ何等法
規ガナクテ處罰セナカツタノデアリマス、規定ガアリマシ
テモ、處罰スル程ノ程度ニ達シテ居ラヌト云フ譯デ御處罰ニナ
ラナカツタノデアリマス、チヨウト此ノ點ヲ……

○政府委員(三宅正太郎君) 文書ニ依リマシテ、左様ナ朝憲紊
亂ニ關スルコトヲ公ニ致シマスル場合ニ於テハ、新聞紙法、又
出版法ガゴザイマシテ、ソレノ處罰セラレルコトニナツテ居
ルノデアリマス、デスカラ今御言葉ニアリマスル北一輝ノ出版
物モ、ソレガ若シ朝憲紊亂、アノ出版法若シクハ新聞紙法ニ當
ルト致シマスレバ、處罰サレテ然ルベキデアツタ譯デアリマ
ス、ドウ云フ關係デ實際ニ於テ處罰サレナカツタカハ、チヨ
ト取調ベナイト分リマセ、元來處罰シ得ル譯デアリマス
(貴族院治安維持法改正法律案特別委員會議事速記録第四號)
○子爵岡部長景君 先程伺ツタ事項ニ付テ、チヨウトマダドウ
モハツキリ、釋然トシナイ所ガアルノデスカ、今度ノ第五條ノ
「其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ協議云々」トアリマスガ、此
ノ元ノ、現行法デスカ、現行法デ、所謂「其ノ目的タル事項ノ

實行ニ關シ協議云々」ト云フノハ、是ハ結社ヲスルコトニ付テ
協議ヲシタト云フ意味ニ解釋サレテ居ルノデスカ、ソレトモ唯
團體破壞ノコトニ付テ何カ相談ヲシタト云フコトデスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 現行法ノ第二條ハマダ所謂、斯ウ
云フ支援結社ヲ準備結社ガゴザイマセ、スウデアリマスカラ、即
チ第二條ト致シマシテハ此ノ目的タル事項ノ實行ト申シマス
トハ、今御言葉ノ通り團體變革ノ事項ニ對シテ協議ヲナシタ
スウナルノデアリマス、結社トハ關係ナシデアリマス

○子爵岡部長景君 サウシマス、其ノ二條、今度ノ所謂改正案
ノ第五條ハ、從來團體變革ノ目的トシタ事項ニ付テノ實行ニ付
テ協議ヲシタト云フモノヨリハ、餘程廣イ範圍ニ適用サレルヤ
ウニナルノデハナカラウカト考ヘルノデスカ、ソレニ付テ今迄
ノ發賣禁止ヲ受ケタ出版者ナドハ、矢張り是ノ中ニ含マレル譯
ニナルノデアリマセウカ、御解釋ハ、内務省ノ方ノ一ツ解釋ヲ
伺ヒタイト思フノデアリマスガ、先ヅ司法省ノ方デ……

○政府委員(三宅正太郎君) 内務省ニ代ツテ御返事申上ゲマ
ス、目的ガゴザイマスレバ、矢張り實行ニ關シテ協議ヲ爲シ又
煽動ヲ爲シタト云フコトニナリマスガ、併シ過去ノ分ハ、是ハ
將來ニ向ツテ處分スルノデアリマスカラ、過去ノ分ハ別デアリ
マスガ、今後ニ於テ斯ウ云フ目的ヲ以テ、實行ニ關シテ宣傳ヲ
致シタトスレバ、勿論入リマス

○子爵岡部長景君 サウスルト、從來ノ實例ニ鑑ミ、從來ノモ
ノニ之ヲ適用スルコトハアリマセケレドモ、假ニ適用シタト
スレバ、餘程多數ノ事犯ガ豫想サレルノデアリマス、ソレト

モ、サウ云フヤウナモノハ極ク少イノデアリマス、
○政府委員(三宅正太郎君) 是ガ出來マシタ爲ニ、特ニ非常ニ
多クナルトハ別ニ思フテ居リマセ、從來ト雖モ團體變革ノ實
行ニ關シテ協議ヲ爲シタ者ハ別シ、煽動モ矢張り第三條デ從來
罰シタルノデスカ、唯今度餘計ニナリマシタノハ、宣傳ガ入リ
マシタコトト、ソレカラ今ノ關係ノ團體變革ノ目的トスルト云
フ行爲ガ、之ニ入リマシタコトデアリマシテ、別ニ第五條ガ出
來マシタカラト云ツテ、特ニ非常ニ處罰對象物ガ多クナルトハ
豫想致シテ居リマセ

○子爵岡部長景君 内務省ノ方ハオイデニナリマセスカ、警保
局長ハ居ラナイヤウデスカ、併シ此ノ宣傳ト云フコトハ、
餘程廣ク解釋シ得ル言葉デアリ、ソレダケニ適用ノ範圍ガ非常
ニ廣マツテ來ルノデハナイカト、私ハ想像スルノデアリ、寧ロ
取ル意味ニ於テハ、相當此ノ適用ハ廣クナツタ方ガ、取締ノ目
的ニ關フノチヤナカラウカト云フ風ニモ考ヘラレルノデアリマ
スガ……

○政府委員(三宅正太郎君) 勿論、宣傳ト書キマシタ以上ハ相
當ニ廣クナルコトハ、御言葉ノ通りデアリマス
○子爵岡部長景君 サウシマス、大體此ノ治安維持法制定ノ
當時ハ、結社取締ト云フコトガ殆ド全部デアツタカノヤウニ、
我々ハ了解シテ居ツタノデスカ、ソレガ今度ノデハ、結社ト云フ
コトヲ離レテ、單獨ノ行爲デモ非常ニ取締ラレルノデ、治安維
持法ノ根本趣旨ガ非常ニ變ツテ來タヤウニモ考ヘラレルノデ、
サウシマスルト、第一條バカリデナク、今度ハ二條、三條モ結

社ノコトヲ非常ニ重要視サレテ居リマスガ、固ヨリ結社ト云フモノハ、實行ノ點カラ見マシテ、恐ルベキモノデアリニ相違ナインデアリマスガ、法ノ適用ト云フコトニナリマスルト、非常ニ廣範圍ニナルト云フコトデアレバ、サウ云フコトヲ第一條ニ兩方合セテ、治安維持ノ目的ト云フコトヲ、ハツキリサセテ方ガ宜カツタノデハナカラウカト云フ風ニ、是ハマア常識論デアリマスガ、サウ云フ風ナ方法ニ依ラナイデ、今迄ノ治安維持法ヲ大體ニ於テ唯修正ニ依リ、一般ニ對スル適用ト云フコトハ、唯第五條ニテヨツト一句加ベタダケデ以テ、其ノ適用ノ範圍ガ非常ニ廣マツタト云フコトデハ、其ノ體裁トシテ當ヲ得テ居ナイカトモ思フデアリマスガ、斯ウ云フヤウナ修正案ヲ出サレタ御趣旨ヲ伺ヒタイト思ヒマス。

○政府委員(三宅正太郎君) 私共ト致シマシテハ、多少沿革ニ拘泥シタト云フ感ジヲ御持チニナルカモ存ジマセスガ、何ニ致シマシテモ、此ノ治安維持法ガ制定サレマシテカラ、治安維持法ガ目的ト致シマシテ一生懸命ニナツテ防遏ニ努メタノハ、共產運動デアリマス、而シテ共產運動ノ當體ト云フモノハ矢張り今デモ「コミンテルン」デアルト思フデアリマス、「コミンテルン」サウシテ其ノ「コミンテルン」ノ支部デアアル日本共產黨デアルト思フデアリマス、唯併シ「コミンテルン」ノ方ガ、斯ウ云フヤウナ治安維持法ト云フモノノ取締方法ノ先キ滑リヲ致シテ、結社ヲ擱ヘルト云フト、結社ノ方ヲボカシテ、今度ハ結社ノ方ハ隱シテ、サウシテ支援結社ヲ表立テテ出シタリナンカ致シマス、結社ガナクナレバ又再建ト云フコトニ致シマ

ス、サウ云フ風ニ、結社ト云フコトガ限ニ著キマス、又共產運動ガ出來ナイカト云フコト、早速向フノ戰術ヲ變ヘテ、今度ハ個的ニヤルトカ、或ハ集團デヤルトカ、サウ云フヤウニ虚々實々ニ向フガヤツテ來マスガ、實ハ初メ此ノ方ガ正直ニ、日本共產黨バカリダト思ツテ相手ニシテ居ツタ處ガ、向フノ戰術ガ次々ニ變ル、其ノ向フノ動キニ應ジテ、此ノ方ガ又ツレニ「レンズ」ヲ合セタ、「ピン」ヲ合セタト云フ形ニナツテ行クデアリマス、ソレデ今日デモ恐ルベキモノハ矢張り「コミンテルン」デアリ、其ノ「コミンテルン」ガ隱微ニ日本ニ共產黨ヲ作ラウトスル、其ノ根本ノ問題ガ重要ダト思フデアリマス、尤モ此ノ治安維持法ハ、單ニ共產黨バカリデナク、其ノ他ノモノモ取締ル目的ヲ以テ作ラレテ居リマスケレドモ、矢張り何ト云ツテモ、是迄ノ實績上、之ニ依ツテ防遏シナケレバナラヌ目標ノ主タルモノハ共產主義者デアリマスノデ、矢張り斯ウ云フヤウニ、各種ノ戰術ヲ並ニ並ベマシテ、ドレカデ取締ラウト云フ意圖ニ出タノデ、多少複雑化致シマシタコトハ、即チ彼ノ戰術ガ複雑化シタ結果ダト、斯ウ御諒承下サレバ結構ダト思フデアリマス(同第五號)。

○小畑委員 煽動ト云フノハ實行ニ關スルコトデアルト思フデアリマスガ、是ハ實體ハ教唆デアアルデアリマスガ、教唆トハ違フデアリマス。

○太田政府委員 煽動ハ、其ノ實體ハ教唆ト略同ジデアリマス、唯教唆ノ場合ニ於キマシテハ特定人ヲ對象トシテ居リマスニ反シマシテ、煽動ノ場合ニハ不特定或ハ多數人ニ對シテモ煽

動ト云フコトガ行ハレルト考ヘテ居リマス。

○小畑委員 ソレデ刑法ノ總則トノ關係デアリマスガ、煽動ハ教唆ニアラザル場合モアリ、教唆ハ煽動デアリ場合モアル、此ノ兩者ハ必ズシモ其ノ範圍同一デアナイコトハ分ルデアリマスガ、此ガ競合致シマシタ場合、教唆デアリ、煽動デアアルト云フ場合ニ教唆ノ方デアリマシタナラバ、實行ニ至ラザル時、ソレデ罪ニナラヌデアリマスガ、未遂罪ヲ罰スルト云フ規定ガアリマスカラ、實行ニ着手スレバ罰セラルコトデアリマセウガ、着手致サナイ場合ハ成立シナイ、併シ煽動罪ハ成立スルト云フコトマデハ分ルデアリマスガ、是ガ實行ノ着手程度ニ至リマシタ場合、教唆デアリ、煽動デアアル、斯様ニ解釋セラル場合ハ、ドノ法條ニ依ツテ處置セラレルデアリマスカ。

○太田政府委員 只今ノ御問ヒハ教唆ナリ煽動ナリニ基イテ、實行ノアツタ場合デアリマスガ、此ノ第五條ノ煽動ノ場合ニ於キマシテハ、事項ノ實行ニ關スル煽動デアリマスカラ、其ノ煽動ニ基イテ其ノ事項ヲ實行シタ、其ノ煽動ヲ受ケタ者ガ實行シタ場合ニ於キマシテモ、ヤハリ第五條ノ煽動ガ成立スルデアリマス、此ノ煽動ノ場合ニ於テハ相手方ガ實行シタト否トヲ問ハズ、兎ニ角煽動スレバ成立スルコトニ相成ルデアリマス。

○小畑委員 私ハ法律家デアイノデ能ク分リマセマカ、刑法ノ總則ニ依リマス、教唆犯ハ正犯ガ教唆ノ犯罪ヲ實行致シマシタ場合、サウシテ被教唆者ガ實行致シマシタ場合ハ、正犯ニ準ジテ取扱ハレルモノノヤウニ思ツテ居リマスガ、サウ致シマス

ト之ヲ煽動致シタ者ト、煽動ニ依ツテ實行致シタ者ト較べルト、實行シタ者ガ重キ處罰ヲ受ケナケレバナラヌ、刑法總則ノ教唆罪ニ依リマス、其ノ正犯ニ準ジテ同様ニ取扱ハレルト云フコトニナルデアリマスガ、ソレデハ煽動ガ同時ニ教唆デアアル場合ニハ刑法總則ノ規定ヨリハ輕ク取扱フト云フコトニナルデアリマスガ、ソレデ宜シイデアリマスカ。

○太田政府委員 此ノ實行ノ煽動乃至教唆ヲ受ケタ者ガ、其ノ教唆ニ依ツテ犯罪ヲ實行致シマシテ、サウシテ刑法總則ノ規定ニ依ツテ教唆罪ノ成立致シマス場合ニ於テハ、其ノ教唆罪モ亦成立致スデアリマス、隨テ重キニ從ツテ處斷スルコトガ出來ルモノト存ジマス。

○小畑委員 ソレデハ實際ノ問題トシテハ茲ニ謂フ所ノ煽動ト云フノハ、刑法總則ニ謂フ教唆ニアラザル場合ダケヲ此ノ煽動罪ヲ以テ取扱フ、實際問題トシテハサウ云フコトニナルデアリマスガ、イツノ場合ニ於キマシテモ、教唆ト煽動ト較べルト、教唆罪ノ方ガ重イコトニナルデアリマス。サウシマスルト實際問題トシテハ教唆ニ該當スル場合ハ、一年以上十年以下ノ懲役ト云フ此ノ刑ヲ以テ臨マナイ、斯ウ云フ結論ニナルデアリマスカ。

○太田政府委員 大體左様デゴザイマス(衆議院治安維持法改正法律案委員會議事録第六回)。

○政府委員(三宅正太郎君) 午前中ノ閣部委員ノ御質問ニ對シテ御答ヘテ申上ゲマス、第五條ニゴザイマス。第一條乃至第三條ノ目的ヲ以テ「ト」斯ウ云フ字句ノ解釋デゴザイマスガ、是ハ

カラ、一概ニ申セナイコトハ勿論デゴザイマスガ、御承知ノ通り最初ニ此ノ治安維持法ノ出来マシタ時ニ於テ立法者ノ考ヘマシタコトハ、私有財産制度ヲ否認スルト云フ、サウ云フ結社ガ實際ニ於テ多クテ、團體變革ヲ目的トスル結社ハ少イデアラウト云フヤウナ見込ノ下ニ拵ヘタモノデアリマス、處ガ日本共產黨ノ目的トスル所ガ、私共カラ見マスト實ニ驚クベキコトデアリマシテ、團體變革ト云フ方面ニ、所謂君主制ノ廢止ト云フヤウナ不逞ノ方面ニ向ツテ參リマシテ、從ツテ其ノ共產黨ヲ防遏致シマス法律ハ即チ團體ヲ護ルト云フコトニ集中サレテシマヒマシテ、實ハ私有財産制度ノ方ハドチラカト云フト其ノ點ハ謂ハバ、第二義ノ問題ニナツテシマツタノデアリマス、併シナガラ當初ニ考ヘマシタ私有財産制度ノ否認ト云フコトハ、矢張り是ハ團體變革ト云フ問題トシテ現ニ日本共產黨ガ之ノ方ニ發展シテスローガント致シマシタ關係モ之ニアルト存ジマスガ、何處迄モ矢張り私有財産制度否認ト團體變革トハ相違シテ……ト申シマスカ、ソレニ準ジテ矢張り國家ノ基本的ノ秩序ヲ紊ス一ツノ主張ニナルト思フノデアリマシテ、此ノ私有財産制度ヲ治安維持法カラ外ニ出スト云フヤウナ考ヘハ只今デハナイノデアリマス（貴族院治安維持法改正法律案特別委員會議事速記録第五號）

(9) 第七條關係

○中村(高)委員 今マデ吾々ハ治安維持法ト云フノハ共產主義ヲ取締ル法律デアル、斯ウ云フヤウニ考ヘテ居リタノデアリマスルガ、今度ハ此ノ治安維持法ヲ共產主義ハカリテナクシテ、

シテ結社ヲ組織スルトアルノデスガ、是ハ實際ニ於テハドソナ場合デセウカ、團體ヲ否定スルコトヲ目的トスルト云フ結社デ、團體ヲ消極的ニ否定スルト云フダケデ、更ニ進んで團體ヲ變革スルトカ云フヤウナ所マデハ行カヌデ、唯團體ダケヲ否定シテ行タト云フヤウナ結社ガ、一寸想像出來ナイノデスガ、ドウ云フ場合デセウカ

○太田政府委員 御尤モナ御質問ダト思ヒマス、是ハ實ハ主トシテ類似宗教團體ノ場合ヲ考ヘマシテ規定ヲ致シタノデゴザイマス、申スマデモアリマセヌガ、團體變革ト申シマスルト、團體ヲ破壞致シマシテ、別個ノ制度ヲ實現スルト云フコトヲ、變革ト云フ言葉ハ現ハシテ居ルノデゴザイマス、要スルニ現在ノ制度ヲ否定シ、且ツ之ヲ破壞シテ別個ノモノヲ實現スルト云フ、其ノ間ニ因果ノ關係ヲ必要トスルノデゴザイマス、所ガ特殊ナ類似宗教ノ團體ニ於キマシテハ、其ノ一定ノ事態カラ他ノ事態ニ移ツテ行キマス其ノ過程ガ、人ノ力デ移ルノデハナイ、是ハ神ノ——眼ニ見エザル力ニ依ツテ移ル、或ハ天災地變ニ依ツテ移ルト云フヤウナコトヲ申シテ居リマシテ、其ノ間ノ因果ノ關係ヲ缺イテ居ルノデゴザイマス、隨テ是ハ變革トハ申シ切レマセヌノデアリマス、併シナガラ左様ナ思想ヲ流布致シマスコトハ、其ノ禍害ガ變革ノ場合ト同様ニ恐ルベキモノデアリマスノデ、ソコデ只今否定ト云フ言葉ヲ以テ之ヲ現ハシタ條文ヲ設ケタ次第デゴザイマス

○中村(高)委員 民族獨立運動ナドモ、此ノ法律ヲ取締ルノダト云フヤウナ御説明ガアツタヤウデスガ、ソレハドノ條文ニナ

團體ヲ否定シ、又ハ神宮若シクハ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スベキ事項ヲ流布スルト云フヤウナ、從來ノ共產主義取締バカリテナイ方面ニ、此ノ法律ヲ擴大セラレルノガ、此ノ改正案ノ一ツノ目的、ヤウデアリマスガ、神宮若シクハ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スルト云フヤウナコトハ、是ハ何レモ現行刑法ノ不敬罪ニ依ツテ處罰ヲサレテ居ルノデアリマスルガ、唯刑ヲ重クスルト云フコトダケガ目的デアリマスルナラバ、刑法ノ刑ヲ重クスルト云フコトデ目的ガ達セラレルヤウニモ思ハレルノデアリマスガ、刑法ニ同ジ處罰ノ規定ガアルノニ、治安維持法ハ今マデ共產主義ヲ取締ル法律デアツタモノヲ、サウ云フ風ナ刑法ニ規定ガアツテ、刑法ノ中ニ當嵌メナケレバナラナカッタノカ、其ノ點ヲ一ツ承リタイ

○柳川國務大臣 共產主義者ノ思想傾向ニ結社ノ活動ヲナス傾向ガアルノデ、サウ云フ活動ヲ防止スル爲メ立法デゴザイマスガ、詳細ハ刑事局長ヲシテ答辯セシメマス

○秋山政府委員 第七條ノ團體否定、又ハ神宮、皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スルト云フ此ノ規定ハ、是ハ團體ヲ擁護シヨウト云フ考ヘカラ設ケラレタ規定デアリマシテ、尙ホ是ハ所謂結社活動ト申シマスカ、結社トシ活動スル場合ヲ處罰シヨウト云フ所カラ考ヘラレテ居ルノデアリマス、デアリマスカラ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スベキ事項ヲ流布スルトコトヲ以テ結社ヲ組織シタルモノト云フコトニナツテ、ソコニ重點ガ置イテアリマス（衆議院治安維持法改正法律案委員會議事速記録第二回）

○中村(高)委員 第七條ニ團體ヲ否定スルト云フコトヲ目的ト

ツテ居リマスカ

○太田政府委員 民族獨立運動ガ治安維持法ニ觸レルト云フコトハ、今度初メテ左様ニ御説明申上ゲタノデハナイノデアリマシテ、抑々大正十四年ニ治安維持法ヲ制定セラレマシタ時カラ左様ニ解釋セラレ、左様ニ運用セラレテ參ツテ來テ居ルノデゴザイマス、ソレハヤハリ——一寸速記ヲ止メテ……

○服部委員長 一寸速記ヲ止メテ……

〔速記中止〕

○中村(高)委員 サウスルト從來ノ改正前ノ治安維持法デ、獨立運動ハ取締ガ出來ルノダト云フ風ニ解釋シテ宜シイノデスカ

○太田政府委員 勿論左様デゴザイマシテ、現行法ノ下ニ於キマシテモ、獨立運動ヲ團體變革ノ事項トシテ、現ニ起訴致シ有罪判決ヲ得テ居リマス

○三田村委員 第七條、第八條ニ付テ御尋ネ致シマスガ、一國體ヲ否定シ——云々ノ趣旨ハ、先般中村君ガ御尋ネシテ分リマシタ、此ノ一國體ヲ否定シ又ハ神宮若ハ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スベキ事項ヲ流布スルトコトヲ目的トシテハ、是モ一ツノ目的ノ罪デス、目的ノ罪デアリマスガ、是ハ所謂類似宗教トカ何カニ適用サレルモノト思ヒマスガ、此ノ目的モ最初ニ團體變革結社ニ付テ前ニ御尋ネシタ通り、其ノ宗教ノ全部ガ斯クノ如キ目的ヲ持ツテ居ラクテモ、即チ主タル目的ガ此處ニナクテモ、從タル目的ガ之ニ該當シ、其ノ目的ノ或ル部分ガ之ニ該當スレバ、此ノ第七條ノ適用ヲ受ケルト思ヒマスガ、如何デアリマスカ

○太田政府委員 御説ノ通りデゴザイマス、殊ニ類似宗教團體

ニアリマシテハ、反面ヤハリソレガ宗教的色彩ヲ帯ビテ居ルコトガ多クイノデゴザイマス、隨テ不逞ナル思想ヲ流布スル反面ニ於キマシテハ、ヤハリ宗教的ナモノヲ持ツテ居ルコトガ多クイノデアリマスカラ、御説ノヤウナ場合ニハ寧ロ多カラウト存ジマス

○三田村委員 先般米國防保安法ノ委員會デモ、屢ニ論議サレタノデアリマスガ、戰爭ガ長期化シ、又ハ社會情勢ガ非常ニ難カシクナツテ參リマス、宗教的ナ魅力ト云フモノガ非常ニ強イノデス、此ノ宗教的ナ魅力ヲ利用シテ思想運動ガ、益々盛ンニナツテ來ルト考ヘナケレバナラヌト思フノデス、ソレデ斯ウ云フ規定ガ出來タコトハ、非常ニ結構ダト思ヒマスガ、唯新シク出來テ來ル宗教、所謂類似宗教ト稱セラレルモノニ對シテ御注意サレレバケレバナラヌト思フ、所謂思想戰ノ點カラ言ヘバ、立派ニ宗教團體法ニ依ツテ確認サレタ宗教デモ、私ハ非常ニ注意シナケレバナラヌト思フ、例ヘバ「キリスト」一教ノ如キ、モウ既ニ手入ヲサレタノデアリマスガ、是ハ思想戰上非常ニ大キナ役割ヲ果スト思フ、斯ウ云フモノハ國ヲ毒スルコトガ非常ニ大キイノデアリマシテ、團體ヲ否定スル目的ヲ確認シナクテモ、神宮又ハ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スルコト云フコトヲ確認シナクテモ、結果ニ於テ斯ウ云フヤウナモノガ非常ニ多イト言ハザルヲ得ナイト思フ、今日ノ狀態ニ於テ、サウ云フ場合ニハ、唯類似宗教ヲ取締ルコトヲ對象ニスルダケデナク、既成ノ宗教、現ニ相當ナ力ヲ持ツテヤツテ居ルモノデモ、思想戰ノ上ニ於テ、思想國防ノ上ニ於テ、此ノ治安維持法ヲ持ツ任務

ノ役割ノ點ニ於テ、第七條、第八條ノ規定ガ出來タ以上、私ハ嚴重ナル取締ガ必要ダト思ヒマス、殊ニ「キリスト」一教ナドハサウデアリマス、朝鮮ニ參リマス、朝鮮ニハ又特有ノ宗教ガアリマス、是ナドガ非常ニ大キナ民族運動ノ役割ヲナシテ居ルコトハ、當局御承知ノ通りダト思ヒマス、斯ウ云フモノハ須ク斯ウ云フ規定ヲ活用サレテ、大イニ取締ヲ嚴ニシテ置キタイト思ヒマス、其ノ點ノ御所見ヲ伺ツテ置キタイト思ヒマス

○太田政府委員 宗教團體法ニ依リマシテ、或ハ宗教團體トシテ宗教結社ハマア届出ダケデアリマスガ、宗教團體トシテ認可ヲ受ケテ居ルモノニ付キマシテハ、大體認可致シマス際ニ、文部省ノ方面ニ於キマシテ、非常ニ嚴重ニ其ノ教義ノ内容等ニモ立至ツテ、調べテ後ニ認可サレルヤウデアリマスカラ、大體ニ於キマシテ此ノ七條、八條ニ觸レルヤウナ場合ハナカラウト存ジマス、併シ萬一ニモサウ云フモノガゴザイマシタナラバ、勿論本案ノ成立致シマシタ後ニ於キマシテハ、適當ニ處置シテ行キタイト存ジマス

法ニ依ツテ認可サレタ其ノ宗教自體ハ、ソレガ合法性ヲ持ツトシテモ、其ノ結社ノ名ニ於テナシタ行爲ハ、ヤハリ本法ノ適用ヲ受ケテ宜イノデハナイカト思ヒマス、其ノ教團自身ガ宗教團體法ノ認可ヲ受ケテ居ルカラ、其ノ教團ノナス行爲ハ一切ガ合法化サレルノデナクテ、ヤハリ個々ノ行爲ハ本法ノ適用ヲ受ケル場合ガアルヤウニ考ヘマスガ、如何デアリマセウ

テハ、其ノ不敬ヲナシタ其ノ面白カラザルコトノ内容ガ、其ノ團體ノ教義カラ直接出テ參ル、隨テ其ノ團體自體ガ左様ナ不敬ナ面白カラザル教義ヲ持ツテ居リマス場合ニ於キマシテハ、或ハ七條、八條ニ觸レル場合モアラウカト存ジマスガ、然ラズシテ團體自體ガ左様ナ教義ヲ持ツテ居ルノデハナイ、併シ之ニ關聯シテ教師ガ左様ナ教義ヲ宣傳シタヤウナ場合ノ處置デアリマスガ、是ハ宗教團體法ノ第六條ダト思ヒマスガ、左様ナ教師ノ行動ニ依リマシテ、結局宗教團體ノ解散マテ行政處分ヲ以テ命ゼラレルコトニナツテ居リマス、大體宗教團體法ノ運用ニ依ツテ、然ルベク處置出來ルダラウト云フ風ニ考ヘル次第デゴザイマス

○三田村委員 私モサウ云フ風ニ讀ムダノデス、讀ミマシタカラ御尋ネテシタノデスガ、サウスルト拔ケルモノガアルト思フ、私ハ今日合法的ナ宗教團體トシテ表面出テ居ルモノハ、恐ラタ七條、八條ニ該當スルモノハナイト思フ、直接宗教團體其ノモノガ七條、八條ニ該當スルコトハ、中々容易ニアリ得ナイコトダト思フノデス、問題ハ宗教ノ名ニ依ル個々ノ行爲デアリマシテ、ソレハ第四條、第五條デ抑ヘテ居ルト同様ニ、抑ヘナケレバナラヌ行爲ダト思フノデス、又宗教其ノモノノ存在ノ性格カラ言ツテモ、必ズシモ宗教ト云フモノハ、一ツノ集團ヲ形成スルコトヲ必要トシナイノデ、個人ガ持ツテ居ル場合モアル、例ヘバ三田村武夫ト云フ者ガ一ツノ新シイ宗教ヲ作り得ル、誰ニモ之ニ加入ヲ求メマセヌガ、其ノ思想ハ大イニ宣傳シ、大イニ其ノ教義ヲ説クト云フ場合ハ、是ハ七條、八條ノ

結社罪ニハナリマセヌガ、正ニ其ノ行為ハ抑ヘナケレバナラヌ
譯ニナツテ來ルノデアリマス、是ガ被ケルコトハ私ハ四條、五
條ノ場合ト同様ニ困ルト思ヒマス、殊ニ此ノ思想ハ強化シテ
ケレバナラナイ今日、寧ロ私ハ個々ノ行為ヲ抑ヘルコトガ必要
デアツテ、御話ノヤウニ宗教團體法ニ依ツテ認メラレタ現在ノ
宗教團體トシテハ、恐ラクハ七條、八條ニ該當スルモノデハナ
イデアラウト思フ、寧ロ其ノ宗教ノ名ニ依ツテナル、個々ノ
行為ヲ、今日問題ニシナケレバナラヌト云フコトヲ考ヘマシタ
時、私ハ結社罪デケテ抑ヘテ、個々ノ行為ヲ此處テ抑ヘテ居ナ
イコトハ、非常ニ大キナ穴ノヤウナ氣ガスル、ドノ點デサウ云
フモノヲ抑ヘルカ、宗教團體法ハ行政處分デケアルカラ歌
目ダト思ヒマスガ、其ノ點ヲ一ツ承ツテ置キタイ

○太田政府委員 此ノ第七條或ハ第八條ニ於テ問題ニ致シマス
思想ハ、團體ヲ否定スル思想——或ハ神宮若シクハ皇室ノ尊嚴
ヲ冒瀆スル思想デアリマスガ、團體ヲ否定スル思想ハ、斯ワ云
フ宗教團體ノ中ニハ非常ニアルト存ズルノデアリマスガ、個
人的ノ場合ニ於キマシテハ、餘リナカラウト存ズルノデアリマ
ス、寧ロサウ云フ風ナ個人的ノ場合ニ於キマシテハ——神宮若
シクハ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スベキ事項ヲ流布スルヤウナ場合ガ、
往々ニシテアリ得ルカト存ズルノデアリマスガ、此ノ場合ニ於
キマシテハ、勿論刑法ノ不敬罪ノ規定ノ適用モゴザイマスシ、
或ハ新聞紙法、出版法等ニ依リマスル尊嚴冒瀆ニ關スル處罰規
則モゴザイマスノデ、ソレヲ以テ十分取締リ得ルト云フ風ニ考
ヘル次第デゴザイマス(同第四回)

○小畑委員 簡單ニ伺ヒマス、第一條ノ團體ト第七條ノ團體ト
ハ同ジ意味デアリマスカ

○秋山政府委員 ソレハ同ジ意味デアリマス

○小畑委員 第一條ノ團體ハ、憲法上ノ團體ト政體トノ區別ニ
用ヒラルル定義ニ從ツタモノデアルト云フ御答辯ガアツタヤウ
ニ思フノデアリマス、即チ憲法第一條ノ規定ニ基クモノデア
ルト云フコトデアリマスガ、第七條ノ團體モ同様ノ意味デア
致シマス、第一ニ其ノ罪ハ輕キニ失スルト思フノデアリマ
ス、苟クモ憲法第一條ニ依ツテ明ラカニセラレタル團體ヲ否定
スルコトヲ以テ目的トシテ、結社ヲ組織シタ者ニ對シテハ、第
一條ノ場合ト同様ナル制裁ヲ加フベキデハナイカト思ヒマス、
ソレカラ御説明ニナリマシタヤウニ、第七條ガ類似宗教團體ヲ
主トシテ對象トシテ考ヘテ居ルモノデアルト云フコトデアリマ
シタガ、若シ團體ヲ否定スルコトガ憲法第一條ヲ否定スルト云
フコトデアツタトスレバ、類似宗教團體ノ中ニ憲法第一條ヲ否
定スルト云フヤウナモノガ出テ來ルコトハ、吾々ニハ殆ド想像
ガ付カヌノデアリマス、サウ云フコトガアルノデアリマセウ
カ、ソレカラ否定ト云フ言葉デアリマスガ、是ハ第一條ニ謂フ
所ノ變革ト云フ言葉トハ勿論違フノデアラウト思ヒマス、變革
ト云フ言葉ハ積極的ナル行動ヲ意味スルモノデアルト思フノデ
アリマスガ、此ノ否定ト云フモノハソレトハ違フト思フノデア
リマシテ、事實ヲ否認スルト云フヤウナコトニ解スベキモノデ
アリマセウカ、否認トハ又違フノデアツテ、否認トソレカラ變
革ノ中間ニアルモノデアリマスカ、此ノ否定ト云フコトヲ御説

明瞭ヒタイト思ヒマス

○秋山政府委員 否定ト申シマスノハ、事柄ノ本體ヲ觀念的ニ
抹殺シヨウト云フ意味デアリマス、變革ト云フコトハ、事物ノ
本體ニ對シマシテ具體的ニ、積極的ニ之ニ變更ヲ加ヘル、斯ウ
云フ能動的ノ内容ヲ持ツテ居ルモノデアリマス、否定ハ唯之ヲ
觀念的ニ、消極的ニ認メナイト云フダケノ内容ヲ持ツテ居ルモ
ノト考ヘテ居リマス

○小畑委員 私有財産制度ノ否認ニ關シテ先般司法大臣カラ御
答辯ガゴザイマシタガ、其ノ中ニ私有財産制度ノ否認ハ變テ國
體ヲ變革スル處ガアルト説明セラレタノデアリマスガ、其ノ場
合ニ於ケル團體ト云フ文字ハ、之ヲ第一條ト第七條ト同ジ意味
ニ御用ヒニナツタノデアリマスカ

○秋山政府委員 左様デアリマス、同ジ意味テ用ヒマシタ(同
第六回)

○上野善左衛門君 第七條「團體ヲ否定シ又ハ神宮若ハ皇室ノ
尊嚴ヲ冒瀆スベキ事項云々」トゴザイマスガ、此ノ單ニ「神
宮」トダケデハ少シク意味ガハツキリシナイヤウニ考ヘルノデ
アリマシテ、此ノ「神宮」トアリマスノハ、狭ク皇大神宮ヲ指
スノデアルカ、或ハ又廣ク平タタ解釋シテ、社格ヲ有スル神
社、神宮全部ヲ指スノカ、或ハ官幣大社ノ中特ニ神宮號ヲ御宣
下ニナツテ居ル社ヲ指スノカ其ノ邊ヲ御説明ヲ願ヒタイト思ヒ
マス

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ「神宮」ト申シマスノハ、今
言葉ニゴザイマシタ伊勢大廟ヲ指スノデゴザイマス、是ハ既ニ

先例ガゴザイマスルノデゴザイマシテ、刑法ノ皇室ニ對スル罪
ノ、第七十四條ノ第二項ニ神宮トゴザイマスノハ、是ハ解釋上
伊勢大廟ヲ指ス、斯ウ云フコトニ一定シテ居リマスノデ、ソレ
デ御了承ヲ願ヒマス(貴族院治安維持法改正法律案特別委員會
議事速記録第五號)

(10) 第十條關係

○平沼國務大臣 私有財産否認ト云フコトハ、治安維持法ニ於
キマシテ是ハ取締ルコトニナツテ居ルノデアリマス、詰リ私有
財産ヲ否認スルト云フコトハ、根本的ニ私有財産制度ト云フモ
ノヲ破壊スル是ハ思想デアラウト思フノデアリマス、併シナガ
ラ、現今ノ時局デアリマシテモ、又或ハ平時デアリマシテモ、
程度ノ相違ハアリマセウガ、在來ノ所謂自由主義ト申シマス
カ、其ノ法制下ニ於ケルヤウナ狀態デ置クト云フコトハ、是ハ
到底今後ハ出來マイト考ヘテ居リマス、隨テ私有財産ニ對シマ
シテ制限ノ加ハルト云フコトハ、是ハ免レスコトデアリマス、
私有財産ヲ制限スルト云フ議論ガ、是ガ私有財産ノ否認ニハ無
論ナラヌト思ヒマス、ソコノ區別ハ理論ノ上デハ明白デアラウ
ト思ヒマス、唯實際ノ運用ト致シマシテハ是ハ能ク檢討致シマ
セスト、此ノ行為ガ罪ニ當ルトカ當ラヌトカ云フコトヲ判斷ス
ルコトハ、餘程檢討シナイト難カシイ、唯制限々々ト申シマシ
テモ、其ノ制限ガ極端ニナレバ否定ニナル、ソコハモウ事實ノ
問題デアラウト思ヒマス(衆議院治安維持法改正法律案委員會
議錄(速記)第二回)

○三田村委員 第十條以下ノ規定、茲ニ所謂私有財産制度否認ト云フ言葉、是ハ長イ間使ハレテ來タ言葉デアリマスガ、民法ニ所謂所有權ノ觀念ト茲ニ所謂私有財産制度否認ノ觀念ト、ドウ違フカ、其ノ共通スルモノ、相異ルモノヲ、一ツ法律的ニ御説明ヲ願ヒタイノデアリマス

○秋山政府委員 私有財産制度否認ト所有權ノ問題、是ハ中々難カシイ問題デアリマシテ、詳シク申上ゲ兼ネルカモ知レマセスガ、私有財産制度ノ否認ト云フコトハ、私有財産ヲ根本的ニ破壊スルト云フコトノ考ヘ方デアリマス、而シテ私有財産制度ノ根本ハ、是ハ無論所有權ノ問題ニナルノデアリマス、所有權ヲ根本的ニ認メナイ、個人ノ私有ヲ全然認メナイト云フコトニナリマス、結局所有權ヲ否定スルコトニナルノデアリマス、デアリマスカラ、私有財産制度ノ否認ト云フコトハ、結局所有權ノ否定ト云フコトニ相成ルコトト考ヘマス、大體ハサウ云フ關係デアラウト考ヘマス

○三田村委員 所有權ノ否定即私有財産制度ノ否認ト云フ御結論ノヤウニ伺ヒマシタガ、多少私ハ違フノデハナイカト思フノデス、實ハ是ハ非常ニ重要ナ問題デアリマシテ、今後所謂戰時體制ヲ強化シテ參リマス、所有權ノ制限、私有財産ノ制限ガ、ドシノ強化サレテ來ルト思フノデアリマス、所有權ノ否定即私有財産制度ノ否認ト云フコトニ相成リマス、是亦否認ニモ適合ヒガアリマシテ、是ハ分量ノ問題ニナリマスガ、根本的ニ所有權ヲ否認スル場合ハ、勿論私有財産制度ノ否認ニナリマセウケレドモ、所有權ノ制限ハ憲法ニモ認メラレテ居リマ

ス、憲法デハ所有權ハ尊重シテ居リマスガ、法律ノ範圍内ニ於テ其ノ自由ヲ認メラレテ居ルノデ、法律デ制限スル場合ハ一向問題ニナラナイノデアリマス、勿論議會デ之ヲ協賛シ決定スル場合ハ問題ニナリマセヌガ、茲ニ一ツノ新シイ運動ガ起ツテ來ルト思フ

〔泉委員長代理退席、委員長齋席〕

例ヘバ土地國有論デアリマスガ、土地國有論ガ出テ參リマス、是ハ土地所有權ノ重大ナ制限デアアル、土地所有權ハ今日ノ私有權ノ觀念ノ中ニ於ケル非常ニ多クノ部分ヲ占ムルノデアリマス、其ノ土地所有權即チ土地ニ對スル私有財産制度ト云フモノヲ否定スルノデアリマス、サウルト茲ニ所謂第十條ノ規定ニ該當スルト云フコトニナツテ來ルノデアリマス、第十條ノ所謂私有財産制度ハ、法律的ニモ一ツノ觀念ニナツテ居リマスガ、一ツノ經濟機構ヲ言フノデハナイカ、一ツノ財産制ノ社會的形態ト云ヒマスカ、サウ云フモノヲ言フノデアツテ、所有權トカ何ト云フ法律上ノ所謂權利ト違ツテ來ルト思フ、詰リ茲ニ所謂私有財産制度ハ、勿論所有權ガ含マレテ居リマスガ、其ノ所有權ノ上ニ組立テラレタ私ノ財産權、之ヲ飽タマテモ尊重スルト云フ、法律思想ノ社會的觀念ノ上ニ組立テラレタ一ツノ經濟制度デアリ、社會機構ナノデアツテ、法律的ナ意味ノモノデハナイト思フノデス、勿論茲ニ出テ來テ之ヲ法律的ニ解釋スル時ニハ、其ノ觀念ガハツキリシナケレバナリマセヌガ、私有財産制度ト民法ニ所謂所有權トハ私ハ違フト思フ、違ハナイトスレバ、解釋上非常ニ難カシイ問題ニナツテ來ルト思フ、私ハ

繰返シテ申シマスガ、私有財産制度ハ一ツノ社會制度デアリ、經濟制度デアアル、ソレニハ歴史性モアリ、社會性モアリ、色々ノ條件ガ積重ネラレテ來マスガ、所有權トハ自ラ違ツタ性質ノモノデ、斯ウ理解シテ居リマスガ、如何デセウカ

○秋山政府委員 先刻ノ御尋ネハ、私有財産制度否認ト、所有權ノ關係ト云フ風ニ伺ツタモノデスカラ、所有權トドウ云フ關係ガアルカト云フコトニナルト、私有財産制度ヲ否認スルト云フコトハ、所有權ヲ根本的ニ否認スルト云フコトニナルノデアアル、斯ウ云フ風ニ申上ゲタノデアリマス、勿論所有權ノ制限スルトカ云フヤウナ問題ニナリマス、又自ラ解釋モ違ヒマスガ、制限ト申シマシテモ、一部ノ制限ガ直チニ私有財産制度ノ否認トナル譯デハ勿論アリマセヌガ、其ノ制限ガ非常ニ極端ニナツテ、殆ド根本的ニ之ヲ破壊スルト同ジ程度ノモノニナリマスレバ、私有財産制度ノ制限ハ結局否認ト云フコトニナラザルヲ得ナイト思ヒマス、先程私ノ申上ゲタノハ、私有財産制度ノ問題ト、所有權ノ問題ト、ドウ云フ關係カト申サレタ爲ニ、其ノコトダケヲ申上ゲタ次第デアリマス

○三田村委員 大體ノ御見解ハ分リマシタ、私モ同ジヤウニ考ヘテ居リマスガ、問題ハ實際第十條ノ運用ニナツテ參リマス、從來ハ恐ラク此ノ私有財産制度否認ノ規定ト云フモノハ、適用サレテ居ラスト思ヒマス、先般御説明ニナリマシタヤウニ、私ノ記憶スル所ニ依リマス、北海道ノ集産黨事件ガ唯一ツデアルト思ツテ居リマスガ、私有財産制度否認ト云フ言葉ヲ、立法ノ沿革カラ考ヘテ見レバ、適用サレル部分ハ極メテ狭クナル、

立法ノ沿革カラ考ヘテ見レバ、是ハ社會主義所謂「マルクス」主義、無政府主義トカ、共產主義ガ其ノ對象ニナツテ來タノデアリマシテ、立法ノ沿革カラ見レバ、適用ノ範圍ハ極メテ少クナリマスガ、茲ニ第十條ニ書直シテ「私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者」、斯ウ書キ、第十一條ニ「前條ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ノ實行ニ關シ協賛ヲ爲シタル者」、斯ウ書キマス、法理論的ナ解釋トシテハ、私ハ新シイ觀念ガ出テ來ルト思フ。今ノ私有財産制度否認ト云フ言葉モ、所有權否認ト云フ言葉モ、其ノ領域内ニアルト刑事局長ハ仰セラレマシタガ、其ノ通りデアリマシテ、是ハ全的ニ否認スルノハ否認デアツテ、部分的否認ハ否認デナイト云フ解釋ニナルノデアアル、全部所有權ヲ否認シナケレバ、茲ニ所謂私有財産制度ノ否認ニハナラヌト云フ解釋ニハナラナイ、極ク嚴格ニ法律上ノ解釋ヲヤレバ、土地國有論モ產業率還論モ、財產率還論モ、是モヤハリ私有財産制度否認ニナツテ來ル、解釋論トシテハナツテ參ルト思フ、今ノ刑事局長ノ説明ノヤウニ、所有權ヲ全的ニ否認スルコト、所有權ヲ否認スルコトガ私有財産制度否認ニナル、逆ニ又私有財産制度ヲ否認スルト云フコトハ、結局、此ノ經濟機構ノ根柢ヲ成ス所有權ヲ否認スルコトニナル、斯ウ云フ御説明デアリマシテ、法律ノ解釋トシテハ其ノ通りデアルト思フ、然ラバ其ノ範圍如何ト云フ問題ニナツテ來ル、所有權否認ト云フ觀念ハ、私ハ法律用語トシテ茲ニ書イタ以上ハ、全部否認シナクテモ否認デアルト思フ、然ラバドウ程度ガ否認デ、ドウ程度マデハ否認デナイト云フ説明ハ、一寸

難カシイデハナイカト思フ、國家ガ法律ニ依ツテナス場合ハ、勿論之ニハ該當シマセムガ、サウ云フ一ツノ經濟新體制ト申シマスカ、新經濟機構ト申シマスカ、一ツノ新シイ社會體制、社會體制ト云フ言葉ガ惡ケレバ國家體制、經濟制度、今日別ノ言葉テ言ハレテ居ル高度國防國家體制ト云フ言葉デモ、是ハ表現出來ルノデアリマスガ、サウ云フモノヲ目的トシテノ土地ノ國有論、重要産業ノ國有論、是ハ重大ナル所有權ノ制限ニナツテ來ル、サウ云フ運動ヲナス場合、サウ云フコトヲ目的トシテ一ツノ結社ヲ組織シタナラバ、第十條ニ該當スルカト云フコトニナル、是ハ國體變革ノ場合トハ違ヒマシテ、解釋ノ如何ニ依ツテハ幾ラデモアルト思フ、從來ノ御取扱ハサウナツテ居リマスヨ、是ハ立法ノ沿革ガ社會主義ヲ對象ニシテ來マシタカラ、最初ノ治安維持法ニハ國體若ハ政體ヲ變革シ又ハ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシ、斯ウ續ケテ書イテアツタ、行爲ノ内容ハ同ジデ、私有財産制度ノ否認ハ隨テ國體ノ變革ニナル、其ノ行爲ニ關係性ガアツタ、有機的ナ結合性ガアツタカラサウ書イテ居リマシタガ、實際茲ニ新シイ法律トシテ書クテ來マス、解釋論トシテハ私ノ申上ゲタヤウニナルト思フ、是ハ立法ノ沿革カラ、司法省ハ別ニ茲ニ何等ノ疑念モナク御書キニナツタト思ヒマスガ、書カレタ法律ヲ法文ニ依ツテ解釋シマスト、今私ガ申上ゲタヤウナコトニナルト思フ、隨テ先般來此處テ屢々問題ニナリマシタ財産還還論、財産ヲ奉還シロト云フヤウナコトヲ一ツノ結社ガ言フト、ソレハ財産權ヲ奉還ハ、是ハ所有權ノ否認ニナル、全部財産權ヲ奉還スレバ所有權ノ否認

ニナル、サウ云フ解釋モ出テ來ルト思フ、財産權ノ奉還ト言ハナクテモ、土地國有論、產業國有論デモ、是ハ重大ナル所有權ノ否認ニナツテ來ル、是ハ非常ニ重大ナル問題トナツテ來ルト思フ、立法化スル以上、其ノ點マデ十分考ヘテ置ク必要ガアルト思ヒマスカラ、一ツ此ノ點ヲ十分御研究ノ上御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス

○秋山政府委員 御意見ノ通りデアリマス、隨テ私有財産制度ヲ否認スル目的ヲ以テ結社ヲ組織シテ、其ノ目的ノ遂行行爲トシテ、例ヘバ土地ノ全部ヲ私有ヲ許サヌトカ、或ハ財産全部ヲ奉還セヨトカ云フコトニナリマスレバ、此ノ條文ニ當ルモノト思ヒマス

○三田村委員 御氣持ハ私モ能ク分ルノデアリマス、ソレハ一ツノ理想ヲ前提トシタ時ニ分ルノデス、例ヘバ共產主義トカ、マルクスニ主義トカ云フモノヲ前提トシタ場合ニハ、今御話ノ通り私有財産制度否認ヲ目的トシ、其ノ過程トシ、手段トシテ土地國有論ヲ言ヒ、產業體系ヲ奉還ヲ言ヒ、重要産業ノ國家管理ヲ言フト云フ一ツノ段階ヲ經テ來マスカラ、ソレハ茲ニアル私有財産制度ノ否認ニ該當シマスガ、其ノ一ツノ理想ヲ持タナイモノデスヨ、此ノ第十條ニ書イタ法律用語ヲ真正面ニ解釋シテ、土地國有論其ノモノガ私有財産制度否認ニナラカ、又重要産業ノ國家管理、詰リ產業體系ヲ一切國家ニ奉還シロト云フ其ノ主張ガ、法律的ニ解釋シテ私有財産制度否認ニナルカト云フコトヲ、ハツキリシテ置キタイト思フ、詰リ現在ノ經濟組織ノ根柢ヲ成ス私有財産制度、所謂所有權ノ根本ヲ全的ニ否認ス

ル目的ヲ持ツテ居ル、是ハ一ツノ理想デス、今日代表スベキモノハ共產主義デス、ソレヲ以テヤツテ居ル時ニハ、言フマデモナク之ニ該當シマスガ、此ノ法律ノ解釋論トシテサウデナイ場合、其ノ根柢ニサウ云フ思想ヲ持ツテ居ラヌガ、兎ニ角今日ノ經濟機構ヲ變ヘナケレバナラヌ、所有權ニ重大ナル制限ヲ加ヘルカモ分ラヌガ、土地國有ニスベシ、產業、財産權一切國有ニスベシ、重要産業一切國有ニスベシ、個人ノ所有ヲ一切禁止スルト云フコトガ、一ツノ目的トナツテ、結社ヲ組織サレテ、運動ガ展開サレル場合ハ、私ハ解釋論トシテハ、此ノ十條ニ該當スルト思フノデアリマス、ソコデ私ハ變ナ質問ヲスルヤウデアリマスガ、第十條ノ場合ハ立法ノ沿革ニ微シテ、今刑事局長ノ御答辯ニナリマシタ如ク、一ツノ思想ヲ持チ、其ノ思想ノ實現ノ手段トシテ、或ハ土地國有論ヲ言ヒ、或ハ重要産業ノ國家管理ヲ言ヒ、生産機關ノ國有ヲ主張スル者ハ、ココノ所謂私有財産制度ノ否認ニナルガ、部分的ニ土地國有ヲ唱ヘル者ハ、之ヲ該當シナイノダト云フ解釋ニナルノデアリカト思ヒマスガ、如何デスカ

○秋山政府委員 唯單純ニ土地國有論ヲ主張スルヤウナ場合ニハ、此ノ條文ニハ當ラヌト思ヒマス、此ノ第十條ハ一私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテト云フコトガ誤ツテアリマスカラ、ドウシテモサウ云フ目的ヲ以テ、土地國有論ヲ主張スルト云フコトニナラナケレバ、本條ニ該當シナイト考ルノデアリマス

○三田村委員 非常ニ諒イヤウデスガ、其ノ目的ハ分ツテ居

ル、私ノ申上ゲルコトハ私有財産制度否認ト云フ、其ノ目的ノ自體ガ問題ニナツテ居ル、詰リ土地國有論モ、生産機關奉還論モ、私有財産制度否認ノ内容ヲナスノデアリカト云フコトニナル、私ガ今申上ゲタ、所謂私有財産制度否認ト云フ用語ハ、立法ノ沿革ニ微シテ、唯部分的ナサウ云フ問題ヲ言フノデハナイ、法律上ノ解釋論トシテハ、成程サウ云フコトニナルカモ知レマセムガ、少クとも一ツノ思想體系ヲ持ツテ居ツテ、社會主義實現ノ手段トシテ、其ノ過程トシテ土地國有ヲヤルノダ、生産機關ノ國家管理ヲヤルノダ、斯ウ云フコトニナラナイトイケナイノデ、私ハ生産機關ノ國家管理論モ、土地國有論モ私有財産制度否認ノ一部分ト思フノデアリマス、ダカラ法律上ノ解釋論トシテ、一私有財産制度ノ否認ヲ目的トシテト云フコト、私ノ今申上ゲタコトモ之ニ入ルノデスガ、今御當局ノ御說明ノ通り、此ノ十條ヲ御書キニナル時ノ氣持ハサウデナイ、一ツノ思想ヲ持チ一ツノ目標ヲ持チ、即チ共產主義實現ノ手段トシテ云々ト云フヤウニ、是ハ國體ト切離シテ書クコトガ必要デアリマセウ、今日ダカラココニ切離サレテ書カレタト思ヒマスガ、少クとも解釋論トシテハ、今私ガ申上ゲタヤウナコトニナルカラ、ココデ新シク立法スル以上、當局ノ御說明トシテ、此ノ十條ノ狙ツテ居ル私有財産制度否認ト云フ用語ハ、立法ノ沿革ニ微シテ云々ト言ハナクテモ結構デアルガ、其ノ狙ツテ居ル所ノモノハ、一ツノ思想ヲ狙ツテ居ルノデ、共產主義實現ノ手段トシテ斯ウ云フコトヲヤル場合、私ノ今例ヲ申上ゲタヤウナ問題ガ茲ニ出テ來ルノデ、今刑事局長ノ御說明ノヤウニ、私有財産

制度ノ否認ヲ目的トシテ結社ヲ組織シタモノ、否認ヲ目的トシテ土地國有論、或ハ産業國有論ヲナス者ヲ言フノ事ト云フ御説明ダト、私ハドウモソコニハツキリシナイモノガ殘ルト思フノデアリマス。

○太田政府委員 先程刑部局長サンカラ御答辯申上ゲタ通りデザイマスガ、ソレニ付テ多少細カクハ互リマスノ事デ、私カラ補足申上ゲルコトニ致シマス、此ノ度ノ法案ニ於キマシテ、國體變革ニ關スル處罰規定ト私有財産制度否認ニ關スル處罰規定トヲ分離致シマシタノハ、只今三田村サンノ仰シヤツタヤウナ、左様ナ難カシイ思想上ノ區別ト云フヤウナコトデ、是ハ區別致シタノデハナイノデアリマス、實ハ今度ノ條文ハ非常ニ數モ殖エテ居リマスシソレカラ國體變革ニ關スル點ニ付キマシテハ、或ハ政治結社、或ハ準備結社、集團等ノ規定モ設ケタノデアリマスガ、一方左様ナ規定ハ、私有財産制度否認ニ關スル方面ニハ設ケマセデシタノ事、之ヲ從來ノ現行法ノヤウナ形テ規定シテ置キマスト如何ニモゴタノ致シマス、左様ナ立法技術上ノ問題ダケデ、今度ハ私有財産制度否認ニ關スル處罰規定ト、國體變革ニ關スル處罰規定トヲ分離致シタニ過ギナイノデアリマス、併シナガラ今三田村サンノ仰シヤツタヤウナ思想上ノ問題ハ、實ハ今度法案ニ於テ之ヲ二ツニ區別シタカラ、問題ニナツタノデハナイノデアリマシテ、既ニ現行法ノ下ニ於テ其ノ問題ハアルノデアリマス、申上ゲルマデモナク、此ノ治安維持法ハ社會主義ヲ取締ル法規トシテ生レタノデアリマシテ、社會主義ノ本質ヲ法律ハ二ツノ點ニ於テ捉ヘタト存ズルノデア

ニ、私有財産制度ヲ否認シマス思想、ソレ自體ガ取締ノ對象トシテ規定サレテ居ルノデゴザイマス、此ノ私有財産制度ノ否認ハ、勿論個々ノ所有權ト密接ナル關係ガアルノデゴザイマス、個々ノ所有權ヲ基礎トシテ、私有財産制度ト云フモノハ作リ上ゲラレテ居ルニハ相違ナイノデゴザイマスガ、併シナガラ一ツノ制度デアリマシテ、現在ノ經濟生活、社會生活ノ基本ヲ成シテ居リマスル一ツノ社會制度ガ、茲ニ言フ私有財産制度ダト云フ風ニ考ヘラレルノデアリマス、隨ヒマシテ之ヲ否認スルト云フ思想ハ、サウ云フ風ナ制度ヲ否認スルト云フ風ナ思想デアリマシテ、ソレノ個々ノ所有權ニ付テ之ヲ制限スル、或ハ之ヲ云々ニルト云フノトハ、又別個ノ方面カラモ考ヘルコトガ出來ルカト存ズルノデアリマス、ソユデ土地國有論ニ致シマシテモ、單ニ産業上ノ必要或ハ國家經濟上ノ必要等カラ、土地ノ國有ガ必要デアルト云フヤウナコトデアリマスルナラバ、是ハ私有財産制度ソレ自體ノ否認ヲ示スルモノデハナイト存ズルノデアリマス、併シナガラ私有財産制度ヲ否認スルト云フ、サウ云フ一ツノ思想カラ出發シマシテ、一制度トシテノ私有財産ヲナクスベキデアルト云フ思想カラ出發シマシテ、土地ノ國有ヲ現實ノ問題トシテ取上ゲマシタナラバ、是ハ第十條ノ問題ニナル可能性ヲ非常ニアル場合デアラウカト存ジマス、大體先程ノ刑事局長ノ御説明ト同ジコトデアリマスガ、多少補足シテ申上ゲマス。

○三田村委員 モウ私ハ質問ヲ終リマスガ、今ノ問題デ更ニ一言申上ゲテ置キタイノデアリマス、問題ハ三點バカリニ分レル

リマス、一ツハヤハリ國體變革思想ト云フ點ニ於テ之ヲ捉ヘ、一ツハ私有財産制度否認ノ思想ト云フ點ニ於テ捉ヘマシテ、此ノ二ツノ思想ヲ綜合シテ、ソレヲ要素トシテ、共產主義、或ハ無政府主義ト云フヤウナ思想ガ成立ツテ居ルト云フ風ニ考ヘテ、此ノ治安維持法ハ制定サレタモノダト考ヘラレルノデアリマス、隨ヒマシテ、此ノ法律ニ於テ私有財産制度否認ノ行爲ヲ處罰スルヤウニナリマシタノハ、其ノ沿革ガ左様デアリマスノ事デ、勿論社會主義思想ヲ取締ル一助トシテ、此ノ私有財産制度否認ノコトヲ規定致シタニ過ギナイト存ズルノデアリマス、併シナガラ是ハ沿革デアリマシテ、現在觀念的ニハ國體變革思想ト私有財産制度否認ノ思想トハ、是ハ區別シテ考ヘルコトガ出來ルノデアリマス、又之ヲ區別シテ考ヘルベキ實益モ今日ハアルト存ズルノデアリマス、ソレハ時々唱ヘラレマスル一國共產黨ト云フヤウナ場合、或ハ之ニ類似スルヤウナ色々ナ思想ニ於キマシテ、私有財産制度否認ノ思想デアルト云フ風ニ見テ、處置スル必要アリサウナモノモナイトハ言ヘナイノデアリマシテ、隨テ之ヲ觀念上區別シ得ルノミナラズ、現在ニ於テハ區別スル實益モ私ハアルト存ジテ居ルノデアリマス、ソユデ先程三田村サンノ御意見デハ、何か、或ル思想ガアツテ、其ノ思想カラ私有財産制度否認ト云フコトヲ處罰スルヤウニ從來ヤツテ來タ、ソレハ勿論社會主義カラ出テ來タ沿革ダケヲ仰シヤツタト思ヒマスガ、今日ソレガ斯ウ規定テ區別サレタノデアアルカラ、少シ當局モ考ヘテ見タラ宜カラウト云フ御意見ノヤウニ私ハ拜聴シタノデアリマスガ、只今申上ゲタコトデ御分リノヤウ

ノ事、今太田サンハ、第十條以下ト第一條以下トニ書キ分ケタコトハ、立法技術上ノ問題ダト仰シヤツタガ、私ハサウデハナイト思フノ事、是ハ分ケルコトガ絕對必要アツテ、モツト徹底シテ言ヘバ、私ハ私有財産制度否認ニ關スル規定ダケハ別法トシタイ、別ナ法律ニスベキダト云フ見解ヲ持ツテ居ルノデアリマス、是ハ治安維持法ト云フモノハ、飽クマデモ國體擁護法トナシテハナラズ、勿論一ツノ思想ヲ捉ヘテ、沿革的ニ言ヘバ、私有財産制度否認ト國體變革トハ、同一體系ヲ成スモノデアリマスルガ、少クトモ之ヲ立法ノ對象トシテ取扱フ場合ハ、國體變革ノ罪ト、一ツノ財産制度ヲ對象トシテ取扱フ場合ハ、區別シナケレバナラズモノデアツテ、其ノ罪ノ輕重ト云フモノハ、比較ニナラヌト思フノ事、是ハ立法ノ技術上、便宜上是ハ御分ケニナツタノデハナクテ、分ケルコトハ正シイト思フノデアリマス、分ケルコトニ依ツテ一ツノ意義ヲ成スト思フ、私ハ是ハ寧ろ私有財産制度否認ニ關スル規定ト云フモノハ、別ナ法律ニシタイト思フ一人デアリマスガ、斯ウハツキリ分ケラレタノデアリマスカラ、便宜上是デモ宜イト思フノデアリマスガ、其ノ氣持ニ於テハ別ニシテ實ヒタイ、今御説明ノヤウニ、立法ノ技術上分ケタ方宜イカラト云フノデハ決シテナイト私ハ理解シタイノ事、ソレカラモウ一點ハ、今ノ私有財産制度否認ノ問題デ、私ガ一ツノ思想ヲ持ツト言ツタノハ、今ノ太田サンノ御説明ト同ジナノ事、詰リ一ツノ制度トシテノ私有財産制度ヲ否認スルコトハ、經濟社會ヲ其ノ根柢カラ覆スコトナノ事、ソレガイケナイト思フ、ソレガ取締リノ對象ニナツ

テ居ルノデス、勿論其ノ目的ヲ以テ、其ノ部分的ナ個々ノ表ハ
レトシテ、土地國有論ヲヤル、産業國家管理ヲ言フコトガ、其
ノ目的ノ部分トシテ第十條ニ該當スル、ソレハ御説明ノ通りナ
シデス、私ノ申上ゲルノハ、其ノ一ツノ制度トシテ私有財産
制度ト云フ、此ノ法律上ノ用語ヲ、ドウ解釋スルカト云フ此ノ
問題ナンデス、一ツノ社會制度、經濟制度トシテ、今日ノ國
民生活ノ基礎ヲ成ス經濟、産業體制ノ根幹ヲ成シテ居ル財產制
度、即チ私有財産制度デス、其ノモノヲ否認スルト云フ、其ノ
法律的概念ハドウ云フモノデアルカト云フコトヲ、私ハ申上ゲ
テ居ルノデス、其ノ私有財産制度否認ト云フコトガ、一ツノ思
想デアルコトハ言フマデモアリマセス、其ノ思想實現ノ爲ニナ
サレル個々ノ行為ガ之ニ該當スル、是モ言フマデモアリマセ
ス、御説明ノ通りデアリマスガ、法律上ノ觀念トシテ、所謂私
有財産制度ト云フモノヲ如何ニ理解スルカ、其ノ私有財産制度
ノ中ニ——モウ一ツ詳シク申シマス、私有財産制度否認ト云
フ法律的概念ノ中ニ、土地國有乃至産業大權奉還、全産業ノ
國家管理モ含ムカト云フ法律上ノ見解デス、是ハモウ歴史のナ
乃至ハ思想體系トシテ見解デハナクテ、法律のナ見解トシ
テ、茲ニ所謂思想上私有財産制度否認ト云フ法律的概念ノ中ニ
——其ノ法律の解釋ノ中ニ、土地國有、重要産業國家管理乃至
全産業機構ヲ國有ニシロト云フヤウナ、斯ウ云フ主張ハ法律
上ノ概念トシテ之ニ含ムカト云フ御尋ネナシデス、是ハ私ハ大
體ハ分ツテ居ルノデスヨ、御當局ノ御考ヘモ分ツテ居ル、今後
ノ法ノ適用モ分ツテ居リマスガ、立法スル者ノ立場トスレバ、

斯ウ云フ言葉ガ出テ參リマス、法律ノ解釋論ニ從ツテ、一應
檢討シテ置クコトガ必要ダト思フノデス、將來問題ガ非常ニ重
要デアリマスカラ、私ハ繰返シテ御尋ネスルノデアリマス
○太田政府委員 私有財産制度否認ト云フコトハ、私有財産制
度ヲ根本的ニ破壊スルト云フ意味デゴザイマス、言葉ヲ換ヘテ
申シマスルナラバ、制度自體ヲ否認スルト云フコトヲ意味シテ
居ルト考ヘマス

○三田村委員 モウソレデ止メマセウ、分ツテ居リマス、ケレ
ドモ實ハ是ハ太田サンノ氣持ノ中ニハ、モット具體的ナモノガ
アルト思フノデス、寧ロ此ノ問題ハ具體的ニヤツテ置イテ賈ツ
タ方ガ宜イノデハナイカト思フノデス、私ハモウ此ノ問題ハ是
レ以上繰返シマセウ、又他ノ同僚諸君カラモ質問ガ出ルト思フ
ノデスガ、此ノ程度テ私ハ質疑ハ終リマス(同第四回)

○小山田委員 昨日來問題ニナツテ居リマス私有財産制度ノ否
認ト云フコトニ關スル問題デアリマスガ、是ハ昨日三田村君カ
ラモ色々質問ガアツタノデアリマシテ、ソレニ對スル司法當局
ノ御答辯ハ、ドウモマダハツキリ致サナイヤウニ思フノデアリ
マス、此ノ治安維持法適用ノ範圍、十條ノ法律解釋ト云フモノ
ヲ明確ニナサラナケレバ、今後色々面倒ナ問題ガ起ツテ來ル
ノデハナイカト思フノデアリマスカラ、蛇足ノヤウデアリマ
スケレドモ、此ノ點モツトハツキリサセタイト云フ意味ニ於キ
マシテ、重ねテ御伺ヒテ致シタイノデアリマスガ、昨日ノ御答
辯デハ國家ノ制度トシテ私有財産ノ否認ト云フコトハ、是ハ
イケナイノダ、國家ノ要求スル産業上或ハ經濟上ノ範圍カラ、

即チ公益ノ爲ノ私有財産ノ否定ト云フヤウナ場合ニ於テハ、本
法適用範圍外デアアル、又私有財産ニ對スル部分的ノ否定ハ宜イ
ガ、全體トシテノ否認ハ是ハイケナイト云フヤウナ、極メテ抽
象的ナ御答辯デアツタヤウニ思フノデアリマスガ、若シ間違ッ
テ居リマスナラバ御訂正ヲ願ヒマス、隨テ土地國有論トカ産業
奉還論トカ云フコトハ、本法ニ觸レナイト云フヤウナコトニナ
ルト思フノデアリマス、サウシテ御解釋ハ大體ニ於テ私モ正シ
イ御解釋デアルト考ヘルノデアリマスケレドモ、然ラバ私有財
產制度ヲ全面的ニ否認スル目的ヲ以テ、サウシタ一ツノ意圖ノ
下ニ部分的ナ否認論ヲヤツト云フ場合、全體ト申シマシテモ
部分ト申シマシテモ、部分ノ集積シタモノガ全體ニナルノデア
リマスカラ、理論トシテハ是ハ同ジダラウト私ハ考ヘマス、サ
ウシテ計畫的ナ意圖ノ下ニ於テ、所謂否認論ト云フモノガアリ
得ルコトトモ思フノデアリマシテ、土地國有ノ問題デアルト
カ、近來或ル方面ニ叫バレテ居リマス所ノ財產奉還論ト云フ
ヤウナコトハ、是ハ先刻モ一寸申シマシタ國家社會主義的ナ思
想デアリマス、其ノ思想ニ依ツタモノト考ヘ得ラレルノデアリ
マスガ、詰リ此ノ國家社會主義的ナ私有財産ノ否認ト云フコト
ハ、本法適用ノ範圍外デアアル、斯様ニ承知致シテ宜シイノデア
リマスガ、此ノ點ヲハツキリト今一度御答ヘテ願ヒタイト思ヒ
マス

○柳川國務大臣 私有財産制度否認ト云フコトノ意味ハ、私有
財産制度ト相容レザル制度ノ實現ヲ圖ルコト、即チ該制度ヲ根
本的ニ變更スル、或ハ根本的ニ破壊スルト云フ意味デアリマ
ス、私有財産制度トハ私ハガ財物ニ對シテ有スル所有權ヲ基礎
トシ、所有權ノ有スル機能ヲ發揮セシムベク法ヲ保護シ、且ツ
規律スル所ノ制度デアリマシテ、國民生活ノ基本ヲ成ス一ツノ
制度デアリマス、而シテ之ヲ思想のニ申シマスナラバ、歴史
的、國民的ニ拔クベカラザル信念ノ存スル國民共ニ奉榮ノ律則
ヲ包含スルモノト解スベキデアリマス、隨テ私有財産制度ノ否
認ハ、我が國家ノ組織ニ動搖ヲ及ボシ、我が國體ヲ變革スルニ
至ル處ガアルモノト言ハナケレバナリマセウ、私有財産制度ハ
斯様ニ重要ナル基本的制度デアリマスノデ、憲法ハ之ヲ保護シ
テ居ルノデアリマシテ、治安維持法ニ於テ之ヲ否認スル思想ヲ
處罰スル所以モ亦茲ニ存スルノデアリマス、土地國有ノ主張モ
其ノ内容ヲ具體的ニ檢討致シマセウケレバ、直チニ私有財産制
度ノ否認ニナルカドウカ判然致シマセウ、若シモ凡ユル財物ノ
私有ヲ禁セントスル政治上ノ主張ノ下ニ土地國有ヲ主張スルモノト
スル場合ニ於テハ、勿論私有財産制度ノ否認ニ該當スルモノト
シテ、取締ノ對象トナルベキモノト存ジマスガ、土地ハ最モ重
要ナル生産資本デアリマスノデ、其ノ公有ヲ主張スル場合ハ、
凡ユル財物ノ私有ヲ禁ズル主張カラ出發シテ居ル場合ガ多カラ
ウト存ジマス、ソレカラ産業奉還論ト申シマシテモ、其ノ内容
ガ必ズシモ明確デアリマセウガ、若シモソレガ凡ユル資本ノ私
有ヲ禁ジ、之ヲ公有ニ移スベキダト云フ主張デアリマスナラ
バ、左様ナ意見ガ現實ノ政治ニ於テ其ノ實現ヲ主張セラレタ場
合ニ於キマシテハ、私有財産制度ノ否認ニ該當スルモノトシテ
取締ノ對象トナルベキモノト考ヘマス

○三田村委員 極メテ明快率直ナル御答辯ヲ承リマシテ私ハ満足致ス者デアリマス

○世耕委員 分リマシタ、尙更ニ御尋ネ致シマス、私有財産制度否認ノ意義ニ關スル問題ニ付テ、先刻司法大臣カラ是ハ當局ノ意見ダト云フ風ニ御説明ガアリマシテ、大體了承致シマシタガ、此ノ私有財産制度否認ノ意義ニ關スル大審院ノ判例、昭和四年ノ判例第三百八十九號、昭和四年五月二十一日大審院刑事第四部判決、ソレカラ昭和六年七月九日ノ大審院刑事第一部判決ガゴザイマスガ、此ノ判決内容ヲ改メテ判決ハ別ニ現在出テ居リマセヌカドウカ、御聽キシタイと思ヒマス

○太田政府委員 ソレヲ變更シテ判決ハ出テ居リマセス(同第五回)

○小畑委員 私ハ初メニ此ノ宣傳流布及煽動ノ區別ヲ伺ヒマシタノモ、此ノ點デアルノデアリマスガ、煽動ト宣傳トハ、是ハ明カニ觀念上ノ區別ガアルト思ヒマス、勿論同一ノモノデハナイ、煽動デモアリ宣傳デモアルト云フコトハナイ、煽動ノ方ハ積極的デアツテ、是ハ重イノデアツテ、宣傳ト云フノハ實行ヲ教唆シ、實行ノ煽動スルト云フノデハナク、唯其ノ思想ヲ不定多數人ニ對シテ説明ヲ致シマシテ、理解ト共鳴ト求メメントスル行爲ガ宣傳デアルト、斯ウ云フヤウナ當局ノ御解釋ハ、是テ結構ダト思フノデアリマス、此ノ場合ニ於キマシテ處罰規定ガナイト云フコトハ、私ハ適當チヤナイト思フノデアリマス、例ヘバ先刻申シマシタヤウニ、財産ヲ一切率還シ、又產業ヲ奉還シテ國民一人ハ一年二千圓ヅ、ノ金デ生活ヲシタラ宜シイノデ

デアリマス、尙ホ此ノ現ハレマシタ所ハ單純ナル宣傳デアリマシテモ、其ノ宣傳スルニ至リマシタ事情ヲ調ベテ見マス、一人デサウ云フヤウナコトヲ思付イテヤルヤウナ場合ハ極メテ少イノデアリマシテ、左様ナ宣傳ヲ致シマス其ノ與ニ、何人カト相談シテ居ルヤウナ事情ガ必ズアルダラウト存ゼラレルノデアリマス、左様ナ相談シテ居ルヤウナ事情デモゴザイマスレバ、實行ニ關スル協議罪トシテ、之ヲ處置シ得ルノデゴザイマス、何レニ致シマシテモ大體此ノ宣傳罪ヲ特ニ規定致シマセヌデモ、此ノ規定致シマシタ範圍内ニ於キマシテ、大體處理シ得ルト云フ風ニ考ヘテ居ル次第デゴザイマス

○小畑委員 宣傳ヲナス者ハ一人デハ大抵ノ場合ハシナイ、何かソコニ一バツク一ガアルトカ、或ハ協議ヲシタトカ、結社ニ關係ヲ持ツタトカ云フ場合ガ多イ、斯ウ云フコトデアリマスガ、其ノ通りデアリマス、ソレハ宣傳罪ト云フ獨立ノ犯罪トシテノ處罰ヲ以テ臨マナイデモ宜シイト云フコトニナルノデアリマスガ、ソレハ成程左様ナ宣傳ヲナシマス者ハ、多クノ場合ハ結社ニ關係ヲ持チ、又ハ多數人ガ協議ヲシタト云フヤウナ場合ガアルカモ知レマセヌ、併シ今日ハマダ思想ノ固マラナイ所ノ青年層、學生層等ニ向ツテ斯ウ云フ矯激ナル、浮薄ナル思想ヲ宣傳スルモノガアルノデアツテ、其ノ宣傳ヲ受ケマシタル若イ者ニ致シマス、本當ニソレガ宜イコトノヤウニ考ヘテ、次カラ次ヘト宣傳ヲ致シテ行ク、斯ウ云フコトガ多イノデアル、即チ本當ノ政治ガ分ラズ、本當ノ經濟ガ分ラズ、本當ノ社會ガ分ラザル者ガ、所謂革新ノ名ニ依ツテ斯ウ云フ思想ヲ宣傳致シ

アル、ソレヲ國家カラ支給サレバ宜シイノダ、斯ウ云フヤウナ思想ガ假ニアルト致シマスルト、是ハ明カナル私有財産制度ノ否認ノ思想デアリマシテ、ソレヲ公開ノ席上ニ於テ、自分ハ斯クノ如ク思フ、斯クノ如ク國家ノ根本ト國家ノ組織ヲ變更シナケレバナラヌモノデアルト云フ演説ナリ、講演ナリヲ致シマシタ所ノ行爲、是ハ煽動チヤナイノデアリマス、又其ノ目的ヲ以テ結社ヲ組織シテ居ラナイ以上ハ、第十條ニ依ツテ取締ルコトガ出來ナイ、サウ云フ演説、講演ヲ致シマシテ、斯クノ如キ憲法ヲ否認シ、我が國是ヲ否認セントスル所ノ思想ヲ、公開ノ席上ニ於テ宣傳ヲ致シテ歩キマスル者ヲ、處罰スル規定ガナイト云フコトニナリマス、是ハ立法上ノ大キナ缺陷デハナイカト私ハ思フ、殊ニ今日ノ時局ニ於キマシテハ、遺憾ナガラ輕佻浮薄ノ斯クノ如キ徒ガ出テ來ナイト云フコトノ保證ガ出來ナイト思フ、私ハ治安維持法ノ改正ニ當ツテハ、第一ニ是等ノ行爲ヲ嚴重ニ取締ルト云フコトニ、一ツノ重點ヲ置イテ載キタイト思フノデアリマスガ、此ノ點ニ關スル御意見ヲ伺ヒタイと思ヒマス

○太田政府委員 只今申上ゲマシタ通り、此ノ煽動ト宣傳トハ觀念上明確ニ區別ガアルノデゴザイマスガ、併シ實際ノ場合ニ於キマシテハ、實ニ紙一重ノ場合ガ非常ニ多カラウト存スルノデアリマス、只今御話ノ例ノ如キモ、其ノ實行ヲ如何ニシテナスカト云フコトニ付キマシテ、距離ナル手段ニ訴ヘルベキデアルト云フコトデモ併セテ強調致シマスヤウナ場合ニ於キマシテハ、煽動ニ該當スルコトニナルコトガアリ得ルカト存スルノ

マスコトガ多イノデアリマシテ、ソレ等ノ場合ニ於キマシテハ、必ズシモ其ノ者ガ結社ニ關係ヲ有スルト云フコトニハ限ラナイ、又多數人ガ協議ノ上デサウ云フ宣傳ヲスルト云フ場合ニ限ラナイノデアリマシテ、全ク一人デ左様ナ宣傳ヲスル場合ハ、決シテ想像ニ離クナイト私ハ思フノデアリマス、殊ニ一寸程度ヲ越セバ煽動罪ニ依ツテモ取締ガ出來ルト云フコトデアリ、協議罪ニ依ツテ取締ガ出來ルト云フコトデアリマス、モ、宣傳、協議或ハ煽動、此ノ言葉ヲ本法ハ明確ニ區別致シテ居ルノデアリマシテ、第五條ノ如キモ、協議ト宣傳ト此ノ三ツノモノヲ明カニハツキリ區別致シテ居ル、其ノ本法ノ三ツノモノヲ明カニ區別致シテ居リマス立法ノ建前カラ致シマシテモ、宣傳行爲ノ程度ニ依ツテ煽動行爲トシテ取締ルト云フヤウナコトハ、是ハドウカト思フ、ヤハリ煽動ト宣傳ト此ノ法律ガ區別致シテ居リマス以上ハ、煽動ヲシタルモノカ、若クハ宣傳ヲナシタルモノト云フ風ニ、宣傳ト云フモノヲ獨立ニ加ヘラレル必要ガアルノデハナイカ、ソレモ宣傳行爲ハ其ノ程度ニ依ツテハ敢テ處罰スル必要ハナイ、斯ウ云フコトデアリマスナラバ、是ハ根本問題デアリマシテ、別ノコトデゴザイマスレドモ、荷モ左様ナル宣傳ヲ致シマスコトハ宜シクナイ、此ノ場合ニ於テ十分嚴重ニ取締ラナケレバナラヌト云フコトニ付テ、私共ト同ジ考ヘテ御持チニナツテ居ルト致シマスナラバ、私ハ如何ナル場合デモ細大漏ラサズ、斯ノ如キ宣傳行爲ヲナシタルモノニ對シテハ、取締ガ出來ルト云フ所ノ規定ガナケレバナラヌト思フノデアリマス、モウ一回伺ヒマス

○本田政府委員 今回治安維持法ノ改正案ヲ提出致シマシタ根
本ノ動機ノ一ツト致シマシテ、過去ノ治安維持法運用ノ實績ニ
徴シマシテ、非常ニ勤キガ惡イトカ、或ハ思想犯罪ノ鎮壓上遺
憾ナ點ガアルトカ云フヤウナ實績ヲ考慮致シマシテ、改正案ヲ
考ヘルニ至ツタノデゴザイマス、ソコデ國體變革ニ關スル事項
ニ付キマシテハ、是ハ御承知ノヤウニ非常ニ澤山ノ犯罪モゴザ
イマシタシ、又現ニ只今御質問ノアリマシタ宣傳ノ點ニ付キマ
シテモ、其ノ規定ヲ缺如シテ居リマス爲ニ、取締上種々ナル不
便、不都合ガアツタノデゴザイマス、ソレデ是ハドウシテモ明
確ニシテ、左様ナ行爲ヲ處罰シ得ルヤウニシナケレバナラヌト
云フコトカラ、規定ヲ置イタノデゴザイマスガ、私有財産制度
否認ニ關シマスル犯罪ニ付キマシテハ、曾テ生産黨ノ事件一件
ヲ、私有財産制度否認ノ犯罪トシテ適用シタダケデゴザイマシ
テ、其ノ後殆ド私有財産制度否認ニ該當スル犯罪ハナカツタノ
デゴザイマス、隨ヒマシテ過去ノ實績ニ徴シマシテ、私有財産
制度否認ニ關シマスル規定ヲ強化スルト云フヤウナ事實上ノ必
要ガ、其ノ方面カラ認メテラセズ、ソコデ十一條ニ於キマシ
テモ亦宣傳罪ニ關スル規定ヲ置カナカツタ次第デゴザイマス、
要スルニ過去ニ於ケル罰則適用ノ實情ヲ考慮致シマシテ、立案
シタモノデゴザイマス、左様ナコトデハ御承知ノ如クヒタイト
思ヒマス (同第六回)

○政府委員(三宅正太郎君) 私有財産制度ノ否認ト申シマス
トハ、此ノ制度ト言ヒ、又否認ト云フ言葉ノ中ニ相當含意セラ
レタ意味ガアルノデアリマシテ、制度ト言ヒマスレバ一般的ナ

コトヲ意味シ、否認ト云フコトハ相容レザル事項ノ實現ヲ圖ル
ト云フコトデアリマシテ、相容レザルコトデゴザイマス、一方
ニ一般ト言ヒ、片方ニ於テハ相容レザル事項ノ實現ヲ圖ル
スウ言ヒマスノデ、一部ノ唯私有財産ヲ認メルトカ、認メナイ
トカト云フコトハ、私有財産制度ノ否認ト云フコトニ當ラナイ
イ、斯ウ御説明申上ゲマス、尙御言葉ニアリマス財産還ト云
フコトハ、ソレハ一般ノデハナイ唯財産還ト云フコトヲ、是
ハ勿論色々ナ場合々々ニ依リマス、デスカラ一概ニ言ヘマセ
ガ、唯私有財産還ト云フコトハ、何レデモ果シテ私有財産制
度ヲ否認スル、請リ私有財産制度ト相容レザル事項ノ實現ヲ圖
ルト云フ所迄、一體認定シ得ルカドウカト云フ所ニ、茲ニ事實
上ノ判斷ノ鍵ガアルト思フノデアリマス、デアリマスノデ、只
今仰セニナリマシタヤウナ、單ナル私有財産還ト云フコトヲ
唱ヘルト云フコトデアリマスレバ、ソレハ此ノ私有財産制度ノ
否認ヲ宣傳スルト云フコトニ直チニ當ラナイ、斯ウ政府委員ハ
御答ヘヲシタト思フノデアリマス、然ラバソレハ何レモ當ラナイ
イカト申シマス、サウデハゴザイマセヌデ、少クトモ若シ文
書ニ致シマスレバ安寧秩序ヲ害スル事項ヲ頒布シタト云フコト
ニナリ、恐ラク處罰ノ客體ニナルト思フノデアリマス

○山隈廉君 前ニモ申述ベマシタガ、假ニ一部ノ私有財産否
認、即チ不動態ノ私有ヲ許サナイ、斯ウ云フ議論ヲ立テル者ガ
アリト假定致シマス、ソレハ結局其ノ主張自體カラ推論致シ
マスレバ、全部ノ私有財産否認ニ當然到達スベキ危險ノアル場
合ニ對スルノハ、此ノ法文中ニハ當然ラナイノデセウカ

○政府委員(三宅正太郎君) 甚ダ失禮デゴザイマスガモウ一遍
下ウゾ……

○山隈廉君 不動態ノ私有ヲ禁ズル、斯ウ云フコトハ、私有財
産制度ノ一部ノ否認ト云フコトハナイ、其ノ議論ヲ押擴ゲマス
ト、當然全部ノ私有財産否認ニ到達スベキ危險ガアル、其ノ議
論ノ建前カラ推論致シマス、當然其處ニ到達スル、是ハ先刻
カラ屢々政府委員ノ方デ御説明ニナツテ居リマス、政體變革ハ
治安維持法ニハ當ラナイ、併シナガラ政體變更ト云フヤウナモ
ノハ、動モスルト國體變更ニ歸一ヲシテ一緒ニナツテシマフ、
ソコデ此ノ法律ニ依ツテ處罰スルカラ差支ハナイデヤナイカ
ト云フ、此ノ仰セカラ致シマス、私有權ノ制度ノ一部ノ否認
モ、全部ノ否認ニ影響致シマシテ、政體變更ガ國體ノ變更ニ歸
一スルガ如キ關係モ、當然想像シ得ラレルコトト思フ譯デアリ
マス、此ノ場合此ノ法律ニ依ツテ處罰出來ルカドウカ、御分り
ニナラナケレバモウ一遍申上ゲマセウカ……

○政府委員(三宅正太郎君) 土地國有ト云フコトガ一切ノ土地
ノ私有ヲ禁止スルト云フコトデアル、ソレデアリマスレバソレ
ガ私有財産制度ノ否認ト云フコトニナルト云フコトハ、是ハ御
言葉ノ通り考ヘテ宜シカラウト思フノデアリマス、唯併シ一部
ノ否認ガ結局ハ、全部ノ否認ニナル所ノ危險ヲ包藏スルト云フ
コトノ意味ヲ以テ、直チニ一部ノ否認ヲ……直チニ之ヲ以テ此
ノ私有財産制度ノ否認トスウ認定スルト云フコトハ、チヨツ
トマダ早カラウト思フノデアリマスガ、其ノ點ハ尙實際ノ問題
デアリ、ソレヲ唱ヘル人ノ主觀ナリ、又唱ヘル場合ノ狀況ナリ

ニ依ツテ、判斷ガ色々違フダラウト思ヒマスノデ、實際問題ト
シテハ一概ニソレヲ判斷ラシ得ナイノデヤナイカト思フノデア
リマス

○山隈廉君 私人實際ノ問題ニ對スルコトヲ御尋ネスルノデヤ
ナクテ、法律上ノ根據ヲ御尋ネスル、ソコデ一部ノ私有財産制
度ヲ否認ラシタ場合、其ノ議論ガ當然一般ノ私有財産制度ヲ否
認スル結果ニ到達スルコトヲ認メ得ラレタル場合、認メル認メ
ナイハ御話ノ通り、其ノ時ノ事情ニ依リマスガ、私ハ認メ得タ
場合ヲ前提トシテ御尋ネスル、サウ云フ場合ニハ犯人ソレ自體
ハ全部此ノ私有權ヲ否認スル、目的ハナクテモ其ノ議論自體ガ
當然、全部ノ私有權制度ヲ否認スル結果ニ到達スル場合ニ於テ
ハ、之ニ對スル危險ハ同ジデヤナイカ、ソレヲ處罰ガ此ノ中ニ
含まカ含マヌカト云フコトデアリマス

○政府委員(三宅正太郎君) 其ノ目的ガゴザイマセヌデ致シタ
ノデアリマスレバ、唯其ノ結果ノミヲ取ツテ治安維持法ノ改正
案ニ間接スルコトハ出來ナイト考ヘマス、併シナガラソレ等ノ
言説ハ、安寧秩序ヲ害スルコトトシテ可罰性ガアルト思ヒマス
ノデ、其ノ方デ取締ツテ差支ナイモノデヤナイカト思ヒマス
ガ、モウ少シ此ノ點ニ付テハ實際ノ色々ノ場合ニ付テ考ヘマセ
スト、正確ナル説明ヲ申上ゲ兼ネルノデアリマス (貴族院治安
維持法改正法律案特別委員會議事速記録第五號)

(11) 第十一條關係

○本田政府委員 御答ヘ致シマス、先ツ第一ニ私有財産制度否

認ノ宣傳ヲナセ處罰シナイカト云フ點ニ付テ御答ヘ致シマス、是ハ昨日モ申ゲタコトデゴザイマスガ、結社ニ關係致シマシテ宣傳致シマシタ場合ニ於キマシテハ、結社ニ關係目的遂行爲トシテ處置シ得ルノデアリマス、更ニ宣傳行爲ガ相當激シテ互リマシテ、其ノ實行方法等ヲモ示シマス場合ニ於キマシテハ、多ク煽動トナリマシテ、之ニ依ツテ處置シ得ル場合ガ多クデアリマス、尙ホ宣傳致シマシタ其ノ行爲ヲ探究シテ見マスレバ、殆下大部分ノ場合ソコニ私有財産制度否認ノ目的トスル協議罪ガ發覺スル場合ガアラウカト存ズルノデアリマス、隨ヒマシテ殊更茲ニ宣傳ヲ舉ゲマセヌデモ、大體ニ於テ處置シ得ルノデハナカラウカト考ヘタノデアリマスガ、更ニ現在ノ他ノ刑罰法規ヲ以テシマシテモ、例ヘテ見レバ私有財産制度否認ノ思想ヲ文書等ニ依ツテ流布致シマシタ場合ニ於キマシテハ、新聞紙法、或ハ出版法ニ依ツテ十分取締リ得ルノデアリマス、昨日モ申上ゲタコトデゴザイマスガ、此ノ度ノ治安維持法ノ改正ハ、過去ノ實績ニ微シマシテ十分取締リ得ルノデアリマス、思想情勢ノ推移ニ應ジテ其ノ取締ノ完備ヲ期スルコト云フ點ニ主眼點ヲ置イタノデアリマスガ、治安維持法ノ私有財産制度否認ニ關スル條項ハ、從來餘リ其ノ發動ヲ見タコトガゴザイマセヌデ、隨テ私有財産制度否認ニ關スル罰則ヲ強化シナケレバ、取締ノ完備ヲ期シ得ナイト云フコトニハ、考ヘテ居ラナイノデアリマス、尙ホ私有財産制度否認ニ關スル言動ヲ集會ニ於テ講談論議シタヤウナ場合ニ於キマシテハ、治安警察法ニ依ツテ之ヲ取締ルコトモ出來ルカト存ジマス(衆議院治安維持法改正法

律案委員會議錄(速記)第七回)
○國務大臣(柳川平助君) 只今ノ私有財産制度否認ノ方ハ、結社ニアラザレバ、宣傳等ヲシテモ、本法ニ觸レナイカラ豫防拘禁スルコトハ出來ナイカト云フ御尋ネハ御尤モデゴザイマシテ、コ、迄私有財産制度ノ單ナル宣傳トカ、講演トカ云フモノハ本法テ直接ニ取締ルヤウニハナツテ居ナイノデアリマス、立案當時ハ、是ハ他ノ法令ニ依ツテ制裁ガ出來ルカラ、之ヲ取締ルコトガ出來ル、是ハ斯様ナ法令テ取締ツテ居ル中ニ當ジテ來マシテ、遂ニ結社ヲ爲シ、若シクハ其ノ方法ガ一方ニ移リマシテ、底ニ潜ンデ居ル所ノ團體變革等宣傳、教唆、若シクハ結社準備、結社等ノ順序ニ行クヤウニ見ラレタ時分ニハ、之ヲ本法ニ依ツテ取締ル、斯ウ云フヤウニ考ヘテ居ル次第デアリマス(貴族院治安維持法改正法律案特別委員會速記第三號)
○次田大三郎君 第五條ニ目的タル事項ヲ宣傳スルコト云フ新シイ規定ガアリ、一煽動ト云フコトモ茲ニ入ツテ居リマス、ソレカラ一目的タル事項ヲ宣傳シ其ノ他其ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ト云フノガ今度入ラレテ居リマス、ソレデ以テ團體變革ノ意圖ノ下ニヤル行爲ハ、總テ漏レナク取締ルコト云フコトニナルダラウト思フノデアリマス、其ノ第五條ニ宣傳、煽動ト云フ文句ヲ加ヘラレテ居リマス、處ガ後ノ十一條ノ私有財産ノ方デハ宣傳ト云フ文句ヲ抜イテアリマス、ソレハ何カ特別ノ立法理由ガアルノデアリマセウカ、伺ヒタイ
○政府委員(秋山要君) 其ノコトニ付キマシテ少シク理由ヲ申述ベタイト存ジマス、是ハ本委員會ノ冒頭ニ於キマシテ御説明

申上ゲマシタ通り、過去ノ實績ニ微シマシテ、現行法ノ不備ヲ補ヒ、尙之ヲ強化致サウト云フノガ本改正案ヲ提出シタ理由デゴザイマスガ、私有財産否認ニ關シマシテハ、實ハ過去ニ於テ實例ガ乏シイノデアリマス、團體變革ト切離シテ、單獨ニ適用ノアリマシタノハ、集黨事件ト云フノガゴザイマシタガ、是ガ唯一件ニ過ギナイノデアリマシテ、而モ此ノ事件ハ昭和二年ニ檢舉セラレマシタ古イ事件デアリマシテ、其ノ以後私有財産制度否認ノミノ條項テ處罰セラレタモノハ全然ナイノデアリマス、斯様ナ實情デゴザイマスノデ、本案ニ於キマシテ之ヲ、宣傳ヲ處罰スル規定ヲ設ケルコトハ實際上必要ガナイノデアリカト云フ風ニ考ヘタ次第デアリマスノミナラス、現下ノ情勢ニ於キマシテハ、此ノ種ノ宣傳行爲ニ對シマシテ、既存ノ色々ノ法規ヲ以テ十分取締リ得ルモノト考ヘテ居リマス、即チ此ノ結社ニ關係シテ宣傳ヲ致ス者ガアリマスレバ、之ニ對シマシテハ本案ノ第十條ノ目的遂行行爲トシテ處理スルコトガ出來マスルシ、單獨行爲デアリマシテモ極端、詭激デアリマスルモノハ、宣傳ト煽動トハ紙一重ノ差デアリマスルカラ、大部分ハ此ノ實行ノ煽動トシテ、第十一條ニ依ツテ取締ルコトガ出來ルノデアリマス、更ニ又宣傳行爲ノ裏面ヲ研究致シマスルト、實行ニ關スル協議トシテ處罰シ得ル場合モアリマスルバカリデナク、此ノ種ノ宣傳中危險デアリマスルモノハ、文書ニ依ルコトヲ常ト致シマスルカラ、新聞紙法、出版法又ハ不穩文書臨時取締法ニ依リマシテ處理スルコトガ出來マスシ、又言論ニ依ル場合ニ於キマシテモ、治安警察法ノ運用ニ依リマ

シテ、行政並ニ司法ノ兩方面カラ適當ニ取締ルコトガ出來ルノデアリマス、斯様ニ實際上ハ是等既存ノ法規ノ適當ヲ運用ニ依リマシテ、現下ノ情勢ニ應ズル取締リ得ルコト信ズルノデアリマス、併シ此ノ法規ハマア死文デアリマシテ、要ハ其ノ運用ニアルノデアリマスルカラ、當局ト致シマシテハ、將來特ニ既存法規ノ運用ニ依リマシテ、治安ノ確保ニ十分ニ努力ル方針ヲ執ツテ居リマス、私有財産制度否認ノ宣傳ニ關スル處罰條項ヲ設ケマセヌデシタ理由ハ、以上申上ゲタヤウナ理由ニ基クノデアリマス
○次田大三郎君 只今ノ御説明ヲ伺ヒマスルト、私有財産制度否認ノ宣傳ヲスル處罰法規ヲ設ケラレマセナンダ理由トシテハ、第一條ニ實際上私有財産制度否認ダケ問題ニナツタコトガナイ、ダカラ特ニサウ云フ規定ヲ設ケル必要ハナイト云フコトガ第一點、第二點ハ、現在アル法規テ十分取締リ得ルヲ達スルコトガ出來ルト云フノガ第二ノ理由デアリマス、第三ニ、是ハ理由トシテ御尋ゲニナツタノカドウカハツキリ致シマセヌガ、運用ハ人ニアル、將來現在ノ凡ラユル法規ヲ運用シテ私有財産制度否認ノ宣傳ヲ取締ル積リデアル、斯ウ云フコトニ拜承致シマシタ、第一ニ私有財産制度否認ノ事實ガナイカラ、サウ云フ私有財産否認ノ犯罪其ノモノハ、ソレダケノ犯罪ト云フモノハ非常ニ少イカラ、ソナニ用心ヲシナクテモ宜イノダト云フ御説明デアリマシタ、併シナガラソレデモ尙第十條、第十一條ハ從來ノ規定ヲ強化サレタトハ思フ、第十條ニハ「又ハ情ヲ知リテ」ト云フ文句ヲ加ヘラレ、ソレカラ第十一條ニハ「又ハ其

ノ目的タル事項ノ實行ヲ煽動シト云フ文句ヲ新タニ加ヘラレタ、其ノ規定ヲ強化セラレタ、處方宣傳ダケハ書カヌデモ宜シイ、今ノ御説明デハ其ノ區別ヲナスツタ譯ガ分ラナイ、私有財産制度否認ニ關スル犯罪ハ、其ノ實例ガナイノダカラ強化スル必要ハナイト云フノデ、現行法ノ儘デオヤリニナルト云フナラバ、今ノ御説明ノ點ガ分ルケレドモ、或ル程度迄之ヲ強化シテ、獨り宣傳ニ限ツテ取締ルコトヲシナイ、特別ノ規定ヲ設ケナイト云フノニハ、又特別ノ理由ガオアリニナルコトトモ思フノデアリマシテ、ソレヲ私ハ伺ヒタイト云フノデアリマス、ソレガ第一デス、第二ハ、從來ノ規定ヲ運用シテ、取締ガ出來ルト云フ御説明アリマス、併シ從來ノ規定ヲ適用シテ取締ガ出來ルコトハ、獨り私有財産制度否認ノ宣傳バカリデハナク、國體變革ノ宣傳ト雖モ、從來ノ規定ヲ取締ガ出來ルノデアリマス、ケレドモソレデハ不十分ナル、刑ノ關係其ノ他ニ於テ不十分デアルト云フコトデ、特ニ今迄ナカッタ文字ヲ第五條ニ御人レニナリマシテ、一其ノ目的タル事項ヲ宣傳シト云フコトヲ御加ヘニナツタモノダラウト、マアサウ云フ先刻ノ御説明デハ私ハサウダラウト思フ、ダカラ從來ノ規定デ其ノ目的ヲ達スルコトガ出來ルト云フコトハ、私有財産制度否認ノ宣傳ヲ罰スル條項ヲ設ケナカッタ理由ニハナラヌトモ思フノデアリマス、尤モ私有財産制度否認ノ宣傳ハ輕イモンダ、ソレカラ國體變革ニ關スル宣傳ハ重イモノダカラ、ソレデ區別ヲシタノダト云フ説デアレバ、マア一應ハソレデ分リマス、併シサウデナクテ、唯從來ノ規定ヲ取締ガ出來ルノダカラト云フ御説明デハ、ドウシテ前ノ

國體變革ノ宣傳ハ法條ニアラハニ書キ、ソレカラ私有財産制度否認ノ宣傳ハ法條ニ書カナカッタカト云フコトノ説明ニハ私ハナラヌトモ思フ、ソレカラ最後ニ法ヲ運用ハ人ニアル、從來ノ法規ヲ運用シテ大イニ努力スルト云フ御説明、ソレハモウ其ノ通りデアリマス、是非努力シテ戴カナケレバナラヌ、法ヲ運用ガ人ニ在リト云フコトハ御説明ノ通りデアアル、併シナガラ今新タニ法文ヲ作ラウ、立法シヨウトシテ我々ガ骨ヲ折ツテ居ル所デアアル、出來ルダケ取締上遺漏ノナイヤウニ致シタイト云フ、マア大キイロヲ利クヤウデアリマスガ、國家ヲ憂フル信念カラ斯ウ云フ風ニ骨ヲ折ツテ居ルノデアリマス、運用ハ人ニ在リ、法條ハドウデモ宜インダト云フ譯ニハ參ラヌ、出來ルダケ取締當局ガ取締ヲナサル爲ニ御都合ノ好イヤウニ、サウ思ツテ考ヘテ、此ノ質問ヲシテ居ル次第ナンデアリマス、ドウカ前ノ二箇條ニ付テ今一應御説明ヲ願ヒマス

○政府委員(秋山要君) 只今御尋ネノ第一點ハ、私有財産制度否認ニ關スル規定、第十條ニハ、現行法ニナイ「情ヲ知りテ」ト云フ文句ガ加ヘラレテ居ルノデハナイカト云フ御尋ネデゴザイマス、尙十一條ニ協議、煽動ト云フヤウナ文句ガ入レテアルト云フコトデアリマス、第十條ニ「情ヲ知りテ」ト云フ文句ヲ入レマシタノハ、是ハ現行法ノ第一條ヲ、第一項ト二項ト斯ウ云フ風ニ分ケマシタ關係デ、「情ヲ知りテ」ト云フコトヲ入レナケレバ、現行法通りノ解釋ニナリマセヌノデ之ヲ入レタノデアリマシテ、趣旨ニ於テハ少シモ是ハ變更ハナイノデゴザイマス、第十一條ニ付キマシテモ、其ノ趣旨ニ於テ變更ハナイノデ

アリマシテ、要スルニ私有財産制度否認ノ問題ニ付キマシテハ、大體現行法通り行クト云フコトニ致シタノデアリマス、是ハ先程申上ゲマシタヤウナ理由カラデゴザイマス、尙私有財産制度否認ニ關スル宣傳ヲ處罰セナイノハ、國體變革ノ宣傳ヨリモ事情ガ輕イ爲デアアルカドウカト云フ御尋ネデアリマスガ、是ハ輕イト云フコトモ勿論一ツノ理由デゴザイマス、國體ノ根本ヲ變革セムトスル者ト、私有財産制度ヲ否認セムトスル者トノ間ニハ、相當ノ是ハ懸隔ガアルモノト考ヘテ居リマス、尙國體變革ノ部分ニ關スル條文ニ付テハ、色々ナモノヲ規定シテ、細カニ規定ヲ設ケテ居ルガ、國體變革ニ付テハサウ云フ特ニ必要ガアルカト云フヤウナ御尋ネモゴザイマシタガ、國體變革ニ付キマシテハ、本來現行法ガ共產黨ト云フ結社ヲ目標ニシテ設ケラレテ居リマスル爲ニ、結社ニ關係ノナイ色々ナ場合ガ漏レテ居リマシテ、之ヲ現行法ニ當嵌メテ解釋致シマスルコトハ非常ニ困難デゴザイマシテ、其ノ間ニ相當ノ無理ガ生ズルノデアリマス、左様ナコトデアリマスルト、法文ノ解釋上無理ガ出來ル、從ツテ其ノ取調ニ付キマシテモ、相當ノ無理ガ付ト云フコトデアリマシテハ、甚ダ遺憾デアリマスルノデ、ソレ等ノ點ニ付キマシテモ考慮ヲ致シマシタ結果、共產黨ト云フヤウナ、サウ云フ結社ニ關係ノナイ部分ニ付キマシテモ、色々處分ノ必要ガアリマスル部分ヲ取上ゲマシテ、斯様ニ現行法以上ニ詳細ナ規定ヲ設ケタ次第デアリマス

無理ナク現行法ヲ取締ガ出來ル、其ノ區別ガ何處カラ出テ來ルノデアリマスガ、適用ノ現行法ヲ一々指摘シテ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(秋山要君) 是ハ只今申上ゲマシタヤウニ、私有財産制度否認ノ事例ト云フモノガ殆ドナイノデゴザイマスルノデ、現在ノ實情ニ鑑ミマシテ、斯様ニ區別ヲ致シテ居ル次第デゴザイマス

○次田大三郎君 私有財産否認ノミニ止マル例ハナイト云フ御説明、ソレハサウデアラウト思ヒマス、私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテ、國體變革ニ關係ナク唯ソレダケヲ目的トシテ、結社ヲ組織スルト云フヤウナ事例ガナイコトハ、私モ其ノ通りダトモ思フ、ケレドモ私有財産制度ヲ否認スルノ宣傳ヲスル事例ハアルンデヤナイカ、唯現行ノ治安維持法ニソレヲ罰スル法條ガナイカラ、問題ニナラナインダ、先程ノ御説明ニ依リマスルト、サウ云フモノハ現在ノ治安維持法以外ノ普通刑法、其ノ他ノ法律デ以テ取締ルコトガ出來ルト云フ御説明デアリマスガ、實際ニ取締ラヌ積リテ取締ヲ爲サヌノデヤナイカ、私有財産制度否認ノ宣傳ト云フモノハ、今日デモ相當世間ニ行ハレテ居ル、例ヘバ財産ヲ奉還シロ、是ハ私有財産制度ヲ否認ノ宣傳ダトモ思フ、土地國有論、資本國有論ト云フヤウナモノモ、私有財産制度否認ノ宣傳デナケレバ、ツイ其ノ一步手前、皮一重ノ所迄來テ居ルトモ、事例ガナインデヤナクテ、事例ハアルガ、取締法規ガナイ、現ニ存在シテ居ル刑法、其ノ他ノ普通法令デ取締ルンダト云ハレマスルケレドモ、ソレハ取締ラヌノデヤナイ、

取締ル必要ヲ御考ヘニナツテ居ナイノチヤナイカト云フ疑ヒヲ持ツノデアリマス、如何デセウカ

○政府委員(秋山要君) 只今ノ御尋ネニ對シマシテ、少シ詳シク申上ゲタイト思ヒマス、世上ニ、仰セニナリマシタヤウナ、財産奉還、土地國有ト云ツタヤウナ論議ノ行ハレテ居リマスルコトハ、私共モ能ク承知致シテ居リマスガ、政府ノ見ル所デハ、サウ云フ論議ハ主トシテ高度國防國家體制ヲ確立セナケレバナラヌト云フヤウナ必要ニ基キマシテ、統後ノ國民ノ心構ヘ或ハ道義心等ノ喚起ヲ促ス爲ニ唱ヘラレテ居ルモノデアアルカノヤウニ思フノデアリマス、例ヘバ某々團體ニ於キマシテ、生命奉還ト並ベテ、財産奉還ヲ主張致シテ居ルモノモアリマスガ、仔細ニソレ等ノ主張ヲ検討シテ見マスルト、ソレハ統後國民ハ、戦線ニアル皇軍將兵ガ生命ヲ捧ゲテ奉公シテ居ルト同ジヤウナ心構ヘヲ以テ奉公スベキモノデアアル、言ヒ換ヘレバ、統後ニ於テ産業ニ従事シテ居ル者ハ、從來鬼モスレバ誤リ勝テアツタ所ノ唯物主義トカ、功利主義トカ或ハ個人主義乃至ハ自由主義ノ弊ヲ脱シテ、總テノ財産ヲ 陛下ニ捧ゲルト云フヤウナ趣旨ニ解サレルノデアリマシテ、私有財産制度否認又ハ所有權否認ト見ルヨリモ、寧ロドウ云フ風ニシテ所有權ヲ運用シ、其ノ機能ヲ最能ク現トノ情勢ニ適合スルヤウニ發揮セシムルカト云フコトヲ、強調シテ居ル場合ガ多イカノヤウニ思フノデゴザイマス、所謂右翼團體ノ綱領ハ、一般ニ誇張シテ主張セラルルノヲ常トスルヤウデアリマシテ、必ズシモ之ヲ直チニ實行ニ

移サウト云フヤウナモノデハナイヤウニ思ヒマス、此ノ事ハ、彼等ガ多ク其ノ實行方法ニ言及シテ居ラナイト云フコトニ依ツテ、裏書キサレテ居ルヤウニ思ヒマス、併シ斯様ナコトガ熱心ニ主張セラレマス餘リ、農村其ノ他ニ於キマシテ、或ル種ノ社會不安ヲ醸スト云フヤウナコトハアリ得ルト思フノデアリマスガ、其ノ説ク所ハ、只今申述ベマシタヤウニ、心構ヘヲ強調スルモノデアルト致シマスレバ、私有財産制度否認ノ宣傳ニ關スル處罰規定ヲ設ケマシテモ、之ニ依ツテ取締ルコトハ困難ノヤウニ思フノデアリマス、尙他面カラ申シマスルト、假ニ本當ニ私有財産制度否認ノ程度ニ進ンデ居ルト致シマシテモ、所謂右翼ノ場合ニ於キマシテハ、個人的ニ之ヲ主張スル場合ハ稀デゴザイマシテ、大部分ハ團體トシテノ主張デアリマスルカラ、本法ノ第十條ニ依ツテ處理シ得ルノデゴザイマス

○政府委員(三宅正太郎君) 財産奉還ト云フ言葉ノ下ニ色々ナ主張ガ盛り込マレ得ル可能性ガアル文句ダト思フノデアリマス、現在一部ニ行ハレテ居リマス財産奉還トカ、生命奉還トカ、君國ノ爲ニ生命、財産ヲ犠牲ニスルト云フコトヲ誇張シテ言ツタモノトモ解セラル、部分モゴザイマセウ、一體マア右翼ノ主張ト云フモノハ、相當其ノ誇張ガ甚シイノデアリマシテ、其ノ字句ノミヲ見マシテ、其ノ額面通りニ受取ルト云フコトハ必ズシモ妥當デナイ場合ガ随分ゴザイマスノデ、ソコハ用心シテ掛ラナケレバナリマセデ、併シ又一面ニ誇張デナクシテ、實際ソレハ若シ本當ニヤル積リダツタト云フコトデアリマスレバ、矢張り只今ノ御話ノヤウニ取締ル對象ニナリ得ル譯デ、少ク

モ其ノ取締ル對象ニナリマスノハ即チ行動、行動トシテハ行ヒ動キ、ト云フモノニシテハ取締ル對象トナルト思ヒマス、又先程御言及ニナリマシタ此ノ財産奉還ト云フコトデ、サウシテ實ハ大イニ共產主義的ナ、或ハ其ノ他ノ不逞ノ思想ヲ感込ンデヤルト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、共產主義的ナ場合ニ於キマスレバ、ソコニ所謂私有財産制度否認ノ宣傳ト云フコトニ少クモアノ程度ニナリマスレバ、煽動ト云フコトニナツテ宜カラウト思フノデアリマス、演説ヲシ、而モアノアア云フ風ナ書面ヲ出シテト云フコトニナリマス、煽動ト云フコトノ認定モ許シ得ルト思フノデアリマス(同第五號)

(12) 第二章 關係

○小畑委員 國防保安法ノ第十六條ノ第二項ニ依リマシテ、國防保安法ノ刑事手續ニ關スル規定ハ、外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ犯シタル治安維持法ノ罪ニ適用セラレルコトニナツテ居ルノデアリマス、然ルニ本法ノ刑事手續ノ規定ハ、其ノ全部ガ國防保安法ニ定メラレタ刑事手續ト殆ド同様デアリマス、ソコデ本法案ガ成立致シマスナラバ、國防保安法ニ依ツテ特ニ外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ犯シタル治安維持法ノ罪デナクテモ、此ノ目的ガナクテモ一切ノ治安維持法ノ罪ニ對シテ同様ノ刑事手續ガ行ハレルト云フコトニナルノデアリマシテ、是ガ通過ヲ致シタナラバ、國防保安法ノ同一ノ規定、第十六條ノ第二項ハ蛇足ト云フカ要ラナイモノニナル、隨ツテ是ハ紛消ヲ來スモノデアルト思フノデアリ

マスガ、左様ニ解釋シテ間違ヒハナイノデアリマスカ

○秋山政府委員 御話ノ通り國防保安法ノ十六條二項、治安維持法ト云フモノガ入ツテ居リマス、此ノ治安維持法ノ改正案ガ通過致シマスレバ、ソレガ重複ニナリハシナイカト云フ御意見デアリマスガ、國防保安法ニ治安維持法ヲ入レテアリマスノハ、外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テト云フコトヲ主眼ト致シテ居ルノデアリマス、國防保安法案ニ規定シテアル外國ト通謀ト云フ點ニ重キヲ置イテ、其ノ分ダケハ國防保安法ノ方ニ取入レヨウ、斯ウ云フ趣旨デゴザイマス

○小畑委員 國防保安法ハ今御話ノ通り、外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ犯シタル治安維持法ノ罪ニ付テダケ刑事手續ヲ適用スル、斯ウ云フコトニナツテ居ルコトハ分ツテ居リマス、併シ本法ニ依リマス、外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ犯シタル罪ニ限ラズ、總テ治安維持法ノ犯罪ハ全部國防保安法ニ規定シテアルノト殆ド同様ノ刑事手續ニ依ツテ、處置サレルコトニナルノデアリマスカラ、國防保安法ダケヲ成立サセヨウトナサルナラバ、今御話ノ如キコトデ能ク分ツテ居リマスガ、併シ本法ガ成立シタナラバ、治安維持法デ特ニ外國ト通謀シ云々ノ場合ダケヲ此ノ刑事手續ニ依ルト定メラレタコトハ、是ハ無意味ニナル、其ノ目的アルノミナラズ、目的ノ有無ニ限ラズ總テ治安維持法ノ罪ハ、此ノ刑事手續ニ依ツテ取扱ハレルノデアリマスカラ、國防保安法ノ刑事手續ト云フモノハ、治安維持法ノ罪ニ適用シヨウト云フ所ノ規定ハ、本法ノ成立ニ依ツテ其ノ意義ヲ失フモノデアルト解釋シテ宜シウ

ゴザイマスカ、其ノ他ニ理由ガアルカヲ伺ツテ居ルノデアリマ

ス
○秋山政府委員 只今ノ御意見御尤モダト思ヒマスガ、唯外國
ト通謀シ云々ト云フ點ダケヲ取上ゲマシテ、サウ云フ場合ハ國
防保安法ノ方ニ據ルノダト云フダケノ趣旨デアリマス、デアリ
マスカラ治安維持法ノ罪ニ付キマシテ、外國ト通謀シテ居ルト
云フ事實ガ分レバ、國防保安法ノ手續ニ據ル、其ノ手續ノ内容
ニ付キマシテハ全然同一デハゴザイマセヌ、多少ソコニ相違ノ
點モアルノデアリマス（衆議院治安維持法改正法律案委員會議
録（速記）第六回）

○小畑委員 此ノ治安維持法案ニアル所ノ刑事手續ト國防保安
法案ニ規定サレタ刑事手續トハ、殆ド其ノ規定ハ同ジコトデア
ルノデアリマス、僅カ二、三異ツタ點ガゴザイマスガ、是ハ恐
ラク其ノ兩法案ノ性質カラ來ル所ノ相違デアルト思フノデアリ
マシテ、大體ニ於キマシテハ同ジ手續規定ニナツテ居ル、然ル
ニ國防保安法ノ規定ニ依リマスルト、特殊ノ場合ニ限リ治安維
持法ノ罪ニ對シテモ、國防保安法ノ刑事手續ノ規定ヲ適用ス
ル、斯ウ云フコトニナツテ居ルノデアリマス、特殊ノ場合トハ
即チ外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ治安維持
法ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ、國防保安法ノ特殊ナル刑事手
續ニ依ル、斯ウ云フ規定ガアルノデアリマス、然ルニ其ノ規定
ト略々同様ナル規定ガ、此ノ治安維持法ニモ定メラレテ居ルノ
デアリマス、左様ニ致シマスルト、此ノ國防保安法ノ法案ヲ起
草セラレマシタ時期ニ於キマシテハ、治安維持法案ヲ今期議會

ニ御提出ニナルト云フコトハ、關聯シテ御考ヘニナツテ居ラナ
カツタノデハナイカト思フノデアリマス、若シ二ツノ法案ガ成
立スルト致シマスルナラバ、國防保安法ノ第十六條ノ第二項中
カラ、治安維持法ト云フ文字ヲ削除シテ宜シイノデハナイカト
思フ、斯ウ云フコトヲ昨日質問ヲ致シタヤウニ思フノデアリマ
ス、然ルニ司法當局ノ御答辯ニ依リマス、治安維持法ノ刑事
手續ト、ソレカラ、國防保安法ノ刑事手續トハ必ズシモ其ノ規
定ハ同一デハナイ、變ツタ所ガアルカラ特ニ兩法案ニ此ノ規定
ガ必要デアアル、斯ウ云フ御答辯デアツタヤウニ思フノデアリマ
ス、然ラバ茲デ兩法案ノ刑事手續ヲ比較ヲ致シテ見ナケレバナ
ラヌト云フコトニナルノデアリマスガ、簡單デアリマスカラ、私
ハ是ガ比較ヲシテ、此ノ兩法案ヲ特ニ規定スル所ノ必要ガ何處
ニアルカト云フ點ニ付テ、モウ一應伺ツテ置キタイト思フノデ
アリマス、即チ此ノ國防保安法ニ規定サレテアル刑事手續ニシ
テ、治安維持法ニ規定サレナイ所ノ條文ハドレドレデア
ルカ、極メテ僅カデアリマス、第二十八條ノ外國船舶又ハ外國航
空機法律又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反
シ云々、此ノ規定ガ治安維持法ニハナイノデアリマスガ、是ハ
主トシテ防護關係ヲ狙ツテ居リマスル所ノ國防保安法ノ特殊性
カラ來タ所ノ規定デアリマシテ、當然斯ノ如キ規定ハアリマシ
テモ、治安維持法ノ罪ニ關シテハ實際適用セラレルコトハナイ
ト私ハ思フノデアリマス、ソレカラ第三十一條ノ辯護人ハ審判
ヲ公開シタル公判廷ニ於テ口頭辯論ヲ爲ス場合ニハ國家機密、
軍事上ノ秘密等々ヲ陳述スルコトヲ得ズ、此ノ規定デアリマス

ガ、是ハ治安維持法ニハナイノデアリマスケレドモ、此ノ規定
ハ刑事手續ノ章ニ規定セラレテアリマスルガ、本質ハ手續法ニ
アラズシテ、實體法デアアル、此處ニ此ノ規定ガアリマスル以上
ハ、假令民事ノ裁判ニ於キマシテモ、又治安維持法ノ罪ニ關ス
ル公判廷ニ於キマシテモ、如何ナル法廷ニ於テモ辯護人ハ是
等ノ國家機密ヲ公開シタリ陳述スルコトハ出來ナイ、若シ其ノ
陳述ヲ爲スナラバ、當該法律ニ依ツテ處斷セラレルト云フコト
ノ結果ニナル、是ハ手續規定ノ中ニ混ツテ居リマスケレドモ、
一ツノ禁止規定デアツテ、刑罰實體法規デアルト私ハ思フノデ
アリマス、是ガ爲ニ此ノ規定ガ國防保安法ニアツテ治安維持法
ニ缺如シテ居ルノ故ヲ以テ、刑事手續ハ必ズシモ同一デナイト
論ズルノ理由ニハナラヌト思フノデアリマス、ソレカラ其ノ次
ハ第三十三條ノ三項デアリマス、「上告ハ刑事訴訟法ノ第四百
十六條ノ規定ニ依ルノ外、同法ニ於テ第二審ノ判決ニ對シ、上告
ヲナスコトヲ得ル理由アル場合ニ於テノミ、上告ヲスルコトガ
出來ル」斯ウ云フ規定デアリマスガ、此ノ中デ一刑事訴訟法第
四百十六條ノ規定ニ依ルノ外ト云フ文字ガ、治安維持法ノ刑
事手續ノ條文ノ中ニハ抜ケテ居ルノデアリマス、此ノコトニ付
テハ別ニ後テ伺ツテ見タイト思フノデアリマスガ、簡單ニ結論
ヲ言ヒマス、私ハ治安維持法ニ於テ、刑事訴訟法第四百十六
條ノ規定ニ依ルノ場合ニ於キマシテ、何故ニ上告ヲスルコトガ
出來ナイカ、國防保安法ノ罪ハ極メテ重大デアリマスガ、此ノ
重大ナル犯罪ヲ犯シタ者ハ、刑事訴訟法第四百十六條ノ規定ニ
依ツテ、第一審ノ裁判ニ對シテ直チニ直接上告ヲナスコトガ出

來ルケレドモ、治安維持法ニ關スル罪ハ、四百十六條ニ依ツテ
上告ヲナスコトガ出來ヌト、區別セラルル理由ノ解釋ニ私ハ苦
シムノデアリマス、此ノ點ハ後デ申上ゲマス、ソレカラ第三十
六條、ソレカラ第三十七條デアリマスガ、是等ノ規定ヲ若シ必
要デアルトスルナラバ、治安維持法ニ於キマシテモ、同様必要
デアルトスルノデアリマス、不必要デアルトスレバ、同様必要
法ニ規定シテ、サウシテ治安維持法ニハ規定シテ居ナイト云フ
理由、此ノ兩者ヲ區別シタ所ノ理由ガ私ニハ分ラヌノデアリマ
ス、今私ガ調べマシタ所ニ依リマシテ、治安維持法ノ條文ニナ
クシテ、國防保安法ノ條文ノ中ニアルト云フノハ、如何ナル理
由カラサウナツテ居ルノデアリマスカ、ソレカラ治安維持法ノ
條文ニアツテ、國防保安法ノ條文ニナイモノハ、治安維持法第
三十二條デアリマス、是ハ長クナリマスカラ説明ヲ控ヘマス
ガ、是等モ兩者ノ間ノ區別ヲスル必要ノナイ規定デアルト思
フ、ソレカラ第三十三條ノ第四項デアリマス、「上告裁判所ハ
第二審ノ判決ニ對スル上告事件ニ關スル手續ニ依リ裁判ヲ爲ス
ベシ」、是ハ治安維持法ニアツテ國防保安法ニハナイノデアリ
マスガ、何故ニ治安維持法ニ於テ、第二審ノ判決ニ對スル上告
事件ニ關スル手續ニ依ツテ、裁判ヲシナケレバナラヌカ、國防
保安法ニ於テハ、此ノ手續ニ依ルヲ要セズト云フ理由ノ發見
ニ、私ハ苦シムノデアリマス、サウ云フ風ニ致シテ居リマス點
ハ、以上ニ述べマシタ通りデアアル、後ハ少シモ違ハナイ、斯ウ
云フコトニナルノデアリマスガ、之ヲ特ニ一般ノ罪ハ治安維持

法ニ依リ、ソレカラ外國ト通謀シ、又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ犯サレタル治安維持法ノ罪ハ、國防保安法ニ依ルト、斯ウ云フ風ニ區別シナケレバナラナカッタ所ノ理由ヲ、伺ヒタリノデアリマス

○秋山政府委員 御尋ネノ點ハ大體御尤モナ御尋ネダト思ツテ居リマス、特ニ外國ト通謀シタ治安維持法ノ罪ヲ國防保安法ノ方ニ入レマシテ理由ニ付キマシテハ、前ニモ申上ゲマシタガ、尙ホ一ツ詳細ニ御説明ヲ申上ゲマス、國防保安法ニ定メラレテアリマス刑事手續ハ、外國ノ行フ秘密職、即チ諜報宣傳デアルトカ謀略トカ云フモノニ對應致シマシテ、統一のニ又強力ヲ捜査手續ト、迅速適正ナ審判手續ニ依リマシテ、之ヲ一擧ニ破碎シヨウト云フコトヲ目的トシテ、立案セラレタモノデアリマス、此ノ法案ニ依ツテ新設セラレマシタ罪ニ止マラズ、既ニアリマス罰則中、外國ノ諜報、宣傳、謀略トシテ行ハレルヤウナ可能性ノアル凡ユル罪ヲ網羅シテ、是等ノ總テノ罪ニ此ノ刑事手續ノ適用ガ出來ルノダト云フコトニ致シタノデアリマス、治安維持法ノ罪ハ「コミンテルン」又ハ中國共產黨ナドノ外國ト通謀シ、又ハ是等ノ利益ヲ與フル目的ヲ以テ行ハレル思想謀略トシマシテ、最も恐ルベキ場合ガ多イコトハ申上ゲマシテ、此ノ法案、隨ヒマシテ斯様ナ思想謀略ニ對應スル必要上、國防保安法第十六條ノ第二項ニ、治安維持法ノ罪ヲ規定シタノデアリマシテ、斯様ニ一箇ノ法律ニ此ノ種ノモノヲ纏メテ、規定スルト云フコトガ必要デアルト云フ所ニ、重點ガアルノデアリマス、此ノ國防保安法ノ第三十八條ニ、刑事手續ハ別段ノ規

定アル場合ヲ除クノ外ハ、一般ノ規定ニ依ルトアリマシテ、二ツノ法案ガ成立致シマスレバ、外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ犯サレタ、治安維持法ノ罪ニ付キマシテハ、只今御尋ネノヤウニ國防保安法所定ノ刑事手續ガ、先ヅ特別法トシテ優先的ニ適用セラレル、治安維持法所定ノ刑事手續ハ、刑事訴訟法ト一緒ニ、補充的ニ適用ニナル、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマス、兩法案ノ刑事手續ニ相違ノ點ノアリマスコトハ、只今御話ノ通りデアリマス、唯國防保安法中御指摘ニナツタ點デ、訂正ニナツテ居ル所ガアリマス、三十三條ノ上告ノ點ナドハ、只今御話ノ部分ハ訂正前ノ所デアリマスガ、其ノ後訂正ニナツテ居リマシテ、是ハ治安維持法ト同ジヤウニナツテ居リマス、兩者ノ刑事手續ニ多少ノ違ヒモアリマスガ、是ハ捜査スル上ニ於キマシテ、又審判スル上ニ於キマシテ、全然實益ガナイト云フ譯デハナイノデアリマス、併シナガラ運用ノ上ニ於キマシテハ、國防保安法ノ第十六條等ニ治安維持法違反ノ罪ヲ掲ゲテ置キマスコトハ、多少蛇足ノ感ハアル、是ハ御話ノ通りデアリマス、唯多少觀念的ニナルカモ知ラント思ヒマスケレドモ、只今申上ゲマシタヤウナ必要カラ、ソレヲ分ケテ居ルノデアリマス、此ノ國防保安法ハ御承知ノヤウニ、目下貴族院ニ於テ審議中デアリマスガ、兩法案ノ成立致シマシタ上ハ、是ハ國防保安法ノ方ハ入レテアルカラ、非常ニ實益ガアルト云フコトヲ申サレナイカト思ヒマス、此ノ點ハ御話ノ通りデアリマス

○小畑委員 三十三條ノ四項デアリマシタカ、ソレデハ此ノ兩

法案ガ同ジヤウニ訂正サレタノデアリマスカ

○秋山政府委員 サウデアリマス

○小畑委員 同ジヤウニ訂正サレテ居リマシタラ尙更ノコトデアツテ、兩者ガ一致スル譯デアリマスガ、觀念上カラ申シマシテ、ドウシテ第十六條第二項ニ之ヲ入レナケレバナラナカッタカト云フ御話ハ分リマスガ、實際問題ト致シマシテハ、此ノ兩法案ノ規定ヲ異ニシテ居リマス點ニ付キマシテハ、ソレタケノコトデアリマシタナラバ、此ノ龐大ナル條文ヲ御作リニナツテ、ドチラニモ同ジコトヲ掲ゲルト云フ必要ハナカッタト思ヒマス、是ハ一般ノ刑事訴訟法ヲ改正シヨウト云フ御考ヘガアツテ、本當ノ司法省ノ考ヘト致シマシテハ、總テノ事犯ニ對スル刑事手續ヲ變ヘテ行キタイ、即チ刑事訴訟法ノ改正ヲシタイト云フ考ヘガアツテ、其ノ御考ヘガ司法省カラ出テ參リマスル國防保安法ニ致シマシテモ、治安維持法ニ致シマシテモ、悉クニ是ガ現ハレテ來タ結果デハナイカト私ハ考ヘタノデ伺ツタ次第デアリマス、只今實際ノ問題トシテハ兩方ヲ分ケテ規定ヲシテモ、是ハ別ニ實益ガアル譯デナイ、唯觀念上國防保安法ノ第十六條ニモ之ヲ入レナケレバナラナカッタト云フ結論ノヤウニ伺ヒマシタカラ、是ハ此ノ程度ニ承ツテ置クコトニシタイト思ヒマス(同七回)

○堀切善次郎君 第二章ノ手續ハ、是ト全然同ジ規定ガ、昨日通過致シマシタ國防保安法ノ中ニ、外國ト通謀スルト云フヤウナ目的ヲ以テ、治安維持法ヲ犯シタ者ニ對シテ適用サレルト云フコトニナツテ居リマスガ、全く同ジ手續ノ規定ガ二重ニナツ

テ居ルノデスガ、是ハ其ノ二ツノ關係ハドウ云フ風ニナルノデセウカ、本法ガ通りマスレバ、國防保安法ノ方ノ治安維持法ノ規定ハ、全然不要ニナルノチヤナイカト思ハレルノデアリマスガ、其ノ點ニ付イテ御解釋ヲ承リタイ

○政府委員(三宅正太郎君) 實ハ多少違ヒガ茲ニアルノデゴザイマス、例ヘバ此ノ間ニハ多少違ヒガ、管轄ノ移轉ト云フヤウナコトガゴザイマスノデ、全然同一ダトハ申セマセマスガ、大部分同一ノ規定ガゴザイマス、是ハ此ノ治安維持法ガ提出セラレマス以前ニ、國防保安法ヲ提出致シマシタ關係上、國防保安法ノ方ニハ、治安維持法ノ違反事件中、外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ爲サレタ分タケニ付テ、國防保安法ノ刑事手續ニ依ルコトト致シマシタ、今日は此ノ儘ニ通過致シマスレバ、略々同一ノ結果ニナリマスノデ、實際上ニ於テハ、アチラニアレヲ掲ゲタト云フコトノ實益ハ、或ハナカッタカモ存ジマセマスガ、併シ實ハ此ノ治安維持法ト國防保安法ハ、提出ノ時期ガ非常ニ違ツテ、國防保安法ガ提出サレテ餘程後カラ此ノ治安維持法ガ提出サレタノデ、此ノ治安維持法ガ果シテ成立スルカ否カ、マダ十分ニ見届ケラレマセヌデシタシ、一方國防保安法ニアリマス、外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ、治安維持法ノ罪ヲ犯シタ者ハ、ドウシテモアノ手續ニ依ラセルコトガ是非必要デアリマシタノデ、アノ部分ヲアノ方ヘ載セタノデアリマシテ、是ガ通りマス場合ニ於キマシテハ、ソノナニ迄心配シナクテモ宜カッタノデハナイカト云フ御言葉ハ御尤モデゴザイマスガ、サウ云フ次第デ、併シナガラ現在アチ

ラニアリ、コチラニアリマシテモ、別ニ手續上差障リノ起ルコトハ毫末モナイデアリマシテ、外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ、爲サレタ治安維持法違反ノ刑事手續ハ、國防保安法ノ刑事手續ニ依リ、サウデナイ治安維持法違反ノ罪ハ、此ノ改正ノ治安維持法ノ手續ニ依リマス、其ノ目的ニ於テハ同ジデアリマスガ、ソレハ依ルベキ條文ガ違フテ來ル、手續ニ依ツテハ、依ルベキ條文ガ違フテ來ルト云フコトニナリマス、聊カ煩雜ノ嫌ガアリマスガ、サウ云フ結果ニナツタ次第デアリマス、併シ附加ヘテ申上ゲマスガ、國防保安法ニ依ルト云フノハ、即チ刑事手續ニ依ルデアリマスカラ、國防保安法ノ刑事手續ニ依ツテ爲サレマシタ、外國ト通謀シタ治安維持法ノ犯罪モ、愈々刑ノ執行ノ點ニナリマス、豫防拘禁ハ、矢張り治安維持法ノ罪ノ性質上、豫防拘禁及此ノ治安維持法ノ法律ノ適用ヲ受ケルノデゴザイマシテ、是ガ除外サレルコトハナイデアリマス（貴族院治安維持法改正法律案特別委員會議事速記録第五號）

(13) 第二十條關係

○田村委員 其ノ次ニハ此ノ第二十條ニ被疑者ヲ勾引、引致シテ訊問スル時間ヲ限定シテアリマスガ、ソレハ如何デスカ、四十八時間ト云フコトニ限定シテアルガ、色々ノ人ノ手配ヤ其ノ他ノ不可抗力ニ依ツテ若シ四十八時間内デ出來ナイ場合ニハ釋放シナケレバナラス、大體ハ出來ルト思フノデスカ、出來ナイ場合ヲ豫想出來ナイコトハナイ、サウ云フ場合ニ、成ハ行政執

行法ノ檢束處分ニ付スルト云フヤウナ御用意ガ此處ニアルデアリマスカ

○太田政府委員 二十條ノ四十八時間内ハ、被疑者ヲ其ノ指定シタル場所ニ引致シタ時カラ數ヘテ四十八時間デゴザイマス、例ヘテ見マスルナラバ、指定シタル場所ガ警察官署デアリマスルナラバ、警察署ニ引致シテカラ四十八時間デゴザイマス、隨テ此ノ時間内ニ訊問ノ出來ナイト云フコトハ、殆ド想像ガ出來ナイノデゴザイマス、ソレノミナラズ現在ノ刑事訴訟法ニ於キマシテモ、是ト同趣旨ノ規定ガゴザイマシテ、ソレモ四十八時間内ニ訊問セヨト云フコトニナツテ居リマシテ、未ダ支障ヲ來シタコトハゴザイマセヌノデ、是デ十分ダト存ジテ居リマス（衆議院治安維持法改正法律案委員會議事速記録第四回）

(14) 第二十三條關係

○中村(高)委員 二十三條デアリマスルガ、檢事ノ勾留ノ出來ル期間ガ二箇月トサレルト云フ風ニアツテ、更ニ必要ナル場合ニハ、檢事長ノ許可ヲ受ケレバ、一月毎ニ更新ヲシテ、結局一年マデハ檢事ガ勾留ヲスルコトガ出來ルトアリマスガ、取調ノ必要上、最初ノ勾留ト云フヤウナコトハ、或ハ檢事ガヤルコトガ適當ノ場合モアルト思ヒマスルガ、ソレカラ順次一年マデ勾留ヲ更新シテ行クト云フヤウナ場合ニハ、判事ノ從來ノ手續ニ依ツテヤルコトモ、少シモ困難ガナイヤウニ思ハレルデアリマスガ、何故一體更新ノ場合デモ、檢事ガ勾留シナケレバナラスノデアリマセウカ

○太田政府委員 御答ヘ致シマス、此ノ更新ノ場合モ總テ捜査中ノ場合デゴザイマシテ、此ノ期間ノ更新ヲ必要トスル理由モ、亦捜査上ノ理由ニ基クデアリマス、隨ヒマシテ更新ヲ必要トスルカドウカト云フコトハ、ヤハリ捜査上指揮權ヲ持つテ居ル檢事長ノ許可ニ掛ケマスル方ガ、最モ事情ニ明ルイデアリマスカラ、必要、不必要ヲ適當ニ判斷シテ、處置出來ルト云フヤウニ考ヘタノデアリマス（同上）

(15) 第三十三條關係

○中村(高)委員 是ハ或ハ行刑局長ノ御答辯ヲ得ルノガ宜イノカモ知レマセヌガ、今度ノ改正法ニ依リマシテ、從來三審制度ノ裁判ヲ受ケテ居リマシタ治安維持法ノ被告ガ、今度ハ控訴審ヲ抜イテ一審ニナルデアリマスルガ、此ノ點ニ付テ私ハ一ツノ疑問ガアルデアリマス、從來ノ共產主義事件ナドノ經過ヲ見マシテモ、控訴ヲシテ居リマスル間ニ、轉向ヲ致シテ居リマスル者ガ、相當ノ數ニ上ツテ居ルト思フデアリマス、一審デ有罪ノ判決ヲ受ケマシテカラ、控訴ニナツテ轉向ヲシテ、執行猶豫ニナツテ居リマスル數ハ、私ハ相當アルト思フデアリマス、サウ云フヤウナ點カラ考ヘテ見マスルナラバ、敏速ニ事ヲ處理スルト云フコトモ、勿論是ハ必要デアリマセウガ、私ハ斯ウ云フ思想犯ト云フモノハ、轉向サセルト云フコトガ一番必要ナノデアツテ、思想犯ノ者ハ刑期ノ多少ノ長イコトナドヲサウ苦ニハシナイ者ガ通例ダト、私ハ思ツテ居ルデアリマス、過去ニ於ケル經驗カラ致シマシテ、控訴ヲスル間ニ於テ、多數

ノ轉向者ガ實際ニ出テ居ルデアリマスルガ、サウ云フヤウナ點ハ、本法ヲ改正ナサル場合ニ於テ御考慮ガナカッタノデアリマセウカ、此ノ點ヲ一ツ御答辯願ヒタイ

○太田政府委員 洵ニ御尤モ御質問デ、左様ナ御趣旨ノコトモ勿論考ヘマシタ、併シナガラ控訴中ニ轉向致シマシタ者ノ中ニモ、刑ヲ受ケルコトヲ故意ニ避ケル爲ニ、偽裝ニ轉向シタヤウナ場合モ往々ニシテアルデアリマス、ノミナラズ轉向ヲ促進致シマス方法ハ、控訴審ヲ置イテ、其ノ期間中ニノミ轉向ヲ促進サセルノデアリナイデアリマシテ、檢事シマシタ後、檢事ノ取調中、或ハ豫審ニ於キマシテモ、公判ニ於キマシテモ、轉向ヲ促進致シヤウニ仕向ケテ居リマス、更ニ裁判確定後ニ於キマシテモ、ソレニ努メテ居ルノデゴザイマシテ、控訴審ヲ省略致シマシタカラト云ヒマシテ、轉向ヲスル機會ガ非常ニ薄山失ハレルモノデハナイト信ジテ居リマス、而シテ又一方ニ於キマシテ、此ノ思想事件ノ公判ガ非常ニ長引キマス爲ニ、其ノ刑ガ確定致シマセヌ爲ニ、反面ニ於キマシテ、最近治安上別個ノ弊害ガ相當ニ感ゼラレルニ至リマシタノデ、轉向ヲ促進スル機會ハ、控訴審中ニノミアル譯デハナイ、併シナガラ反面ニ於ケルサウ云フ弊害ヲ除去シタイト云フ風ニ考ヘマシタノデ、本案ノヤウナ制度ヲ考ヘタ次第デアリマス

○中村(高)委員 一ツノ便宜ノ意味ガ、非常ニ多イヤウデアリマスルガ、私ハ治安維持法ニ掛ツタモノヲ、實體法ノ上ニ於テ、大イニ罪ヲ重クシテ懲罰ニスルト云フコトニ、少シモ異議ヲ持つテ居ルノデハナイ、ソレハドンナニ重刑ヲ科セラレテモ

差支ナイト私ハ思フ、唯手續ノ上ニ於テ、特ニ之ヲ別個ニ扱フ必要ガアルカドウカ、私ハ審理ナドト云フモノハ、法律テ決メラレテ居ル三審制度ト云フモノヲ、最モ十分ニ與ヘルノガ本當デアルト思フ、苟クモソレガ有罪デアラバ嚴罰ニ處スルト云フ、此ノ内容ノ變更ハ結構ダケレドモ、少シバカリノ手續ヲ省略シテ、早ク行ツタト云フヤウナコトデ、思想犯ノ根本的ナ取極ヲスルト云フヤウナコトハ、私ハ宜クナイト思フ、サウ云フヤウナコトニ對シテハ、私ハ一ツノ控訴審ヲ抜クト云フヤウナコトヲ、サウ重大ニ考ヘナイ、却テ三審制度ニ置ク方宜イノダト思フ、何カ非常ニ此ノ事件ニ付テ、過去ニ於テ複雑ニナツタ爲ニ支障ガアツタト思ハレマスケレドモ、私ハ急ゲバ幾ラデモ裁判ナドハ急ケルト思ツテ居リマス、現在デモ随分悠長ナ裁判ナドモヤツテ居ルノデアリマシテ、急イデヤラウトスルナラバ、一月ノ内ニ何遍デモ是ハヤレルコトデアリマス、控訴審ガアツタガ爲ニ、今日ノ裁判ノ取扱ヒガ長引イテ居ルノデハナクシテ、私ハ實ハ運用ノ問題ダト思ツテ居ルノデアリマシテ、法律テ原則的ニ決メラレタコトヲ、唯裁判所ガ忙ガシイカラト云フヤウナコトデ、簡單ニスルト云フコトハ、單ニ此ノ事件バカリデナク、宜クナイコトダト思フ、急グナラバ、一審ヲヤツテ、直グニ又控訴審モ急イデヤル、上告モ急イデヤルト云フコトハ、不可能ナコトデハ斷ジテナイト私ハ思ツテ居リマス、ドウモ唯急グト云フダケデ、控訴審ヲ省略スルト云フコトニハ、甚ダ私ハ満足出來ナイノデアリマスガ、順次ニ斯ウ云フヤウナコトガ——今度ノ國防保安法デモヤハリ控訴ヲ抜イテ居

ルノデアリマスガ、司法省ナドニ於テ、サウ云フ御考ヘガアルトハ思ヒマセスケレドモ、外ニモ順次サウ云フ風ナ裁判ヲ早クスル爲ニ、控訴ヲ抜イテ行ク方宜イノダト云フヤウナ御考ヘデモオアリニナルノデシタナラバ、此ノ機會ニ私ハ御伺ヒシテ置キタイト思フノデアリマス

○太田政府委員 御答ヘ致シマス、現在ノ刑事訴訟法ノ下ニ於キマシテハ、内亂罪或ハ大逆罪ニ關スル罪ニ付キマシテハ、大審院ノ特別管轄ニ屬シマシテ、一審ニシテ且ツ終審ト云フコトデ裁判致シテ居リマス、是ハ左様ナ大キナ重大ナル事件ニ付キマシテハ、其ノ事件ノ影響スル所、治安上國家の見地カラ見マシテ、影響スル所ガ非常ニ大キタアリマスノデ、サウ云フ方面ノコトヲ考慮致シマシテ、一審ニシテ且ツ終審ト云フ制度ヲ立テラレタコトト考ヘテ居リマス、國防保安法ニ於キマシテハ、國防保安ノ目的ヲ達スル上ニ於キマシテ、審理ノ促進ヲ必要トスルト云フ點カラ、一審ヲ省イテ居ルノデアリマスガ、治安維持法ニ於キマシテモ、元來治安維持法ノ犯罪ノ實體ハ、内亂豫備ト見ルベキモノデアラウト思フノデアリマシテ、隨テ現行刑事訴訟法ニ於テ、一審ニシテ且ツ終審ト云フヤウニ審理ヲ促進シテ居リマスノト、其ノ必要性ヲ同ジクスルモノガアルノデアリマス、隨テ此ノ治安維持法ニ於キマシテモ、審理ノ促進ヲ圖ル爲ニ控訴審ヲ省略シタノデアリマシテ、現在ノ所國防保安法、及ビ治安維持法ニ於キマシテ、左様ナ特殊ナ理由カラ、斯様ナ審級省略ニ依ル審理ノ促進ヲ考ヘテ居ル次第デアリマス

(同上)

(16) 第三十五條關係

○山隈廉君 極メテ簡單ニ一點ダケ御尋ネシタイ、第三十五條ノ「上告裁判所ハ公判期日ノ通知ニ付テハ刑事訴訟法第四百二十二條第一項ノ期間ニ依ラザルコトヲ得」トアリマスガ、結局刑事訴訟法第四百二十二條ハ、公判期日ノ五十日前ニ上告申立及對手方ニ期日ヲ通知シナケレバナラス、此ノ規定ニ依ラナイト云フノハ、事件ヲ成ルベク急速ニ終結セシムルト云フ趣旨デアリマスカ、特別ノ理由ガアリマスカ

○政府委員(三宅正太郎君) 事件ヲ成ルベク早ク終結致シタイ爲デアリマス、サウシテ此ノ點ニ付キマシテハ、多分御承知トハ存ジマスルガ、衆議院議員選舉法ノ第四百二十二條ニ付キマシテモ、矢張り衆議院ノ選舉違反ヲ早ク片附ケルト云フ必要上、同様ノ規定ヲ設ケテ居リマスノガ同ジ趣旨デ、ソレニ依ツテ拵ヘタ次第デアリマス

○山隈廉君 サウ致シマスルト、結局五十日前ニ通知ヲスルノ必要ガナケレバ、其ノ前日、前々日ニ通知シテモ差支ナイヤウニ考ヘルノデアリマス、同刑事訴訟法第四百二十三條デアリマスガ、上告趣意書ハ公判期日ヨリ十五日前ニ提出シナケレバナラマ、此ノ期日ヲ設ケマシタノハ辯護權ノ尊重、上告趣意書等ノ起草ノ猶豫期間ヲ與ヘタモノト思ハレルノデアリマスガ、非常ニ此ノ期間ヲ短縮シ、若シタハ通知セマデモ宜イカト思ヒマスガ、斯ウ云フ場合ニ於キマシテハ、矢張り上告趣意書提出期間ガ非常ニ短縮サレテ、辯護權ノ侵害ニナルカノヤウナ感ジ

ヲ致シマスガ……

○政府委員(三宅正太郎君) サウ云フコトニナツテハ甚ダ相濟マス話デアリマシテ、若シサウ云フ風ニシテ、辯護權ノ行使ガ出來ナイヤウナ状態ニ置キマスレバ、ソレハ非常ニ不當ナコトデアリマスガ、從來私共衆議院議員選舉法ノ事件ヲ大審院テ取扱ツテ居リマシタ際ニモ、自ラ定メガアリマシテ、矢張り十分辯護權ノ行使ノ出來ル期日ヲ置イテ致シテ居リマス、唯實ハ少シ四百二十二條ノ「五十日前」ト云フコトハ日本ノ今日ノヤウナ交通ノ便利ナ所デ、一體ニ於テ少シ緩ルスギルト思ハレル點ガアリマスノデ、ソレヲ縮メルノデアリマシテ、決シテ御心配ノヤウナコトハ現在ニ於テ、選舉法違反ニ於テ何等苦情ノナイ點ヲ御了承ヲ下サイマシテ、サウ云フコトハ致サナイト御了察ヲ願ヒマス(貴族院治安維持法改正法律案特別委員會議事速記録第五號)

(17) 第三十八條關係

○堀切善次郎君 第三十八條ニ關係致シマスガ、治安維持法ハ臺灣ニ對シテノ關係ハドウナリマセウカ、當然施行サレナイコトニナリマセウカ、三十八條ニ朝鮮ニ付テノ規定ガアリマスガ、臺灣ニ對シテハドウ云フコトニナルノデアリマセウカ

○政府委員(三宅正太郎君) 大正十四年勅令第七十五號ニ依リマシテ、當然朝鮮、臺灣ニハ施行サレルコトニナツテ居ルサウデアリマス

○堀切善次郎君 臺灣ニモ當然施行サレルコトニナリマスト、

三十八條ニアリマスヤウナ規定ガ、臺灣ニ付テモ必要デアルト
 思ヒマスガ、其ノ關係ハ如何デアリマスカ
 ○政府委員(三宅正太郎君) 臺灣ニハ臺灣ノ方テ特別ガアリマ
 シテ、之ニ讀ミ替ヘノ出來ルヤウニナツテ居ルヤウデアリマ
 ス、臺灣ノ規定ニ依リマシテ、斯ウ云フ風ノコトガ自ラ出來ル
 ヤウニナツテ居ルサウデアリマス、朝鮮デハソレガナイ爲ニ斯
 ウ云フ規定ヲ置イタサウデアリマス、臺灣ニ於キマシテハ、大
 正十一年勅令第四百七號、臺灣ニ施行スル法律ノ特別ニ關スル
 件ト云フコトデ、民刑一般ノ法律ニ通ズル特別ヲ規定シテアル
 サウデアリマス(同上)

(18) 第三章關係

○中村(高)委員 是ハ司法大臣ニ御尋ネスベキモノカモ知レマ
 セヌガ、内務大臣ハ司法方面ニ於キマシテノ専門家デゴザイマ
 スルカラ、是ダケ一ツ内務大臣ニ御尋ネラシタイノデアリマス
 ガ、今回ノ此ノ改正案ニ依リマスト、檢事ノ權限ガ非常ニ擴大
 セラレノデアリマス、私ガ特ニ内務大臣ノ御答辯ヲ得タイト
 思ヒマスノハ、今回ノ改正案ガ通過致シマスナラバ、檢事ハ被疑
 者ヲ一年——通ジテデアリマスガ、一年内デアリマスルナラバ
 勾留スルコトガ出來ルヤウニナツテ居リマス、モウ一ツハ豫防
 拘禁ノ所ニ依リマスト、檢事ガ豫防拘禁ノ最高二年マデヲ拘禁
 スルコトガ出來ルト云フコトニナツテ居ルノデアリマスガ、斯
 タノ如クノ長期ニ互ル勾留、拘禁ト云フコトヲ檢事ノ處分ニ依
 ツテ出來ルト云フコトガ、今日憲法ニ規定ヲ致サレテ居リマス

ル日本臣民ハ裁判官ノ裁判ヲ受ケル權利ヲ奪ハレルコトガナイ
 ト云フ憲法ノ規定ガアルノデアリマスガ、裁判官ニアラズシ
 テ、裁判官ノ行フガ如キ、長期ニ互ル勾留、拘禁ヲスルト云フ
 ヤウナコトハ、憲法ニ抵觸スル嫌ヒガアルノデハナイカト云
 フ、疑ヒヲ持ツテ居ルノデアリマスガ、斯クノ如キ長期ノ勾留
 拘禁ヲ、檢事ノ處分ニ依ツテ行ハレルコトハ、憲法ニ抵觸致サ
 ナイカドウカ、此ノ一點ダケヲ一ツ御答ヘナラシメタイト思フ
 デアリマス

○平沼國務大臣 只今檢事ノ勾留處分ニ付テノ御尋ネデアリマ
 スガ、其ノ點ハ司法大臣カラ詳シク御答ヘニナラウト思ヒマス
 ガ、特ニ私ニ對シテノ御尋ネデアリマスカラ御答ヘ致シマス、御
 承知ノ通りニ在來ノ制度ニ於キマシテハ、強制處分ハ原則トシ
 テ裁判所ノ處分ニ屬シテ居リマシテ、令狀ハ裁判所若シテハ豫
 審判事ノ令狀ガ必要トセラレテ居リマス、併シ今日デモ或ル例
 外ト致シマシテ、檢事若シテハ司法警察官ガ、強制處分ヲ用ヒ
 得ル範圍ヲ定メテ居リマス、今回ノ治安維持法ニ於キマシテハ
 之ヲ擴大シテ、此ノ種ノ犯罪ニ付キマシテハ、是ハ中々急速ヲ
 要スル場合ガ多イノデアリマスカラ、檢事ニソレダケノ權限ヲ
 持タシテ置キマセスト實際ノ效果ヲ擧ゲルニ付キマシテ、極メ
 テ不便ガ多イダラウト考ヘマス、ソレ故ニ檢事ノ強制處分ノ權
 限ヲ擴大シタノデアリマス、豫防拘禁ハ裁判所デアルコトニナ
 ツテ居リマスガ、無論檢事ノ請求ニ依ツテヤル譯デゴザイマス
 (衆議院治安維持法改正法律案委員會議錄(速記)第二回)
 ○山隈康君 第六十五議會ニ於キマシテモ、治安維持法改正案

ガ御提出ニナリマシテ、本改正案ト同様ニ豫防拘禁ニ關スル規
 定モ掲ゲラレテアツタノデアリマスガ、其ノ當時ノ特別委員
 中、私モ委員ノ一名デアリマシテ、政府案ヲ支持致シマシタ
 ガ、其ノ他ノ私ヲ除ク全部ノ委員ハ豫防拘禁制度ニ關スル規定
 ハ削除スベシト云フコトヲ修正勸議ガ通過致シマシテ、更ニ本
 會議ニ於キマシテモ、私ヲ除ク外殆ド滿場一致ヲ以テ豫防拘
 禁ニ關スル削除ノ修正案ノ可決ヲ見ルニ至ツタ次第デアリマ
 ス、其ノ法律上ノ根據ト致シマシテ、第一ハ豫防拘禁ハ裁判所
 ノ決定ニ依ル司法處分デアアル、而シテ其ノ拘禁ノ期間ニ對スル
 方針ニハ制限ガナイ、場合ニ依レバ無期刑ト同様ナル拘禁ヲ爲
 スコトガ出來ル、斯様ナ重大ナル處分デアアルガ、裁判所ノ決定
 デアルカラ裁判所ハ國務大臣ガ左右スルコトノ出來ナイ獨立ノ
 機關デアアル、從ツテ此ノ強制處分ニ對シテハ何人モ責任ヲ負フ
 者ガナイコトニ相成ル、ソレハ不都合デハナイカト云フノガ第
 一ノ反對デ、第二ノ反對理由ト致シマシテハ、豫防拘禁ハ物理
 的ノ罪惡、即チ眼前ニ危險ノ迫ツタモノ、殺人、強盜ノ如キモ
 ノ、之ヲ拘禁スルト云フコトヲ本旨トスルト云フコトハ萬國ノ
 刑法會議デ決定サレタコトデアアル、精神の犯罪、殊ニ思想上
 ノ犯罪ニ付テハ出獄後更ニ宣傳、煽動、協謀、集會、支援等ヲ
 爲スニハ相當ノ餘裕ガアル、危險ガ眼前ニ迫ツタモノデハナイ
 カラ、是等ヲ豫防拘禁ノ對象トスルト云フコトハ本來ノ精神ニ
 反スルト云フノガ第二ノ反對理由デアアル、第三ノ理由ハ出獄後
 改換ノ情ガナク更ニ再犯ノ危險ガアル、ト斯ウ云フ理由ヲ以テ
 豫防拘禁ヲ認ムルトスルナラバ、皇室ニ對スル罪、内亂ニ對ス

ル罪、外患ニ對スル罪ノ如キモノガ其ノ犯罪人ガ刑期ガ滿チテ
 出獄後、更ニ是等ノ犯罪ニ參加スル危險ガアルト認メタ場合ニ
 於テモ、尙豫防拘禁ヲ擴充セナケレバナラヌガ、サウスレバ結
 局其ノ行政處分ニ依ツテ司法權ヲ侵害スル結果ヲ生ズルデハナ
 イカト云フノガ第三ノ事由デアツタヤウデス、第四ノ事由ト致
 シマシテハ何モ出獄後改換ノ情ガナク、ソレヲホツタラカシテ
 置ケバ危險デアルトスルナラバ、寧ロ不定期刑ニ依ツテ處罰ヲ
 シテハドウカ、サウスレバ不定期刑ハ裁判デアツテ慎重ニ刑ノ
 言渡シヲシタル、其ノ刑ノ範圍内ニ於テ處置ヲスルノデアアルカ
 ラ、國民ハ其ノ處置ニ對シテ其ノ公正ヲ疑ヒ、若シクハ人權廢
 闕ト云フガ如キ非難ヲ生ズル處レガナイデハナイカ、ト斯ウ云
 フ反對ノ見解ニ、他ノ委員更ニ本會議ノ議員ノ方々ガ全部同一
 ノ意見ノ下ニ修正ニ贊同サレタノデアリマス、而シテ其ノ當時
 ノ特別委員ハ今日ノ特別委員トシテオイデニナル御方ガアリマ
 スシ、又本會議ニ於テハ大多數ソレ等ノ法律上ノ見地ニ基イテ
 修正案ニ贊同サレタ方々ガ現ニ多數オイデニナリマス、其ノ中
 ノ二、三ノ方ハ矢張り前説ヲ固持サレテ、其ノ説ガ至當デア
 ルト云フ意見ヲ有ツテ居ル方モ二、三私ハ耳ニシタ譯デアリマ
 ス、私共ハ左様ナ反對論ニ對シテ贊同ヲ表スルモノデアリマ
 セヌガ、此ノ際此ノ反對事由ガ豫防拘禁ヲ阻止スル何等ノ事由
 ガナイト云フコトヲ、政府當局デ明快ニ一ツ御説明ヲ願ヒマシ
 テ、今度ハ滿場一致ヲ以テ豫防拘禁ノ説ニ合セテ、此ノ治安維
 持法ノ改正案ノ全部ノ通過ヲ希望スル爲ニ、一ツ其ノ反對ニ對
 シマスル擊破スルダケノ有力ナル御説明ヲ伺ヘバ大變結構ダト

思ヒマス

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ前ノ豫防拘禁ニ付キマシテ反
對論ノゴザイマシタ點ハ確カニ私共モ承ツテ居リマスシ、尙能
ト考慮致シマシタノデス、先ヅ御非難ノ第一ト致シマシテ、裁
判所ガ斯ウ云フ豫防拘禁ノ如キ行政處分ノ措置ヲ執ルコトガ果
シテ至當デアアルカドウカト斯ウ云フ問題デアリマスガ、御承知
ノ通り豫防拘禁ハ人身ヲ拘禁スル重大ナル制度デアリマシテ、而
シテ此ノ人身ヲ拘禁スルコトガ必要ナケレバ仕方ガアリマセ
ヌガ、假ニ若シ之ガ必要ガナイト云フコトニナリマスレバ、其
ノ人身ヲ拘禁スベキ行爲ヲ爲スモノハ裁判所ヲ以テスルノガ何
ヨリモ宜シイノデアリマシテ、其ノ必要ガナケレバ仕方ガアリ
マセヌガ、アル以上裁判所ノ處置ニ依ツテ決メルト云フコトガ
最モ公平デアリ、其ノ結果ニ於テモ最モ宜シイト考ヘルノデア
リマス、ソレカラ不定期刑ニシタラ宜イデハナイカ、是ハ確カ
ニ不定期刑ト云フコトモ確ニ考究スベキ問題デアリマシテ、是
ハ私達ノ方モ豫防拘禁並ニ不定期刑兩制度ヲ併セ採ツタラドウ
カ、ト云フコトハ考ヘテ居ツタノデアリマスガ、併シナガラ實
際ハ今日ドウシテ豫防拘禁ヲ此處ヘ提案致シマスルカト云フ
ト、其ノ必要ガ餘リ切實デアリマシテ、其ノ切實ナル點ヲ考ヘ
マスルト、今不定期刑ナゾヲ申シテ居ルノデハ間ニ合ハナイノ
デアリマス、是カラ不定期刑ニナル治安維持法違反ノ犯人ハ不
定期刑宜シウゴザイマスケレドモ、既ニモウ幾多ノ入獄シテ
居リマス者ガ更ニ、ソロ／＼出獄セムトシテ居ル狀況デアリマ
スノニ、今更ソレニ對シテ不定期刑ハ科シ得ナイノデアリマ
ス、ノデ聊カ對策トシテハ現在ノ緊切シタ事情ニ應ジ得ナイイ

形ガゴザイマスノデ、不定期刑ノ議論ハ兎モ角ト致シマシテ、
此ノ豫防拘禁ハ是非共今日必要デアアル、斯ウ云フコトヲ信ジ
テ居ルノデアリマス、此ノ豫防拘禁ガ何故必要カト云フコト
ハ、是ハ私ガ今此處デ儘々申上ゲマセヌデモ、先般來司法當局
並ニ内務當局カラ實際ノ事例ヲ申上ゲマシテ、如何ニ非轉向ノ
革新犯人ガ刑務所カラ出マスヤ否ヤ、寧ロ出マスヤ否ヤチヤナ
イト思ヒマス、寧ロ刑務所ニ居ル間カラ既ニ計畫シテ、サウシ
テ出獄致シマシテ、直グ直チニ地下ニ潜ツテ其ノ運動ヲ始メテ
居リ、而モ彼等ハ多年牢獄ニアリマシテ不自由ニ堪ヘ忍ブダ
ケノ習慣ヲ持ツテ居リマス、其ノ爲ニ如何ナル苦惱ヲモ堪ヘ忍
ンデ、自己ノ確信ニ向ツテ邁進スルト云フ恐ルベキ力ヲ持チ、
又其ノ氣魄覺悟ニ於テ相當人ノ心ヲ搏ツモノガアルノデアリマ
ス、デアリマスカラ、彼等ノ傳播力ノ恐ルベキコトハ、一般ノ
現在ニ是カラ捕ヘテ行タト云フ者ニ比較シテハ、殆ド比ベ物ニナ
ラス程ノ猛烈ナルモノデアリマシテ、ソレガ今ヤ續々トシテ刑
務所ノ門ヲ出ムトシツ、アル場合ニ於キマシテ、ドウシテモ豫
防拘禁ト云フコトニ依ツテ、之ヲ抑ヘルヨリ外ハナイト斯ウ考
ヘタノデアリマシテ、是ハ寧ロ司法省トシテ已ムヲ得ザル、又
今日ニ於テ之ガナケレバ今後ノ思想對策ト云フモノノ確立ヲ期
シ難イト迄考ヘテ居ル次第デアリマス、デアリマスカラ、ドウ
カ是ハ此ノ以前ニ於キマシテノ御論議ノ際ハ時勢ガ、情勢ガソ
レ程ノ事實ヲ證明シテ居リマセヌデシタケレドモ、今日ハ著々
トシテ其ノ事實ヲ指摘シ得ルダケノコトガ眼前ニ起ツテ居リマ
スノデ、國家ノ重大ナル時期ニ當リマシテ、是程ノ損害ハナイノ
デアリマスカラ、此ノ點ハ現在ノ情勢ヲ鑑ト御覺下サイマシテ

御判斷ヲ願ヘバ、政府ノ提案ニ御賛成ヲ戴ケルモノト確信致シ
テ居ルノデアリマス、尙最後ニ此ノ犯罪デナク外ノ皇室ニ對ス
ル犯罪トカ、或ハ内亂罪トカ云フモノヲ何故豫防拘禁シナイカ
ト云フ御論議ガゴザイマシタガ、之ニ對シマシテハ治安維持法
違反ノ犯罪者ハ即チ確定犯人、自己ノ思想ト云フモノヲ堅ク護
リマシテソレニ向ツテ邁進シテ居ルト云フ所謂思想犯人デア
リ、確信犯人デアリマス、是等ニ對シテ先ヅ豫防拘禁ヲ施スノ
ハ實ニ已ムヲ得ナイコトダト思フノデアリマシテ、其ノ他ノ者
ニモトシテ豫防拘禁ヲ及スコトハ只今御言葉ニアリマシタヤ
ウニ、豫防拘禁ト云フモノガ制限ナク豫防拘禁サレル結果、人
心ノ拘束ヲ非常ニ大キクスルト云フコトノ點ニ鑑ミマシテ、餘
リニ大キク其ノ範圍ヲ擴大スベキモノデハナイト思ヒマスノ
デ、先ヅ此ノ確信犯人ニ對シテ豫防拘禁ヲ施サウト、斯ウ云フ
風ニ考ヘタ次第デアリマス

○山隈康君 私人政府ノ案ニ賛成ヲスル一人デアリマスルカ
ラ、質問ガ甚ダ弱イヤウナ氣ガ致シマスガ、念ノ爲ニ何ツテ置
キマスガ、此ノ豫防拘禁ハ六十五議會ニ於ケル政府ノ答辯ト致
シマシテハ、一面ニハ司法處分デアリ、他面ニハ特殊ノ裁判デ
アルト云フ御説明ガアツタヤウデアリマスルガ、何レノ御見解
デアリマスカ何ツテ置キマス

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ司法權ノ所謂處分ト申シマス
其ノ性質ニ付キマシテハ、廣イ意味ト狹イ意味トゴザイマス、
從ツテ狹イ意味ニ於キマシテノ司法權ハ、御承知ノ通り憲法第
五十七條ニ明定サレテ居ル所デアリマシテ、民事、刑事ノ訴訟

ノ裁判ト云フコトヲ意味スルノデアリマス、併シ廣イ意味ノ司
法權ハ、ソレ以外ニ裁判所ノ權限ニ屬スル種々ノ作用、又檢事
ノ權限ニ屬スル作用迄モ意味スル場合ガアルノデアリマス、
デ、サウ云フ觀點カラ豫防拘禁ノ性質ヲ考ヘマスト、豫防拘禁
ハ本來ハ行政作用デアリマシテ、狹義ノ司法權ニ屬シナイコト
デアリマスケレドモ、裁判所ノ行フ作用アルト云フコトデ、
廣義ノ司法權ニ屬スルコトデアルト云フ解釋ハ、前同述ベタ通
リデアリマス

○山隈康君 只今ノ政府ノ御説明ニ依リマス、廣義ノ一種ノ
裁判デアルト斯ウ致シマスルト、期間満了前ニ行政處分ヲ以テ
之ヲ釋放スル裁判ノ決定、其ノ裁判デアレバ裁判ノ結果ヲ行政
處分トソレヲ釋放スルト云フコトハ、何カ理論ガ一定シナイヤ
ウニ考ヘマス……

○政府委員(三宅正太郎君) 此ノ點ハ例ヘバ刑罰ニ付キマシテ
モ、刑罰ハ即チ裁判所ノ判決デゴザイマスガ、假出獄ト申シマ
スルモノハ行政處分ニ致シマスノデアリマスカラ、是等ノコト
ト御考ヘ下サレタラ宜シカラウト思ヒマス(貴族院治安維持法
改正法律案特別委員會議事速記録第四號)

(19) 第四十條關係

○田村委員 次ニハ豫防拘禁ニ關スル點ヲ一、二御伺ヒ致シタ
イノデアリマス、昨日資料ヲ戴イテ居リマスノデ、大體ノ外廊
ハ分ルノデアリマスガ、豫防拘禁委員會ノ委員ハ、司法部内高
等官及ビ學識經驗アル者ト、斯ウ云フコトニナツテ居リマス

ガ、司法部内ノ高等官ハ分ツテ居リマスガ、斯ウ云フ問題ニ對スル學識經驗アル者ト云フノハ、ドウ云フ所ヲ具體的ニハ狙ツテ居ラレルノデスカ

○太田政府委員 御答へ致シマス、ソレハ思想問題ニ付キマシテ相當造詣ノ深イ人ヲ考ヘテ居リマス、サウ云フ思想問題ニ造詣ノ深イ方ト、モウ一ツハ辯護士ノ方ヲ考ヘテ居リマス、ト申シマスノハ、今度ノ豫防拘禁ニ付スル手續ニ於キマシテハ、成ベク之ヲ公ニセズニ、且ツ家族的ナ裁判トシテ處理シテ行キタイト存ジマスノト、ソレニ法律的ニ始終難カシイ問題ガゴザイマセヌノデ、輔佐人ノ制度ヲ設ケマシテ、辯護士ノ關與スルコトヲ避ケテ居リマス、併シナガラ辯護士ノ方ハ公ノ訴訟ニ關スル任務ヲ持ツテ居ラレマスカラ、斯ウ云フ思想問題ニハ事件ヲ通ジテモ相當造詣モオアリニナルノデアリマスカラ、此ノ豫防拘禁委員會ニ適當ノ御方ニ御參加ヲ願ヒタイ、サウ云フコトヲ含メマシテ、學識經驗アル者ト云フコトヲ豫定シテ居リマス

(衆議院治安維持法改正法律案委員會議錄(速記)第四回)
○山隈康君 六十五議會ニ提出ヲサレマシタル治安維持法改正法律案ノ二十七條ニハ、「豫防拘禁ニ付スベキ場合ニ於テハ本人ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事刑務一委員會ノ議ヲ經テ其ノ裁判所ニ請求ヲ爲スベシ」トアル、此ノ法文自體カラ考ヘマスレバ、豫防拘禁ハ司法處分デナクシテ、其ノ拘禁ハ、更新ニ更新ヲ重ネマスレバ、無期刑ニ等シキ長キ期間ヲ拘禁スルコトガ出來ル、又動モ致シマスルト、此ノ種ノモノハ人權蹂躪ト云フ非難ヲ受ケ易キ點ガアリマスルカラ、結局一委員會ノ

議ヲ經テトアリマスガ、委員會ノ、豫防拘禁ニ付スベシト云フ決議ニ依ツテ、檢査官裁判所ニ請求ヲ爲スコトガ出來ル、非常ニ鄭重ニ取扱ツテ居ルヤウデアリマス、本法ノ四十條ニ依リマス、一豫メ豫防拘禁委員會ノ意見ヲ求ムルコトヲ要ス、トアリマスカラ、一種ノ諮問機關デ、豫防拘禁委員會ガ拘禁スベカラズト云フ意見ヲ出シマシテモ、檢査官ソレニ拘束セラレズシテ、豫防拘禁ノ請求ヲ爲スコトガ出來ルヤウニ改正ニナルノデアリマス、是ハ無論司法處分デアツテ、裁判デハナイノデアリマスカラ、委員會ノ決議ガ拘束力ヲ有シテモ、狹義ノ裁判權ノ侵害ニハナラヌト思フノデアリマス、之ニ關スル御意見ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○政府委員(三宅正太郎君) 六十五議會ニ出マシタル改正法律案ニ於キマシテハ、所謂檢査官請求ヲ致シマス、前ニハ刑務委員會ノ議ヲ經ルト云フコトニナツテ居リマス、其ノ決議ヲ經テ爲スト云フコトニナツテ居リマシテ、本法案ノ第四十條ニ於キマシテハ、豫防拘禁委員會ノ意見ヲ求ムル諮問ノ機關ニナツテ居リマス、是ハ御言葉ノ通りデアリマス、ドウシテサウ云フヤウニ變ヘタカト云フコトニ付キマシテハ、寧ろ種々ノ事情ヲ考慮致シマシタル結果、矢張り檢査官ニ全責任ヲ持タセテ、公益ノ代表者デアル檢査官ニ全責任ヲ持タセテ、サウシテ此ノ請求ヲ致サセタ方ガ、却ツテ宜カラウト云フコトデアリマス、尙ソレニ附加ヘテ申上ゲマスコトハ、此ノ六十五議會ニ出マシタル法案トハ違ヒマシテ、裁判所ガ今度檢査官ノ請求ニ依リマシテ決定ヲ致シマスニ付テハ、六十五議會ノ法案ト違ヒマシテ、非常ニ丁寧ナ規

フノデアリマス(貴族院治安維持法改正法律案特別委員會議事速記第五號)
第四十七條關係

○田村委員 ソレカラ第四十七條ニ輔佐人ノ制度ヲ設ケラレテ居リマスガ、是ハ豫防拘禁ノ請求ガアツテ裁判所ガ調べる場合ニ、輔佐人制度ヲ設ケラレタト思ヒマスガ、ソレト同時ニ、裁判所デ陳述スル意味ノ輔佐人ト云フコトノミデナク、輔佐人宜シキヲ得タラ、豫防拘禁ノ處遇ノ問題、豫防拘禁者ヲ豫防拘禁中ニ、多少輔佐人ノ手ニ依ツテ之ヲ矯正スルコトニ使フコトガ有效デハナイカ、特ニ温情主義、家族ノ感情ト云フ意味カラ必要デハナイカト思ヒマスガ、此ノ輔佐人ノ制度ハ、サウ云フ所マデ御考ニナルテ御利用ニナリ得ルカドウカ、御尋ネ致シマス
○金澤政府委員 此ノ四十七條ノ立案ノ正面カラ申シマス、ソコマデノ考ヘヲ以テ立案サレタモノデハナイト考ヘマスガ、豫防拘禁ノ方面ノコトカラ申シマスルト、出來ルダケ寧ろ原則トシテ父兄ナリ或ハ親類ノモノノ接近ヲ許シテ居リマス、隨テサウ云フコトカラ申シマスルト、御趣旨ノヤウニ、此ノ輔佐人モ亦サウ云フヤウナ教養ヲスルト云フ意味ニ於テ、十分ニ利用シ得ルノデハナイカト考ヘテ居リマス(衆議院治安維持法改正法律案委員會議錄(速記)第四回)

(21) 第五十五條關係
○田村委員 最後ニ第五十五條ニ「豫防拘禁ノ期間ハ二年トス

定ヲ設ケテ居リマシテ、例へバ參考人ニ出頭ヲ命ジタリ、或ハ輔佐人ヲ置キマシタリ致シマシテ、相當ニ裁判所ガ丁寧ナ手續ヲ致シマスカラ、マア假ニ御心配ノヤウナ、單ニ檢査官ノ請求ガ諮問機關ヲ經タダケデハナイカト云フヤウナ御懸念ニ對シマシテハ、寧ろ裁判所ノ方ガ今度ハモット鄭重ナ調ベヲ致シマスカラ、ソレト相俟ツテ一面ニハ檢査官ニ責任ヲ持タセル、一面ニハ裁判所ヲシテ慎重ニ審理ヲ致サセルト云フコトニ依ツテ、益々豫防拘禁ト云フモノノ一ツノ實ガ十分ニ舉ル、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス
○山隈康君 一應御説明ハ諒承致シマシタガ、六十五議會ニ提案サレマシタル改正案ニ於キマシテモ、法文ノ明示ハナクテモ、矢張り本人ヲシテ陳述ヲ爲サシメ、參考人ヲシテ事實ノ陳述若クハ鑑定ヲ爲サシムルト云フコトハ、是ハ當然爲シ得タコトデアツテ、之ヲ唯明文ニ、本條デハ明カニシタニ過ギズシテ、殊更ニ鄭重ニ取扱ツタモノトハ解セラレナイヤウニ考ヘマスガ、如何デアリマスカ
○政府委員(三宅正太郎君) マア勿論參考人ニ出頭ヲ命ジテ事實ヲ調ベ爲サシメ、若シタハ鑑定ヲ爲サシメルコトガ必要ナコトデゴザイマスレバ致スデゴザイマセウ、六十五議會ノ案ニ於テモ致スデゴザイマセウガ、又併シ一面ニ此ノ點ハ「本人ノ屬スル家ノ戸主、配偶者又ハ四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族ハ裁判所ノ許可ヲ受ケ輔佐人ト爲ルコトヲ得」トアル、此ノ規定ハ今回ノ規定デアリマシテ、寧ろ何ト申シマスカ、本人ノ側ノ利益ヲ之ニ依ツテ十分代表サセヨウ、是ガ今度ノ新案ダト思

特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ裁判所ハ決定ヲ以テ之ヲ更新スルコトヲ得一斯ウナツテ居リマスガ、此ノ更新ヲスルコトハ、結局轉向カ改換ガハツキリスルマデハ、何處マデモ更新シテ豫防拘禁ヲナシ得ルカドウカ、サウ云フ意味デ此ノ更新制度ヲ御執リニナツテ居ラレルノデアリマスカ

○太田政府委員 御答へ致シマス、大體御問ヒノヤウナコトヲ考ヘテ居ルノデゴザイマス、唯此ノ豫防拘禁ニ付シマス者ノ條件ト申シマスカ、犯罪ヲ犯スノ情顯著ナル者ニ限ツテ居ルノデゴザイマス、隨テ更新ノ場合ニ於キマシテモ、或ル程度犯罪ヲ犯ス處ガ顯著カドウカト云フコトガ、ヤハリ其ノ條件ニナルト存ズルノデアリマス、隨ヒマシテ犯罪ヲ犯ス處ガ殆ドナクナツテ居ル、隨テ大體ニ於テ轉向ヲシテ居ルト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、是ハ豫防拘禁ヲ更新スベキデハナイノデアリマス、寧ろ其ノ場合ニ備ヘテアリマス、保護觀察ニ付シテ、其ノ方面テ轉向ノ促進ヲ圖ルベキデアルト考ヘマス(同上)

(23) 第五十八條

○藤田委員 此ノ五十八條ノ行政官廳ト云フノハ刑務所ヲ言ウタノデアリマスカ、檢事局ヲ言ウタノデアリマスカ

○太田政府委員 是ハ豫防拘禁所長ヲ指シマス(同第七回)

(23) 第五十九條關係

○藤田委員 ソレカラモウ一ツ是ハ字句デアリマスガ、分リマセスカラ承リタイノガ一ツアルノデアリマス、此ノ五十九條ハ

ノデアリマス、第一章ノ改正規定ハ是ハ實體規定デアリマスガ、是ハ本法施行前ニ從前ノ規定ニ定メタル罪、即チ是ハ現行法ノコトヲ指スノデアラウト思ヒマス、此ノ現行法ノ罪ヲ犯シタル者ニ適用スル、斯ウ云フコトニナツテ居リマスガ、是ハ所謂過去ニ遡及スルモノデアルト思フノデアリマス、其ノ議論ハ姑ク措キマシテ、輕キニ從ツテ處斷スルト云フコトニナツテ居リマシテ、即チ(但シ改正規定ニ定ムル刑ガ從前ノ規定ニ定メタル刑ヨリ重キトキハ從前ノ規定ニ定メタル刑ニ依リ處斷ス)、斯ウ云フノデアツテ、新法ヲ適用スルケレドモ、若シ新法ノ規定ガ舊法ノ規定ヨリ重カツタ時ニハ、舊法ノ規定ニ依ツテ刑ヲ定メルト云フノデアツテ、是ハ刑法第六條ノ規定ト同ジヤウナコトデアルト思フノデアリマスガ、本法改正ノ趣旨ヲ承リマス、罰則ノ強化ト云フコトガ、改正ヲ必要トスル所ノ一ツノ理由ニナツテ居ルヤウデアリマス、即チ從前ノ法規ヨリハ改正法規ノ方ガ刑ハ重イ、斯ウ云フコトニナツテ居ルノデアリマシテ、見マシタ所、現行法ヨリハ今度ノ改正法規ノ方ガ、刑ガ輕イト云フ場合ガナイヤウニ思フノデアリマス、又立法ノ趣旨ガ罰則ノ強化ト云フ所ニアルノデアルト致シマシタナラバ、ドウモ此ノ規定ハ諒解スルニ苦シムノデアリマス、此ノ點ヲ一寸御答へ願ヒタイ

○太田政府委員 御答へ致シマス、此ノ附則ノ第二項ハ、刑法第六條ニ對シマスル例外ヲ認メタ場合デゴザイマス、刑法第六條ニ依リマス、(犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス)ト云フコトニ相成ツテ居ルノデアリマ

ドウ云フ場合ヲ想像サレタノカ一豫防拘禁ノ執行ヲ爲サザルコト二年ニ及ビタルトキハ決定ヲ爲シタル裁判所ノ檢事又ハ本人ノ現在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ハ事情ニ因リ其ノ執行ヲ免除スルコトヲ得一是ハドウ云フ場合デゴザイマスカ

○太田政府委員 御答へ致シマス、豫防拘禁ニ付スベキ旨ノ決定ガアリマシタ際ニ、或ハ本人ガ病氣デアツテ、其ノ執行ヲナスコトガ出来ナカツタト云フヤウナ場合、即チ決定ガアリマシテ最初カラ其ノ執行ガ出来ナカツタ場合、及ビ其ノ豫防拘禁ノ執行中ニ、其ノ執行ヲ停止スベキ事由ガアル爲ニ、執行ノ停止ヲ受ケテ居ル場合デアリマス、最初カラ執行ヲ受ケナイ場合、停止サレタ爲ニ執行ヲ受ケナカツタ場合、其ノ二ツノ場合ヲ含ンデ居ルノデアリマスガ、停止サレタ場合ノ方ガ多カラウト存ジマス(同上)

(24) 附則關係

○小畑委員 附則第二項ノ第一章ノ改正規定ハ本法施行前從前ノ規定ニ定メタル罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス一斯ウ云フコトニナツテ居ルノデアリマスガ、只今ノ御答辭ニ依リマスト、本法施行前ニ犯シタル所ノ罪ニ對シテモ、刑事手續ハ、國防保安法ノ第十六條第二項ニ關スル限り、之ニ依ラナケレバナラヌト云フ趣旨ヲ含メテ居ルヤウナ御答辭ノヤウデゴザイマスガ、刑事手續ハ其ノ犯罪後ニ改正セラレタ場合ト雖モ、其ノ審判スル時、捜査スル時ノ刑事手續ニ依ルコトガ原則デアルト吾吾ハ考ヘテ居リマス、ソコヘ持ツテ參リマシテ此ノ附則ガアル

ス、併シ實體規定ノ適用ハ、其ノ判決ヲナス際ニ現行シテ居ル罰則ヲ適用スルノガ、原則デアルベキデアツテ、犯罪ヲナシタ時ノ罰則ニ依ルベキデハナイト云フコトガ、最近非常ニ力強ク主張サレテ居ルノデアリマス、刑法ノ改正調査會等ニ於キマシテモ、左様ナ主張ガ殆ド壓倒的ニ主張サレテ居ルノデアリマス、ソコデ本改正案ニ於キマシテハ、此ノ附則ノ第二項ニ於キマシテ、原則トシテ判決時法、即チ改正規定ヲ適用スルト云フ趣旨ヲ明確ナラシメタノデゴザイマス、唯實體規定ノ改正ノアツタ場合ニ於キマシテハ、其ノ改正規定ノ效果ハ遡及シテ適用サレナイ、即チ刑法不遡及ノ原則ト云フモノガ、刑事法規一般ニ付テ行ハレテ居リマスノデ、改正規定ニ依ツテ刑ガ重クナツタ場合ニ於キマシテ、其ノ重キモノヲ以テ處斷スルコトハ被告ニ對シテ極メテ不利益デアリ、氣ノ毒デアリマスノデ、豫期セザル重罰ヲ課セラレルコトニ相成リマス、ソレハ避ケタイト存ジマス、ソコデ但書ヲ設ケマシテ、輕キモノヲ以テ處斷スルト云フコトニ致シタ次第デゴザイマス

○小畑委員 御話ハ分リマシタ、即チ第一ニハ、是ハ刑法ノ時ニ關スル高度ノ革命デアツテ、行爲ノ當時其ノ法律ガ存在シナイデモ、判決ヲスル當時、即チ刑事手續ヲナス當時ノ法律ガ存在スレバ、其ノ法律ヲ適用スルノデアルト云フ是ハ新シイ刑事政策ノ思想カラ出タコトデアルト承ツタノデアリマス、ソレカラ第二ニハ、ソレニ對シテヤハリ新舊ノ實體規定ガ變更サレタ場合ニ於テハ、輕キ刑ニ依ツテ處斷スルト云フコトニシナケレバナラスカラ、此ノ但書ヲ付ケタノデアアル、是ハ能ク分リマ

ス、併シ實際問題ト致シマシテハ現行法トソレカラ此ノ新法案トヲ比較致シマスルニ、從前ノ規定ノ方ガ重イト云フ場合ガナイト思フノデアリマス、實際問題トシテハ是ハ問題ニナラス、斯ウ云フヤウニ思ヒマスガ、後テ御意見ガアリマスレバ御答辯ヲ願ヒタイ(同上)

(三) 貴族院本會議ニ於ケル委員報告

○伯爵兒玉秀雄君 只今議題ト相成リマシタ治安維持法改正法律案ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本委員會ハ、本案ガ我が國體ニ關シマスル重要ナル事項デアリマスルノデ、屢ニ秘密會ヲ開キ、或ハ速記ヲ止メテ、慎重ニ審議ヲ重ネタノデアリマス、本法案ハ、現行治安維持法ノ全部改正デアリマシマス、其ノ第一章ニ於キマシテハ、現行法ノ罰則ヲ整備強化シテ居ルノデアリマス、其ノ一ハ、國體ノ變革ヲ目的トスル犯罪ト、私有財産制度ヲ否認スル犯罪トニ對シマスル規定ヲ別箇ノ規定ト致シマシテ、國體變革ニ關シマスル犯罪ニ付キマシテハ、禁錮刑ヲ廢シテ懲役刑ノミト爲シ、且刑ノ短期ヲ高メタノデアリマス、其ノ二ハ、國體變革ヲ目的トスル支那結社ニ關スル處罰規定ヲ設ケタノデアリマス、其ノ三ハ、準備結社ニ關スル規定ヲ新設致シタコトデアリマス、其ノ四ハ、結社ニ至ラザル集團ニ關スル規定ヲ設ケタルコトデアリマス、其ノ五ハ、個人ノ行爲ニ付キマシテ、宣傳、其ノ他國體變革ノ間接ノ目的遂行ニ資スルノ行爲ヲ、取締ル規定ヲ設ケタルコトデアリマス、其ノ六ハ、類似宗教團體ニ關スル處

罰規定ヲ設ケタルコト等デアリマス、第二章ニ於キマシテ刑事手續ニ關スル規定ヲ新設シタノデアリマスルガ、其ノ一ハ、搜查機關ニ對シマスル廣汎ナル強制搜查權ヲ認メタルコトデアリマス、其ノ二ハ、公判手續ニ於キマシテ控訴審ヲ省略シタルコトデアリマス、其ノ三ハ、辯護士ノ指定及其ノ數ヲ制限シタルコトデアリマス、其ノ四ハ、管轄移轉ノ場合ヲ擴張シタルコトデアリマス、第三章ニ於キマシテハ、豫防拘禁ニ關スル新シキ規定ヲ設ケラレタノデアリマス、非轉向者ニ對シマシテ、之ヲ社會ヨリ隔離致シマシテ、惡思想ノ傳播ヲ防止シ、併セテ思想ノ改善ヲ圖ラムトスルノデアリマス、之ヲ要シマスルノニ、國體變革ニ關シマスル行爲ニ付、特ニ其ノ罰則ヲ強化シ、現在ノ實情ニ即シテ思想犯罪ノ處理ノ敏捷適正ヲ圖リ、其ノ豫防及ビ鎮壓ノ作用ヲ一層効果的ナラシムトスルノ趣旨ニ出デタル法案デアリマス、從ヒマシテ質疑ノ要點ハ、國體及ビ政體ニ關スル事項並ニ思想問題ノ根本解決ニ集中シタルノ觀ガアルノデアリマス、御承知ノ通りニ、政府ハ大正十四年第四十五議會ニ於キマシテ、最初ノ治安維持法ヲ提案致シマシタル場合ニハ、其ノ第一條ニ於キマシテ、國體若シクハ政體ノ變革ナル文字ヲ用ヒテ居ルノデアリマス、之ニ對シマシテ、衆議院ハ之ヲ削除シ、政府モ亦之ニ同意ヲ致シマシテ、貴族院ヲモ通過シテ、現行ノ基本法ガ成立シタル沿革ヲ持ツテ居ルモノデアリマス、修正案ガ貴族院ノ院議トシテ決定セラレマシタル行キ掛リモアリマスノデ、其ノ後ノ情勢ノ變化ニ鑑ミマスル時ハ、本規定ヲ要スルコトガ益々緊切ナルモノガアルコトヲ感ズルノデアリマ

ス、然ルニ今回政府ガ本改正案ヲ起草スルニ當リマシテ、特ニ政體變革ニ關スル事項ニ觸レナカッタノハ、果シテ如何ナル理由ニ依ルカト云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ、政體變革ニ關スル事項ハ、之ヲ決シテ輕視シタルモノデハナイ、唯政體變革ニ關シテハ、法又上之ヲ表現スル正確ナル文字ヲ發見スルコトガ甚ダ難イノデアアル、又其ノ規定ヲ特ニ設ケナクとも、個々ノ行爲ニ付テハ、或ハ程度迄他ノ刑法等ノ法令ニ依リテ、之ヲ取締ルコトガ出來ルガ故ニ、今回ハ之ヲ除イタルモノデアルト云フ説明ガアツタノデアリマス、然ルニ委員ハ更ニ進ンデ、國體ノ意義、政體トノ關係ヲ明白ナラシムルコトハ、本案ノ審議上最モ必要ナル事項ナリトシテ質問ヲセラレタルニ對シマシテ、政府ハ次ノ如ク述べテ居ルノデアリマス、國體ノ意義ハ既ニ確立シテ居ルノデアアル、大審院ノ判例ニ依リマスレバ、我が帝國ハ萬世一系ノ天皇君臨シ、統治權ヲ總攬シ給フコトヲ以テ、其ノ國體トス、斯クノ如ク決定セラレテ居ルノデアリマスルガ故ニ、治安維持法ニ於テモ、所謂國體ノ意義モ亦、斯クノ如ク解スベキモノデアルト述べラレテ居ルノデアリマス、尙國體ト政體トノ意義ニ付キマシテハ、觀念上明確ナルコトハ論ヲ俟タザル所デアリマス、而シテ政體ハ統治權ノ働キヲ意味シ、立憲政治又ハ憲法上ノ各種機關ニ依ル統治權ガ行使セラル、形ヲ意味スルモノデアアル、從ツテ政體ノ變革ト國體ノ變革トハ、勿論同一デハナイ、但シ統治權ガ 天皇ニ存スルトナスモ、其ノ實ヲ失ハシムル如キハ、國體ノ變革トナルガ故ニ、斯カル點ニ於テ兩者ノ間ニ一脈ノ繋リ合ガアル、ソレカラ又政體ナル語ハ、其

ノ内容ガ極メテ曖昧デアツテ、如何ナル範圍ノ事項ヲ以テ政體トナスカラ、確定スルコトガ困難デアルト政府ハ説明サレテ居ルノデアリマス、次ニ豫防拘禁ニ關シマシテハ、豫防拘禁ハ、期限ニ制限ナイ重大ナル處分デアアル、殺人、強盜等直チニ兇行ヲ敢テスル者ニ限ツテ適用スベキデアアル、再犯ノ虞ガアル故ニ之ヲ拘禁セムトスルナラバ、内亂罪等ニモ之ヲ及スノ必要ガアルデハナイカト云フ意見ニ對シマシテ、政府ハ、豫防拘禁ハ、人身ヲ拘禁スル重大ナル制度デアルカラ、裁判所ニ於テ之ヲ行フノ適當トスルノデアアル、不定期刑ヲ以テシテハ、現ニ入獄セル者ニシテ、將ニ出獄セムトスル場合ニ之ヲ適用スルコト能ハザルヲ以テ、實際上今日ノ間ニハ合ハナイコトニナルノデアアル、非轉向確信犯人ハ、入獄ニ於テサヘモ犯行ヲ計畫スル實狀デアアルガ故ニ、之ニ對シテ直チニ豫防拘禁ヲナスノ必要ガアルノデアアル、思想犯ハ確信犯デアアルガ故ニ之ヲ適用スルノデアアル、他ノ内亂罪ノ如キ犯罪ニ適用スベキモノデハナイト説明サレテ居ルノデアリマス、次ニ思想犯問題ヲ解決スルニハ、管ニ法律ノミヲ以テ之ヲ匡正スルコトハ到底困難デアアル、其ノ根本原因ヲ深ク研究シテ、教學ノ刷新、信仰心ノ向上等ニ力ヲ致スコトガ必要デアアル、文部當局者ノ意見如何ト云フ質問ヲセラレタニ對シマシテ、政府ハ、教育ノ根本義ハ國體ノ本義ヲ徹底セシムルノニアル、滿洲事變以來、學生ノ思想ハ幾分純化シツ、アルガ、未ダ其ノ理想ヲ十分ニ徹底スルニ至ラザルヲ遺憾トスルノデアアル、自然科学ノ方面ニ於キマシテモ、假令學問ハ國際的

デアツテモ、其ノ人格ニ於テハ飽タ迄モ日本人タルノ信念ヲ失
 ツテハナラヌノデアアル、宗教情操ノ缺如ハ、教化上大缺點デア
 ルカラ、大イニ勉メナケレバナラヌト云フ意見デアリマシタ、
 次ニ現時ノ思潮ハ何トナク新シキ世界ヲ求ムトスル風潮ガア
 ル、是レ赤化ノ温床トナル所以デアアル、之ヲ防止スルニハ、單
 ニ刑罰ヲ以テシテハ其ノ目的ヲ達成シ難イノデアアル、教育ニ依
 ルハ勿論デアアルガ、其ノ他ニ於テモ思想誘導ニ努ムル要ガア
 ル、更ニ綜合的ニ思想情勢ヲ審カニシテ、根本的ニ之ヲ善導シ
 匡正スルノ必要ヲ論ゼラレタニ對シ、政府ハ、全然同感ノ意ヲ
 表セラレテ居ルノデアリマス、次ニ民族獨立運動ニ關シ、其ノ
 範圍如何、自治運動ハ之ニ包含スルヤトノ質問ニ對シマシテ、
 政府ハ、民族運動ニシテ本法ニ觸ル、範圍ハ、國體變革、即チ
 統治權排除ノ場合ニ限ルノデアアル、從ツテ自治運動ハ必ズシモ
 直チニ本法ニ觸ル、モノニ非ズト説明サレテ居ルノデアリマ
 ス、其ノ他天皇機關説、財産奉還論等ニ關シマシテ有益ナル質
 問ガ重ネラレタノデアリマスガ、是ハ速記録ニ讓ルコトニ致シ
 タイト思ヒマス、斯クノ如クシテ質問ヲ終ラシメシテ、討論
 ニ入りマシタノデアリマス、討論ニ入りマシテカラ、一委員ヨ
 リ次ノ如キ修正意見ガ提案セラレ、定規ノ賛成ヲ經テ動議ハ成
 立シタノデアリマス、其ノ修正意見ハ二ツアリマス、即チ次ノ
 如キモノデアリマス、一ツハ第十條ノ修正、一ツハ第十一條ノ
 修正デアリマス、全文ヲ朗讀致シテ置キマス、一第十條 私有
 財産制度ヲ否認シ又ハ憲法ノ定ムル統治組織ノ機能ヲ不法ニ變
 壞スルコトヲ目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ情ヲ知りテ結

社ニ加入シタル者若ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタ
 ル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス、第十一條ニ左ノ一項ヲ
 加フ、前條ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ヲ宣傳シタル者ハ三
 年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス、此ノ修正案デアリマスルガ、
 要ハ政體變革ニ關スル取締規定ヲ設クルコトト、私有財産制度
 否認ニ關シマシテ宣傳取締ガ拔ケテ居ルガ爲ニ、此ノ親定ヲ加
 ヘタイト云フ趣旨ニ出デテ居ルノデアリマス、修正意見ノ大要
 ハ次ノ通りデアリマス、昭和九年第六十五議會ニ提案セラレマ
 シタル治安維持法ニ對シマシテ、貴族院ハ幾多ノ修正ヲ加ヘ、
 之ヲ衆議院ニ送付シ、兩院協議會ニ於テ不成立トナツタノデア
 リマス、其ノ修正案中ニハ政體變革ニ關シ、又ハ私有財産制度
 否認ノ宣傳ニ關シ、本修正案ニ規定セラレマシタルモノト同一
 ノ修正條項ガアツタノデアリマス、而シテ本員ハ、此ノ貴族院
 ニ於キマスル沿革ニ鑑ミマシテ、修正案ノ理由ヲ一言以テ之ヲ
 申上ゲルナラバ、院議尊重ニ盡キテ居ルノデアリマス、尤モ其
 ノ當時ノ修正事項ト致シマシテハ、數箇條ニ上ツテ居ルノデア
 リマスルガ、其ノ中ニ、豫防拘禁ニ關係致シマシテハ、其ノ規
 定ノ精神ニ反對シタノデハナクテ、更ニ研究シテ改メテ提案ス
 ベシトノ理由ニ基イタルモノデアリマス、爾來、其ノ後ノ推移
 ニ依ツテ考ヘマシレバ、此ノ規定ノ必要ヲ認ムルコトノ切ナル
 モノガアリマスルガ故ニ、今回ハ之ヲ修正條項ニ加ヘナカツタ
 ノデアアル、又第二章ニ於キマシテモ、嚴重ナル刑事手續ヲ規定
 シテアルガ、是ハ過日會議ニ於キマシテ議決セラレマシタル國
 防保安法ニ依リマシテ、同一規定ノ議決セラレタルモノガアリ

マムルガ故ニ、其ノ儘ニ致シテ置クノデアリマス、而シテ政體
 變更ニ關スル取締ハ、爾來日ヲ逐ウテ其ノ必要ヲ加フルノミナ
 ラズ、私有財産制度否認ニ關スル宣傳ヲ、取締ラスルノ必要モ
 亦然リデアアル、是レ本修正案ヲ提出スル所以デアルト陳ベラレ
 テ居ルノデアリマス、之ニ對シマシテ、司法大臣ハ政府ヲ代表
 シテ次ノ如キ重大ナル言明ヲサレテ居リマス、司法大臣ノ修正
 ニ對スル言明、修正案ノ要點ハ、憲法ノ定ムル統治組織ノ機能
 ヲ不法ニ變壞セムトスル者ヲ取締ラムトスルニ在リマシテ、御
 趣旨ノ在ル所ニ付キマシテハ十分ノ承致シマスガ、之ヲ法文ニ
 現スニ付キマシテハ、更ニ周到ナル考究ヲ要シマスノデ、藉ス
 ニ時日ヲ以テセラレタイト存ジマス、此ノ趣旨ヲ以テ慎重研究
 ノ上、近キ將來ニ於テ立法手續ヲ執ルコトト致シタイト存ジマ
 ス、尙私有財産否認ノ宣傳ヲ取締ラムトスル點ニ付テモ、同様
 考慮致シタイト存ジマス、斯クノ如キ言明ガアツタノニ對シマ
 シテ、更ニ一委員ヨリ、近キ將來トハ如何ナル意味デアアルカト
 云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ緊急ノ必要ガアルナラバ緊急勅
 令ニ依リ、然ラザルモ次ノ議會ニ提案スベシト重ネテ言明セラ
 レル所ガアリマシタ、右終リマシテ修正案ノ採決ニ入ツタノデ
 アリマスガ、修正案ハ少數ヲ否決セラレタノデアリマス、次イ
 デ原案ニ付キマシテ、次ノ如キ賛成意見ガ陳ベラレタノデアリ
 マス、今日内外ノ情勢緊迫ヲ告ゲ、生活上不安亦尠カラザル情
 勢ニ於テハ、勢ヒ思想上ノ危險モ之ニ伴フモノデアリマス、之
 ヲ匡正スル爲、今回遺憾ナガラ本法ノ制定ノ必要ヲ痛感スル次
 第デアリマス、修正案ニ於キマシテハ、其ノ罪ヲ加重シ、又現

狀ニ即シテ、結社ノミナラズ個人ノ行爲ニ付テモ周到ナル規定
 ヲ設ケ、國體ノ尊嚴ヲ維持スルニ努メ、又私有財産否認ノ風潮
 ハ漸ク滋ク、動モスレバ國體變革ニ陷ラムトスル虞ガアル故
 ニ、之ヲ防止スルノ規定ヲ設ケタルハ誠ニ當ヲ得タルモノデア
 ル、又政體ノ變革ニ關スル規定ニ關シテハ、政府ノ言明ヲ信賴
 シ、速カニ緊急勅令ニ依リ、又ハ來議會ニ適當ナル成案ヲ提出
 セラル、コトヲ信ジ、本案ニ賛成スルモノデアアル、尙豫防拘禁
 ニ關シテハ、其ノ運用宜シキヲ得ザレバ社會不安ヲ招クベク、
 又思想犯ノ對策トシテ各省連絡シ、必要アレバ特別ナル機關ヲ
 設クルノ必要アルベク、更ニ假令如何ニ法ガ嚴重ナルモ、其ノ
 根本ヲ清メザレバ之ヲ根絶シ難シ、教育ノ根本ノ刷新ヲ要望ス
 ルト述ベラレ、本案ニ賛成ノ意ヲ表セラレマシタルト同時ニ、
 希望決議ノ提案ヲセラレタノデアリマス

希望決議

思想犯罪ハ近年其ノ數激增シ、罪質惡辣ナルノミナラズ、其
 ノ行動計畫的ニシテ往々戰慄スベキモノアリ、洵ニ深憂ニ堪
 ヘズ、政府ハ速カニ各省ニ互ル思想問題ニ關シ、徹底的統合
 ヲ圖リ、斯ノ種思想ノ因ツテ生ズル所ヲ究メ、未然ニ之ヲ防
 止スルノ途ヲ講ズルト同時ニ、教學ヲ根本ヨリ刷新シ以テ思
 想犯罪ノ絶滅ヲ期スベシ

是ガ希望決議デアリマス、此ノ希望決議ニ對シマシテ、一委員
 ヲリ、共產黨ニ關スル犯罪ハ近時頗ニ増加シツ、アル、是レ一
 ニ其ノ根本ノ絶エザルノ證據デアアル、從ツテ此ノ際ハ、本法ノ
 嚴正ナル施行ヲ特ニ望ムト共ニ、政體ニ關スル修正規定ガ成案

トナラザル今日ニ於テハ、取敢ズ他ノ法律ノ運用ニ依リテ萬遺
憾ナキヲ期セラレタク、又訴訟手續ノ改正ニ伴ヒマシテ希望ス
ル所ハ、檢事ハ公益代表ノ高キ信念ノ下ニ活動セラレタイト云
フコトデアル、ト述ベラレテ居ルノデアリマス、尙他ノ一委員
ハ、假令内閣ガ變動スルトモ、政府トシテハ他ク迄司法大臣言
明ノ趣旨ヲ貫徹スルコトニ、誤リナキヲ期セラレタイトノ意見
ヲ述ベラレテ居ルノデアリマス、斯クシテ討論ハ終結セラレマ
シテ、採決ニ移ツタノデアリマス、治安維持法改正法律案ニ
付、採決ヲ致シタル結果、原案ヲ可トスル者多數、原案ハ
可決セラレタノデアリマス、次デ希望決議ノ採決ヲ致シマシタ
處、全員一致可決ヲ見タノデアリマス、之ニ對シ内務大臣ハ政
府ヲ代表シ、希望條件ハ全ク同感デアル、思想犯防止ハ、其ノ
第一ガ教學刷新ニアルト同時ニ、其ノ取締ニ關シテモ萬遺算ナ
キヲ期スル積リデアル、蓋シ現時ノ實情ハ、國內情勢、世界情
勢ニ原因スルモノ多キヲ以テ、政府ガ各部ニ互ツテ連絡ヲ密ニ
シ、政府全體ノ責任ヲ以テ之ニ當ル次第ナリト言明セラレタノ
デアリマス、斯クシテ治安維持法改正法律案ハ、原案通り可決
セラレタノデアリマス、右御報告申上ゲマス（貴族院治安維持
法改正法律案議事速記第一讀會ノ續）

（四）豫防拘禁手續令（昭和十六年五月一四日）

豫防拘禁手續令

第一條 檢事豫防拘禁ニ付スベキ者アリト思料スルトキハ速ニ
本人ノ經歷、境遇、性行、心身ノ狀況、思想ノ推移其ノ他必

要ナル事項ノ取調ヲ爲スベシ
檢事ハ前項ノ事項ノ取調ヲ他ノ檢事ニ囑託シ又ハ司法警察官
ヲシテ其ノ取調ヲ爲サシムルコトヲ得

第二條 監獄ノ長又ハ保護觀察所長其ノ職務ヲ行フニ因リ豫防
拘禁ニ付スベキ者アルコトヲ認知シタルトキハ檢事ニ對シ書
面ヲ以テ豫防拘禁ノ申立ヲ爲スベシ
前項ノ書面ニハ申立ノ理由ヲ記載シ且參考ト爲ルベキ資料ヲ
添附スベシ

第三條 治安維持法第四十一條第二項ニ規定スル本人ノ同行ハ
同行狀ヲ發シテ之ヲ爲スベシ
同行狀ニハ本人ヲ同行セシムベキ事由、本人ノ氏名及住居ヲ
記載シ檢事ニ記名捺印スベシ但本人ノ住居分明ナラザルト
キハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

第四條 同行狀ハ數通ヲ作り之ヲ司法警察官吏數人ニ交付スル
コトヲ得
第五條 司法警察官吏ハ必要アルトキハ管轄區域外ニ於テ同行
狀ノ執行ヲ爲シ又ハ其ノ地ノ司法警察官ニ其ノ執行ヲ求ムル
コトヲ得

第六條 同行狀ヲ執行スルニハ之ヲ本人ニ示シテ同行ヲ命ジタ
ル檢事ニ引致スベシ
第七條 軍事用ノ艦船又ハ艦船ノ内ニ在ル者ニ對シ同行狀ヲ執
行スベキ場合ニ於テハ艦船ノ長又ハ之ニ代ルベキ者
ニ同行狀ヲ示シテ引渡ヲ求ムベシ

第八條 同行狀ヲ執行シタルトキハ之ニ執行ノ場所及年月日時

ヲ記載シ之ヲ執行スルコト能ハザルトキハ其ノ事由ヲ記載シ
テ記名捺印スベシ
同行狀ノ執行ニ關スル書類ハ執行ヲ指揮シタル檢事ニ之ヲ差
出スベシ
第九條 檢事同行狀ノ執行ヲ受ケタル本人ヲ受取リタバトキハ
速ニ其ノ取調ヲ爲スベシ
第十條 檢事取調ノ結果ニ依リ豫防拘禁ニ付スベキモノト思料
スルトキハ書面ヲ以テ豫防拘禁委員會ノ意見ヲ求ムベシ
前項ノ書面ニハ豫防拘禁ニ付スベキモノト思料スル理由ヲ記
載シ且取調ニ關スル書類及參考ト爲ルベキ資料ヲ添附スベシ
第十一條 豫防拘禁委員會ハ速ニ審議ヲ爲シ意見ヲ決スベシ
意見決シタルトキハ直ニ書面ヲ以テ檢事ニ其ノ意見ヲ通知シ
且前條ノ書面、書類及資料ヲ還付スベシ
第十二條 豫防拘禁委員會ハ檢事ニ對シ必要ナル事項ノ取調ヲ
求ムルコトヲ得
第十三條 檢事ハ豫防拘禁委員會ノ審議ニ列席シ意見ヲ述ブル
コトヲ得
第十四條 豫防拘禁ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ
前項ノ書面ニハ請求ノ理由ヲ記載シ且豫防拘禁委員會ノ意見
書其ノ他ノ書類及參考ト爲ルベキ資料ヲ添附スベシ
第十五條 治安維持法第四十七條ノ規定ニ依リ輔佐人ヲラント
スル者ハ請求ヲ受ケタル裁判所ニ書面ヲ以テ許可ノ申請ヲ爲
スベシ
申請書ニハ本人ヲシテ連署セシメ且本人トノ身分關係ヲ證ス

ル書面ヲ添附ズベシ

第十六條 前條ノ申請アリタルトキハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽
キ輔佐人ヲラントスル者ノ思想、經歷其ノ他ノ事情ヲ斟酌シ
テ許可ヲ決スベシ
許可ヲ決シタルトキハ輔佐人ヲラントスル者及本人ニ之ヲ通
知スベシ

第十七條 豫防拘禁ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ本人ノ陳述
ヲ聽ク爲メ定期ヲ定ムベシ
期日ヲ定メタルトキハ之ヲ檢事及輔佐人ニ通知スベシ
第十八條 裁判所書面ヲ以テ本人ニ出頭ヲ命ズル場合ニ於テハ
出頭命令狀ヲ發シテ之ヲ爲スベシ
出頭命令狀ニハ出頭スベキ事由、本人ノ氏名及住居ヲ記載シ
裁判長之ニ記名捺印スベシ

出頭命令狀ニハ本人ノ出頭スベキ年月日、時場所及命令ニ應
ゼザルトキハ勾引狀ヲ發スルコトアルベキ旨ヲ記載スベシ
出頭命令狀ハ書留郵便其ノ他相當ノ方法ニ依リ之ヲ送達スベ
シ

第十九條 裁判所書面ニ依ラズシテ本人ニ出頭ヲ命ジタル場合
ニ於テハ出頭ヲ命ジタルコト及命令ノ内容ヲ帳簿ニ記載シ又
ハ其ノ他適當ノ方法ニ依リ之ヲ明確ナラシムル處置ヲ講ズベ
シ

第二十條 裁判所參考人ヲシテ事實ノ陳述又ハ鑑定ヲ爲サシム
ル場合ニ於テハ速ニ取調期日ヲ定ムベシ
裁判所必要アリト認ムルトキハ取調ノ席ニ本人ヲ在席セシム

ルコトヲ得

裁判所取調期日ヲ定メタルトキハ之ヲ檢事及輔佐人ニ通知ス
ベシ但シ急速ヲ要スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條 裁判所本人ヲシテ陳述ヲ爲サシメ又參考人ヲシテ
事實ノ陳述若ハ鑑定ヲ爲サシムル場合ニ於テハ裁判所書記ヲ
列席セシムベシ

裁判所書記ハ調書ヲ作成スベシ

第二十二條 前條ノ調書ニハ左ノ事項其ノ他必要ト認ムル事項
ヲ記載スベシ

一 陳述ヲ聽キ又ハ取調ヲ爲シタル裁判所年月日

二 判事、檢事及裁判所書記ノ官氏名並ニ本人、輔佐人及通
事ノ氏名

三 本人陳述ヲ肯ゼズ又ハ逃亡シタルトキハ其ノ旨

四 本人ノ陳述及參考人ノ事實ノ陳述若ハ鑑定ノ要旨

五 檢事及輔佐人ノ意見ノ要旨

調書ニハ裁判所書記ノ署名捺印スベシ

裁判所書記差支アルトキハ裁判長其ノ事由ヲ附記シテ署名捺
印スベシ

第二十三條 本人國語ニ通ゼザル場合ニ於テハ通事ヲシテ通譯
ヲ爲サシムベシ參考人國語ニ通ゼザル場合ニ付亦同ジ

本人又ハ參考人雙者又ハ啞者ナル場合ニ於テハ通事ヲシテ通
譯ヲ爲サシムルコトヲ得

五六六

國語ニ非ザル文字又ハ符號ハ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

第二十四條 檢事豫防拘禁ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ本人在
監者ナルトキハ監獄ノ長ニ、本人保護觀察ニ付セラレ居ル者
ナルトキハ保護觀察所長ニ其ノ旨ヲ通知スベシ豫防拘禁ノ決
定確定シタル場合亦同ジ

第二條ノ規定ニ依リ申立アリタル場合ニ於テ檢事豫防拘禁ノ
請求ヲ爲サザルトキハ申立ヲ爲シタル監獄ノ長又ハ保護觀察
所長ニ其ノ旨ヲ通知スベシ

第二十五條 第一條乃至前條ノ規定ハ豫防拘禁ノ期間ヲ更新ス
ル場合ニ付之ヲ準用ス

第二十六條 受刑者ニ對シ豫防拘禁ニ付スル旨ノ決定確定シタ
ルトキハ檢事ハ刑ヲ執行終了後引續キ豫防拘禁ノ執行ヲ爲ス
ベキ旨ヲ指揮スベシ

第二十七條 本人刑ヲ執行又ハ假收容ノ爲監獄ニ在ルトキハ豫
防拘禁ノ執行指揮ニ關スル書類ハ本人ノ在監スル監獄ノ長ヲ
經由シテ豫防拘禁所長ニ送付スベシ此ノ場合ニ於テハ檢事ハ
豫防拘禁ノ執行ヲ指揮シタル旨ヲ豫防拘禁所長ニ通知スベシ
監獄ノ長執行指揮ニ關スル書類ヲ受取リタルトキハ速ニ本人
ヲ豫防拘禁所ニ移送スベシ但シ本人受刑者ナルトキハ刑ヲ執
行終了後速ニ之ヲ爲スベシ

監獄ノ長ハ看守長、副看守長又ハ看守ヲシテ本人ヲ押送セシ
ムルコトヲ得

第二十八條 豫防拘禁所長治安維持法第五十七條第三項ノ規定
ニ依リ豫防拘禁ノ執行ヲ停止スベキ事由アリト思料スルトキ
ハ速ニ其ノ旨ヲ本人ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ニ
通知スベシ特ニ必要アリト認ムルトキハ決定ヲ爲シタル裁判
所ノ檢事ニモ通知スベシ

附 則
(五) 豫防拘禁處遇令 (昭和十六年五月一四日)
(司法省令第五〇號)

豫防拘禁處遇令

第一條 豫防拘禁ノ執行ヲ受クル者(以下被拘禁者ト稱ス)ニ
ハ收容ノ際其ノ衣類及身體ノ檢査並ニ其ノ健康ノ診査ヲ爲ス
ベシ收容後必要アリト認ムルトキ亦同ジ

第二條 被拘禁者ニハ身上ノ調査ヲ爲スベシ

前項ノ調査ヲ爲スニ付必要アリト認ムルトキハ公務所又ハ該
故者ニ照會ヲ爲スベシ

第三條 被拘禁者ニハ必要アリト認ムルトキハ指紋ノ採取其ノ
他個性識別ニ必要ナル處置ヲ爲スベシ

第四條 被拘禁者ニハ改悛セシムル爲必要ナル訓育及訓練ヲ施
スベシ

訓育及訓練ノ種類及時間ハ司法大臣ノ認可ヲ受クベシ

第五條 被拘禁者ニハ改悛セシムル爲必要ナル勞作ヲ課スベシ

勞作ノ種類及時間ハ司法大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六條 被拘禁者ニハ賞與金ヲ給スルコトヲ得

第七條 被拘禁者勞作ニ因リ創傷ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之ガ爲
ニ死亡シ又ハ業務ヲ營ミ難キニ至リタルトキハ手當金ヲ給ス
ルコトヲ得

第八條 被拘禁者ニハ紀律ニ害ナキ限り圖書ノ閱讀ヲ許ス

第九條 被拘禁者ニハ一定ノ衣類、寢具、食器及雜具ヲ使用セ
ルコトヲ得

五六七

ハ速ニ其ノ旨ヲ本人ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事ニ
通知スベシ特ニ必要アリト認ムルトキハ決定ヲ爲シタル裁判
所ノ檢事ニモ通知スベシ

同條第四項ノ規定ニ依リ準用セラレル刑事訴訟法第五百四十
四條又ハ第五百四十六條ニ掲グル事由アリト思料スルトキ亦
前項ニ同ジ

第二十九條 豫防拘禁所長治安維持法第五十八條ノ規定ニ依リ
本人ヲ退所セシムベキモノト思料スルトキハ本人ノ所在地ヲ
管轄スル地方裁判所ノ檢事ノ意見ヲ聽キ書面ヲ以テ豫防拘禁
委員會ノ意見ヲ求ムベシ前項ノ書面ニハ退所セシムベキモノ
ト思料スル理由ヲ記載シ且本人ノ思想ノ推移、行狀其ノ他參
考ト爲ルベキ事項ニ關スル調査書類及資料ヲ添附スベシ

豫防拘禁所長及檢事ハ豫防拘禁委員會ノ審議ニ列席シ意見ヲ
述ブルコトヲ得

第十一條及第十二條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第三十條 豫防拘禁所長本人ヲ退所セシメントスルトキハ書面
ヲ以テ司法大臣ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ書面ニハ豫防拘禁委員會ノ意見書其ノ他ノ書類及參考
ト爲ルベキ資料ヲ添附スベシ

第三十一條 前二條ノ規定ハ治安維持法第五十九條ノ規定ニ依
リ豫防拘禁ノ執行ヲ免除スル場合ニ付之ヲ準用ス

第三十二條 豫防拘禁委員會ノ審議其ノ他豫防拘禁ニ關シテハ
秘密ヲ保チ本人其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セザルコトニ注意ス
ベシ

シムベシ

前項ニ掲グル物ノ品目及製式ハ司法大臣ノ認可ヲ受クベシ

第九條 被拘禁者ニハ其ノ體質、健康、年齢、勞作等ヲ斟酌シテ必要ナル糧食及飲料ヲ給スベシ

糧食及飲料ノ種類及分量ハ司法大臣ノ認可ヲ受クベシ

第十條 被拘禁者前二條ニ掲グル物ノ自辨ヲ請フトキハ情狀ニ因リ之ヲ許スコトヲ得

第十一條 被拘禁者ニハ健康ヲ保ツニ必要ナル運動及入浴ヲ爲サシムベシ

第十二條 被拘禁者ニハ種痘其ノ他健康ヲ保ツニ必要ナル醫術ヲ行フコトヲ得

第十三條 被拘禁者疾病ニ罹リタルトキハ醫師ヲシテ治療ヲ爲サシムベシ

第十四條 被拘禁者ニ適當ノ治療ヲ施スコト能ハズト認ムルトキハ情狀ニ因リ之ヲ許スコトヲ得

第十五條 被拘禁者ニ適當ノ治療ヲ施スコト能ハズト認ムルトキハ情狀ニ因リ假ニ之ヲ病院其ノ他ノ施設ニ移送スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ移送シタル者ハ之ヲ被拘禁者ト看做ス

第十六條 被拘禁者自殺ノ虞アルトキ又ハ逃走、暴行其ノ他紀律ヲ紊ス行爲ヲ爲ス處アルトキハ戒具ヲ使用スルコトヲ得

被拘禁者豫防拘禁所外ニ在ルトキ亦前項ニ同ジ

一 捕繩

檢閱シ又ハ検査スベシ

信書其ノ他ノ物ニシテ不適當ト認ムルモノハ其ノ授受ヲ許サズ

第二十三條 授受ヲ許サザル信書其ノ他ノ物ハ之ヲ差押フルコトヲ得

差押物ニシテ還付ヲ不適當ト認ムルモノハ之ヲ没取スベシ

第二十四條 被拘禁者ノ携帶スル物又ハ受クルコトヲ許サレタル物ハ點檢シテ之ヲ領置スベシ但シ信書、飲食物又ハ日常必需品ハ領置ノ手續ヲ爲サズシテ之ヲ本人ニ交付スルコトヲ妨ゲズ

保存ノ價值ナク又ハ保存ニ不適當ト認ムル物ハ其ノ領置ヲ爲サズ又ハ之ヲ解クベシ

領置ヲ爲サズ又ハ之ヲ解キタル物ニ付本人相當ノ處分ヲ爲サザルトキハ之ヲ没取スルコトヲ得

第二十五條 被拘禁者領置物ヲ以テ正當ノ用途ニ充テシコトヲ請フトキハ之ヲ許スコトヲ得

第二十六條 領置物ハ釋放ノ際ニ之ヲ交付ス

第二十七條 被拘禁者ノ私ニ所持スル物又ハ逃走者ノ遺留物ハ之ヲ没取スルコトヲ得

被拘禁者ニ宛テ送致シ來リタル物ニシテ差出人ノ氏名若ハ住所不明ナルトキ又ハ本人ニ於テ受領ヲ拒ミタルトキ亦前項ニ同ジ

第二十八條 治安維持法第六十條ノ規定ニ依リ被拘禁者ヲ解放スルトキハ出頭スベキ場所其ノ他必要ナル事項ヲ告知スベシ

二 手錠

三 防護具

戒具ノ製式及使用方法ハ司法大臣別ニ之ヲ定ム

第十七條 第十五條第一項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ鎖靜室ニ拘禁スルコトヲ得

鎖靜室ノ設備ハ司法大臣別ニ之ヲ定ム

鎖靜室ノ拘禁期間ハ二十日ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特ニ繼續ノ必要アル場合ニ於テハ爾後五日毎ニ其ノ期間ヲ更新スルコトヲ妨ゲズ

第十八條 被拘禁者紀律ニ違ヒタルトキハ懲戒ヲ行フ

第十九條 懲戒ハ左ノ如シ

一 誹責

二 圖書閱讀ノ六月以内ノ禁止

三 賞與金計算高ノ一部又ハ全部減削

四 二月以内ノ謹慎

謹慎ハ居房ニ屏居セシム

第一項各號ノ懲戒ハ之ヲ併科スルコトヲ得

第二十條 懲戒ハ情狀ニ因リ其ノ執行ヲ猶豫シ、停止シ又ハ免除スルコトヲ得

第二十一條 被拘禁者ニ接見ヲ請フ者アルトキハ被拘禁者トノ接見ハ不適當ト認ムルトキハ之ヲ許サズ

接見ニハ豫防拘禁所ノ官吏之ニ立會フベシ

第二十二條 信書其ノ他ノ物ハ授受ノ際豫防拘禁所ノ官吏之ヲ

檢閱シ又ハ検査スベシ

信書其ノ他ノ物ニシテ不適當ト認ムルモノハ其ノ授受ヲ許サズ

第二十九條 豫防拘禁ノ期間滿了シ釋放セラルベキ者ハ其ノ請求ニ因リ期間滿了ノ翌日午後六時マデ之ヲ在所セシムルコトヲ得

第三十條 釋放セラルベキ者重キ疾病ニ罹リ豫防拘禁所ニ於テ醫療中ナルトキハ其ノ請求ニ因リ仍ホ在所セシムルコトヲ得

第三十一條 被拘禁者死亡シタルトキハ豫防拘禁所長ハ其ノ死體ヲ檢視スベシ

變死又ハ變死ノ疑アル場合ニ於テハ速ニ豫防拘禁所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事ニ通報シテ其ノ死體ヲ檢視ヲ受クベシ

第三十二條 死亡者ノ病名、死因及死亡ノ日時ハ速ニ之ヲ尸主、親族其ノ他ノ縁故者ニ通知シ死體ヲ引取ラシムベシ

第三十三條 死體ノ引取人ナキトキハ成規ノ手續ニ依リ之ヲ埋葬スベシ

第三十四條 司法大臣ハ少クトモ毎年一回官吏ヲシテ豫防拘禁所ヲ巡閱セシム

判事及檢事ハ豫防拘禁所ヲ巡視スルコトヲ得

第三十五條 被拘禁者豫防拘禁所ノ處置ニ對シ不服アルトキハ司法大臣又ハ巡閱官吏ニ情願ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 豫防拘禁所ノ參觀ヲ請フ者アルトキハ學術ノ研究其ノ他正當ノ理由アリト認ムル場合ニ限り之ヲ許スコトヲ得

第三十七條 豫防拘禁所ニ男區及女區ヲ設ケ之ヲ分隔ス

第三十八條 豫防拘禁所ニハ特ニ區劃シタル場所ヲ設ケ假ニ收容スベキ者及治安維持法第三章ノ規定ニ依リ勾引狀ノ執行ヲ

受ケ留置スベキ者ヲ拘禁ス
監獄ニ假ニ收容スベキ者及治安維持法第三章ノ規定ニ依リ勾引狀ノ執行ヲ受ケ監獄ニ留置スベキ者ハ之ヲ拘置監ニ拘禁ス治安維持法第五十七條第二項ノ規定ニ依リ拘禁スベキ者ニ付亦同ジ

第三十九條 前條ニ掲グル者ニハ本令中第一條乃至第三條、第七條乃至第二十八條、第三十條乃至第三十三條、第三十五條ノ規定ヲ準用ス
第四十條 豫防拘禁所長ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ被拘禁者及第三十八條第一項ニ掲グル者ノ處遇ニ關スル細則ヲ定ムベシ

本令ハ昭和十六年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

(六) 豫防拘禁委員會官制 (昭和十六年五月一四日 勅令第五五八號)

豫防拘禁委員會官制
第一條 豫防拘禁委員會ハ司法大臣ノ監督ニ屬シ治安維持法第四十條、第五十五條、第五十八條及第五十九條ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメタル事項ヲ審議ス
第二條 各委員會ハ會長一人及委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス
第三條 各委員會ニ豫備委員四人ヲ置ク
第四條 會長、委員及豫備委員ハ司法部内高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ司法大臣之ヲ命ズ
第五條 會長ハ會務ヲ總理ス

五七〇

會長事故アルトキハ其ノ指名スル委員共ノ職務ヲ代理ス
第六條 委員中事故アルトキハ又ハ缺員アルトキハ會長ハ豫備委員ノ中ヨリ代理ヲ命ズ
第七條 委員會ハ會長及委員ヲ併セ五人以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ
委員會ノ議事ハ過半数ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス

第八條 各委員會ニ書記ヲ置ク司法大臣之ヲ命ズ
書記ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
第九條 本令ニ規定スルモノノ外委員會ニ關シ必要ナル事項ハ司法大臣之ヲ定ム

本令ハ昭和十六年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

(七) 豫防拘禁委員會 (昭和十六年五月一五日 司法省告示第一九號)

豫防拘禁委員會官制第九條ニ依リ豫防拘禁委員會ノ名稱及設置場所左ノ通定ム

名	稱	設置場所
東京豫防拘禁委員會	東京刑事地方裁判所檢事局	
橫濱豫防拘禁委員會	橫濱地方裁判所檢事局	
水戸豫防拘禁委員會	水戸地方裁判所檢事局	
前橋豫防拘禁委員會	前橋地方裁判所檢事局	
靜岡豫防拘禁委員會	靜岡地方裁判所檢事局	
長野豫防拘禁委員會	長野地方裁判所檢事局	

新瀉豫防拘禁委員會	新瀉地方裁判所檢事局
京都豫防拘禁委員會	京都地方裁判所檢事局
大阪豫防拘禁委員會	大阪地方裁判所檢事局
神戸豫防拘禁委員會	神戸地方裁判所檢事局
高松豫防拘禁委員會	高松地方裁判所檢事局
名古屋豫防拘禁委員會	名古屋地方裁判所檢事局
金澤豫防拘禁委員會	金澤地方裁判所檢事局
廣島豫防拘禁委員會	廣島地方裁判所檢事局
岡山豫防拘禁委員會	岡山地方裁判所檢事局
福岡豫防拘禁委員會	福岡地方裁判所檢事局
熊本豫防拘禁委員會	熊本地方裁判所檢事局
仙臺豫防拘禁委員會	仙臺地方裁判所檢事局
秋田豫防拘禁委員會	秋田地方裁判所檢事局
青森豫防拘禁委員會	青森地方裁判所檢事局
札幌豫防拘禁委員會	札幌地方裁判所檢事局
函館豫防拘禁委員會	函館地方裁判所檢事局

(八) 豫防拘禁費用規程 (昭和十六年五月一四日 司法省令第五二號)

豫防拘禁費用規程

第一條 左ニ掲グル者ニハ本令ノ定ムル所ニ依リ日當、旅費及止宿料ヲ給與スルコトヲ得

一 豫防拘禁ニ關シ事實ノ取調ヲ爲スニ付裁判所又ハ受託判事ノ出頭ヲ命ジタル參考人及裁判所又ハ受託判事ノ呼出ニ應ジテ出頭シタル通事又ハ翻譯人

二 豫防拘禁ニ關シ必要ナル取調ヲ爲スニ付檢事ノ呼出ニ應ジテ出頭シタル者

第二條 日當ハ出頭一度ニ付二圓以内ニ於テ之ヲ定ム但シ鑑定ヲ爲シタル參考人、通事若ハ翻譯人又ハ檢事ノ囑託ニ依リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ爲シタル者ノ日當ハ二圓以上十圓以内ニ於テ之ヲ定ム

第三條 鑑定又ハ通譯若ハ翻譯ニ付數多ノ時間又ハ特別ノ技能若ハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得

第四條 刑事訴訟費用法第四條及第五條ハ第一條各號ニ掲グル者ニ給與スベキ旅費及止宿料ノ金額ニ付之ヲ準用ス

第五條 前三條ノ金額ハ第一條第一號ノ場合ニ在リテハ裁判所又ハ受託判事、第二號ノ場合ニ在リテハ檢事之ヲ定ム

本令ハ昭和十六年五月十五日ヨリ之ヲ施行ス

一一 陪審法中政正法律 (昭和十六年三月二二日 法律第六二號)